朝鮮總督府月報

明治四十四年六月二十日第三種郵便物認可（毎月一回二十日發行）
朝鮮總督府月報第二卷第五號　明治四十五年五月二十日發行

朝鮮總督府月報

第貳卷第五號

明治四十五年五月二十日發行

目次

○朝鮮總督府月報ニ關スル規程　四十四年五月總訓第四十一號

第一條　朝鮮ニ於ケル施政、産業其ノ他各般ノ狀況ヲ蒐錄スル爲毎月二十日朝鮮總督府月報ヲ發行ス
臨時調査事項ニシテ浩瀚ニ渉ルモノハ月報附錄トシテ之ヲ發行スルコトヲ得
第二條　月報ハ官房總務局總務課ニ於テ之ヲ編纂ス
第三條　月報ニ掲載スヘキ事項ハ左ノ區分ニ依ル
一　農業及殖林
二　商工業
三　鑛業
四　水産業
五　貿易
六　運輸及交通
七　理財及金融
八　教育
九　社寺宗教
十　衛生
十一　救恤慈善
十二　地方行政
十三　司法
十四　調査資料
十五　統計
第四條　月報ニ記載スヘキ材料ハ關係ノ各部及所屬官署ニ於テ之ヲ蒐集スヘシ
第五條　材料ヲ蒐集セシムル爲各部及所屬官署（道ニ在リテハ内務部及財務部）ニ一名ノ月報報告主任ヲ置ク
月報報告主任ハ奏任官又ハ判任官中ヨリ所屬長官之ヲ命シ其ノ官氏名ヲ總務課長ニ通知スヘシ
第六條　月報報告主任月報ニ掲載スヘキ事項ヲ調査シタルトキハ其ノ都度直ニ之ヲ總務課長ニ送付スヘシ
第七條　月報原稿締切期限ハ毎月十日トス
第八條　總務課長ハ月報掲載事項ニ關シ月報報告主任ニ直接交渉ヲ爲スコトヲ得
第九條　月報原稿ハ別記樣式ノ原稿用紙ニ之ヲ記入スヘシ但シ統計圖表類及印刷ニ係ルモノハ便宜美濃十三行罫紙若ハ美濃白紙ニ之ヲ記入シ又ハ其ノ印刷物ヲ美濃白紙ニ貼附シ之ニ代用スルコトヲ得
第十條　月報ハ官房總務局印刷所之ヲ印刷ス
印刷所長ハ依賴ニ應シ月報ニ廣告ヲ掲載スルコトヲ得其ノ料金ハ印刷所長之ヲ定ム
（別紙樣式略）

○朝鮮總督府月報廣告掲載手續

一　朝鮮總督府月報ニ廣告ヲ掲載セムトスル者ハ京城本町二丁目日韓書房ニ申込ムヘシ
一　掲載シタル廣告ノ原稿ハ一切之ヲ返付セス
一　廣告料ハ一頁金五圓トス
但シ廣告ニ圖書又ハ計表其ノ他特殊ノ版式ヲ要スルモノハ別ニ其ノ實費ヲ徴ス

明治四十五年五月十八日印刷
明治四十五年五月二十日發行
定價金二十二錢
郵稅金一錢五厘
朝鮮總督府編纂
印刷所　朝鮮總督官房總務局印刷所
發賣所　京城本町二丁目　日韓書房

朝鮮總督府月報 第貳卷第五號

○全羅地方ノ森林（濟州島ヲ除外セリ）

全羅ノ地氣候適度ニシテ物資豐富古來鮮人此ノ地ヲ目スルニ半島ノ寶藏ヲ以テシタリキ道詵高麗ノ治國策ヲ畫スルヤ古來朝鮮ノ治マラサルハ山川ノ病アルニ因ルトナシ山谷ノ間叢林禪院ヲ設置スルコト三千五百餘全土ノ寺院網ヲ作リテ血脈ノ連絡ヲ圖リ太白（平安）、金剛（江原）ヲ以テ船體ノ首トナシ月出、瀛州（共ニ全南）ヲ以テ尾トナシ雲柱（全南）ヲ以テ腹トナシ智異（全羅慶尙ノ境）ヲ以テ楫トナシ邊山（全北）ヲ以テ柁トナシ主トシテ重心ヲ全羅ノ地ニ置キ自ラ船尾ノ全南ニ居住シ柁楫ヲ掌握シテ朝鮮ノ全船ヲ操縱シタリ

高麗ノ山林ハ禪僧ニヨリテ治メラレ高麗滅ヒ佛敎閉息シ而シテ朝鮮ノ山林ハ荒廢ノ時代ニ入レリ明治二十八年平北ノ群民亂ヲ避ケテ太白山ニ入リ寺領ノ森林ヲ燒却シテ燼ニ火田ヲ作ルヤ觀察道ハ森林ノ開墾ヲ以テ國利ヲ增進スルモノナリトシ反テ寺僧ヲ壓迫シ人民ヲ使嗾シテ香山ノ靈域ヲ蹂躙セシメタリ朝鮮森林ノ荒廢ハ其ノ基因種種アルカ如シト雖僧侶ヲ迫害シテ寺領ノ森林ヲ燒却セルハ主ナル原因ニ屬スルコト確實ナリトス朝鮮ノ名山大嶽一トシテ佛寺ノ存セサルモノナク（現今廢滅ニ歸シ名ノミ存スルモノ多シ）治水上關係大ナル水源林ハ大部分僧侶ノ管理ニ屬シタルカ故ニ僧侶萎縮シテ山川ノ疾患再發セルコト當然ノ結果ナリトセム

元兵ノ九州ヲ窺フヤ戰船ヲ造修スルコト前後數千隻、工匠數萬專ヲ全羅濱水ノ材木ニ依賴シテ三十年ノ久シキニ耐エタリ後三百年文祿、慶長ノ役起ルニ及ヒ全羅水師ノ威力ハ當時ニ於ル沿岸封由ノ

林力未タ衰ヘサリシヲ證スヘク邊山、天冠山等ノ黄腸木ハ仍半島ノ國防上常ニ重大ナル任務ヲ有シタリキ道詵ノ策源地タリシヨリ茲ニ一千年舊法既ニ亡ヒテ新法未タ興ラス全羅ノ諸山昔日ノ俤ヲ失ヒ智異ノ山徒ニ火田ノ煙ヲ望ムノミ以下各章全羅森林ノ一班ヲ記述シ現狀ノ如何ナルカヲ窺ハムト欲ス

地理

各府郡人口及林野分布狀態ヲ一覽セム

府郡別	鮮人人口 人	林野面積 町	人口一人宛林野面積 反	人口一人宛耕地面積 反
群山	二一、八三〇	四、四七二	二•一	一•二
南原	七四、八九五	三二、四六二	四•五	〇•五
全州	八一、八五一	三四、九七八	四•三	〇•六
任實	六〇、三七二	三八、四五三	六•四	〇•五
礪山	二一、一八六	九、二二四	四•三	一•二
益山	三七、三五〇	八、三〇六	二•二	一•二
金堤	四〇、〇五〇	五、三二一	一•四	一•六
泰仁	四五、五八七	二〇、六八六	四•五	〇•九
扶安	五二、九八二	二三、一五九	四•三	一•四
古阜	四二、三三八	八、三四六	一•九	一•三
茂長	四二、五七六	二二、二八二	五•〇	一•〇
淳昌	五二、一三四	三三、三〇二	六•五	〇•七
錦山	三二、三七五	三一、九五四	一〇•二	一•六
茂朱	三六、三五六	四六、〇七八	一三•六	〇•九
龍潭	一八、九八〇	一九、〇四八	一〇•〇	〇•七
高山	二七、九一六	三〇、一八七	一〇•八	〇•七
萬頃	二〇、〇〇二	四、三九二	二•二	一•二
龍安	九、一二五	一、三九七	一•五	一•二
金溝	二五、七六七	五、七二〇	二•二	一•五
井邑	一九、五六四	一〇、〇六二	五•二	〇•七
高敞	一五、五二二	六、三四九	四•〇	〇•九
興德	二四、八二三	六、一一〇	二•四	一•六
雲峯	一九、〇〇三	一八、二四八	九•五	一•二
全北計	九四八、二八二	五二七、四六六	五•六	一•〇
木浦	七二、五六八	四三、八三三	六•〇	一•二
光州	七八、六六九	二三、二七八	三•〇	一•三
羅州	六六、〇七六	二七、九六八	四•二	一•七
靈光	六九、九二一	三二、二九三	四•七	一•七
長城	四九、二六〇	二八、七二七	五•八	一•三
康津	四八、〇八九	三六、四六〇	七•六	一•九
長興	六五、〇七一	四四、八七四	六•一	一•五
綾州	五四、八九七	三〇、四五〇	五•九	一•四
南平	三一、六九六	一七、二六八	五•四	一•六
寶城	六三、七二三	四三、九一二	六•九	一•一
順天	八四、五四三	六六、六三一	七•九	一•一
求禮	四一、四三三	四三、九五二	一〇•六	〇•九
光陽	三九、五八九	三七、五八三	九•六	一•一
興陽	五二、七〇三	四二、三九一	八•〇	一•三
珍島	三八、一〇八	四〇、七〇七	一〇•七	二•〇
智島	六三、三二七	五六、〇九三	八•九	〇•八
昌平	四五、五五七	二三、七一九	五•二	一•二
同福	三〇、〇二四	二二、八七八	七•六	〇•八

長水	三七、九六九	四三、五六五	一一・二	〇・七	海南	七四、五六六	五六、〇九三	一七・五	二・五	麗水	四〇、五四三	二九、四〇九	一七・二	一・六
鎭安	二八、七九四	三七、〇一五	一二・八	一・一	莞島	四八、五六二	三五、三七九	七・三	〇・九	谷城	三四、三三六	二六、四八四	七・七	〇・九
咸悅	一九、〇三八	七、〇二七	三・六	一・九	靈岩	六二、四一五	三一、二五二	五・〇	二・〇	突山	三三、二七五	二八、四八七	八・五	一・二
臨陂	二七、〇八三	六、一八九	二・二	一・三	咸平	五四、五九三	二五、二四二	四・六	二・〇	全南計	一、三七六、四七五	九〇八、二一四	六・六	一・四
珍山	一三、七九五	一五、一六四	一〇・九	〇・八	潭陽	三二、九二一	二二、七八一	三・九	一・一	總計	二、三三四、七五七	一、四三五、六一〇	六・二	一・二

（備考）

人口ハ四十三年五月十日元警務局調査ニヨル

林野面積ハ同年元山林局調査林籍調査圖ニヨル

耕地面積ハ同年末現在農務課統計材料ニヨル

萬頃及羅州平野ニ耕地多ク東北諸郡ニ林野多キコトハ當然ナリト雖全羅唯一ノ大川タル蟾江ノ流域ニ耕地少キコトハ一顧ヲ要スル現象ナリトス南原、求禮、谷城、任實等耕地最少キ地方ハ主トシテ同江ノ流域ニ屬ス蟾江流域ノ地理ハ林政上特別ノ注意ヲ要スルカ如シ

蟾江下流ハ斷層ニ關係ヲ有スルモノノ如ク他ノ諸水主トシテ南西ニ流レ錦江、萬頃江、茁浦灣、榮山江（龍津、錦江、木浦等ノ別稱名ヲ有シ任實及龍潭ノ溪谷ハ此ノ川ノ方向ト同一線内ニアリ）、康津江（蟾江ノ支流ナル大荒江及南原、長水ノ溪谷ハ此ノ川ト略同一線内ニアリ）、寶城灣等皆同一方向ニ配列スルニ係ラス蟾江獨リ南東ニ流レ他ノ諸水ノ主方位ト直角ニ変ルカ故ニ數個ノ山地ヲ横斷スルコトトナリ斷崖多シ全州以東智異山以北ハ峯高ク溪迫リ雲峯、長水ノ間ハ所謂山囘水曲ノ幽谷ニシテ山居隱遁ノ別天地ナリトス内地人ハ主トシテ萬項、羅州ノ平野ニ集マリ農業ヲ營ムモノ多シ四十四年四月末現在ノ内地人總數一萬六千餘人（全南八、三五四人全北七、六六〇人）内一府郡ニシテ百人以上ヲ有スルモノ左ノ如シ

群山	三、九三二人	南原	一一六人	木浦	三、八六一人	光州	一、四八〇人
全州	一、六三〇	益山	一三三	羅州	一二四	靈光	一八八

金堤	三〇九	泰仁	一四五
扶安	二二三	古阜	一三五
臨陂	一三一	井邑	一六八

以上全北（最少キハ龍安二人、珍山四人、雲峯九人、高山十三人、長水十六人等ナリ）

海南	一八七	靈岩	一七九
長興	一八三	南平	一三九
寶城	二五三	順天	四六六
麗水	三四八	突山	一七四

以上全南（最少キハ昌平十七人、同福、求禮ノ各二十四人、谷城三十二人等ナリ）

森林帶

現在ノ林相ハ永年間人工ヲ加ヘテ種種ナル變化ヲ來シタルモノナレトモ其ノ變化ヲ來サザリシ原始時代ニ遡リ固有ノ森林帶ヲ考究スルニ次ノ四段ニ區分シ得ルカ如シ森林帶ノ研究ハ造林樹種ノ選定上必要ナル事ニシテ殊ニ全羅ノ南邊ハ常綠濶葉樹ノ區域カ落葉濶葉樹ノ區域ニ遷移スルノ境界ニ當ルカ故ニ本調査ハ林業上頗ル重要ナル結果ヲ來スヘキヲ信ス

森林帶區分

甲　暖帶林

乙　溫帶林（落葉濶葉樹帶）

一　溫帶南部

二　溫帶北部

丙　寒帶林

右ハ主トシテ本多博士ノ日本森林帶ノ區分法ニ倣ヒタレトモ各帶ヲ代表スル標準樹種ニ差異アルカ故ニ内地又ハ北海道ノ森林帶ト全然一致セシムルコト困難ナルカ如シ

甲　暖帶林


森林帶圖
比例尺百五十万分之一
凡例及面積
暖帶 六五八、三〇〇町 三七%
温帶南部 一〇一四、一〇〇 五七
温帶北部 一〇六、七〇〇 六
寒帶 二、一〇〇 —
計 一七八三、〇〇〇 一〇〇
既設鐵道
豫定線
道廳所在
府廳所在
郡衙所在
全羅北道
全羅南道
木浦
大田
黑山島
巨文島
37°
36°
35°
34°
126°
127°

朝鮮ニ於ル最溫暖多雨ノ地方ニシテ莞島ノ海拔約一千尺以下木浦及智異山南部ニ於テ約五百尺以下ノ地域ヲ包容シ邊山及白岩山麓ニ至リテ其ノ跡ヲ沒ス區域面積六十餘萬町歩全面積ノ三割七分ヲ占ム。

本帶ノ特徴ハカシ、シヒ、タブ等ノ常綠濶葉樹ヲ主林木トシ四時蓊鬱タル森林ヲ形成スルニアレトモ人工ヲ以テ殆ト全部ノ固有林相ヲ破壞シ僅ニ莞島ノ一部及南部各地ニ於ケル寺院附近ニ其ノ原始的狀態ヲ保存スルニ過キス

固有ノ樹種ハ次ノ如クニシテ種屬少數ナレトモ內地ノ同帶ニ略類似スルヲ看ル

アカガシ	ツクバネガシ	ウラジロガシ	シヒ	タブ	ヤブニッケイ
シロダモ	モチノキ	サカキ	ヒサカキ	トベラ	ハマモッコク
ユヅリハ	カクレミノ	イタビカヅラ	ムベ	ビナンカヅラ	テイカカヅラ
シヤシヤンボ	ヤマモモ	ツバキ	クロチク	ヤバネヒヒラギ等	

カヤ、チヤ、マダケ、ハチク、メダケ、クロマツ、ヤマガキ、アカメガシハ、ゴンゼツ、フユザンシヨウ、マサキ、ハイノキ、ツルグミ等ハ境界ヲ超エテ仍多少北方ニ侵入セルアリ

ムクノキ、ノブノキ、チヤンチン等ハ本帶ヨリ仍廣ク溫帶南部ニ亙リテ繁殖スクスハ濟州島ニ野生スルヲ聞ケトモ本區域エハ之ヲ發見セスカシハ僅ニ三種ヲ看タルニ過キサレトモ往古ニ於テハ仍多クノ種類ヲ存シタル可キコトヲ想ハシム

以上ヲ綜合スルトキハ本區域ハ暖帶卽カシ、シヒ帶ノ北部ニ屬スルモノニシテ內地ニ於ル加賀(海拔九百尺以下)能登(海拔一千尺以下)甲府附近(海拔一千尺以下)ノ暖帶林ト略伯仲ノ位置ニアリ

乙　溫帶林

朝鮮全土ノ大部分ハ本帶ニ屬スレトモ全羅ニ於テハ南道ノ大部及北道ノ海濱一部ハ前帶ニ屬スル

カ故ニ主トシテ東北方面ノ山地ニ發達シ海拔約四千五百尺以下（暖帶ヲ除ケル）ノ區域ヲ占領シ面積百十餘萬町歩全面積ノ六割三分ニ當ル本帶ノ特徴ハ落葉闊葉樹ヲ主林木トスルニアレトモ其ノ北部ト南部トノ兩端（山地ニ於テハ上部ト下部トノ兩端）ヲ看ルトキハ林相ニ多少ノ相違ナキヲ得サルナリ即南部ノ暖帶ニ近キ方面ハシデ、コナラ等ヲ主林木トスレトモ北部ノ寒帶ニ近キ方面ニ於テハオホナラ、ミネバリ等ヲ主トシミツバカヘデ、シホジ、マカンバ等ヲ混スルニ至ル上部ト下部トノ境界ハ智異山ニ於テハ約二千五百尺ノ地帶ヲ適當トスルカ如シテフセンゴヤウマツ及アララギハ温帶北部ヨリ寒帶ニ亙リテ生育ス本帶ノ區域ハ人工ニヨリテ固有ノ林相ヲ滅却セラレ莞島、邊山、白岩山等ニ於テ南部林相ノ保存シ智異山、白雲山等ノ山嶽地ニ於テ、北部ノ狀況ヲ覗察シ得ルニ過キス

固有樹種ノ主ナルモノ次ノ如シ

オホナラ	ミネバリ	マカンバ	ドロノキ	オホヤマレンゲ	シホジ
モンゴリガシハ	キハダ	ミツバカヘデ	テフセンモミ等（以上北部ヲ主トスルモノ）		
ウハミヅザクラ	アヅキナシ	ハウチハカヘデ	ヤマザクラ	シヤラ	ヤマハンノキ
イタヤカヘデ	メウロザクラ	ツノハシバミ	ヤマナシ	ハシバミ	ハンノキ
ネヅミサシ	シナノキ	ネムノキ	アンズ	ヤマナラシ	カシハ
ナラガシハ	エンジュ	ハルニレ	アキニレ	トネリコ	ニガキ
サンザシ	アハブキ	ハリギリ	ハクウンボク	サハシバ	ヤマウルシ
ミヅキ	オホバヤナギ	ヲノエヤナギ	ヌルデ	クハ	アベマキ
ハシドイ	ススタケ	タマザサ	ヤマアジサイ	ガクサウ	マタタビ
シラクチ等（以上温帶全部共通ノモノ）					
コナラ	アカシデ	イヌシデ	クヌギ	ケヤキ	クリ
アカマツ	ヒトツバタゴ	ケンポナシ	アマハゼ	エゴノキ	イヌガヤ
ドシヤ	タヘリン	トサミヅキ	ヒウガミヅキ	カナクギノキ	シロキ等

（以上南部ヲ主トスルモノ）

ブナ、ホホノキ、カツラ、トチノキ、スギ、ヒノキ等ヲ有セスシテハシドイ、サンザシ、ドシヤ等ヲ有スルハ內地ノ同帶ニ比較シ顯著ナル特徵ナリトス

丙　寒帶林

海拔約四千五百尺以上ノ高地ヲ占領シ智異山ヲ除クノ外ハ其ノ所在ヲ認メス面積僅ニ二千餘町步（慶尙道ニ屬スル智異山寒帶ヲ除キテ）ニ過キスシラベヲ以テ主林木トシテフセンゴヤウマツ、タウヒ、アララギ、マカンバ等ヲ混シ主トシテ針葉樹ノ林相ヲ形成ス

固有樹種左ノ如シ

シラベ　タウヒ　テフセンゴヤウマツ　アララギ　チガラバナ　ミネカヘデ
オニモミヂ　シヤクナゲ　（テフセンゴヤウマツ以下ハ溫帶ニモ存スルアリ）

エゾマツ、カラマツ、トドマツ、ハヒマツ、ミヤマハンノキ等ハ之ヲ認メス一般ニ全羅地方ノ森林植物ハ平安、咸鏡各道ヲ包容スル西北地方ニ比較シ稍異ナル林相ヲ形成スルカ如シ後者ハ滿洲ニ接續シテ西比利亞ニ近ク前者ハ舊日本ニ類似スルカ故ニ同シク寒帶又ハ溫帶ニ屬スル區域ト雖樹種ノ分布兩者一致セサル點アルコトヲ免レス內地ニ於テハ溫帶ノ代表樹種トシテブナヲ選定スレトモ朝鮮ニ於テハ全然其ノ野生ヲ見サルカ故ニ他ノ樹種ヲ以テ之ニ代用セサルヘカラス而シテ前記シデナラ等ノ如キハ內地ニ於テハ稍陽性ノ樹種ニ屬シ森林帶ノ代表樹種トシテ不適當ナルカ如キモ朝鮮ノ氣候ハ日照時間長ク空氣乾燥スルカ故ニ內地ニテノ陽樹モ反テ陰性ニ傾キ前記樹種ノ如キモ幼時多少ノ庇陰ヲ好ミ內地ニ於テブナヲ陰樹ト稱スル程度ニ朝鮮ニ於テハ是等樹種ヲ以テ陰樹ト稱シ得サルニアラサル可ク而シテ森林帶ノ代表樹種トシテ推薦スルノ必スシモ不當ナラサルヲ信スルナリ

林力未タ衰ヘサリシヲ證スヘク邊山、天冠山等ノ黄腸木ハ仍半島ノ國防上常ニ重大ナル任務ヲ有シタリキ道詵ノ策源地タリシヨリ茲ニ一千年舊法既ニ亡ヒテ新法未タ興ラス全羅ノ諸山昔日ノ俤ヲ失ヒ智異ノ山徒ニ火田ノ煙ヲ望ムノミ以下各章全羅森林ノ一班ヲ記述シ現狀ノ如何ナルカヲ窺ハムト欲ス

地理

各府郡人口及林野分布狀態ヲ一覽セム

府郡別	鮮人人口（人）	林野面積（町）	人口一人宛林野面積（反）	人口一人宛耕地面積（反）
群山	二一、八三〇	四、四七二	二・一	一・二
南原	七四、八九五	三二、四六二	四・五	〇・五
全州	八一、八五一	三四、九七八	四・三	〇・六
任實	六〇、三七二	三八、四五三	六・四	〇・五
礪山	二一、一八六	九、二二四	四・三	一・二
益山	三七、三五〇	八、三〇六	二・二	一・二
金堤	四〇、〇五〇	五、三二一	一・四	一・六
泰仁	四五、五八七	二〇、六八六	四・五	〇・九
扶安	五二、九八二	二三、一五九	四・三	一・四
古阜	四二、三六八	八、三四六	一・九	一・三
茂長	四二、五六六	二一、二八二	五・〇	一・〇
淳昌	五二、一三四	三三、三〇二	六・五	〇・七
錦山	三一、三七五	三一、九四四	一〇・二	一・六
茂朱	三六、三五六	四六、〇七八	一二・六	〇・九
龍潭	一八、九八〇	一九、〇四八	一〇・〇	〇・七
高山	二七、九一六	三〇、一八七	一〇・八	〇・七
萬頃	二〇、〇〇二	四、三九二	二・二	一・二
龍安	九、一二五	一、三九七	一・五	一・二
金溝	二五、七六七	五、七二〇	二・二	一・五
井邑	一九、五六四	一〇、〇六二	五・二	〇・七
高敞	一五、五二二	六、三四九	四・〇	〇・九
興德	二四、八二三	六、一一〇	二・四	一・六
雲峯	一九、〇〇三	一八、二四八	九・五	一・二
全北計	九四八、二八二	五二七、四六六	五・六	一・〇
木浦	七二、五六八	四三、八二三	六・〇	一・二
光州	七八、六六九	二三、二七八	三・〇	一・三
羅州	六六、〇七六	二七、九六八	四・二	一・七
靈光	六九、九二一	三二、二九三	四・七	一・七
長城	四九、二六〇	二八、七二七	五・八	一・三
康津	四八、〇八九	三六、四六〇	七・六	一・九
長興	六五、〇七一	四四、八七四	六・一	一・五
綾州	五四、八九七	三〇、四五〇	五・九	一・四
南平	三一、六九六	一七、二六八	五・四	一・六
寶城	六三、七一三	四三、九一二	六・九	一・一
順天	八四、五四三	六六、六三一	七・九	一・一
求禮	四一、四三三	四三、九五二	一〇・六	〇・九
光陽	三九、五八九	三七、五八三	九・六	一・一
興陽	五二、七〇三	四二、三九一	八・〇	一・三
珍島	三八、一〇八	四〇、七〇七	一〇・七	二・〇
智島	六三、三二七	五六、〇九三	八・九	〇・八
昌平	四五、五五七	二三、七一九	五・二	一・二
同福	三〇、〇二四	二二、八七八	七・六	〇・八

長水	三七、九六九	四二、五六五	一・一三	〇・七	海南	七四、五六六	五六、〇九三	七・五	二・五	麗水	四〇、五四三	二九、四〇九	七・二	一・六
鎭安	二八、七九四	三七、〇一五	一・二八	一・一	莞島	四八、五六二	三五、三七九	七・三	〇・九	谷城	三四、三三六	二六、四八四	七・七	〇・九
咸悅	一九、〇三八	七、〇二七	三・六	一・九	靈岩	六二、四一五	三一、二五二	五・〇	二・〇	突山	三三、二七五	二八、四八七	八・五	一・三
臨陂	二七、〇八三	六、一八九	二・二	一・三	咸平	五四、五九三	二五、二四二	四・六	二・〇	全南計	一、三七六、四七五	九〇八、二四四	六・六	一・四
珍山	一三、七九五	一五、一六四	一〇・九	〇・八	潭陽	三二、九二一	一二、七八一	三・九	一・一	總計	二、三三四、七五七	一、四三五、六一〇	六・二	一・三

（備考）

人口ハ四十三年五月十日元警務局調査ニヨル

林野面積ハ同年元山林局調査林籍調査圖ニヨル

耕地面積ハ同年末現在農務課統計材料ニヨル

萬頃及羅州平野ニ耕地多ク東北諸郡ニ林野多キコトハ當然ナリト雖全羅唯一ノ大川タル蟾江ノ流域ニ耕地少キコトハ一願ヲ要スル現象ナリトス南原、求禮、谷城、任實等耕地最少キ地方ハ主トシテ同江ノ流域ニ屬ス蟾江流域ノ地理ハ林政上特別ノ注意ヲ要スルカ如シ

蟾江下流ハ斷層ニ關係ヲ有スルモノヽ如ク他ノ諸水主トシテ南西ニ流レ錦江、萬頃江、茁浦灣、榮山江（龍津、錦江、木浦等ノ朝鮮名ヲ有シ任實及龍潭ノ溪谷ハ此ノ川ノ方向ト同一線内ニアリ）、康津江（蟾江ノ支流ナル大乾江及南原、長水ノ溪谷ハ此ノ川ト略同一線内ニアリ）、寶城灣等皆同一方向ニ配列スルニ係ラス蟾江獨リ南東ニ流レ他ノ諸水ノ主方位ト直角ニ交ルカ故ニ數箇ノ山地ヲ橫斷スルコトヽナリ斷崖多シ全州以東智異山以北ハ峯高ク溪迫リ雲峯、長水ノ間ハ所謂山回水曲ノ幽谷ニシテ山居隱遁ノ別天地ナリトス内地人ハ主トシテ萬項、羅州ノ平野ニ集マリ農業ヲ營ムモノ多シ四十四年四月末現在ノ内地人總數一萬六千餘人（全南八、三五四人 全北七、六六〇人）内一府郡ニシテ百人以上ヲ有スルモノ左ノ如シ

群山	三、九三三人	南原	一二六人	木浦	三、八六一人	光州	一、四八〇人
全州	一、六二〇	錦山	二三二	羅州	二二四	靈光	一八八

金堤	三〇九	泰仁	一四五
扶安	二二三	古阜	一三五
臨陂	一三一	井邑	一六八

以上全北（最少キハ龍安二人、珍山四人、雲峯九人、高山十三人、長水十六人等ナリ）

海南	一八七	靈岩	一七九
長興	一八三	南平	一三九
寶城	二五三	順天	四六六
麗水	三四八	突山	一七四

以上全南（最少キハ昌平十七人、同福、求禮ノ各二十四人、谷城三十二人等ナリ）

森林帶

現在ノ林相ハ永年間人工ヲ加ヘテ種種ナル變化ヲ來シタルモノナレトモ其ノ變化ヲ來サザリシ原始時代ニ遡リ固有ノ森林帶ヲ考究スルニ次ノ四段ニ區分シ得ルカ如シ森林帶ノ研究ハ造林樹種ノ選定上必要ナル事ニシテ殊ニ全羅ノ南邊ハ常綠濶葉樹ノ區域カ落葉濶葉樹ノ區域ニ遷移スルノ境界ニ當ルカ故ニ本調査ハ林業上頗ル重要ナル結果ヲ來スヘキヲ信ス

森林帶區分

甲　暖帶林

乙　溫帶林（落葉濶葉樹帶）

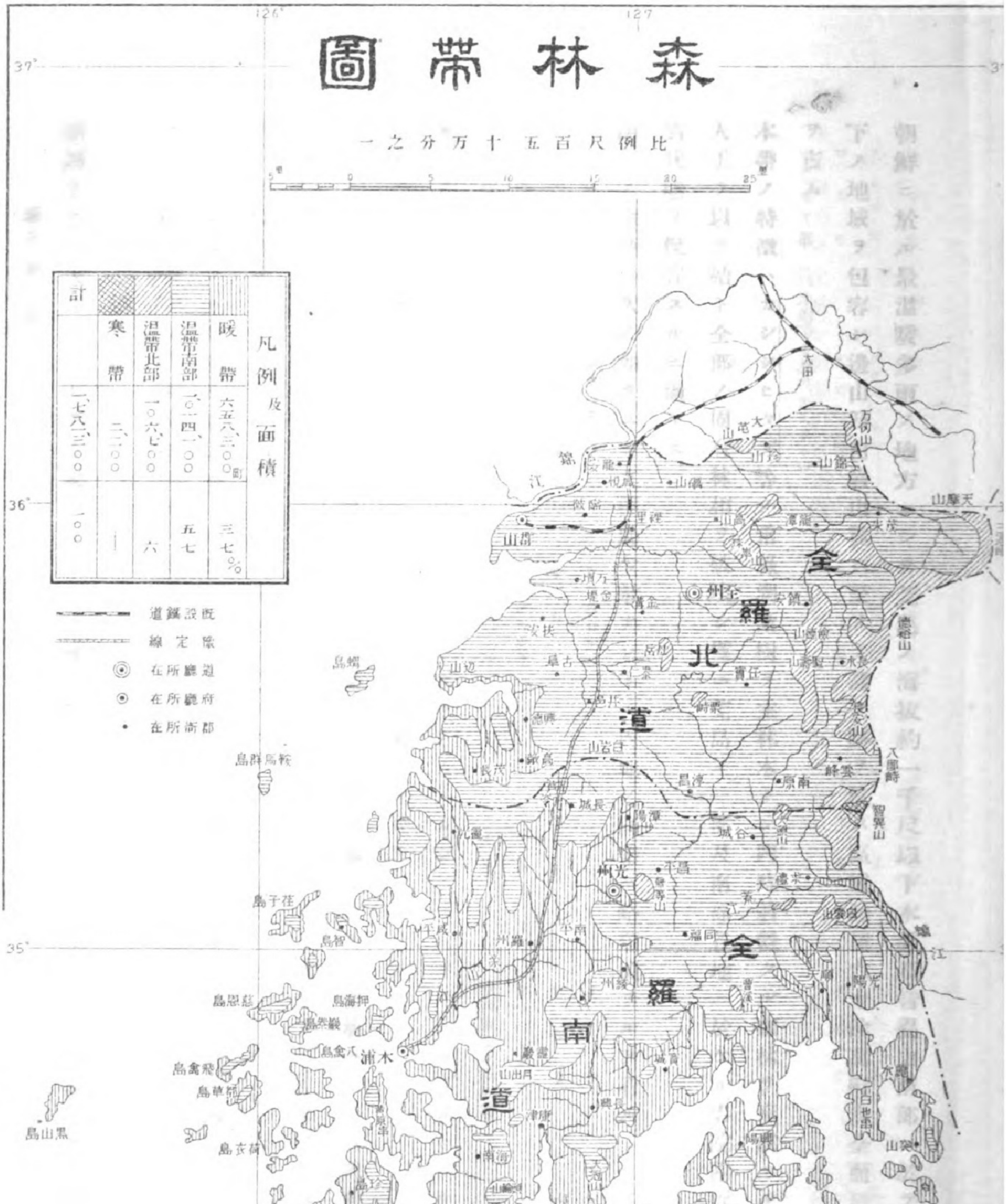
一　溫帶南部

二　溫帶北部

丙　寒帶林

右ハ主トシテ本多博士ノ日本森林帶ノ區分法ニ倣ヒタレトモ各帶ヲ代表スル標準樹種ニ差異アルカ故ニ内地又ハ北海道ノ森林帶ト全然一致セシムルコト困難ナルカ如シ

甲　暖帶林


森林帶圖
比例尺百五十万分之一
凡例及面積
暖帶 六五八、三〇〇町 三七%
温帶南部 一、〇一四、一〇〇 五七
温帶北部 一〇六、七〇〇 六
寒帶 二、二〇〇 —
計 一、七八一、三〇〇 一〇〇
既設鐵道
豫定線
道廳所在
府廳所在
郡衙所在
全羅北道
全羅南道

朝鮮ニ於ル最温暖多雨ノ地方ニシテ莞島ノ海拔約一千尺以下木浦及智異山南部ニ於テ約五百尺以下ノ地域ヲ包容シ邊山及白岩山麓ニ至リテ其ノ跡ヲ沒ス區域面積六十餘萬町歩全面積ノ三割七分ヲ占ム。

本帶ノ特徴ハカシ、シヒ、タブ等ノ常綠濶葉樹ヲ主林木トシ四時鬱蒼タル森林ヲ形成スルニアレトモ人工ヲ以テ殆ト全部ノ固有林相ヲ破壞シ僅ニ莞島ノ一部及南部各地ニ於ケル寺院附近ニ其ノ原始的狀態ヲ保存スルニ過キス

固有ノ樹種ハ次ノ如クニシテ種屬少數ナレトモ内地ノ同帶ニ略類似スルヲ看ル

アカガシ	ツクバネガシ	ウラジロガシ	シヒ	タブ	ヤブニッケイ
シロダモ	モチノキ	サカキ	ヒサカキ	トベラ	ハマモッコク
ユヅリハ	カクレミノ	イタビカヅラ	ムベ	ビナンカヅラ	テイカカヅラ
シヤシヤンボ	ヤマモモ	ツバキ	クロチク	ヤバネヒヒラギ等	

カヤ、チヤ、マダケ、ハチク、メダケ、クロマツ、ヤマガキ、アカメガシハ、ゴンゼツ、フユザンシヨウ、マサキ、ハイノキ、ツルグミ等ハ境界ヲ越エテ仍多少北方ニ侵入セルアリ

ムクノキ、ノブノキ、チヤンチン等ハ本帶ヨリ仍廣ク温帶南部ニ亙リテ繁殖スクスハ濟州島ニ野生スルヲ聞ケトモ本區域ニハ之ヲ發見セスカシハ僅ニ三種ヲ看タルニ過キサレトモ往古ニ於テハ仍多クノ種類ヲ存シタル可キコトヲ想ハシム

以上ヲ綜合スルトキハ本區域ハ暖帶卽カシ、シヒ帶ノ北部ニ屬スルモノニシテ内地ニ於ル加賀(海拔九百尺以下)能登(海拔一千尺以下)甲府附近(海拔一千尺以下)ノ暖帶林ト略伯仲ノ位置ニアリ

乙　温帶林

朝鮮全土ノ大部分ハ本帶ニ屬スレトモ全羅ニ於テハ南道ノ大部及北道ノ海濱一部ハ前帶ニ屬スル

カ故ニ主トシテ東北方面ノ山地ニ發達シ海拔約四千五百尺以下（暖帯ヲ除ケル）ノ區域ヲ占領シ面積百十餘萬町歩全面積ノ六割三分ニ當ル本帯ノ特徴ハ落葉濶葉樹ヲ主林木トスルニアレトモ其ノ北部ト南部トノ兩端（山地ニ於テハ上部ト下部トノ兩端）ヲ看ルトキハ林相ニ多少ノ相違ナキヲ得サルナリ卽南部ノ暖帯ニ近キ方面ハシデ、コナラ等ヲ主林木トスレトモ北部ノ寒帯ニ近キ方面ニ於テハオホナラ、ミネバリ等ヲ主トシミツバカヘデ、シホジ、マカンバ等ヲ混スルニ至ル上部ト下部トノ境界ハ智異山ニ於テハ約二千五百尺ノ地帯ヲ適當トスルカ如シテフセンゴヤウマツ及アララギハ温帯北部ヨリ寒帯ニ亙リテ生育ス本帯ノ區域ハ人工ニヨリテ固有ノ林相ヲ滅却セラレ莞島、邊山、白岩山等ニ於テ南部林相ノ俤ヲ存シ智異山、白雲山等ノ山嶽地ニ於テ北部ノ狀況ヲ視察シ得ルニ過キス

固有樹種ノ主ナルモノ次ノ如シ

オホナラ	ミネバリ	マカンバ	ドロノキ	オホヤマレンゲ	シホジ
モンゴリガシハ	キハダ	ミツバカヘデ	テフセンモミ等（以上北部ヲ主トスルモノ）		
カハミヅザクラ	アヅキナシ	ハウチハカヘデ	ヤマザクラ	シヤラ	ヤマハンノキ
イタヤカヘデ	メウロザクラ	ツノハシバミ	ヤマナシ	ハシバミ	ハンノキ
ネツミサシ	シナノキ	ネムノキ	アンズ	ヤマナラシ	カシハ
ナラガシハ	エンジユ	ハルニレ	アキニレ	トネリコ	ニガキ
サンザシ	アハブキ	ハリギリ	ハクウンボク	サハシバ	ヤマウルシ
ミヅキ	オホバヤナギ	チノエヤナギ	ヌルデ	クハ	アベマキ
ハシドイ	ススタケ	タマザサ	ヤマアジサイ	ガクサウ	マタタビ
シラクチ等（以上温帯全部共通ノモノ）					
コナラ	アカシデ	イヌシデ	クヌギ	ケヤキ	クリ
アカマツ	ヒトツバタゴ	ケンポナシ	アマハセ	エゴノキ	イヌガヤ
ドシヤ	ダハリン	トサミヅキ	ヒウガミヅキ	カナクギノキ	シロキ等

（以上南部ヲ主トスルモノ）

ブナ、ホホノキ、カツラ、トチノキ、スギ、ヒノキ等ヲ有セスシテハシドイ、サンザシ、ドシヤ等ヲ有スルハ内地ノ同帶ニ比較シ顯著ナル特徵ナリトス

丙　寒帶林

海拔約四千五百尺以上ノ高地ヲ占領シ智異山ヲ除クノ外ハ其ノ所在ヲ認メス面積僅ニ二千餘町歩（慶尙道ニ屬スル智異山寒帶ヲ除キテ）ニ過キスシラベヲ以テ主林木トシテフセンゴヤウマツ、タウヒ、アララギ、マカンバ等ヲ混シ主トシテ針葉樹ノ林相ヲ形成ス

固有樹種左ノ如シ

シラベ　タウヒ　テフセンゴヤウマツ　アララギ　チガラバナ　ミネカヘデ
オニモミヂ　シヤクナギ　（テフセンゴヤウマツ以下ハ温帶ニモ存スルアリ）

エゾマツ、カラマツ、トドマツ、ハヒマツ、ミヤマハンノキ等ハ之ヲ認メス一般ニ全羅地方ノ森林植物ハ平安、咸鏡各道ヲ包容スル西北地方ニ比較シ稍異ナル林相ヲ形成スルカ如シ後者ハ滿洲ニ接續シテ西比利亞ニ近ク前者ハ舊日本ニ類似スルカ故ニ同シク寒帶又ハ温帶ニ屬スル區域ト雖樹種ノ分布兩者一致セサル點アルコトヲ免レス內地ニ於テハ温帶ノ代表樹種トシテブナヲ選定スレトモ朝鮮ニ於テハ全然其ノ野生ヲ見サルカ故ニ他ノ樹種ヲ以テ之ニ代用セサルヘカラス而シテ前記シデ、ナラ等ノ如キハ內地ニ於テハ稍陽性ノ樹種ニ屬シ森林帶ノ代表樹種トシテ不適當ナルカ如キモ朝鮮ノ氣候ハ日照時間長ク空氣乾燥スルカ故ニ內地ニテノ陽樹モ反テ陰性ニ傾キ前記樹種ノ如キモ幼時多少ノ庇陰ヲ好ミ內地ニ於テブナヲ陰樹ト稱スル程度ニ朝鮮ニ於テハ是等樹種ヲ以テ陰樹ト稱シ得サルニアラサル可ク而シテ森林帶ノ代表樹種トシテ推薦スルノ必スシモ不當ナラサルヲ信スルナリ

林野分布ノ現況及林相ノ變化

森林ハ種種ニ變化ス前章ニ述ヘタル森林帶ノ固有林相ハ人工其ノ他災害ノ加ハラサル原始的ノ狀態ヲ推想シタルモノナレトモ斯ノ如キ原始的森林(原生林)ノ存在ハ其區域甚狹少ニシテ大部分ハ既ニ變化ヲ來セル後成ノ林相ナリトス

林相變化ノ原因ハ人工ヲ以テ第一ト爲ササル可カラサルカ之ヲ區分シテ二種トス一ハ一定ノ計畫卽チ造林法ノ下ニ變化ヲ起スモノニシテ二ハ濫伐、燒却等造林上何等ノ計畫ナクシテ全ク林相ノ退步ヲ來サシムルモノナリ、而シテ朝鮮ニ於ケル林相變化ノ大原因ハ主トシテ後者ニ屬スルモノニシテ此ノ現象ハ今仍熾ニ發展シツツアルヲ見ル

林木ヲ伐採シテ日光ヲ林間ニ射入セシムルトキハ强キ光線ニ耐エサル陰樹ノ種類ハ發生ヲ妨害セラレ偶存在セル稚苗モ枯死スルヲ免レス之ニ反シテ其ノ生育ニ多量ノ光線ヲ要スル陽樹ノ種類ハ發生ヲ促サレ伐採度ヲ重ヌルニ隨ヒ陽樹增加シテ陰樹減少シ陽樹モ漸次ニ其ノ性質ヲ極端ナルモノニ限ルニ至ルヘシ殊ニ皆伐又ハ火災等ノ爲ニ林地裸出スルトキハ陽樹ノ純林ニ變化スルヲ免レス右ノ如ク過伐又ハ燒却等ニヨリテ林相ヲ變更シ其ノ極度ニ達スルトキハ終ニ全ク樹木ヲ生セサル荒廢地トナルニ至ルヘシ此ノ順序ニ從ヒ林相ノ變化ヲ大略次ノ四段ニ分ツコトヲ得

第一期林相　各森林帶ノ固有林相ニシテ卽チ原生林ノ狀態ヲ云フ但シ主林木ハ陰樹ニ限ルヘキモノトス

第二期林相　陰樹ノ主木減少シテ陽樹ノ數量ヲ增加シタル狀態ヲ云フ

第三期林相　陰樹全ク滅亡シ陽樹ノ純林トナレル狀態ヲ云フ

林相變化圖

比例尺百五十万分之一

林相區分	第一期					第二期	第三期	第四期	耕地其他	計
種別	暖帶	南部溫帶	北部溫帶	寒帶	小計					
面積	二、〇〇〇町	三、五〇〇	五、三〇〇	二、二〇〇	一三、〇〇〇	三二二、〇〇〇	八五四、六〇〇	二四六、〇〇〇	三四五、七〇〇	一、七八六、三〇〇
部合	%				一	一八	四八	一四	一九	一〇〇

既設鐵道

豫定線

道廳所在

府廳所在

郡衙所在



第四期林相　森林荒廢シテ經濟的ニ林業ヲ經營スルコト能ハサル狀態ヲ云フ

暖帶及溫帶林ハアカマツノ侵入ニヨリテ第二期ノ始メトナリアカマツ純林トナリテ第三期トナル寒帶ノ森林ハアカマツニ代ルニマカンバヲ以テシ仍溫帶北部(上部)ニ於ル第二期以後ハ四圍ノ狀況ニヨリアカマツ、マカンバ、ヤマハンノキ、カシハ、ヤマナラシ等後生樹種一定セサルコトアリ

第二期以下ノ森林ト雖造林上ノ原則ニ遵ヒ適當ナル取扱ヲ爲スニ於テハ陽樹ヲ漸減シテ再ヒ陰樹ノ純林ニ復歸セシムルコト難キニアラス但シ陰樹ノ森林ハ經濟上必スシモ陽樹ヨリ勝レルニアラサレトモ不法ナル取扱ニ基因スル林相ノ退步ハ叙上ノ順次ヲ經テ遂ニ荒廢ニ歸スルニ至ルナリ

全羅ノ森林山野ヲ林相ニヨリテ區分シ第一期以下ノ分布狀態ヲ研究セムトス(林相變化圖參照)

現在林相	時代	面積
暖帶原生林 溫帶南部原生林 溫帶北部原生林 寒帶原生林	第一期	一三、〇〇〇町步
濶葉樹及アカマツ混淆林 マカンバ、ヤマハンノキ、カシハ、ヤマナラシ等ヲ主トスル森林	第二期	三二二、〇〇〇町步
アカマツ單純林	第三期	八五四、六〇〇町步
多少ノアカマツ、ツツジ等ヲ生スル荒廢地又ハ草山	第四期	二四六、〇〇〇町步

(備考)

第二期以下ノ森林ハ成林地ニ限ラス稚樹地ヲモ含ム

莞島、白岩山等比較的便利ナル山地ニ第一期ノ森林ヲ存スルハ封山又ハ寺領等ノ關係ニヨルモノニ

シテ智異山ノ頂ニ同林相ヲ有スルハ交通不便ナルカ爲ニ外ナラス

一般ニ東北方面ノ山嶽地方ハ人口稀少ニシテ山地亦甚シク荒廢セサレトモ群山、木浦、海南等ノ平地ニ出ルニ隨ヒ漸次ニ荒廢度ヲ增進ス南原及谷城地方ニ第四期ノ發達セルハ主トシテ地質ノ關係（此ノ地方ハ花崗石ノ山地ナリ）ヨリ來レルモノトス土性不良ナル地方ニ於テハ他ノ良好ナル地方ヨリモ森林ノ荒廢スルコト著シク速ニシテ同一取扱ノ下ニ存スル山地ニテモ一ハ第二期ノ林相ヲ呈スルニ他ハ既ニ第三又ハ第四期ニ達スルコトアリ森林荒廢ノ第二原因トシテ地質及其ノ地方ノ氣候ヲ列擧セサル可カラサル所以ナリ森林帶別ニ林相變化ノ概況ヲ示セハ

	暖帶	溫帶南部	溫帶北部	寒帶	計	百分率
第一期	二,〇〇〇町	三,五〇〇町	五,三〇〇町	二,二〇〇町	一三,〇〇〇町	・一
第二期	一五,〇〇〇	二〇五,六〇〇	一〇一,四〇〇	—	三二二,〇〇〇	・一八
第三期	二七二,三〇〇	五八二,三〇〇	—	—	八五四,六〇〇	・四八
第四期	一四一,九〇〇	一〇四,一〇〇	—	—	二四六,〇〇〇	・一四
耕地其他	二二七,一〇〇	一一八,六〇〇	—	—	三四五,七〇〇	・一九
計	六五八,三〇〇	一,〇一四,一〇〇	一〇六,七〇〇	二,二〇〇	一,七八一,三〇〇	—
百分率	・三七	・五七	・六	—	—	一・〇〇

最變化ノ大ナルハ暖帶及溫帶南部ニシテ交通不便ナル山嶽地方ヲ占領スル溫帶北部及寒帶ノ地域ニ至ルニ隨ヒ漸次ニ變化ノ程度ヲ減スアカマツ純林ハ（第三期）著シク廣大ニシテ全面積ノ四割八分（林野面積ノ六割）ヲ占領スルハ單ニ森林ノ不取扱及地質氣候ノ影響ノミニ止マラス左ノ諸原因ノ加ハルアリテ仍一層其ノ發展ヲ助長シタル結果ナラム

一　溫突ノ燃料トシテハアカマツノ枝葉ヲ以テ最優良ナルモノトナスコト

二　アカマツハ古來ノ禁伐木ニシテ圖法ニヨリテ保護セラレタルコト但シ此ノ法令ハ勵行セラ

レサリシト雖或範圍ニ限リテ行ハレタルコト明ナリ

三　スギ、ヒノキ等良材ヲ産セサル朝鮮ニ於テハアカマツノ用途多樣ニシテ建築材、棺材、船艦材ヨリ家具類、下駄、曲物等ニ至ルマテ本材ヲ用ウルコト

四　全羅北道ニ於テハ松契ノ舊慣アリテアカマツヲ共同保護セル地方アルコト

朝鮮ノ地質及氣候ハ内地ニ比シ林業上多少ノ遜色アルヲ免レス林業上ノ取扱彼我同一程度ニ出ルトキハ朝鮮ノ山地カ早ク荒廢スヘキコトハ免ル可カラサル數ナリトス内地ニ於ル或地方ニ於テハ朝鮮人ヨリモ仍一層亂暴ナル取扱ヲナセルモノアルニ拘ラス山地ノ荒廢此ノ如ク甚シカラサルハ主トシテ地質及氣候ノ天惠ナラストセス内地人ハ朝鮮ヲ目シテ林業ノ幼稚ナルヲ笑フコト能ハサルト共ニ朝鮮ニ於テハ内地ヨリモ仍一層取扱ノ親切ヲ期セサル可ラス

一般林業ノ狀況

北東部ノ山嶽地方ニハ濶葉樹ノ天然林殘存シ全州以西長城以北ニハアカマツノ森林發達シ全南ノ大部ハアカマツ稚樹ヲ以テ占領セラル全南ノ海岸地方ハ荒廢甚シキモ一般ニ裸出地割合ニ少ク（地質ノ關係ナリ）唯花崗岩ノ區域ニ於テ小面積ノ不毛地ヲ生スルアルノミ

殖林事業ハ一般ニ幼稚ナルヲ免レスシテ松ノ稚苗ハ天然ニ地中ヨリ湧出ル如ク心得居ルモノ無キニアラスト雖全北ノ西部各郡ニ於テハアカマツノ禁養林著シク發達シ樹齡二十年前後ノ幼林道路ノ左右ヲ壓シテ快感ヲ生セシムルアリ全北ノ林野面積ハ朝鮮全土ノ林野ニ對シ僅ニ百分ノ三ニ過キサルモ私有ノ成林地ハ百分ノ二十六ニ達シ全半島ニ於テ私有林ノ最發達セル地方ナリトス

何故ニ斯ク發達セルヤ頗ル疑問ニシテ松契ノ力大ニ關係アルカ如シト雖全部松契ノ力ナリトハ信

用シ得ラレス
此ノ地方ニ行ハルル松契ハ忠北地方ニ行ハルルモノト稍趣ヲ異ニシ忠北地方ノモノハ一部落又ハ部落中ノ一部ニ限ラルル場合多シト雖全北ニ行ハルルモノハ郡又ハ面ヲ通シテ行ハレ(忠北類似ノモノモ存スレト)地方官ノ山林取締法ノ如キモノアリテ普通ノ契ト稍性質ヲ異ニスルモノ多シ松契ノ由來ハ頗ル古キモノナルヘシト雖現存スル規約ハ最近ノモノ多ク稍形式ニ流レタルノ觀アリ(卷尾ニ一、二ノ例ヲ掲ク)光武ノ始ニ於テハ各郡競フテ契ノ規約ヲ定メ一時流行ヲ極メシカ漸次衰微ニ傾キ現今契ヲ有スル府郡ハ全北ニ於テ左ノ十九ニ過キス(群山、南原、全州、任實、錦山、鎭安、龍潭、井邑、雲峰ハ契ヲ有セス)

礪山　金山　金堤　泰仁　扶安　古阜　茂長　淳昌　茂朱　長水
咸悅　臨陂　珍山　高山　萬頃　龍安　金溝　高敞　興德

就中臨陂、金堤ハ模範ヲ以テ目セラレ成績良好ナリト云フ各地ノ契ヲ通シテ一貫セル主意ハ無斷ニ松樹ノ伐採ヲ禁シ之ヲ保護スルニアルコト勿論ナルカ燃料ノ伐採ヲ制限セラレタル結果京畿、忠清地方ノ如ク三四年毎ニ松ノ稚樹ヲ刈取ルモノヲ減少シ漸次ニ伐期ヲ延長セリト雖生枝ヲ採取スルノ弊ヲ生シ井邑、興德及全州附近ニ於テハ梢頭ニ僅ノ枝ヲ存スル奇形ノ松林多シ全南地方ニ於テハ松契ナル語ヲ知レルモノ少ク全北ニ接近セル長城郡ノミハ稍多クノ禁養林ヲ有シ其ノ取扱亦全州地方ニ類似セルモ其ノ他ハ殆ト見ルヘキノ林相ヲ有セス唯竹林ノ養成セラルルモノ稍多ク他道ニ於テ見得ヘカラサルノ一異觀ヲ呈ス
竹材ノ用途ハ種種アレトモ主トシテ其ノ地方ノ雜用ニ供セラレ交通不便ナルカ爲ニ移出スルモノ少シ竹林ハ古竹ヲ殘シ新竹ヲ伐採スル傾向アルカ故ニ一般ニ林相宜シカラス
墳墓ハ他道ニ於ルカ如ク重要視セラレ周圍ニ美林ヲ存スルモノ少カラス墳墓林ノ成立ハ第一次ニ

於テ墳塚ノ周圍ニ環形ノ樹列ヲ作リ（アカマツ多ク稀ニクヌギヲ植ルアリ）此ノ樹列ハ母樹トナリテ附近ニ稚樹ヲ發生シ終ニ數町歩又ハ數十町歩ニ亙ル大森林ト成ルアリ又ハ始メヨリ一定ノ區域ニ植樹シテ之ヲ保護スルアリ森林成立後ハ伐採更新セラルルコト普通ナレトモ最初ノ位置ニ存スル母樹ノ一列ハ之ヲ存置スル場合多キカ如シ

森林ヲ附屬セサル墳墓ハ多ク貧民ノ有ナリトス貧民ハ森林ヲ保護シ之ヲ維持スルノ勢力ナキカ故ニ地方ニ於ケル有力者ニアラサレハ墳墓林ヲ經營スルコト能ハス遠方ニ墳墓ヲ設ケタル兩班等ハ大概保護者（山直）ヲ設置シテ其附近ニ居住セシム

火田ハ一般ニ少シト雖火田ヲ行ハサルニアラスシテ火田ヲ行フノ森林少キカ為ナリ林野ノ大部ハ第三期ニ屬シアカマツ林ヲ主トスルカ故ニ林地瘠惡ニシテ農耕ニ耐エサルナリ故ニ全北東部ノ山地、白雲山、智異山及白岩山等ノ山中ニ至レハ四十度位ノ急斜地ニ於テモ雜穀、烟草等ヲ栽培スルモノ少カラサルヲ看得ヘシ

此ノ地方ノ人民ハ西北朝鮮地方ト異リ移動性少ク數代定住スルモノ多キカ故ニ一森林ヲ荒廢セシメタル後他ニ移住スルカ如キモノ稀ニシテ多クハ同一地域ニ於テ古キ火田ヲ耕作ス

寺領ノ森林ニシテ見ルヘキモノハ少シ智異山、邊山、珠崒山等ハ往古寺僧ニヨリテ保護セラレタルモノノ如キモ寺院漸次ニ衰微シテ廢滅ニ歸セルモノ多ク李朝ノ政府ハ寺院ノ重修ヲシテ益困難ナラシメ邊山ハ近古鎭ノ手ニ歸シ廢鎭以來全ク放棄ノ姿トナレリ寺領ノ森林ニシテ今日稍見ルヘキモノハ全北ニ在リテハ邊山ノ蘇來寺、井邑ノ内藏山、全南ニ在リテハ長城ノ白岩山、海南ノ頭輪山、順天ノ曹溪山、求體ノ華嚴寺（智異山）等ヲ算シ得ルニ過キス智異山中ニ於ル家具製作、椎茸栽培、漆器製造等ノ如キ其ノ初禪僧ニヨリ支那ヨリ傳ハレルモノト推想シ得ラルルモ是等ノ事業モ漸次衰滅ニ歸シツツ

アリ

林野全面積ノ内成林地(立木度十分一未滿ノ疎林及雜樹地等ヲ除ク)面積ノ概數左ノ如シ

府郡別	成林地面積	林野全面積ニ對スル成林地ノ部合	備考	府郡別	成林地面積	林野全面積ニ對スル成林地ノ部合	備考
群山	七〇〇町	一六%		南原	七、九〇〇町	二四%	
全州	一六、五〇〇	四七	アカマツ私林多シ	任實	三三、二〇〇	八七	アカマツ及濶葉樹多シ
礪山	二、七〇〇	二九		益山	六、〇〇〇	七二	アカマツ私林多シ
金堤	二、五〇〇	四七		泰仁	九、七〇〇	四七	
扶安	七、三〇〇	三一		古阜	四、八〇〇	五八	アカマツ私林多シ
茂長	七、一〇〇	三三		淳昌	二六、〇〇〇	七八	アカマツ私林多シ
錦山	二、九〇〇	九		茂朱	一九、六〇〇	四二	濶葉樹及アカマツ多シ
長水	二六、七〇〇	六三	濶葉樹多シ	鎭安	二一、八〇〇	五九	濶葉樹及アカマツ多シ
咸悅	一、四〇〇	二〇		臨陂	三、一〇〇	五〇	アカマツ私林多シ
珍山	七、六〇〇	五〇		龍潭	一五、八〇〇	八三	濶葉樹及アカマツ多シ
高山	一七、七〇〇	五九	濶葉樹及アカマツ多シ	萬頃	三、〇〇〇	六七	アカマツ私林多シ
龍安	〇	〇		金溝	二、九〇〇	五一	アカマツ私林多シ
井邑	四、四〇〇	四四	アカマツ私林多シ	高敞	二、五〇〇	四〇	アカマツ私林多シ
興德	三、五〇〇	五七	アカマツ私林多シ	雲峯	九、七〇〇	五三	濶葉樹多シ
全北計	二六七、〇〇〇	五〇					
木浦	〇	〇		光州	一、〇〇〇	四	
羅州	一、一〇〇	四		靈光	四〇〇	一	
海南	一、四〇〇	三		莞島	七、三〇〇	二一	濶葉樹多シ
靈岩	〇	〇		咸平	〇	〇	
潭陽	一、五〇〇	一一		長城	七、七〇〇	二七	アカマツ私林多シ
康津	〇	〇		長興	〇	〇	

綾州	四、五〇〇	一五		南平	〇	〇
寶城	四、九〇〇	一一		順天	七、九〇〇	一二
求禮	一二、七〇〇	二九	濶葉樹多シ	光陽	二、〇〇〇	五
興陽	〇	〇		珍島	〇	〇
智島	〇	〇		昌平	八〇〇	三
同福	五、二〇〇	二三	アカマツ多シ	麗水	二〇〇	一
谷城	五、八〇〇	二三	アカマツ多シ	突山	〇	〇
全南計	六四、四〇〇	七				
總計	三三一、四〇〇					

（備考）

成林地面積ハ元山林局調査林籍調査圖ニヨレリ但シ調査員ノ手加減ニヨリ全北ハ成林地過多全南ハ之ニ反シ過小ナルヤノ感アリ

面積小ナル團地ニシテ二十萬分一圖ニ記入シ難キモノハ之ヲ除外セリ故ニ本表中成林地面積零ナルモノハ必スシモ成林地ノ皆無ナルニアラス圖上ニ記入シ得ル程ノ團地（約百町歩）ナキニヨルナリ

全北各部ハ比較的成林地多ク全南ノ著シク少キハ顯著ナル事實ナリトス靈光、咸平、智島、珍島、木浦、靈岩、海南、康津、長興、興陽、麗水、突山等沿海諸郡ノ成林地極端ニ少キコトハ特別ナル注意ヲ要スヘシ蓋シ製鹽事業ノ爲古來多クノ燃料ヲ採取シタル結果ナルヘキカ

樹木ノ植栽及禁養

遠キ古代ヨリ多少行ハレタルモノノ如シ現在植栽又禁養スル樹木ノ種類及其ノ目的等ヲ考フルニ

（イ）墳墓ノ裝飾　朝鮮全土殊ニ南方ニ於テ大ニ流行セルモノノ如シ初ハ支那ノ古風ヲ傳ヘタルモノ

ラシク單ニ死者ノ靈ヲ慰メ墓前ノ裝飾ヲ兼ヌルニ過キサリシカ後世ニ至リ更ニ他ノ新意義ヲ加フルニ至レルモノノ如シ一般ニ墓地ハ國法ノ保護周到ニシテ墳墓ノ附近ハ確實ニ土地ノ占有ヲ許容セラレ他ノ一般森林地ト格段ノ差アリシカ故ニ初ハ墳墓ノ爲ニ森林ヲ造殖セルモ此ニ目的ヲ轉倒シテ森林ノ占有ヲ確實ニセムカ爲ニ反テ墳墓ヲ設クルノ必要ヲ生スルニ至レリ墳墓ノ界限ハ國法ニヨリテ定メラレタリト雖墳墓周邊ノ森林ハ此ノ定界ヲ超ユルモ仍其ノ占有ヲ容認セラレ一箇所ノ墳墓ニシテ數十町歩ノ森林ヲ附屬スルモノアルニ至レルナリ

樹種ハアカマツヲ主トシ稀ニクヌギ等ヲ混スルコトアリ全州附近ニ於テ特ニ發達セルヲ看ル多行松（アカマツノ變種ニシテ幹ノ數多分岐スルモノ）ハ朝鮮ニ多ク野生スルカ右地方ニ於テハ墳墓ノ爲ニ特ニ植栽禁養セルモノ頗ル多キカ如シ

(ロ) 護岸　河川ノ沿岸又ハ用水ベリ等ニ特ニヤナギノ類ヲ植栽シ又ハ自然生ノ樹木ヲ保護セル形跡アレトモ濫伐ノ爲漸次荒廢ニ傾ケリ

(ハ) 行道樹及亭子木　光州、谷城邑等ノ入口路傍ニケヤキ、エノキ等ノ行道樹ラシク配列スルアリ或ハ後ニ述フル「藪」ノ一部分殘レルモノナルヤモ料ラレサレトモ現在ハ行道樹ノ效用ヲナシテ保護セラレツツアリ長城郡白岩山淨土寺ノ入口ニハナラガシハノ美良ナル行道樹アリ

部落ノ入口又ハ部落内ニケヤキ、エノキ、ムクノキ等ノ老木アリテ土民ノ午睡場トナリ部落ノ集會場トナリ又ハ旅客ノ休息所トナレルモノアリ之ヲ「亭子木」ト稱シ多クノ部落ニ之ヲ存シ數百年ヲ經タル老大樹多シ所有者定マラサルモ部落民互ニ之ヲ伐採セサルコトトシ靈木トシテ保護セラル

(ニ) 觀賞用　郡廳舍、鄕校、寺院、墳墓、亭又ハ土豪ノ庭内ニ植栽セラルル多少ノ觀賞木アリサルスベリ、ザクロ、アホギリ、ビヤクシン、キリ、イチフ、ボタン等ヲ主トス但シ或樹種ハ果實又用材等ノ副目的ヲモ有

スルモノアラン然レトモ此ノ種ノ樹木ハ頗ル稀有ニシテ内地ニ於ル庭園ノ如キモノハ殆ト之ヲ看得ヘカラス

(ホ)食用　ナラ、タヌギノ實ハ食料トナレトモ此ノ目的ノ爲ニ特ニ栽培セルモノヲ見ス觀賞又ハ用材等ノ副目的ヲ有スルモノアレトモ兎ニ角果實ヲ主トシテ栽培セラルル主ナル樹木左ノ如キアリ

クリ　他ノ各道ニ比スレハ少キ方ナリ寺院ノ境内等ヲ主トス

イテフ　寺院ヲ主トス

カヤ　寺院ヲ主トス長城郡淨土寺ニ數百本集團セルアリ半野生的ナリ

テフセンゴヤウマツ　全北ノ東部ニ栽培セルモノ存スル由ナレトモ一般ニ少シ

ラウチグルミ　一般ニ少シ

此ノ外普通果樹トシテナシ、モモ、ザクロ、カキ等アリカキハ到ルトコロニ産シ殊ニ高山、潭陽附近ニ良種多シ一般ニ山地ノ部落ニ至レハ各戸之ヲ培養スレトモ多クハ熟柹トシテ自家用ニ供スルカ故ニ移出スルモノ割合ニ多カラス高山附近ヨリハ乾柹ヲ出ス

(ヘ)採油用　ツバキハ求禮郡華嚴寺及海南郡、莞島郡等ニ採油用トシテ特ニ保護セラルルモノアリハマセンダンハ長城、潭陽附近ノ山畑ニ多少存スレトモ慶北、忠北地方ノ如ク熾ナラス

(ト)纖維用　シナノキノ皮ハ利用スレトモ特ニ栽培セルモノヲ見ス製紙原料トシテノカウヅハ主トシテ長城郡ニ於テ山畑ニ栽培セラルル葉面光澤アルモノト粗ナルモノトノ二種アリ

(チ)養蠶　クハ、ハリグハハ數量多カラサレトモ各地ニ産ス谷城郡ニ於テハリグハノ直經一尺位ノモノヲ見タリ

(リ)漆　智異山地方ニ於テハ山畑ニ漆樹ヲ栽培スルモノアレトモ頗ル稀ナリ

（ヌ）燃料　前記墳墓周圍ニ存スル森林ハ主トシテ燃料ヲ目的トスルモノニシテ全北ノ西部ニ於テ特ニ發達セルヲ見ル此ノ外家屋ノ附近ニ於テ稀ニクヌギ、ナラノ森林ヲ造成スルモノアリ主トシテ天然生ノ間ニ人工播種ヲ行ヒタルモノノ如クナレトモ時トシテ全部人工ニヨリタルモノアリ

（ル）用材　墳墓ノ森林ハ一部用材目的ノタメニ造成セラル然レトモ墳墓ノ所有者ハ墳墓所在地ト遠隔スルヲ常トスルカ故ニ其ノ利用頗ル不便ナリ前記燃料ト共ニ墳墓附近ニ住スル山直又ハ小作人ノ利益トナル場合多シ竹林ハ主トシテ家屋ノ周圍ニ作ラレマダケ多ク羅州地方ニ於テハメダケヲモ產スト云フヤダケハ往時保護セラレタレトモ現今ハ多カラス全南各郡ニ於テハ家屋ノ周圍ニチヤンチンヲ栽培スルアリ

（ヲ）部落ノ保護及風致　竹林ヲ以テ家屋ヲ取リ圍ミ防風防寒ノ用ヲナシ家屋ノ曝露ヲ防ケルアリ或ハ同一目的ヲ以テ部落ノ後方ニ一帶ノ竹林ヲ設ケタルアリ或ハ樹林ヲ造リテ部落ヲ隱蔽セルアリ光州邑ノ西ノ入口ニハ有名ナル柳林藪アリ（部落ヲ隱蔽スル是等ノ森林ヲ通俗「藪」ト稱ス）カラタチヲ密植シテ通過困難ナラシメタリ之ニ接續シテナラガシハノ森林アリ同シク柳林藪ノ一部ヲナセリ莞島邑（加里浦）ノ前面海中ニハ珠島ナル一小島アリ美麗ナル常綠濶葉樹ノ森林ニシテ古來邑ノ守護林トシテ嚴重ニ保護セラレタリ長城邑ノ前面ハケヤキ、アカシデ等ノ藪ヲ以テ隱蔽セラレ珍島碧波亭ノ前面ニモアカマツ繁茂ノ小島アリ（是等ノ「藪」ハ兵事上ノ目的ヲ有スルモノノ如シ）凡テ都邑ノ四山（主山、案山、青龍白虎ト稱ス）ハ森林ヲ以テ掩ハルルヲ古來ノ慣習トスレトモ近時濫伐ノ爲其ノ舊態ヲ存スルモノ稀ナリ、全州、高山、長城等ハ不完全ナカラモ僅ニ其ノ形跡ヲ保存ス

（ワ）寺領　寺院ノ周圍ニ森林ノ存スルハ僧侶カ森林ヲ造リタルニ非スシテ主トシテ森林内ニ寺院ヲ建立シタルカ故ナリ然レトモ人工ヲ以テ植栽セル樹木ノ往往賞揚スルニ足ルモノナキニアラス長

城郡淨土寺ニ於ルナラガシハノ行道樹ノ如キ扶安ノ蘇來寺ニ於ルモミ林ノ如キ共ニ朝鮮ニ於テ稀ニ見ルノ美林ナリトス其ノ他一般ノ果樹、花木ハ私人ノ庭園ヨリモ寺院ニ於テ多キヲ見タリ

(カ)郡廳舍ノ風致　廳舍ノ構内ニハ種種ナル樹木ヲ植栽セルアリケヤキノ大木ハ多クノ郡衙ニ之ヲ見得ヘクエノキモ亦時トシテ巨大ナルモノアリ潭陽ノ廳舍構内ニハ直經一尺五六寸ノシナギリアリ

(ヨ)封山及禁山　嶺阨禁養ハ古來ノ風習ナリトス全羅兩道ノ間ニハ國防上ノ要害トシテ古來數箇所ノ山城アリ有名ナル八郎峙ノ如キハ現今既ニ全クノ無立木ナリト雖笠岩、金城、蛟龍、威鳳、赤裳等ノ各山城附近ニ於テハ伐採殘リノ樹木今仍多少存スルヲ見ル全羅沿岸ハ水師ノ鎭所トシテ樞要ノ地帶ナリシカ故ニ船艦用材ノ備林ハ遠ク高麗ノ時代ヨリ著目セラレ天冠山、莞島、邊山等ノ如キ古來天下ノ材府ト稱セラレシモ近來殆ト荒廢ニ歸シ古人經營ノ跡全然湮滅ニ歸セムトス

(以下次號)

○治水ト治山

（忠清北道清州ニ於ケル齋藤山林課長講演）

諸君ハ彼ノ強盜ナル者ヲ恐ロシク思ヒマセヌカ強盜ハ刀ヤ鐵砲ヲ持ッテ家ノ内ニ押入リ人ヲ強迫シテ財產ヤ金ヲ奪ヒ或ハ人ヲ殺スコトサヘアリマス恐ラク何人ト雖強盜ヲ恐レヌ者ハアリマスマイ然ルニ此ノ朝鮮ニハ恐ロシイ強盜カ澤山ニ居ル特ニ此ノ清州附近ニハ多イヤウテアル強盜トハ何テアルカ洪水即チ大水ノ襲來カ是レテアリマス

諸君今年(明治四十四年)ノ大水害ハ能ク記臆シテ居ラルルテアリマセウ甘瓜、大豆、其ノ他ノ農作物ハ

勿論田畑宅地ニ至ルマテ澤山ニ流サレ若ハ砂ヤ石ヲ抛リ込マレテ多クノ荒蕪地ヲ生シ又殺サレタ人サヘアルト聞キマシタ何ント恐ロシイ強盜テハアリマスマイカ此ノ強盜ハ大抵夏ノ頃ニ毎年ノヤウニ來ル特ニ今カラ六年前ニハ大擧シテ押寄セ隨分慘酷ナコトヲシタト聞キマシタ今後ハ益頻繁ニ來リ益惡虐ヲ逞フスルコトト信シマス諸君ノ愛住スル此ノ清州ノ邑內モ遂ニハ河底ニ化シ無心川流域ノ各洞里カ擧ケテ荒蕪ニ歸スルカモ知レマセヌ是レ程恐ロシイ強盜カ他ニ在リマセウカ諸君ハ之ヲ如何ニスル積リテアリマスルカ

水害ノ源因ハ固ヨリ山ヲ荒ラシタ爲ニ外ナラヌ谷谷ノ雨水カ一時ニ流レ出ル土石カ崩壞シテ一時ニ押出ス川底ハ段段ニ高クナル山ハ年一年ニ荒レル今後ノ水害ハ既往ヨリモ激甚トナラネハナラヌ

今日ハ清州邑內ノ南門外ニ於テ諸君ノ誇リトスル彼ノ有名ナル石橋ヲ見マシタ實ニ立派ナモノテハアルカ今ハ土砂ニ埋メラレテ殆ト無用ノ長物トナツテ居ル卽チ四十年前ニハ二丈餘リモアツタトイフ橋ノ石柱カ今ハ僅ニ三四尺ヲ殘スニ過キマセヌ又五六十年前ニハ渴水ノ時テスラ四尺位ノ水深カアリ立派ナ川テ有ツタモノカ今ハ雨期ノ外殆ト流水ヲ見ナイト云フ有樣テアル卽チ昔ニ較フレハ川底カ一丈六七尺モ高クナツタノテアリマス清州邑內ノ近時著シク危險ニ迫ツタノハ當然ト謂ハネハナラヌ又六年前ノ洪水ノ時ハ其ノ水嵩ハ本年ノ水嵩ヨリモ多カツタニモ拘ラス清州以南水源地方ノ損害ハ却ツテ本年ニ比シテ著シク少カツタトイフコトテアル何ゼソウカト謂ヘハ第一今日ノ山ハ六年前ノ山ヨリモ一般ニ木カ少クナリ隨テ土砂ノ崩流カ多イ第二川底カ六年前ニ比スレハ著シク高クナリ川底ト兩岸ニ在ル田畑トノ高サカ稍平均ニ近ツイテ來タ故ニ六年前ニハ單ニ浸水ノミテアツタ處モ今年ハ盛ニ砂礫ニ押込マレテ居ル彼ノ邑內ノ南ニ在ル斜陽トイフ處ノ田

畑ノ如キハ其ノ適例テアツテ六年前ニハ單ニ浸水タケテアツタモノカ今年ハ澤山ナ土砂ニ埋メラレ荒蕪ニ歸シタ部分モ少クナイ

要スルニ山ノ木ヲ少クスルコトハ洪水トイフ恐ロシイ強盜ヲ多クスル所以テアル然ルニ薪炭ノ需用ハ年年激增スル山ノ木ヤ草ハ每年少クナル隨テ每年刈取ル所ノ面積トイフモノハ段段ニ廣クナラネハナラヌ然ルニ之ニ反シテ每年刈取ルヘキ面積ハ禿山ノ增加ト共ニ段段ニ狹クナツテ來ル故ニ今後ハ從前ヨリモ一層急激ニ山ノ草木カ減ツテ行ク筈テアル洪水ト云フ恐ロシイ強盜カ益其ノ暴威ヲ逞フスルトイフコトハ當然ノ結果ト謂ハネハナラヌ諸君ハ明年モ又明後年モ此ノ地ニ生キテ居ラルルノテアル又諸君ノ可愛子孫ハ永久此ノ地ニ住ムノテアル諸君ハ行末ヲ想ハレテ心配テハアリマセヌカ

又洪水トイフ強盜ハ山ヲ荒シ田畑宅地ヲ荒スハカリテナク旱魃ヲモ招イテ大ニ農業ヲ妨ケ大損害ヲ被ラシメルノテアル朝鮮ニ於ケル田畑ノ收穫ノ少イノハ其ノ主因カ旱魃ニ在ルト云フコトタカ其ノ旱魃ハ亦是レ洪水ノ結果ニ外ナラヌノテアル

私ハ一昨日鳥致院カラ清州ニ來ル途中人家ノ少イノニ驚イタカ今日無心川ノ流域ヲ跋涉シテ益人家ノ少イノニ驚キマシタ元來朝鮮ハ山ノ國テアル忠清北道亦同樣テアル故ニ平地トイフモノハ僅ニ山ノ間ニ流ルル川ノ兩邊ニ在ルニ過キナイト云フノカ一般ノ有樣テアル然ルニ山ヲ荒シタ結果ハ川幅カ廣クナリ田畑ハ其ノ最肥沃ナ部分ヲ川敷ニ奪ハレテ仕舞ツタ故ニ全面積七十三萬町歩ト云フ忠清北道ニ只十萬町歩シカ田畑カ無イ加フルニ此ノ僅ナ田畑モ天然肥料(林内ニ生スル落葉ノ腐土)ノ天然供給(降雨時ノ肥料成分流出)ヲ絕タレテ居ルカラ其ノ土地ハ意外ニ瘠セテ居ル卽チ内地ニ比スレハ半分若ハ三分一位ノ收穫シカナイコンナ有樣テ何ウシテ人口ノ增殖繁榮カ望マレマセ

ウカ然ルニ此ノ少ナイ田畑スラ其ノ最上等ノ部分ヲ毎年毎年強盜ニ取ラレテ仕舞フノテアル卽チ比較的肥沃ナル沿岸ノ田畑ハ毎年毎年荒蕪ニ歸セネハナラヌ實ニ寒心ノ至リテハアリマスマイカ

然ルニ此ノ如キ朝鮮モ昔ハ立派ナ樂園テアツタ忠清北道モ同樣テアツタニ相違ナイ諸君ハ此ノ難病ニ罹リツツアル土地ヲ立派ナ健康體ニ同復シ今ヨリモ立派ナ家ニ住ミ暖カイ衣物ヲ著甘味イ物ヲ食ヘ金持ニナルコトヲ望マヌテセウカ私ハ今カラ皆樣ニ其ノ祕傳ヲ話シタイト思ヒマス

歐羅巴ニ丁抹トイフ小サナ國ガアリマス此ノ國ハ忠清北道ノ五倍位シナカイ小國テアリマスカ今日テハ一人當ノ財産カ世界第一ト云ハルル程ノ富有ナ國テアリマス然ルニ今ヨリ四十年程前ニハ恰モ此ノ忠清北道ノヤウニ山ハ禿ケ田畑ハ瘠セ非常ニ哀レナ國テアリマシタカ其ノ時「ダルガス」トイフ一人ノ工兵士官カ如何ニモシテ此國ノ窮狀ヲ救ハント思立チ而シテ之ヲ救フ方法トシテハ山兀ニ木ヲ育テルコトカ一番捷徑ダト云フコトニ心付キ熱心ニ樹ヲ植ユルコトヲ勸誘シマシタ處カ其ノ當時ノ考テハ政府モ人民モ此ノ熱心ナ「ダルガス」ヲ馬鹿ニシテアノ兀山ニ木ヲ植エタトテ此ノ貧乏ナ國カ何ウシテ金持ニナルモノカト冷笑シテ居リマシタ然ルニ「ダルガス」ハ自分ノ生キテ居ル間ニ必ラス此ノ國ヲ救ハネハナラヌト決心ヲ固メ非常ナ骨折ヲシテ自分親ラ植樹ニ著手シタノテアリマシタカ悲イコトニハ工兵士官テアツテ林業ノ知識經驗トイフモノカ更ニ無カツタタメニ幾度カ失敗ノ苦ミヲ嘗メマシタ然シ熱心トイフモノハ恐ロシイモノテ遂ニ適當ナル造林ノ方法ヲ案出シテ著著植林ヲ進メ政府モ人民モ之ニ動カサレテ段段植林ノ氣運カ高マリ爾來四十年間ニ其ノ國ノ山ノ約十分ノ一ニ植エ終リマシタ處カ此ノ間ニ其ノ外ノ山山ニモ自然ニ小サナ木カ生ヘ茂リ今テハ到ル處青山トナツタノテアリマス

偖テ斯ク成功シタ結果ハト云ヘハ四十年前ニハ歐羅巴ノ地獄トサヘ謂ハレマシタ丁抹カ今テハ歐羅巴ノ天國トモ謂ハレルヤウニナッタノテアリマス

第一氣候ノ調和　　四十年前ニハ恰モ此ノ朝鮮ノヤウニ夏ハ熱帶地方ノ如ク暑ク冬ハ寒帶地方ノ如ク寒イノミナラス秋霜ハ早ク來リ春霜ハ晩クマテアッタ爲ニ農作物ノ如キモ僅ナツマラス種類ノモノシカ出來ナカッタサウテアルカ今日テハ非常ニ穩和ナ良イ氣候ニナッテ丸テ別ナ國ノヤウニ思ハレルサウテアリマス夫レハ如何ナル原因カト申シマスト兀山ト云フモノハ夏ハ燒ケテ暖爐ヲ据エタヤウニナリ冬ハ冷エ切ッテホントウノ氷山ヲ築イタコトニナルモノテアリマスカ之ニ反シテ山ニ立派ナ森林カ出來ルト云フト夏ハ涼風ヲ送ル扇風器トナリ冬ハ寒風ヲ軟クル暖爐トナルカラテアリマス

第二洪水ト旱魃トノ除去　　又四十年前ノ丁抹ハ常ニ洪水ト旱魃トニ苦メラレシニ山ノ青クナルニ隨ヒ川ハ自ラ土砂ヲ押流シテ深クナリ雨期ノ增水量ハ著シク減少シ且土砂ノ崩流カ少イ爲ニ水災ハ非常ニ少クナリ又水原カ涵養サレテ常ニ滾々トシテ盡クルコトカナイカラ多年ノ痼疾テアッタ旱魃ノ害モ殆トナイヤウニナッタサウテアリマス

第三農業地ノ增加ト地力ノ著シキ增進　　洪水ト流砂ノ減シタ結果ハ川敷カ一定ニナッタハカリテナク其ノ幅ハ自然ニ狹マリ兩岸ノ荒蕪地ハ次第ニ肥エテ良イ田畑トナッタ又旱魃テ困ッタ土地モ用水ノ潤澤ニナッタ爲ニ漸次農耕地トシテ拓ケルヤウニナリマシタ特ニ昔ハ瘠薄テ何ノ用ヲモ爲サナカッタ下等ノ原野マテカ鬱蒼タル山林ニ蓄積サレタ天然ノ肥料分ヲ降雨ノ度毎ニ流シ込ムノテ段々肥沃ナ良イ土地トナリ是亦多ク開墾サレルコトニナリマシタ

第四畜牛ノ改良ト增殖　　四十年前ノ丁抹牛ハ恰モ此ノ地方ノ牛ノヤウニ良イ草ヲ充分ニ食ハレ

ヌタメニ體格モ惡ク乳量モ少ク且其ノ數モ少カッタカ今日テハ滋養ニ富メル良イ牧草カ到ル處ニ澤山ニアルカラ牛ノ體格モ改良サレ乳量モ增シ又其ノ數ニ於テモ非常ニ繁殖シ丁抹ノ「バタ」「コンデンスミルク」ハ同國ノ重要物產ノ一トナリマシタ

第五市邑ノ興起ト地價ノ昂騰　以上ノ如ク氣候ノ調和カ出來洪水ト旱魃トハ除去サレ農業地ハ大增加ヲ爲シタ上ニ地力ノ著シキ增進ヲ來シ又四十年前ニハ哀ナ狀態ニ在リシ畜牛マテモ大ニ改良サレ大ニ增殖スルニ至ッタカラ工業モ商業モ漸次盛ニナリ人口ハ著シク增殖シ之カ爲ニ嘗テハ廢リシ市邑モ再興スルヤウニナリ又新ニ幾多ノ町村モ設ケラレ地價ハ年年ニ騰貴シテ耕地ノ中テモ四十年前ニ比フレハ凡百五十倍ニナッタ處モ有ルサウテアリマス

第六國民精神上ノ一變　更ニ驚クヘキ一ノ事實ハ國民精神上ニ偉大ノ好影響ヲ及ホシタコトテアリマス卽チ山ノ青クナルニ隨ヒ嘗テ怠惰テアッタ人民カ大ニ勤勉トナリ嘗テハ目前ノ小利ニ汲汲タリシ人民カ貯蓄ノ精神モ出來五十年百年トイフ長期ノ事業ニ著目スルヤウニナリマシタ又四十年前ニハ至ッテ美術心ニ乏シカッタ人民カ山川ノ整ヒ風致ノ增加シタニ伴フテ著シク美術心カ加ハリ工藝モ盛ニナッタノテアリマス又昔ハ自分ノ持山ヲ荒廢セシメ他人ヲ洪水ヤ旱魃テ苦メテモ平氣テアッタモノカ今日テハ大ニ公德心カ進テ來テ他人又ハ社會公衆ノ利益ノ爲ニ爭フテ努力スルヤウニナッタサウテアリマス

以上ハ效果ノ大要ニ過キマセヌカ要スルニ愚者トシテ笑ハレタル「ダルガス」ノ豫言ハ著著事實トシテ豫期以上ニ成功シタノテアリマス恰モ朝鮮以上ニ貧乏テアッタ丁抹國カ唯一士官ノ熱誠テ美事ニ之ヲ救ヒ得タノテアリマス然ルニ此ノ忠淸北道ニハ上ハ　天皇陛下ノ難有イ思召ヲ奉戴セル寺內總督ノ善政カ布カレ下ニハ老練ニシテ熱心ナル鈴木長官ヲ始メ僉參與官、閔道參事其ノ他ノ諸君カ

「ダルガス」以上ノ熱誠ヲ以テ林野ノ整理、殖林ノ奨勵ニ努メテ居ラレル之ニ加フルニ四十年前ノ丁抹トハ違ヒ最進歩セル林學上ノ應用ニヨリテ最容易ニ最確實ニ成功シ得ル方法ヲ案出シテ盛ニ奨勵サレテ居ル故ニ諸君ハ丁抹ノヤウニ四十年ノ長年月ヲ經ナクトモモツト早クモツト容易ニ強盜ノ退治ヲ爲シ得ルト思ヒマス何ウカ諸君ハ諸君自分ノ爲ニ又諸君ノ子孫ノ爲ニ立派ニ此ノ地方ヲ改良シテ丁抹以上ノ樂園ニ成サレンコトヲ希望シマス

昨日以來當地ニ參リマシテ清州邑内ノ市區改正カ著々實行サレテ居ルノヲ見長官以下ノ御盡力ト民間有志ノ義俠心トニ因ルコトト太ク感服シタノテアリマス此ノ美擧ヲ完了スルニ至ッタ官民諸君ノ熱心ハ又必ラス荒廢山野ノ整理ヲモ立派ニ完了シ得ラルルト信スルノテアリマス邑内ノ幅廣キ眞直ナ道路ハ如何ニモ立派テアル然シ諸君、諸君カ若モ無心川ノ愛護ヲ怠リ無心川ノ前途ニ相當ノ努力ヲ爲サヌナラハ折角此ノ地ノ市區カ改正サレ邑内ノ道路カ立派ニ出來上ッタ頃ニ邑内全部ハ一朝ノ暴風雨ノ爲ニ忽焉川底ニ葬ラレルカモ知レヌノテアル現ニ今夏ノ洪水ニ怖レテ他ニ逃ケ出セシ邑内人モ少クナイト聞キマシタ諸君ハ邑内ノ市區ヲ改正シ簡易水道ヲ設ケラレ夫レテ安心シテ居ラレマスルカ今ヤ清州ノ全部ヲ奪ハントスル恐ルヘキ大強盜カ何時襲來スルカモ知レヌトイフ危險千萬ナ現狀テアリマス清州ヲ愛スル諸君ハ此ノ際邑内ノ改良施設ニ幾倍スル熱心ト勇氣トヲ以テ此ノ恐ルヘキ大強盜ノ根絶防止ニ努力サルル必要カアリマスマイカ無心川ハ其ノ名ノ如ク心ノ無イ川テハアリマセン可愛カレハ善キ川トナリ虐待スレハ益狂亂シテ清州邑内ヲ擧ケテ河原ニスルカモ知レヌノテアリマス何ウカ此處ニ居ラルル諸君ハ邑内ノ施設改良ニ努メラルル其ノ御熱心ヲ以テ更ニ進テ無心川ノ流域改良ノ爲ニ大ニ殖林ニ勉メラレ土砂ヲ扞止シ水源ヲ涵養シテ以テ此ノ地方ヲシテ眞ニ樂シキ天國トセラレンコトヲ望ムノテアリマス

借テ森林令ハ本年ノ九月一日カラ施行サルルコトニナリマシタ之ハ裸山ヲ早ク青クシ且一日モ早ク諸君ヲ幸福ニセンカ爲ニ設ケラレタ規則テアリマス之カ實行ニ依リテハ第一山ノ所有者ヲ定メネハナリマセヌ是迄ハ國有ノ山カ民有ノ山カ更ニ區別カ付カナカツタノテアルカ是カラハ一一實地ニ就イテ調査ヲシテ公ノ確實ナ證據ノアル山ハ其ノ人ノ所有トナシ其ノ他十年前カラ禁養シタ事實ノアル森林又ハ四年前ニ苗木ヲ植エ又ハ種子ヲ蒔キ付ケタ處ノ森林ハ夫夫ノ手續ヲ經テ悉ク其ノ人ノ所有ニ歸セシムルノテアル若又禁養シタ木カ十年以內テアルカ種子ヲ蒔キ又ハ木ヲ植エ造林シタ林カ四年以內ノ時ニハ暫ク之ヲ國有ニナシ置キ其ノ者ニ無料貸付ヲナシ事業成功ノ上テ其ノ土地ヲモ讓與スル定メテアル卽チ是カラハ木ヲ植エ又ハ天然稚樹ヲ保護シテ林ヲ育テタナラハ其ノ山ハ自分ノ所有ニナルカ之ヲ荒廢ノ儘ニ置イテハ所有ニナラヌノテアリマス

要スルニ山ニ木ヲ育テスシテ荒シテ置クノハ丁度洪水ヤ旱魃ヲ製造スルト等シイノテアリマス卽チ强盜ヲ養成スルト同シコトテアリマス故ニ政府ハ多クノ人民ヲ保護スル爲ニソンナ心得違ノ者ヲ其ノ儘ニ置クコトハ出來マセンカラ確ナ公ノ證據カ有ツテ私有ノ山ト認メタ場合テモ若シモ荒廢ノ儘ニ置ク人カアルナラハ政府ハ造林ヲ命シ又ハ何年以上タタナケレハ伐ラレヌトイフヤウナ營林ノ方法ヲ指定スルノテアリマス其ノ代リニ荒廢シテ居ル裸山ニ殖林ヲシヨウトスル者ハ强盜退治ノ善人テアリマスカラ特ニ借地料ヲ免スルハカリテナク後ニハ土地ヲモ讓與シテ山持ニシテヤルノテアリマス尙此ノ上ニ道廳テハ早ク生長スル善良ナ苗木ヲ作リ之ヲ造林スル人ニ無償テ下付スルノテアリマス

諸君ハコウイフ話ヲ聞カレ或ハ餘リニ甘味過キルヤウタ何ウモ疑ハシイト思ハレル方カアルカモ知レナイ然シ丁抹ヲ救フ方法ハ確ニ殖林スルコトテアリマシタ朝鮮ヲ救フニ付テ亦殖林ノ大切ナ

コトハ同樣テアル故ニ政府ハ特別ニ殖林者ニコウイフ有リ難イ特典ヲ與ヘルノテアリマス、長官、參與官其ノ他各位ノ面前ニ於テ其ノ決シテ間違テナイコトヲ斷言シテ置キマス何ウカ諸君ハ信シテ悅ンテ實行サルルコトヲ希望スルノテアリマス

諸君ハ又コウ考ヘラルルカモ知レナイ殖林サヘスレハ土地マテ貰ヘルトハ甘味イコトテアル然シ是迄一年置キ二年置キ又ハ稀ニ三四年置位ニ木ヲ伐ツテ溫突ニ焚イテ居タモノカ十年間モ伐ラスニ置クトスレハ溫突ニ焚ク燃料ハ其ノ間何ウナルテアラウカト又アノ廣イ山山ニ何ウシテ一面ニ木ヲ植エルコトカ出來ヨウカト此ノ二點ニ付テ心配スル人モアリマセウ故ニ私ハ是カラ實行ノ方法ニ付テ大要ヲ御話シヤウト思ヒマス

第一　無心川及其ノ枝川ノ沿岸荒地ニポプラヲ植エルコト

無心川ヲ始メ多クノ枝川テアル谷谷ハ每年洪水カ汎濫シテ流域モ色色ト變リ田畑ヲ荒スコト非常テアルカ今日ノ處テハ到底堤坊ヲ設クルコトハ出來ヌ又强テ設ケテモ效力カナイ故ニ堤坊ヲ造ル代リニ兩岸ニポプラ林ヲ造ルノテアリマス元來ポプラトイフ樹ハ砂礫ハカリノ川原ニ植エテモ良ク生長スル頑强ナモノテ非常ナ瘠地テナイ限リハ枝ヲ六七寸ニ切ツテ插シテモ立派ニ活著スル眞ニ都合ノヨイ殖林樹木テアリマス

ポプラハ此ノ道廳構內ニモ植エテアリマスカ四五年モ經テハ根元ノ直徑カ三四寸カラ五六寸ニナリ高サハ二丈カラ三丈位ニナリマス又十年位經テハ直徑八九寸ニナリ高サ九間以上ニモナリマス故ニ之ヲ伐リ之ヲ制ツテ薪ニスレハ一本テ五擔軍（チゲ）モ六擔軍ニモナリマス又ポプラハ生長ノ早イモノテアルカラ三尺置位ニ植エテ置ケハ三年目ノ秋ニハ間伐ヲシテ薪ニスルコトカ出來マス例ヘハ一町步ニ凡ソ一萬本ヲ植エルモノトシ其ノ內千本枯レテ九千本著イタトスレハ三年目ノ秋ハ四千本ヲ間伐シテ凡ソ四千貫ノ燃料ヲ得ラレマス假ニ一戶一箇年二千貫ヲ焚クモノトスレハ恰モ二戶

分ノ燃料カ出來ルノテアリマス次ニ五年目ニ二千本ヲ伐ルトキハ一萬二千貫卽チ六戸分ノ燃料カ出來次ニ七年目ニ千本ヲ伐レハ一萬六千貫卽チ八戸分ノ燃料カ出來次ニ九年目二七百本ヲ伐レハ二萬四千貫卽チ十二戸分ノ燃料カ出來次ニ十一年目ニ七百本ヲ伐レハ四萬貫卽チ二十戸分ノ燃料カ出來次ニ最後ノ十三年目ニ殘木六百本ヲ伐レハ四萬六千貫卽チ二十三戸分ノ燃料カ出來ルノテアリマス之ヲ合計シマスト十四萬二千貫卽チ七十一戸分ノ燃料ヲ得ラルルノテアル若又假ニ毎年一町歩ニ一萬本宛十三年間繼續シテ植エルトスレハ三年目カラハ二戸分ツツ五年目カラハ八戸分ツツ七年目カラハ十六戸分ツツ九年目カラハ二十八戸分ツツ十一年目カラハ四十八戸分ツツ而シテ十三年目カラハ永久七十一戸分卽チ十四萬二千貫ツツノ燃料カ採レルノテアリマス僅ニ十三町歩ノ沿岸荒蕪地カラ毎年十四萬二千貫、一貫目ニ付三錢トスルモ四千二百六十圓トイフ澤山ナ燃料カ取レルトハ實ニ結構ナコトテハアリマスマイカ

然シ諸君ハ年年一萬本宛ノ苗木ヲ植エルコトハ容易テナイト言フテアラウケレトモ之ヲ實行スルコトハ決シテ困難テハナイ卽チ明春各里、洞ニ於テ百本宛ノ苗木ヲ植エルコトハ容易テアリマセウ幹ヲ切ツテ插穗ニ用キ根株ノミ植付ケルナラハ其ノ切株カラハ平均五本ノ萌芽カ伸長シ翌春其ノ内ノ四本ツツヲ刈取ツテ挿穗ニスレハ一株カラ平均二十本、百株カラハ二千本ノ插穗ヲ得ラレル故ニ之ヲ直ニ沿岸地ニ三尺置位ニ插込ミ其ノ翌春又此ノ如クニシテ不用ノ枝條ヲ刈取テ插スナラハ各里洞ニ於テ毎年何萬何十萬本ト云フ插穗ヲスルコトカ容易ニ出來ルノテアリマス卽チ苗圃ナト置カナクトモ河川ノ沿岸地ナレハ直ニ六七寸ニ切ツタ穗ヲ插込メハ良イノテアリマス若モ各里洞ニ於テ此ノ如ク實行スルナラハ五七年ヲ俟タスシテ嶮岨ナ山ニ登リ骨折ツテ燃料ヲ集ムルノ必要カ無クナリ隨テ山野ノ多クハ植樹セス保護セスシテ松ヤ雜木カ天然ニ生長シ勞セスシテ殖林ノ實ヲ擧

ケ得ルノテアリマス何ント結構ナ方法テハアリマスマイカ

河川沿岸地ニポプラノ殖林ヲスルコトハ以上述フル如ク燃料ノ供給上ニ大利益アル許リテナク尚前途澤山ナ效用ヲ生スルノテアリマス即チ

(イ)ポプラ材ノ前途ヲ考フルナラハ建築材、橋梁材及電柱ニマテモ使用サレルト思フノテアリマス從來此等ノ用材ハ主トシテ松材テアリマシタカ松材ハ御承知ノ通リ段段ニ伐採サレマシテ急速ニ減少シテ行ク故ニ今日テスラ長サ二間、末口三寸ニ過キヌ松丸太カ三十五錢カラ四十錢トイフ高價テアリマス而シテ今後ヲ考フルナラハ材料ハ一層缺乏ヲ告ケ價格ハ一層高價トナルコト明瞭テアルカラ將來ハ此ノ廉價ナルポプラ材カ從來ノ松材ニ代リテ建築ヤ橋梁、電柱ナトニ用ヒラルルヤウニナルコトト思ヒマス昨日鈴木長官ノ御話ニヨレハ槐山ヨリ清安ニ至ル間ニ電信ヲ架スルコトニナツテ居ルカ其ノ附近ニ於テ電柱トナルヘキ樹木カナク非常ニ困ツテ居ルトノコトテアル今日以後ハ保存期限ノ長短ナト考ヘテ居ラレナイ又朝鮮ハ空氣カ常ニ乾燥シテ居ル爲ニ内地ニ比スレハ保存期カ著シク長イ又橋梁ノ如キハ殆ト每年ノヤウニ流サレルノカ多イ故ニ耐久力ノ弱イポプラ材ニシタ處テ充分各種ノ用材ニ使ヒ得ルト思フノテアリマス又桑ノ增殖カ目的ヲ達シタ以上ハ必ス各洞里ニ於テ蠶室新築ノ必要カ起ルト思フ此ノ建築材料トシテハ六七年以上ノ間伐材ナレハ充分ニ供用シ得ラレル又今日ニ於テモ蠶架材料トシテ竹カ得難イカラ四五年生ノ間伐材ハ恰モ之ニ適當スルト思フノテアリマス

(ロ)次ニハ經木ノ原料材トシテ盛ニ使ハレルヤウニナルト思ヒマス夫レハ朝鮮人ノ帽子ヲ造ル爲テアツテ今後ハ各農家ノ副業トシテ必ス有利ナ事業ニナルコトト信シマス朝鮮男子ノ斷髮ハ今後必ス普及スルニ相違ナイ然ルニ朝鮮ノ男子ハ一般ニ古來カラ帽子ヲ被ル習慣ニナツテ居ル故ニ斷髮

後ト雖必ス帽子ヲ用ウルニ相違ナイ而シテ其ノ帽子ハ從來ノモノデハ困ル卽チポプラ材テ造ツタ經木製ノ帽子カ一番適當テアルト考ヘル色ハ好ニ隨テ何ンナニテモ染メ得ル形モ自由テアル又輕クテ使ヒ良イ而シテ代價ハトイヘハ一箇二三十錢位テ出來ル今日ノ帽子ノ凡ソ十分ノ一ニ過キヌ故ニ此ノ地方ニ早クポプラノ林ヲ仕立テ早ク此ノ帽子ヲ造リ出シタナラハ必ス此ノ地方ノ一大產業トナルヲ信スル

(ハ)次ニハ燐寸ノ軸木トシテ盛ニ使ハレルヤウニナルト思フ今日諸君ノ使ツテ居ル燐寸ハ皆內地カラ來ル何時マテモコンナコトテハ不經濟ナ限リテアル朝鮮ハ勞力カ豐富テ且廉イ軸木ノ原料サヘ出來レハ燐寸業ハ必ス勃興スルニ相違ナイ而シテ原料トシテ最良ナモノハポプラテアル早ク之ヲ增殖シテ他日ノ大產業ノ準備トスルコトカ必要テアルト考ヘル況ヤ燐寸ハ淸國、印度モ大需用地テアツテ未タ燐寸ヲ使用セサル人民カ三億以上モアルトノコトテアル何程準備シテモ販賣ニ困ルヤウナ心配ハ毛頭ナイ

(ニ)次ニハ人造絹絲、紙類等各種ノ化學工業原料トシテ大ニ需用サレル時期カ來ルト思フ人造絹絲ハ科學ノ進步ニ隨ヒ年年其ノ品質ヲ改良スルハカリテナク其ノ價格モ年一年ニ廉クナルカラ其ノ需用ノ增加ハ著シイモノテ今日テハ「リボン」「ネクタイ」各種ノ紐類、帽子ノ鉢卷、肩掛又ハ窓掛等ニ盛ニ供用サレ一箇年ノ產額ハ無慮百三十三萬貫目ノ多キニ達シ非常ナテヲ發展シツツアリマス現ニ內地テモ三菱ノ手ニヨリテ日本セルロイド人造絹絲會社ナルモノカ設立セラレマシタ而シテ此ノ原料トシテ最モ多量ニ用キラルルモノハ植物質ノ纖維テアリマシテ特ニポプラ材ノ纖維ハ最廉價ニシテ多量ニ生產カ出來且其ノ品質モ優良テアルカラ將來此ノ原料トシテ最有望ナモノテアラウト考ヘル又紙ノ需用モ文明ノ進步ニ伴ツテ非常ナ增加ヲスルモノテ將來十五年二十年ノ後ヲ想フナラ

ハ東洋ニ於ケル需用高ハカリテモ非常ナ巨額ニ達スヘキハ必然テアル而シテ之カ原料トシテ亦此ノポプラ材ハ廉價ニシテ且優良ナルコトカ明テアルカラ將來此ノ種ノ需用モ大ニ發展スルコトト思ハレル

要スルニ河川沿岸ニ盛ニポプラヲ植付ケルナラハ燃料ノ供給上大效アリ隨テ多クノ荒廢山ヲ青クシテ之カ讓與ヲ受ケ得ルニ至ル許リテナク更ニ將來ハ建築、橋梁、電柱等ニモ用立チ尙進テハ帽子、燐寸、人造絹絲、紙類等各種ノ工業原料トシテモ大ニ需用サルル時期ノ來ルノハ必然テアルカラ啻ニ一擧兩得ノ策位ノモノテハナイ況ヤ沿岸地ニ於ケルポプラノ殖林事業ハ更ニ其ノ上ニ洪水ヲ減少シ水害ヲ防止スルトイフ廣大ナル效能カアルノテアルカラ單ニ此ノ間接ノ利益タケヲ考フルモ尙且大ニ殖林ノ必要カアルト考ヘル是ヨリ治水上ノ效能ニ付簡單ニ御話シタイト存シマス

本流タル無心川ハ勿論ノコト其ノ枝流タル幾十幾百ノ溪川ニシタ處テ何レモ洪水ノ度每ニ亂流シ年年ニ川床カ廣カリ又川瀨ノ變ル處モ多イ即チ昨年二三間幅ニ過キナカツタ小川モ今年ハ二十間三十間トイフ廣大ナ河原ニナツタ處モアル又是迄ハ谷間ノ右ノ方ヲ流レテ居タ川カ今年ノ洪水テ左ノ方ヲ流レルヤウニナリ隨テ谷間ノ大部分カ良田變シテ砂礫原トナツタ處モ少クナイ故ニ若モ此ノ儘ニ置イタナラハ今後ハ益沿川地ヲ荒ラスハ當然テアルカ若モ前ニ述ヘタヤウニ各河川ノ川筋ヲ考ヘテ適當ノ川敷タケヲ殘シ其ノ兩側ニポプラ林ヲ造ルナラハ其ノ森林ハ自然ニ堤防ノ用ヲ勤メテ亂流ヲ防止スルハカリテナク林內ハ流水ノ速力カ遲緩テアルカラ追追ニ肥土ヲ沈澱堆積スルコトトナリ隨テ本瀨ハ川筋ヲ通ツテ其ノ堆砂ヲ押シ流スルニヨリ川底ハ段段ニ掘レテ深クナル筈テアリマス即チ從來亂流シタ川モ段段ニ行儀ノヨイ川トナリ自ラ治水ノ實カ擧ルノテアリマス

若又川ノ沿岸カ斷崖ニナツテ居リ洪水ノ時ニ崩壞流失スルヤウナ場合ニハ其ノ崖上ニポプラ林カ

アルトスレハ危險ノ時ニ其ノポプラヲ地上二尺位ノ處カラ伐倒シ其ノ頭ニ石又ハ砂嚢ヲ結ヒ付ケ根元ヲ鐵線ニテ縛リ之ヲ根株ニククリ付ケ崖ニ沿フテ水中ニ沈マシメ此ノ如ク段段ニ列ヲ爲スヤウニ沈メタナラハ其ノ枝葉ハ能ク水ノ衝突力ヲ殺イテ崖ノ崩壞ヲ止メルコトニナリマス實ニ崖崩レヲ止メル方法トシテハ之ニ優ル方法ハ無イノデアリマス若川底ノ淺イ曲リ目ノヤウナ處テハ往往洪水カ非常ナ勢テ眞直ニ貫流シヤウトスル場合モアリマス此ノ場合ポプラ林其ノ儘テハ樹數カ少イトカ云フ理由テ之ヲ防止スルニ足リナイ時ニハ前列ノポプラヲ浸水ノ狀況ニヨリ水面上三四尺ノ高サカラ伐リ離サヌヤウニ下流ニ向ツテ外方ニ伐倒シ漸次其ノヤウニシテ進ムノヲアリマス然ルトキハ恰モポプラノ枝葉ヲ以テ一種巧妙ナル水防設備カ出來ルノテアル元來水トイフモノハ堅イモノニ衝キ當ツテハ暴ガヲ逞フスルモポプラノ枝葉ノ如キフワワラシタ柔カナモノニ受ケラレテハ之ニタマサレテ自然ニ方向ヲ轉シ穩ヤカニ水勢ヲ川筋ニ向ケテ暴行ヲ罷メルモノデアリマス卽チ立木其ノ儘テハ危險テアルト云フ場合ニハコウ云フ方法テ水防ヲナシ以テ暴水ノ慘害ヲ免レ得ルノテアリマス

諸君洪水トイフ强盜ハ何時來ルカ分カラヌノテアリマス早ク工夫シテ巧ニ之ヲ防止スルトイフコトハ今日ノ急務テハアリマスマイカ現ニ此ノ無心川ノ上流ニ於テ沿岸ノ一部ニ柳ヲ植エテ有ルノヲ見マシタ固ヨリ疎立シタモノテアルカラ效力ハポプラ林ニハ遠ク及ヒマセンカ夫レニシテモ此ノ柳ノ在ル處ニハ水害カ著シク少カツタノテアリマス此ノ淸州ノ如キモ今後ノ水災ヲ免レルタメニ邑內ノ西ニ出來タ新川ヲ本流ニシ此ノ淸州ニ向テ眞直ニ流レテ居タ以前ノ本川ハ適當ナル計畫ノ下ニポプラ林ヲ造ツテ漸次之ヲ林地又ハ耕地ニスル方カ良カラウト思フ卽チ其ノ手段トシテハ斜陽ノ下カラ灣形ニポプラ林ヲ仕立テ洪水時ノ本流ヲ漸次新川ノ方ニ向ハスカ良カラウト思フ

第二　屋敷廻リニポプラヲ植エルコト

民家ノ多クハ無益ナ土塀ヲ以テ圍ヒ或ハ松ヤ雜木ノ枝カ黍幹ナトヲ以テ粗雜ナ籬ヲ廻ラシテ居ルカ之ハ至急ニ改良ヲ要スルモノト思フ卽チ此等ノ圍籬ヲ取除キ其ノ代リニポプラヲ一尺置位ニ二三列モ列ヘ植エルナラハ良好ナル圍籬トナルハカリテナク毎年枝梢ヲ刈取ルコトニ依リテ少カラサル燃料ヲ收獲シ得ルト思フ現ニ今日ハ永雲里ニ於テ李東信ナル者カ之ヲ實行シテ居ルノヲ見テ其ノ卓見ニ感心シタ次第テアリマス

第三　田畑ノ廣イ畦畔ニポプラヲ植エルコト

内地ノヤウナ日照時間少ク且集約的農業ヲ行フ地方テサヘ田畑ノ廣イ畦畔ニハ多クハンノキヤトネリコナトヲ植付ケ毎年枝梢ヲ伐ツテハ燃料ニ供シ又其ノ幹ハ稻干杭ナトニ利用シテ居ル然ルニ朝鮮ハ農業粗放ニシテ且日照時間多キヲ以テ樹陰ノ害ハ内地ニ比シ甚少イ筈テアルニモ拘ハラス幅一間以上ノ廣イ畦畔テサヘ殆ト樹ヲ植エテナイノハ如何ニモ不思議ト思フノテアル

神戸商業會議所ノ審査報告ニモ有ツタヤウニ朝鮮米ノ第一ノ缺點ハ乾燥ノ不充分ナコトテアルソウタ故ニ此ノ點カラ考ヘテモ廣イ畦畔ニ九尺乃至二間置位ニポプラヲ植付ケ之ヲ高サ八九尺ノ高木仕立ニナシ毎年秋ノ頃ニ枝梢ヲ刈リ取ツテ燃料ニ供シ幹ハ之ヲ稻干ノ杭ニ代用シタナラハ是亦一擧兩得ノ良策テアルト考ヘルノテアル今日或洞里テハ畦畔ニ柳ヲ植エテ居ルノヲ見タカ柳ハ生長遲ク燃料採取ニ不適當テアルハカリテナク枝カ横ニ擴カリ庇蔭ノ害カ多ク又樹幹カ眞直テナイカラ稻干杭ニモ代用カ出來ス結局不利益ト思フ何ウカ一歩ヲ進メテ盛ニポプラヲ植エテ貰ヒタイモノテアル、

第四　道路ノ兩側ニポプラ又ハニセアカシヤヲ植エルコト

毎年各地ニ大道路ノ出來ルコトハ結構テアルカアノ廣イ道路ヲアノ儘ニ置クノハ勿體ナイト思フ又夏ノ暑イ時ニ少シノ蔭モナイト云フノハ隨分苦イコトト考ヘル故ニ其ノ兩側ニ一列又ハ二三列位ニポプラヲ植付ケ一面ニハ燃料ヲ採取シ一面ニハ夏ノ炎暑ヲ凌ク行道樹トシタナラハ是レ亦一擧兩得ノ妙策テアルト考ヘル夫夫方法ヲ立テテ各洞里ノ受持區域ヲ定メ各自ヲシテ經營セシメタナラハ容易ニ行ハレ得ルコトト信スル若又ポプラテハ人畜ノ害カ多クテ成功覺束ナイトイフ處テハ其ノ代リニニセアカシヤヲ植エルカ若ハポプラトニセアカシヤヲ代ル代ル混植シタナラ良カラウト思フニセアカシヤハ鋭刺ノアル樹テアルカラコンナ場所ニハ至極適當テアルト考ヘルニセアカシヤモ松ヤクヌギニ比フレハ數倍ノ生長ヲナシ且薪炭ヤ建築用材等トシテハポプラヨリモ上等テアルカラ是亦結構テアルト思フ

第五　墓地附近ニニセアカシヤヲ植エルコト

朝鮮テハ古來墓地トイフモノヲ尊重シ之カ威嚴ヲ保ツ爲ニ李王家ノ陵墓ハ勿論其ノ他兩班ノ墓ナトモ多ク樹木ヲ養護スルノ美風カアル此ノ美風ヲ一般ニ普及セシメンカ爲ニ各墓地ノ附近ニ數本又ハ數十本ツツノニセアカシヤヲ植エルコトニシタナラハ此ノ樹ハポプラトハ違ヒ墓地附近ノヤウナ瘠地テモ相當ニ生長スルモノテアリ且萠芽力ノ最強イモノテアルカラ一旦植エサヘスレハ殆ト永久的ニ若干ノ燃料ヲ得ラルルコトニナルノミナラスニセアカシヤ林ヲ造ルナラハ土地ハ段段ニ改良サレ又松其ノ他ノ天然生稚樹モ此ノニセアカシヤノ保護ニヨリテ生育スルカラ追追立派ナ風致林ニモナルコトト考ヘル卽チ是亦一擧兩得ノ妙案テハアルマイカ道長官モ此ノ邊ノコトニ付テハ御考案ノアルヤウニ聞キマシタカ速ニ一般ニ實行サルルコトヲ望ムモノテアリマス

諸君以上述ヘマシタ五ノ事業卽チ第一沿川地、第二屋敷廻リ、第三田畑ノ廣イ畦畔ニポプラヲ植エル

コト、第四道路ノ兩側ニポプラ又ハニセアカシヤヲ植エルコト、第五墓地附近ニニセアカシヤヲ植エルコト此ノ五ノ事業ハ之ヲ實行スルニ何等ノ困難ハ無イ多クノ勞費ヲ投セストモ隨分盛ニ行フコトカ出來ルノテアル而シテ單ニ第一ノ沿川地ニポプラヲ植エルタケテモ其ノ效用ノ大ナルコトハ前ニ述ヘタ通リテアル況シテ第二以下第五マテノ事業ハ盛ニ普ク實行スルコトニシタナラハ其燃料ノ供給力ハ驚クヘキ巨額ニ達シ隨テ山野ニ於ケル天然稚樹ノ禁養ハ期セスシテ大面積ニ亙リ得ルト信スルノテアリマス特ニ禁養ト申シテモ全ク木ヲ伐ルナ草ヲ刈ルナト云フノテハナイクヌギ、ナラノヤウナ雜木ハ一株ヨリ五本乃至十本位ノ萠芽カ出テ居ルモノテアル此等ハ内一本ヲ殘セハ他ハ刈取ツテ差支ナイノテアル又松山ニシタ處テ二タ股三ツ股ノモノカ澤山ニ有ル此等モ内一本ヲ殘シテ他ハ切ル方カ却テ良イノテアル又松トイフモノハ多クハ密生スルモノテアル一坪ニ三本モ五本モ生ヘタ處カ少クナイ斯ル處ハ坪一二本ヲ殘シ他ハ總テ刈取ツテ良イノテアル

斯ク考ヘテ見レハ今後ハ燃料ノ缺乏ニ苦ムコトナク却テ豐カニ燃料ヲ使ヒナカラ多クノ山ヲ靑クシ得ルノテアル單ニポプラヤニセアカシヤヲ河邊、屋敷廻リ、畦畔、路傍、墓地ナトニ植付ケルタケテ格別ナ苦勞ヲセスニ山ヲ靑クシ之ヲ自分ノ所有ト爲シ得ルノテアル加フルニ其ノ副産物トシテ洪水ヤ旱魃トイフ恐ルヘキ强盜ヲ退治スルコトカ出來又氣候ヤ田畑モ善クナリ各種ノ副業モ勃興スルコトカ必然テアルカラ恰モ彼ノ丁抹ノ如ク非常ニ幸福ナ非常ニ富裕ナ地方トナリ得ルコトカ確實テアルト信シマス幸ニ本道ニハ治水ト治山トニ御熱心ナル鈴木長官、兪參與官ヲ始メ彼ノ丁抹ヲ救ヒシダルガスニモ優レタ諸君カ官ニモ民ニモ澤山ニ居ラレルノテアル若モ諸君ニシテ協力一致事ニ從ハルルナラハ山ヲ治メ川ヲ治メテ模範郡タリ模範道タラシムルコトハ決シテ難クハ無カラウト信スルノテアル尙詳シキコトハ澁谷內務部長又ハ小野林業主任カラ御聞ニナリ來春早早盛ニ實

行セラレンコトヲ希望スルノテアリマス

○農作物ノ寒傷豫防

向坂勸業模範場技師調査

植物ノ生長スルニハ各種適當ノ溫度ヲ要シ同一ノ種類ハ大抵同樣ノ溫度ヲ好ミ繁茂ノ時期亦恰モ一定スルヲ常トス暖地ノ植物ヲ寒地ニ移シ寒地ノ作物ヲ暖地ニ植ウルトキハ發育爲ニ不良ニ陷リ花ヲ開クモ實ヲ結ハス實ヲ結フモ完全ニ成熟セス甚シキニ至リテハ全ク生活力ヲ失ヒ終ニ枯死スルニ至ルコトアリ是レ適當ノ溫度ヲ得サルニヨルモノニシテ農家ノ常ニ最注意スヘキコトナリトス

凡ソ植物ノ生活ハ或低度ノ溫度ニヨリテ始マリ夫レヨリ漸次上昇スルニ隨ヒ旺盛トナリ最適溫ニ達シテ最盛トナリ其ノ後ハ次第ニ衰弱シ最高溫ヲ超ユレハ休止シ後チ暖不隨ヲ起スモノニシテ其ノ最低溫以下ニ降リタルトキ亦同シク不隨ノ狀態ニ陷リ發作休止ス之レヲ寒不隨ト稱ス溫度更ニ異常ニ上昇又ハ下降スルトキハ植物ハ終ニ焦死又ハ凍死ノ結果ヲ來スヲ常トスコノ暖不隨又寒不隨ニ陷ルノ溫度ハ植物ノ特性ニヨリ各多少異ナルヲ致シ特ニ植物ニハ其ノ生活上最高及最低ノ兩極溫度アリテ之ヲ超ユルトキハ假令其ノ時間短キモ焦死又ハ凍死ヲ免レサルモノニシテ概シテ不隨ノ狀態ニアル期間久シカラサルトキハ大抵生活力ヲ回復スルモノナリト雖其ノ狀態長キニ亙ルトキハ終ニ枯死スルニ至ルモノナリ

藁萱等熱ノ不良導體ヲ以テ作物ヲ被覆スルトキハ外酷寒ヲ防キ內溫氣ヲ保チ能ク寒傷ヲ豫防スルノ效アルモノナリト雖三寒四溫ノ特象ヲ有スル朝鮮ニ於テハ時ニ反對ノ結果ヲ來シ植物ヲ保護セ

ムト欲シテ却テ之ヲ枯死ニ導キシ實例乏シカラス今其ノ要極ヲ掲ケム

曾テ三年生ノひば樹ニ藁覆ヒヲ施シタリ冬季中零下十度以下ノ温度ヲ受クルコト五十八回、最低零下十七度ノ酷寒ヲ凌キ翌年三月除覆ヲ行ヒシニ藁覆ヲ施サヽリシモノハ全部完全ニ越冬シ毫モ寒傷ノ徴アルヲ認メサリシモ其ノ之ヲ施セシモノハ萎凋枯死其ノ半ニ達シ成績甚不良ナリキ又同年水原林業事務所ニアリテ藁覆ヒヲ施サレタル一年生松苗ノ殆ト全部枯死シテ之ヲ施サヽリシモノ却テ完全ニ越冬シ爾來毎年同一ノ現象ヲ呈シ殊ニ明治四十四年一月ノ如キ零下二十度ニ下ルコト二回近年稀有ノ酷寒ヲ感セシ時ト雖松苗、ひば樹共ニ被覆ナクシテ無事ニ越冬セルヲ見タリ蓋シ被覆ハ三寒ノ時温度ノ最低極ヨリ植物ヲ保護スルノ效アリト雖四温ノ際其ノ高極ニ昇ルヲ妨ケ寒不隨ノ期間ヲ長カラシメタルニヨリ終ニ凍死ニ陷リタルモノナルカ如シ

明治四十三年二月九日ヨリ同二十八日マテ二十日間午前十時(當時九時三十分)ニ觀測シタル被覆下ノ温度ヲ無覆部ノ温度ト對照比較スル時ハ左ノ如シ但シ平均温度トス

無覆部	二度
三寸覆下	零下〇・九度
五寸覆下	零下一度
覆樹内	零下〇・四度

右ノ結果ニヨルトキハ午前十時ニ於ケル温度ハ覆下却テ寒冷ニシテ被覆下ノ作物ハ常ニ温抱セラルルニアラスシテ日出後ハ日温ノ直射ヲ受ケサルカ故ニ無覆ノ處ヨリモ却テ冷却セラルルモノナルヲ驗出セリ

次ニ三月一日ヨリ同五日迄五日間各時刻ニ於ケル温度ノ變化ヲ研究セリ

時刻	無覆	三寸覆下	五寸覆下
午前八時三十分	零下一・二度	零下一・〇度	零下一・三度
午前十時三十分	四・五度	〇・五度	零下〇・四度
午後〇時三十分	七・五度	一・二度	〇・五度
午後二時三十分	八・二度	一・〇度	〇・六度
午後四時三十分	六・七度	〇・五度	〇・四度

(備考)　時刻ハ三十分繰下ケ現今ノ標準時ニ直シタリ以下之ニ準ス

右表ニヨルトキハ日中ノ温度ハ無覆ノ處最高ク三寸覆下之ニ次キ五寸覆下最低ク最大較差七・六度ヲ示シ地表ニ藁覆ヒヲナスハ地面ノ吸熱ヲ妨クルコト頗ル大ナルヲ實驗セリ

更ニ又一日中温度ノ最低限ニ下降スル拂曉前後ニ於ケル温度ヲ觀測シタリ(三月上旬)

時刻	無	三寸覆下	五寸覆下
午前四時三十分	零下六・八度	零下二・六度	零下三・一度
午前六時三十分	零下七・〇度	零下二・五度	零下二・八度

右表ニヨレハ拂曉時ニ於ケル温度ハ無覆ノ處最低ク三寸覆下之ニ次キ五寸覆下ハ三寸覆下ニ比シ稍低キヲ致セリ

要スルニ被覆下ノ作物ハ拂曉時ニ於テ其ノ寒極ヲ避ケ最低極ヨリ保護セラルルノ益アリト雖日ノ出ルニ隨ヒ刻一刻反對ノ現象ヲ呈シ三寒四温ノ特象ヲ有スル朝鮮ニ於テ被覆ノ下日射ヲ妨ケ常ニ人造ノ曇天ヲ作リ日中暖カナル時刻ニ於テ覆下ヲシテ却テ寒冷ナラシメ松苗、ひば樹等被覆ヲ施セシモノノ枯死ヲ來セシハ被覆ノ爲長ク寒不隨ノ狀態ニ陷ラシメタル結果ニ外ナラサルヘシ

藁覆下氷結ノ厚サハ露地ニ比シ常ニ淺ク概ネ其ノ三分ノ一乃至五分ノ一ノ間ニ在リト雖其ノ解クルヤ常ニ遲レ露地ノ全部解氷セルニ拘ラス覆下ハ下層ニ一部ノ結氷ヲ殘シ殊ニ被覆ノ厚キモノ却

テ氷層厚キヲ實驗セリ

露地氷結ノ厚サハ地面ノ凸凹ニヨリテ大ニ異ナレリ明治四十三年三月二十六日温度急降午前六時ニ於テ氣溫零下七度ニ降リ地層ノ全部一旦解氷セシモノ再ヒ表土三寸ノ厚サニ結氷セリ當時圃場ニ於ケル結氷ノ厚サハ左ノ如シ

畦上(巾一尺二寸高五寸)	三寸二分
畦谷	一寸一分
平地	一寸六分

卽チ結氷ハ畦上最厚ク平地之ニ次キ畦谷最淺シ蓋シ畦上ハ凸形ヲナセルカ故ニ風當リ強ク受寒甚シキモ畦谷ハ寒風ノ接觸少ナク溫暖ナルニヨルモノニシテ朝鮮農家カ秋麥ヲ播種スルニ當リ犁耕ノ儘表土ヲ均ラサスシテ多ク畦底ニ播キ付クルハ一ハ勞ヲ省キ一ハ防寒ノ理ヲ解シタルニヨルナランカ

藁覆ハ如何ナル作物ニモ傷害ヲ加フルモノナルカ偶苧麻ニヨリ其ノ然ラサルヲ實驗セリ抑苧麻ハ寒氣ニ耐フル力弱ク一度溫度ノ低限ヲ受ケ組織凍結シタル場合ニハ其ノ後溫度上昇スルモ生氣ヲ恢復スル能ハスシテ其ノ儘腐敗スルモノナルカ故ニ可成土層ノ結氷ヲ淺カラシムルノ要アリ今明治四十三年度藁覆下ニ於ケル苧麻根越冬ノ狀況ヲ擧クレハ左ノ如シ

區名	被害ノ狀況
無覆區	地下氷層一尺二寸ニ達シ苧麻根ハ上部四五寸腐敗ス被害慘ナリ
五分覆區	地下氷層九寸ニ達シ苧麻根ハ上部二寸五六分腐敗ス被害重シ
一寸覆區	地下氷層六七寸ニ達シ苧麻根ハ上部一寸腐敗ス被害輕シ
二寸覆區	地下氷層四五寸ニ達シ苧麻根ハ無害ノモノ多ク稀ニ上部二三分腐敗セルニ過キス

(備考)
被覆ノ厚サハ春季鎭壓セラレタル時ノ測定ニシテ最初ハ其ノ三倍位ト見テ可ナラム

右表ニヨレハ藁覆ヒハ其ノ厚キモノ成績良好ニシテ被害常ニ輕キヲ示セリ是レ覆藁ノ厚キモノハ拂曉時ニ於テ氣溫ノ最低限ニ降リシトキ其ノ影響ヲ被ルコト少ナク地表ノ氷層淺ク常ニ作物ヲ其ノ低極ヨリ保護セシニヨリ苧麻ノ如キ耐寒力弱キモノニ對シ有效ノ結果ヲ奏セシニヨルナラン

凡ソ作物ハ種類ニヨリ耐寒力ヲ異ニスルカ故ニ被覆ノ利害ニ關シテハ常ニ其ノ作物ノ特性ニ注意スルヲ要ス大麥、草苺ノ如キ纖根ヲ有スルモノハ組織堅靱ニシテ凍傷輕ク藁覆ヒハ之レヲ行ハサルモ害ナキモノアリ今大麥ニ就キ調査シタル結果ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、十一月下旬ニ至リ枯草ヲ以テ地上一尺ノ厚サニ被覆ス

一、十一月下旬ニ至リ圃地ノ西北方ニ高サ三尺ノ藁圍ヒヲ設ケ更ニ枯草ヲ以テ一尺ノ厚サニ被覆ス

被覆ヲ施サヽリシ麥ハ十二月ニ入リ寒氣ノ加ハルニ随ヒ葉頭ヨリ漸次枯死シテ黄褐色ヲ呈シ下旬ニ至リ地上部ハ多ク變色枯死シ株ノ下部ニ於テ活力ヲ有スルノミナリシカ被覆下ノモノハ依然綠色ヲ存シテ一見無事ナルカ如キ觀アリ然レトモ是レ單ニ凍結ノ爲葉色素ヲ固定シタル結果ニシテ三月下旬ニ至リ除覆ヲ行ヒシニ墻壁ヲ設ケタルモノニ限リ墻側一二畦ノ間幸ニ寒傷輕カリシモ其ノ他ハ兩三日ノ後凍葉乾枯黑變シ次第ニ朽葉色トナリ他ノ被覆ヲ施サヽリシ處ト同一ノ狀態ニ化シ「ゴールデンメロン」ノ如キハ無覆區ト同樣八割以上ノ枯莖ヲ生シタリ蓋シ墻壁ニ沿ヒテ寒傷輕カリシハ防風ノ效アリシニヨルナラン

被覆ハ如何ナル物質ヲ以テスルモ總テ藁萱ヲ以テスルト同一ノ結果ニ陷ルモノナルカヲ研究セシニ寒風ノ透過セサル密質ノモノヲ以テスルトキハ凍害豫防ノ效大ナルヲ發見セリ即チ前年秋末ニ於テ藁ニテ薄ク被覆シ土壤ヲ鋤キ上ケ壓ヘトナシ風ノ吹キ散ラサヽル樣手當ヲナシ置キシニ土壤

ノ下ニ覆ハレ越冬セシ株ハ全部健全ニ越冬シ綠莖青青トシテ毫モ凍傷ノ徵アルヲ認メサリシモ單ニ葉ノミニヨリテ覆ハレタル株ハ莖葉全部枯朽シテ僅ニ根株ノ活力ヲ維持スルニ止マリ勢力甚タ衰ヘタルモノアルヲ實驗シ又籾殼ヲ以テ地上三寸ノ處ハ六分ノ氷層ヲ生スルヲ見タリ(氣溫零下七度ノ時)卽チ更ニ左ノ設計ニヨリ籾殼ノ厚サト地表氷結ノ關係ヲ調査シタリ

一、籾殼一寸覆區　二、籾殼三寸覆區

三、籾殼五寸覆區　四、籾殼七寸覆區

明治四十三年一月三十一日ハ最低零下二十度ニ降リ籾殼一寸覆區ハ地表ノ溫度零下二、五度ニ降リ結氷一寸ニ達シ露地ハ七寸ノ氷層ヲ生セシモ三寸區ハ零度、五寸區及七寸區ハ共ニ一度ノ氣溫ヲ保チ何レモ結氷ヲ見ルコトナク籾殼ノ熱ニ對スル感導極メテ少ナク作物保護上效力著シキモノアルヲ實驗セシヲ以テ前設計ニ基キ耐寒力最弱キ苧麻ノ刈株ニ籾殼覆ヲ試ミ其ノ防寒ノ效力ヲ研究シタリ

苧麻發芽ノ狀況ヲ調査セシニ一寸區ハ墻壁ニ沿ヘル西北隅ノミ多少發生セシモ其ノ他ハ殆ト絕滅ニ歸シ三寸以上ノ各區ハ五月中旬ヨリ續續發芽シ勢力大差ナク七月二十日及九月三十日ノ二回ニ刈取リヲ行ヒ左ノ成績ヲ得タリ

區名＼收量	一番刈 本數(本)	一番刈 重量(匁)	二番刈 本數(本)	二番刈 重量(匁)	合計 本數(本)	合計 重量(匁)
一寸覆區	九八	七一〇	一七二	二二〇	二七〇	九三〇
三寸覆區	二一五	二、一七〇	一九二	四八〇	四〇七	二、六五〇
五寸覆區	二三〇	一、五九〇	一五四	二八〇	三八四	一、八六〇
七寸覆區	二三四	一、四七〇	二一一	五三〇	四四五	二、〇〇〇

右表ニヨル時ハ三寸覆區ノ成績最良好ニシテ一寸覆區最劣レリ僅ニ墻壁ノ西北隅ニ沿ヘル一部ノ

ミ生存シテ他ハ全部枯死シ五寸、七寸ノ二區ハ却テ三寸區ニ劣レリ籾殼ノ厚サハ三寸ニテ充分ナルヲ示シ零下二十度ニ降リシ酷寒ノ場合ニ於テモ籾殼三寸下ノ土壤ハ氷結スルコトナキヲ實驗セリ」

抑朝鮮ノ氣候ハ西北風(又ハ北風)吹キテ遽ニ寒ク東南風(又ハ南風)來リテ直チニ之レヲ和クルヲ例トス卽チ西北風ハ三寒ヲ誘發スルモノニシテ滿洲方面ニ高氣壓ノ現出シテ西北風吹キ來ル時ハ冱寒實ニ堪エ難キヲ覺ユルヲ常トス故ニ西北風ヲ防クノ準備ヲナスハ單ニ風ヲ防クノ利アルノミナラス又大ニ防寒ノ目的ニ適スルモノナリ左レハ作物ノ越冬上吾人ノ注意スヘキ保護法ハ防風設備ヲ主トシ被覆ニ用ウル材料ハ籾殼ノ如キ寒風ノ透徹シ難キ物質ヲ選ヒ藁覆ノ如キハ日中暖カナル時ハ之レヲ撤シ作物ヲシテ溫度ノ低極ヨリ保護シ常ニ高溫ニ浴セシムルニ在リトス

○忠清北道勸農事業成績

(明治四十四年度)

(忠清北道報告)

一　模範農場成績

(イ)土地購入並建築　試作田トシテ七反五畝歩ヲ購入シ堆肥舍一棟十五坪豚舍一棟五坪ヲ建築セリ

(ロ)模範栽培　配付種苗ノ育成並農事ノ模範ヲ示サムカ為左ノ如ク模範栽培ヲ行ヘリ

普通作物	二町八反八畝歩
特用作物	五反四畝十二歩
蔬菜	七反七畝五歩
果樹	七反二畝二十一歩
桑園	二町二反二畝九歩
計	七町一反四畝十七歩

(ハ)獎勵園設置　本場圃地ノ內一町七反八畝九歩ヲ當地ノ篤農家ナル道參事閔泳殷ニ無代貸付シ指定ノ栽培法ニ遵ヒ主要作物ノ栽培ニ從ハシメタルカ收穫物ノ品質收量共ニ在來ノモノニ勝レルヲ自覺セシメタリ

(ニ)模範田設置　本道各郡二箇所(清州郡ノミハ四箇所)一箇所一反十歩ツツノ地ヲ模範田ニ指定シ改良稻種「錦」「多摩錦」ノ兩種ヲ栽培セシメタルカ成績極メテ良好ニシテ其ノ實收量ハ平均一反歩四石五斗ニ及ヘリ而シテ其ノ生產種籾ノ內六十五石餘ハ之ヲ本場場費ニテ購入シテ之ヲ希望者ニ分チ其ノ殘餘ハ恩賜授產費ニテ買上ケ配付セリ而シテ試作人ニハ肥料代トシテ一箇所三圓內外ノ補助ヲ給與セリ

(ホ)種牡牛預託　農商工部ヨリ昨春交付ヲ受ケタル種牡牛七頭並從來本場繫留ノ內六頭計十三頭ヲ陰城外十二郡、一郡一頭ツツ預託シ之ニ一箇年三十圓ノ預託料ヲ給與シ無代ヲ以テ一般ノ種付ニ應セシメタリ三月末日迄ニ種付セシ頭數ハ一千四十六頭ナリ

(ヘ)種牡牛巡回種付　本場繫留種牡牛八頭ハ時時道內ヲ巡回シテ種付ヲ行ヘリ其ノ回數五回ニシテ延日數百十二日、種付總頭數六百三十頭ニ上レリ

(ト)本場ニ於ケル種牡牛種付　本場ニ於テ種付シタル頭數ハ三百八十一頭ナリ卽チ預託牛種付、巡回種付、本場種付ヲ合スレハ種付總頭數二千五十七頭ナリ

（ヲ）犢牛分娩　本場繋留ノ種牝ハ昨年種牡牛交配セシメタルカ昨年四月中旬牝犢ヲ分娩セリ體格甚タ良好ナリ

（リ）種豚購入　種豚トシテ牡二、牝二ヲ購入飼養シ近近種付ヲ行フ筈ナリ

（ヌ）家禽飼養並種禽種卵ノ配付　家鷄ニハ名古屋「コーチン」連斑「プリモースロック」ノ二種、鶩ニハ北京鶩及在來鶩ノ二種外ニ鵞ヲ飼養シ種卵並種禽ヲ配付セリ

（ル）種苗蠶種種禽種卵等ノ配付　其ノ主ナルモノヲ擧クレハ次ノ如シ

水稻	六五・七三三石	陸稻	一〇・三〇〇石
菊芋	四〇〇・〇〇〇貫	甘藷	五、二〇〇本
桑魯桑	八、九〇〇本	同市平	四、五七〇本
同十文字	六、二〇〇	魯桑實生	一三一、四四〇
楮	一三、五〇〇		
家鷄	五八羽	鶩	八羽
家雞種卵	六〇六個	鶩種卵	三〇八個
鵞種卵	七八		
蠶座	一、三一〇枚	蠶網	一、九六〇枚
蠶簇	二、六二〇		
春蠶小石丸	一一七	同又昔	一五二
同白龍	二九		
夏蠶大和錦	三六	同白龍	九四
同新屋	二〇		
春蠶稚蠶小石丸	八匁	柞蠶種	四〇四顆分

二　農事講習所成績

四十四年四月二十五日開所シタル本道立農事講習所ハ同所規程ニ基キ學實科ノ講習ヲ實施シ四十五年三月二十日ヲ以テ閉所セリ開所以來ノ狀況並成績ノ概要ハ次ノ如シ

講習生ハ各郡ニ於テ名望アル中産以上ノ農家ノ子弟中ヨリ三名ツツヲ推薦セシメ更ニ之ニ學科試驗ヲ行ヒ内二十名ヲ選拔シテ入所セシメ尚四十三年度本道蠶業傳習會修了者ニシテ四十四年春季稚蠶飼育所擔當者タル者ノ内ヨリ成績優良ナルモノ五名ヲ限リ七月一日ヨリ入所ヲ許可セリ而シテ講習生ニハ一箇月金三圓ノ食料費補助ヲ給セリ講師ハ專任トシテ佐野榮一兼務トシテ道技手菱本長子、同高橋彥一、模範農場囑託獸醫新川末次之ニ當レリ

講習科目並時間數ハ次ノ如シ

科目	時間	科目	時間	科目	時間
修身	三六	蠶體生理及病理	三三	農産物製造	三〇
國語	八四	製絲	三三	畜産	五三
算術	一一一	普通作物 特用作物	一五四	林學	三四
理化	一五四	園藝	七六	農政經濟	四七
養蠶	五六	肥料土壤	七一	（學科時間）計	一、〇二三
栽桑	九	作物病蟲害	四二		
實習	八八七・五	調査及實地演習	一六七	通計	二、〇七六・五

學科ハ極メテ平易ヲ旨トシ主トシテ農場實習及實地演習等ニヨリテ技能ヲ敎習熟達セシムルコトニ勉メ養蠶期間ノ如キハ殆ト學科ヲ廢シ實習ノミヲ課シタリ

尙科外トシテハ日日日誌ヲ記載セシメ實習及調査ノ際修得シタル處其ノ他農場ニ於ケル作業ノ狀況所感等明細ニ記載セシ

メテ後日ノ參考ニ供セシメ又金錢出納簿ヲ備ヘ付ケ常ニ出入ヲ明ニセシメタリ

講習生ハ入所當時ハ勞働ヲ卑シミ之ヲ輕スルノ風甚シカリシカ次第ニ之ヲ尊重スルニ至リ後ニハ寧ロ進テ勞役ニ服スルノ風ニ移レリ

講習生ハ一名中途ニ於テ退所ヲ命セシモ當時定員外ニ自費ヲ以テ聽講セシ者アリシヲ以テ直ニ補鈌トシテ入所ヲ許可セリ」

講習生二十五名ハ其ノ課程ヲ終ヘタルヲ以テ三月二十日全員ニ修了證書ヲ授與シ同日閉所シタリ

講習生ハ終了後ハ可成本道農事ノ下級指導者トシテ採用スル見込ニシテ内二十名ハ各郡農業補手ニ二名ハ稚蠶飼育所教師ニ他ノ三名ハ蠶業巡回教師通譯畜産組合雇郡廳雇ニ各採用スヘキ見込ナリ

農事講習所蠶業傳習成績

種別	卒業生	飼育 蠶種名	飼育 蟻量(匁)	飼育 收繭(升)	製種 化性及種類	製種 普通製	製種 框製(枚)
春蠶	二五	小石丸	三、八	二四、九〇	一化性小石丸	—	二八〇
		又昔	〇、八	一〇、〇〇	一化性又昔	—	二四
		白龍	〇、四	一五、四〇	一化性白龍	—	二六
夏蠶		二化性白龍	一、〇	二三、五六	二化性白龍	—	九五
		二化性大和錦	〇、五	一一、三〇	二化性大和錦	—	三六
秋蠶		矢ノ羽	〇、七五	一一、五二	—	—	—
計	二五		七、三五	九六、六八	—	—	四六一

(備考) 右表ノ外稚蠶ノ分配用トシテ小石丸八匁種類試育トシテ朝鮮種、伊國種、佛國種計八分ヲ飼育シタリ何レモ製種セス
尙柞蠶第一化期ノ飼育ヲ行フ放養蠶數一萬一千頭、收繭數二千八百八十六箇ニシテ之ヨリ採種シ無毒ノモノ四百四蛾分ヲ得タリ

商工業

○桑皮利用製紙法

(更田工業傳習所技師講演概要)

現時朝鮮ニ於ケル製紙業ハ非常ニ幼稚ナルモノテアリマシテ農家ノ副業トシテ自家ノ畑畔ニ自生セル楮皮ヲ以テ農閑ニ製造スルニ過キナイノテ其ノ紙質ノ善惡ハ兎ニ角其ノ產額ハ極メテ僅少テ全道ヲ通シテ一箇年約五十餘萬圓テアリマス是等產紙ノ種類ハ窓戸紙、白紙ノ類テ洋紙、半紙、美濃紙等ノ日用紙ハ總テ內地ヨリ其ノ供給ヲ仰クノテアリマス

然ルニ近來世ノ進ムニ從ヒ紙ノ需用ハ頓ニ增加シテ實ニ驚クヘキ巨額ニ達シテアリマス左ニ最近二箇年間ノ紙類輸入額ヲ

掲ケ御參考ニ供シマス

品名	明治四十三年	明治四十四年自一月至十月
洋紙	円 二八〇、八一七	円 三二八、一〇一
筆記用紙	二、六〇三	二、二二六
半紙及美濃紙	一三四、四八七	一六七、一二六
壁紙	二三、一八三	四二、二三三
塵紙	八八、六六八	七六、四七九
其他ノ紙	一三五、四二八	一五八、一三一
煙草用紙	三九、二六九	四七、五九一
其他紙製品	六四八、二〇九	七〇二、一一八
合計	一、三五二、六六四	一、五二三、八八八

即チ最近二年間ノ紙類輸入額ヲ比較シテ見マスレハ四十三年ニ輸入シタル額百三十五萬二千六百六十四圓ニ對シ四十四年ハ一月以降十箇月間ニ百五十二萬三千八百八十八圓ノ巨額ニ達シテアリマス而シテ輸入紙ノ大部分ハ内地産ノモノテ尙今後文物ノ發展ニツレ紙ノ需用ハ益增加スルノハ明ナル次第テアリマス翻テ供給者タル内地紙業ノ現況ヲ見ルニ内地ニ於テモ紙ノ需用ハ日ニ月ニ增加シ製紙會社ハ漸次擴張シテ其ノ産額ノ增大ヲ圖ルモ原料ニ不足ヲ來タシ年年外國ヨリ原料竝製紙ノ輸入スルモノ逐年增加スルノ有樣テアリマス左ニ最近三箇年間ノ原料竝製紙ノ輸入高ヲ掲ケ御參考ニ供シマス

	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年自一月至九月
洋紙	円 七、八二七、〇三四	円 七、八八五、九五六	円 五、四九五、〇〇四
パルプ	一、五七四、五三八	三、一六六、四九五	二、〇二七、四〇五
合計	九、四〇一、五七二	一一、〇五二、四五一	七、五二二、四〇九

即チ四十三年ニ於ケル紙及原料ノ輸入高ハ一千百餘萬圓ニテ實ニ驚クヘキ巨額ニ達シテアリマス又半紙美濃紙ノ如キ日本紙ノ主要原料タルヘキ楮、三椏ハ近來養蠶ノ發達ニ伴ヒ桑園ノ有利ナルヨリ次第ニ楮田ヲ桑園ニ變スルノ傾向アリテ大ニ其ノ産額ヲ減シ隨テ是等紙類ノ價額ハ非常ニ騰貴シタノテアリマス是ニ於テ近來機械製紙業者ハ低廉ナル原料（即チ舶來木質原料）ト工費トヲ以テ日本紙ノ代用品ヲ模造シマスケレトモ紙質粗惡ニシテ日本紙固有ノ長所即チ伸張、縮揉ニ堪ユヘキ强靱性ニ乏シキカ故ニ是等日本紙ノ長所ヲ傷フ事ナキ好原料ヲ得ルヘク一般ニ渴望シツツアル次第テアリマス

如此供給者タル内地ニ於テモ製紙原料ノ缺乏ニヨリ困難シツツアルノテアリマスカラ被供給者タル朝鮮ニテハ是等原料ノ栽培ヲ盛ニシ又良好ナル代用品ヲ發見シ責メテ朝鮮内ニテ消費スル紙類中半紙、美濃紙、塵紙其ノ他ノ日用紙（内地移入約二十五六萬圓）丈ニテモ朝鮮ニテ製造セナケレハナラヌノテアリマス

總督府工業傳習所ニテハ爾來專ラ是等ノ點ニ注目シテ朝鮮内ニアル莞草、蘆、萱其ノ他種種ノ材料ニ就キ試驗研究ヲ行ヒツツアル折柄近來各道各地ニテ養蠶ヲ奬勵セラルル結果桑園カ次第ニ増加スル有樣テアルカラ是等ノ廢枝ヲ利用シタナラハ面白カロウト思ヒマシテ明治四十三年來勸業模範場龍山支場ノ岩田技師ニ謀リ同所ニテ養蠶ニ供セラレタル廢枝ヲ以テ

試驗シマシタ處元來桑樹ハ楮、三椏ト異ナリ外皮ノ傷痕、瘤節多クシテ精撰ニ勞費ヲ要シ楮皮、三椏皮ト同法ニテ製紙スルハ經濟上收支相償ハサル事トナリマシタカ種種研究ノ末漸ク是等ノ障害ヲ除ク方法ヲ案出シ製紙原料トシテ有望ノモノトナリマシタノテ今回第一期試驗成績トシテ其ノ大要ヲ報告スルト同時ニ諸君ノ御一考ヲ煩ハシタ次第テアリマス

尤モ内地紙業者間ニ於テモ桑皮ヲ楮皮ニ代用スル事ニ付テ從來屢試ミタルモノモアリマシタカ内地ニ於ケル養蠶時ハ農家ノ最繁忙ノ時季ニテ各家殆ト寢食ヲ忘レ蠶兒ノ飼育ニ餘念ナキ折テアリマスカラ廢枝ノ處理ニマテ顧慮スルノ暇カナイノテアリマス隨テ其ノ成績ニ就テハ未タ滿足ナル報告ヲ聞キマセンカ朝鮮テハ農家ノ婦女子一般ニ閑散ニシテ餘力アル許テナク寧ロ内職トシテ幾分ノ利益ヲ得セシメテ養蠶費ノ幾分ヲ補ヒ蠶業上ノ利益ヲ增大ナラシメ得ルノテアリマス

桑皮利用製紙法ノ大要ニ付キマシテハ先般小印刷ニ付シ諸君ノ御手許ニ差上ケテ置マシタカ尚其ノ詳細ニ付キ一言申上ケタイト思ヒマス

是ヨリ曩ニ提出シタル報告書ニ基キ精撰盤ノ使用法ヲ實地ニ示シ又原料及産紙各種ノ標本ニ付詳細ニ説明シタリ

○忠清北道郡物産品評會成績

（忠清北道報告）

本會ハ忠清北道物産品評會ト稱シ地方費ヲ以テ左記ノ箇所期日ニ開設セリ出品ノ區域ハ開會地ノ郡一圓トス

會場	開會期間	開會日數	所轄郡名
陰城郡廳	明治四十四年十一月二十日ヨリ二十二日迄	三日間	陰城郡
槐山普通學校	同　二十一日ヨリ二十三日迄	同	槐山郡
忠州普通學校	同　二十三日ヨリ二十五日迄	同	忠州郡
堤川元郡廳附屬建物	同　二十五日ヨリ二十七日迄	同	堤川郡
丹陽普通學校	同　二十八日ヨリ三十日迄	同	丹陽郡
沃川同	同　二十日ヨリ二十二日迄	同	沃川郡
永同同	同　二十二日ヨリ二十四日迄	同	永同郡
報恩同	同　二十五日ヨリ二十七日迄	同	報恩郡

（備考）何レモ開會ノ最終日ニ閉會セリ

出品ノ種類、點數及授賞數竝入場人員左ノ如シ

出陳品名	陰城郡	槐山郡	忠州郡	堤川郡	丹陽郡	永同郡	報恩郡	沃川郡	計
米	一二〇	一三三	一〇四	一二〇	一二〇	一二〇	一三〇	一二〇	九六六
大麥	六〇	六〇	六二	六〇	六〇	六〇	六五	六〇	四八七
小麥	三〇	三〇	三六	三〇	三〇	三〇	三九	三〇	二五五
大豆	六〇	六〇	四一	六〇	六〇	六〇	六五	六〇	四六六
小豆	三一	三〇	四五	三〇	三〇	三〇	三九	三〇	二六五
粟	二〇	一二	二七	一	一〇〇	三〇	三九	二四	二五二

出陳品名	陰城郡	槐山郡	忠州郡	堤川郡	丹陽郡	永同郡	報恩郡	沃川郡	計
胡麻	一〇	—	—	—	—	—	—	二四	三四
甘藷	二九	二四	二八	—	二〇	二一	三九	一五	一七六
馬鈴薯	六	二四	三二	四〇	四〇	三〇	一三	二四	二〇九
繭	—	—	—	—	—	—	—	九	九
炸蠶	二〇	—	—	—	—	—	—	—	二〇
蔬菜	二九	八七	六七	四〇	五〇	三五	—	四〇	三四八
煙草	一	一三	二八	—	—	二〇	六五	二四	一六〇
棉花	五	一二	—	—	—	三一	六五	二九	一四二

右ノ内陰城、槐山、忠州、堤川、丹陽ノ五郡ニハ審査長トシテ本道技手高橋彥一ヲ、沃川、永同、報恩ノ三郡ニハ同嵜本長次ヲ、又審査員ニハ農事巡回教師及機業巡回教師ヲシテ之ニ當ラシメ開會初日ニ審査ヲ結了シ直ニ其ノ成績ヲ發表セリ入場者ハ日ニ五、六百人アリ多キハ一郡三千六百ニ及ヒ少キモ四百五十人ニ達セリ殊ニ永同郡ニ於テハ日中外出ヲ欲セサル鮮人婦人等夜間百餘名一團トナリテ觀覽シタルカ如キ頗ル盛況ヲ呈セリ此等入場者ニ對シテハ審査員及郡廳員ニ於テ懇切ニ說明ヲ與ヘ產業開發上多大ノ效果ヲ收メタリ褒賞授與式ハ開會ノ最終日トシ丹陽、報恩ノ二郡ヲ除クノ外何レモ邑市ノ開市日ヲ利用シ參觀者ノ便ヲ圖レリ授與式ニハ長官代理トシテ北部五郡ニ事務官澁谷元良ヲ、南部三郡ニ參與官俞星濬ヲ臨席セシメ褒賞（賞品ハ一等賞唐鍬價額一圓五錢、二等賞ショベル價額六十五錢、三等賞稻刈鎌價額二十錢、四等賞褒狀）ヲ授與セリ本會開設ニ當リ郡廳ノ出品勸誘ニ對シ出品物

出陳品名	陰城郡	槐山郡	忠州郡	堤川郡	丹陽郡	永同郡	報恩郡	沃川郡	計
麻	四	六	—	—	四〇	一一	一三	—	七四
陶器	一四	六〇	—	—	一〇	三	三	—	九〇
紙	一九	一八	—	—	一〇	五	—	—	五二
織物	二〇	一一	二三	—	三〇	—	六五	三六	一八九
其他	一八	七二	四四	—	—	四一	—	—	一七五
計	五〇六	六五〇	五三七	三八〇	六〇〇	五二七	六四〇	五二五	四、三六五
授賞數	一四六	一八二	一八〇	一〇二	一八三	一五八	一八二	一五八	一、二九一
入場人員	一、〇四〇	一、四五五	九三五	二、一九五	一、一五一	一、九一八	四五〇	三、六四九	一二、七九三

ヲ沒收セラルルヤノ誤解ヲ懐ケル者モアリタル由ナルカ數百ノ參觀者ハ受賞者ニ對シ一一賞品ヲ授與スル光景ヲ目擊シ何レモ意外ノ感ニ打タレタルカ如ク受賞者ハ喜色滿面ニシテ只管感謝ノ意ヲ表シ其ノ他ノ者ハ次回ニ於テ此ノ特典ヲ享ケント語リ合ヒツツアリ如上ノ通ニシテ本事業ハ啻ニ產業助長上ノ效果ヲ收メタルノミナラス人民ノ誤解ヲ一掃シ新政ノ立旨ヲ人民ニ諒解セシメタル點ニ於テ至大ノ效果アリタルコトヲ確實ニ看取シタリ

本會經費ノ豫算決算ヲ示セハ左ノ如シ

費目	豫算額	決算額
消耗品費	四〇、〇〇〇	五四、〇九〇
容器費	四八〇、〇〇〇	三六九、八四〇
通信運搬費	六〇、〇〇〇	七七、〇六〇
賞與費	四三二、〇〇〇	三八〇、六五〇
旅費	二〇二、四〇〇	八〇、七四〇
計	一、二一四、四〇〇	九六二、三八〇

〇穀物價格表 （四月中現在）

府郡島名	道名	粳 上	粳 中	粳 下	粳 平均	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均	大麥 上	大麥 中	大麥 下	大麥 平均
		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
京城	京畿	七・四〇	六・九〇	六・四〇	六・九〇	一四・四六	一三・九〇	一三・二〇	一三・八五	七・七五	七・四六	七・二六	七・四八	六・〇〇	五・六〇	五・二二	五・六〇
仁川	同上	七・六三	七・二六	六・九二	七・三〇	一五・二〇	一四・八〇	一三・九六	一四・七二	八・三〇	七・九六	七・四〇	七・八八	四・五三	四・四三	四・三三	四・四三
清州	忠北	—	—	—	—	一六・二五	一五・七五	一四・九五	一五・六五	八・二〇	八・〇〇	七・七五	七・九八	—	—	—	—
公州	忠南	六・七五	五・七五	五・二五	五・九一	一四・五〇	一四・一〇	一三・六〇	一四・〇六	七・三三	七・〇〇	六・八三	七・〇五	七・五八	七・一八	六・七三	七・一六
恩津（江景）	同上	八・〇〇	六・七五	六・〇〇	六・九一	一四・〇〇	一三・八〇	一三・五〇	一三・七六	八・〇〇	七・八〇	七・六〇	七・八〇	七・八〇	七・六〇	七・四五	七・六一
全州	全北	六・九〇	六・六五	六・三三	六・六三	—	—	—	—	九・〇三	八・七六	八・三六	八・七一	—	—	—	—
群山	同上	七・三三	七・一〇	六・八〇	七・〇七	一四・七八	一四・五五	一四・二五	一四・五三	七・八〇	七・六〇	七・四〇	七・六〇	六・五〇	五・九〇	五・七〇	六・〇三
光州	全南	七・二〇	六・七〇	六・二〇	六・七〇	一五・〇〇	一四・六〇	一四・二〇	一四・六〇	一二・一五	一一・七五	一一・四五	一一・七八	七・四〇	七・一〇	六・八〇	七・一〇
木浦	同上	八・四一	七・一一	六・四一	七・三一	一五・三三	一五・三三	一四・九三	一五・一六	八・八〇	八・五〇	八・三〇	八・五三	四・六三	四・三三	四・〇三	四・三三
大邱	慶北	六・三〇	五・九〇	五・三五	五・八五	一四・四〇	一四・一五	一三・八〇	一四・一一	七・五〇	七・三五	七・〇〇	七・二八	六・六〇	六・三五	六・二五	六・四〇
晋州	慶南	八・一〇	七・五〇	七・〇〇	七・五三	一四・八三	一四・四三	一四・〇〇	一四・四二	八・〇〇	七・五一	七・二三	七・五八	六・七〇	六・二〇	六・〇〇	六・三〇
釜山	同上	八・〇〇	七・五〇	七・一〇	七・五三	一六・〇〇	一五・〇〇	一四・二〇	一五・〇六	一五・〇六	八・二〇	七・八〇	七・九〇	六・五〇	六・四〇	六・三〇	六・四〇
馬山	同上	九・一五	八・六三	八・五三	八・七六	一五・二〇	一四・八〇	一四・四〇	一四・八〇	七・五三	七・三八	七・二三	七・三八	六・四〇	六・二〇	六・〇〇	六・二〇
春川	江原	—	—	—	—	一八・五〇	一八・〇〇	一七・〇〇	一七・八三	六・二〇	六・〇〇	五・八〇	六・〇〇	—	—	—	—
江陵	同上	四・二三	四・一五	三・九五	四・一一	一一・〇〇	一〇・五〇	一〇・〇〇	一〇・〇五	六・五五	六・三〇	六・〇五	六・三〇	三・五〇	三・二〇	三・〇〇	三・二三
海州	黄海	七・〇〇	六・七六	六・五三	六・七六	一四・五六	一四・二六	一四・〇〇	一四・二七	七・九六	七・六六	七・四〇	七・六七	四・八六	四・五六	四・三〇	四・五七
鳳山（沙里院）	同上	七・〇〇	六・〇〇	五・〇〇	六・〇〇	一二・五〇	一一・五〇	一〇・八〇	一一・六〇	七・〇〇	六・六〇	六・二〇	六・六〇	五・〇〇	四・八〇	四・五〇	四・七六
平壤	平南	六・九五	六・六五	五・五五	六・三九	一三・六五	一三・一五	一二・六五	一三・一五	七・八五	七・四五	六・八五	七・三八	五・二〇	四・九〇	四・八〇	四・九六
鎮南浦	同上	七・四〇	六・五三	五・九六	六・六三	一四・五六	一四・〇五	一三・〇〇	一三・八六	八・二三	七・八〇	七・二〇	七・七四	五・四〇	五・〇三	四・七六	五・〇六
龍川	平北	七・三〇	六・九〇	六・四三	六・八七	一六・四六	一五・九〇	一四・八三	一五・七三	七・九六	七・八〇	七・五〇	七・七五	—	—	—	—
平均		七・二七	六・七一	六・二〇	六・七二	一四・七九	一四・三三	一三・七五	一四・二九	八・三五	七・七四	七・四三	七・八四	五・九一	五・六一	五・二六	五・六三
前期對比較高低		二九	二四	二五	二六	一五	一四	△〇八	〇七	四八	二四	一四	二八	三三	〇六	〇八	一二

（備考）
一　本表ハ毎一石ノ（法定量）卸賣價格ヲ揭記シタルモノナリ
二　比較高低欄ノ朱書ハ低落ヲ示スモノナリ
三　本表ハ五日、十五日、二十五日ノ現在價格ヲ平均シタルモノナリ

○最近三箇年同期比較穀價高低表（四月現在）

	籾 上	籾 中	籾 下	籾 平均	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均
四十三年四月現在	三•五三	三•二三	三•〇〇	三•二五	六•九五	六•六七	六•三二	六•六四	四•〇三	三•七四	三•四六	三•七四
四十四年四月現在	五•五七	五•二二	四•七三	五•一七	一一•九九	一一•七〇	一一•二四	一一•六四	六•八七	六•五四	六•一一	六•五〇
四十五年四月現在	七•二七	六•七一	六•二〇	六•七二	一四•七九	一四•三三	一三•七五	一四•二九	八•三五	七•七四	七•四三	七•八四
比較高低 對本期四十三年四月	三•七四	三•四八	三•二〇	三•四七	七•八四	七•六六	七•四三	七•六四	四•三二	四•〇〇	三•九七	四•〇九
比較高低 對本期四十四年四月	一•七〇	一•四九	一•四七	一•五五	二•八〇	二•六三	二•五一	二•六四	一•四八	一•二〇	一•八二	一•五〇

一　本期平均額ヲ既往二箇年間ノ同期平均額ニ對比シ歩合ヲ以テ示セハ左ノ如シ

本期對四十三年四月　籾、十割六歩、玄米、十一割五歩、大豆、十二割
本期對四十四年四月　籾、二割九歩、玄米、二割二歩、大豆、二割三歩
｝ノ何レモ高騰ヲ示セリ

水產業

○全羅北道水產事業成績（明治四十四年度）

一　漁船ノ構造

船體ハ日本式釣船形トシ長サ三十一尺幅七尺五寸深サ三尺ニシテ舳部及艫部ニ水密室ヲ胴部ニ活間ヲ設ク重要用材及寸法左記ノ如シ

一、船體ノ長　三十一尺
一、船體ノ幅　七尺五寸
一、船體ノ深　三尺

一、敷板　松板厚サ三寸幅胴ノ間ニ於テ二尺
一、舳材　杉
一、棚材　下棚杉一寸五分板上棚杉一寸五分板
一、船梁　上梁松五寸角下梁松五寸角
一、仕切板　松三寸板
一、肋材　松天然曲材
一、甲板　杉一寸板及八分板ヲ以テ二重張トシ甲板ノ内梁ハ杉三寸五分角ヲ用ヒ八寸置ニ排列ス
一、船板（スイタ）　杉一寸板
一、床　松材
一、戸立　松
一、船釘　鐵釘、敷ヲトシ六寸、棚ヲトシ五寸ノ距離
一、檣　杉、帆桁杉、帆メリケン布
一、梲　樫材長サ一丈幅下部ニ於テ一尺厚サ潮切ニ於テ二寸五分
一、櫓四挺　樫製、艫櫓一、脇櫓三
一、錨綱　徑一寸棕梠綱長三寸五尋、同八分棕梠綱四寸尋及徑一寸ノマニラ綱四十尋
一、艫綱　徑一寸マニラ綱長サ二寸尋

右經費左ノ如シ

一金貳百四拾七圓　船體
一金百六拾八圓　附屬船具　櫓四挺、帆及帆具、綱具類、錨、水箱、炊事具一切

二　本船ニヨリ施行シタル事業ノ成績

本船ハ主トシテ水產調查用ニ供スルヲ以テ目的トスルモ傍ラ臨時恩賜授產費ヲ以テ給與スヘキ漁具ノ使用方法ヲ練習セシムルコトトセリ而シテ今回ハ二月中旬ヨリ三月下旬迄船頭一名（內地人）及練習生五名（內地人三名鮮人二名）ヲ乘組マシメ地方費ヲ以テ黃海ニ於ケル鱇延繩ノ練習ヲ行ヒタリ蓋シ黃海ニ於ケル冬季ノ鱇漁業ハ頗ル有望ナリト雖本道漁業者ニシテ之ニ從事スル者稀ナルヲ以テ之カ奬勵ハ冬季他ノ漁業ノ閑散ナル時期ヲ利用シテ漁利ヲ收メシムルニ適當ナルモノト謂フヘシ而シテ其ノ練習中ハ概ネ天候不穩ニシテ第二回出漁ノ時ノ如キ暴風雨ノタメ梲機ヲ兩斷セラレ辛ウシテ避難スルヲ得タル狀況ナリキ漁場ハ古群山島ヲ距ル西方四五十海里ノ沖合ニシテ水深四十七尋乃至五十尋ノ所トス而モ嚴寒ノ候波浪荒キ時ニ於テ作業スルヲ以テ當初鮮人ハ恐怖シテ中途乘船ヲ拒ミタルモ漸ク出漁スルニ隨ヒ漁獲多キニ興味ヲ覺エ競フテ斯ノ漁業ニ熟達セムコトヲ希望スルニ至リ熱心練習ヲ了セリ要スルニ黃海沖ノ鱇延繩漁業ノ有望ナルコトハ一般漁民ノ既ニ認知スル所ナルモ漁場遠ク時嚴寒ニシテ且之ニ耐フヘキ漁船少ク內地移住漁業者ト雖出漁スル者僅ニ二隻ニ過キサリシヲ以テ本練習ハ漁船ノ改良及漁具ノ使用上日鮮人ニ共ニ多大ノ刺戟ヲ與ヘタルモノノ如シ

三　出漁日誌

第一回出漁

二月二十四日未明群山港出帆午後三時過古群山島ニ到著同日及二十五日ノ兩日間餌料採取ニ從事シタリ二十六日未明古群山島ヲ出帆シ午後三時漁場ニ到著二十七、二十八ノ兩日間繩ヲ延ヘ二十九日ハ風雨ノ爲沖掛リシ同夜十時頃揚帆三月一日午後三時群山ニ歸港シタリ天候及延繩鉢數等左記ノ如シ

二月二十四日　曇　東風　　二月二十五日　曇　東風
同　二十六日　晴　南風　　同　二十七日　雨　西風
同　二十八日　雨　東風　　同　二十九日　雨　西風
三月　一日　雨　西風

出漁日數　二日
延繩回數　三日
延繩鉢數　十四鉢
漁獲高　三百六尾二百六十九貫
漁場ノ位置　古群山島ヲ距ル西四十浬乃至四十五六浬水深五十尋

第二回出漁

三月八日早朝群山港出帆午後二時古群山列島著同日及九日ノ兩日間餌料採取三月十日朝同島ヲ發シ午後三時同島ヨリ西約四十浬ノ沖合漁場ニ出漁直ニ繩ヲ下シ同夜十時頃取揚ケ强北風ノ爲沖掛リシタルモ風力益强烈トナリシカハ十一日午後四時漁場ヲ發シ三十五六浬隔レル大旺嶝ニ向ヒ同夜十一時同處ニ到著十二、十三兩日間避旺シタリ

十四日午前八時大旺嶝ヲ出帆前漁場ヨリ約十浬南方ニ出漁シ翌日マテニ四回繩ヲ投下シタリ十六日未明漁場ヲ出發午後十時頃古群山列島ノ西端ニ著シタルモ强風ノ爲柁機ヲ切斷セラレ十七日マテ碇泊シ十八日午前八時出帆午後群山ニ歸港シタリ

三月八日　晴　東風　　三月九日　曇　東風
同　十日　曇　北風　　同　十一日　曇　北風强
同　十二日　曇　北北西風强
同　十三日　曇　北北西風强
同　十四日　晴　北風　　同　十五日　曇　東風
同　十六日　曇　西風强　　同　十七日　雪　北北西風强
同　十八日　曇　南西風

出漁日數　三日
延繩回數　五回
延繩鉢數　十四鉢
漁獲高　鱈三百尾二百十貫
　　　　鰆百二十三尾五十一貫
漁場ノ位置　古群山島ヲ距ル西方四十浬ノ沖合水深四十八尋乃至五十尋

第三回出漁

三月二十四日午前七時出帆古群山列島ニテ同日及二十五日ノ二日間餌料採取ス二十六日午前八時同島出帆午後五時同島ノ西端ナル末島ヨリ北西約三十五六浬ノ沖合ニ出漁繩ヲ下シ同夜十二時頃迄ニ鱈四十尾ヲ釣獲シタリ

二十七日ハ風雨烈シカリシタメ沖懸リシ二十八日ハ北風强カリシモ午後四時繩ヲ下シ同夜十一時頃迄ニ鱈五十尾鰆三十尾釣獵ス二十九日北風强ク沖懸リシタルモ風力益强大トナリシタメ午後五時漁場ヲ發シ大旺嶝ニ向ヒ避難シタリ三十日ニ至ルモ風威猛烈ニシテ從業スル能ハサルニヨリ猶碇泊シタリ三十一日トナリ風向東ニ轉シ風力亦減シタルヲ以テ午前七時大旺嶝ヲ發シ十二時頃同島ト鞍馬島トノ中央ヨリ西方約二十海里ノ場所ニ到著午後五時ヨリ繩ヲ下シ十一時頃迄ニ鱈百尾鰆六十尾ヲ漁獲シ漁業終ルヤ直ニ群山ニ向ヒ四日二日午前六時歸著シタリ

三月二十四日　晴　北風　　三月二十五日　晴　北西風

同	二十六日	曇	東風	同	二十七日	雨	北東風強
同	二十八日	曇	北風強	同	二十九日	晴	北風強
同	三十日	晴	北西風強	同	三十一日	晴	東風
四月一日		晴	東風	四月二日		曇	東風

出漁日數　三日

延繩回數　三回

延繩鉢數　十四鉢

漁獲高　鯛百九十尾　鱘九十尾

漁場ノ位置　末島ヨリ北西約三十五六水浬深三十五尋

○全羅南道水産講習成績（明治四十四年）

開設月日	開設期間	開會場所	講習生員數	講習生年齡 最高	最低	平均	其他
	日		人	年	年	年	
四十四年十一月二十一日ヨリ	五	莞島郡楸子面下島	二五	三六	一六	二三	傍聽者日日三十名
四十五年一月十二日ヨリ	五	同郡平日面平日島	二五	五四	一七	三三	傍聽者日日二十名
同年一月十九日ヨリ	五	同郡靑山面靑山島	二五	四〇	一六	二七	傍聽者日日二十名乃至三十名
同年三月五日ヨリ	五	寶城郡邑内	二一	五二	二〇	三三	傍聽者時時來レリ
同年同月十二日ヨリ	五	長興郡古下面	三五	五七	一七	三三	傍聽者日日二十名乃至三十七名
同年同月十九日ヨリ	五	康津郡邑内	一七	五〇	二〇	三一	傍聽者時時來レリ
同年二月七日ヨリ	四	靈光郡邑内	五	四〇	二一	三一	—
同年三月一日ヨリ	五	咸平郡邑内	二四	六三	二四	四一	—
同年同月六日ヨリ	五	智島郡邑内	三三	四四	二一	二九	—
同年同月一日ヨリ	五	珍島郡島島面	三〇	五一	一七	三六	傍聽者每日十名内外
同年同月九日ヨリ	五	同郡府内面	四〇	五五	一七	三三	—
同年同月十五日ヨリ	五	海南郡右水營	二九	四一	一八	二四	—
四十五年三月二十二日ヨリ	五	靈巖郡昆一始面	五三	四〇	二〇	三五	—
同年二月五日ヨリ	一〇	突山郡邑内	二五	三四	一六	二二	—
同年三月二日ヨリ	六	麗水郡邑内	二七	二七	一六	二〇	—
同年同月十八日ヨリ	八	光陽郡玉谷面廣浦	二三	三三	一六	二二	專ラ海苔佃煮罐詰製造ニ關スル實習ヲナセリ
同年一月二十六日ヨリ	五	濟州郡新左面朝天里	三八	五五	一六	二五	—
同年二月二日ヨリ	五	同郡新右面涯月里	四二	四二	一六	二七	—
同年二月七日ヨリ	五	同郡舊右面洙源里	三七	四七	一八	二七	—
同年三月十九日ヨリ	四	旌義郡左面城邑里	三〇	五〇	二〇	三〇	—
同年同月二十四日ヨリ	五	同郡東中面表善里	四〇	五三	二一	三六	—
同年同月七日ヨリ	五	大靜郡右面下摹里	五〇	五九	一九	二九	—
同年同月十三日ヨリ	五	同郡左面大瀞里	二八	五四	二〇	三五	—
合計	一二三	—	六九三	平均		二九	—

各郡講習科目（光陽郡ヲ除ク）

一　水産講習會開設ノ趣旨

二　開設郡及本道ノ地理的（水産上ヨリ見タル）狀態

三　開設郡及本道ニ於ケル水産業ノ狀況

四　開設郡ノ産業ト水産業トノ位置比較

五　日鮮人水産業ノ比較

海岸線、漁業者數、漁船數、漁業種類、漁獲高等ノ對照

六 一般魚類ノ習性

特ニ其ノ地方ニ於ケル重要魚族ノ發生、生存競爭、蕃殖保護、餌料、習性ト漁業トノ關係

七 開設郡水產業ノ改良又ハ新設スヘキ事業

イ 漁船ノ種類及其ノ改良

ロ 漁具漁法ノ種類及其ノ改良

主ニ其ノ地方每ニ適切ナル種類ニ付

ハ 漁船漁具ノ保存方法

染方、防濕、船底焚方、洗淨方等

ニ 食用品、工用品、藥用品、肥料品ノ種類、製法及販路

ホ 地方在來製品ノ改良要點

特ニ鹽藏品、乾製品ニ付

ヘ 淡水養殖、鹹水養殖ノ種類

ト 其ノ地方每ニ適切ナル養殖魚介藻ノ類ノ種類及其ノ方法

八 鮮魚介ノ運搬及製品荷造方法

九 漁業令及附屬法規ノ說明

十 水產業者ノ心得

イ 共同心ノ涵養

ロ 貯蓄心ノ涵養

ハ 勞働ノ神聖

ニ 思想ノ鍛錬

光陽郡講習科目

晝間講習

一 空罐洗滌法
二 海苔原料ノ選別
三 佃煮ノ製法
四 封蠟劑ノ製法
五 詰方及蓋付ノ方法
六 不良品鑑別法
七 加熱方法及脫氣法
八 打驗方法
九 外罐ノ裝飾及金光水ノ製法
十 荷造法

夜間講習

一 罐詰法ノ概要及空罐ノ種類
二 罐詰ノ永久腐敗セサル理由
三 罐詰ニ必須ナル原料ノ種類
四 本郡ニ於テ有望ナル原料
五 內容品ノ料理方法
六 罐詰製造上ノ注意事項
七 外罐裝飾方法
八 內地罐詰製造ノ現況
九 罐詰ノ販賣法及仕向地
十 荷造法

講習會ニ對スル講習生及地方民ノ感想

各郡共ニ講習期間中講習生ハ勿論其ノ附近鮮人ノ篤志者モ日日傍聽シ夜間ハ講師ノ宿所ヲ訪問シテ熱心種種ノ疑問ヲ發スル者少カラサリキ莞島郡ニ於ケル其ノ質問ノ主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

一 鰮鯖等ノ魚道ノ年ニ依リテ一定セサル理由

一 鰮ハ時ニ依リテ光ヲ好ミ又然ラサル場合トアリ其ノ理由

一 海藻類ノ繁殖位置ノ時ニ動搖スル理由

一 潮流ト風向ノ一定セサル時網ハ如何ニ使用スヘキカ

一　生鯛ヲ活洲ニ畜養スルニ內地人ハ克ク永ク活カシ得ルモ鮮人ノ之ヲ克クセサル理由

一　エゴ草ノ用途、採收方法、販路

一　鯖鰛石首魚大刀魚等ノ鹽藏品ニ夏季虫ヲ生スル理由

一　底曳網ノ構造上浮子沈子ノ延方ノ割合

一　鯛ノ餌料ニ最モ適當ナルモノ

一　延繩ハ潮流ニ對シ如何ナル方向ニ延ヘキカ

一　手繰網構造上沈子ト浮子トノ割合

一　鯛浮繩及底繩ノ使用期節

一　烏賊釣具ノ種類及其ノ漁法

又講習會最終ノ日講師ヨリ講習セル科目ニ付試驗問題ヲ提出シテ彼等ノ水產ニ對スル概念如何ヲ試ミタルニ答案何レモ其ノ要ヲ得タリ、麗水ニ於ケル問題左ノ如シ

一　網具及釣具ノ概括的種類

二　水產物製造品ノ區別

三　本郡附近ニ於テ有望ナル養殖業及其ノ方法

四　水產製品中重要ナル支那輸出品ノ名稱

五　鮮人漁業ノ發達セサル理由

六　改正漁業令ニ於ケル漁業權ノ種類

七　定置漁業ト區劃漁業トノ區別

光陽郡ハ從來海苔ノ主產地ナルヲ以テ特ニ海苔佃煮ノ實習ヲ爲サシメタリ蓋シ海苔ハ三月中旬以後溫暖ナル時期ニ至レハ色澤ヲ損シ品質硬固トナリ其ノ製品著ク劣惡トナルヲ以テ價格非常ニ低下シ十分ノ利益ヲ得ル能ハサルカ故ニ海苔改良製造ニ附帶セル事業トシテ最必要ナルヲ認メ專ラ佃煮ノ實習ヲナサシメタル所以ナリ加之此ノ地方ニ於テ現今盛ニ捕獲セラレ價格割合ニ低廉ナル鰻鮎泥鰌等ノ原料ヲ利用シ製造スルノ時期到ルヘク又自ラ罐詰ノ事業ヲ經營スル能ハストスルモ一定ノ技術ヲ修得セシムルハ海苔製造季節以外殆ント爲スコトナク徒食セル地方鮮人ニ對シテ極メテ必要ナリト認メタリ若シ夫レ四十五年度ニ於テ當業者ノ海苔業組合ヲ設置スルニ至ラハ必スヤ佃煮事業モ附帶經營スルニ至ルヘシト思料セラル

之ヲ要スルニ各郡共ニ講習會ノ開催ニ依リ其ノ地方民ヲシテ水產ニ對スル觀念ヲ向上セシメ從テ將來斯業ノ忽諸ニ付スヘカラサルコトヲ自覺セシメタリト認ム

〇平安南道水產事業成績（明治四十四年度）

四十四年本道地方費水產事業ハ何レモ漁期少シツツ遲延シタル爲漁獲高ハ多カラサリシモ皆所期ノ目的ヲ達シ四十四年七月開始シ四十五年三月終了シタリ各事業ノ狀況ヲ左ニ記述ス」

一　養蠣業

此ノ事業ハ養蠣業ノ模範ヲ示ス爲繼續事業トシテ年年施行スル豫定ヲ以テ計畫シ先ツ廣梁灣內ノ一部ヲ選定シ四十四年七

月初旬澪緣ノ潟地ニ櫟柏等ノ粗朶一千五百本ヲ樹テ付ケ十一月下旬之ヲ檢シタルニふじつぼ密生シテ牡蠣ノ附著比較的少カリシモ徑五分乃至八分ノ稚介著生セルヲ見タリ依テ此ノ澪ハ種介ノ採取ニ適シ且澪緣十數間ノ潟地ハ牡蠣ノ養成ニ適スルヲ認メ得タリ尙本春以後ハ粗朶ノ外粗製瓦一千枚及煉瓦八百五十枚等ノ材料ヲ必要ト認メ既ニ之ヲ購入シタリ

二　鯖漁業ノ獎勵

鯖漁業獎勵ノ爲漁具配與ノ方法ヲ取リ四十四年九月中鯖延繩五十鉢同釣具五十組ヲ購入シ十月中秋鯖漁ノ目的ヲ以テ沿岸府郡ノ希望者ニ配付シ別ニ實習教師一名ヲ雇入レ日鮮人ノ乘組メル朝鮮海水產組合鎭南浦支部ヨリ出シタル試驗船ニ乘込マシメ親シク傳習セシメタリ然ルニ當年ハ初秋ノ候降雨多タ河川ノ出水多量ニシテ淡水ノ注入多ク且天候險惡ナリシ爲豫期ノ效果ヲ擧クル能ハサリシモ此ノ擧ハ以テ大同江口ノ鯖漁ヲ創始スルコトヲ得次年秋季鯖漁ハ尙一箇月以上早ク開始スルヲ可トスルコトヲ知リ得タリ

三　鮟鱇網使用法傳習

四十四年恩賜授產金事業トシテ製作配與シタル鮟鱇網ノ使用法ヲ傳習スル目的ヲ以テ十月中實習教師ヲ雇入レ甑山郡漢川浦、肅川郡三千浦、安州郡老江浦ニ於テ各傳習セシメタリ而シテ此ノ事業ハ漁法ノ傳習ヲ第一ノ目的トシタルカ故ニ各漁網ノ漁獲高ハ餘リ多カラサリシモ各傳習者ハ完全ニ使用法ヲ習得シ尙傳習間左ノ漁獲高ヲ擧クルヲ得タリ

安州郡	支那式鮟鱇網	二隻分	漁期自九月上旬至十月中旬	鰕其他百十六圓
肅川郡	日本式鮟鱇網	一組	漁期十月中	同上二十五圓
甑山郡	同上	二組	漁期十月中	同上五十六圓
計				百九十七圓

前記各項ノ外地方費事業トシテ獎勵費ノ一部ヲ以テ魚類圖三種十二部ヲ購入シ之ヲ沿岸府郡ニ配與シ目下魚類日鮮名稱其ノ他研究中ナリ

○元山地方漁況 （三月分）

（咸鏡南道報告）

一　氷魚地曳網漁業

富山縣谷道組堀川組ノ二統ニシテ漁場ハ元山沿岸トス漁獲高ハ氷魚五百三十九貫いだ百六十九貫價格九十二圓ヲ收入セリ之ヲ前年ノ當期ニ比スレハ氷魚ハ好況ニシテいだ薄漁ナリシモ魚體大ナル爲收入ニ於テ前年ト大差ナキカ如シ

二　壺網漁業

漁場ハ長德島及熢燧洞ニ各二箇所ヲ敷設ス鰊十一萬一千尾鰈二千三百尾いだぬばる共八百尾ニシテ價格六百十圓ヲ漁獲セリ而シテ鰊ハ去ル四十一年以來ノ群來ニシテ當月中旬頃ハ最多獲ノ時期ニテ一日一統一萬尾內外ヲ捕獲シタルモ其後漸次漁獲ヲ減シ一日二千尾內外ニ至レリ

三　小臺網漁業

漁場ハ陽日里ニ一箇所松亭里ニ三箇所ヲ敷設シ富山縣出漁者

ノ經營ニ屬ス漁獲物ハ生トシテ鰊ニシテ數量二萬四千六百尾
價額七十圓ヲ收入セリ

四 防簾及擧網漁業

鮮人ノ裝置セル鰊防簾及ヒ擧網ノ數ハ永興灣松田灣内ニ約一百六十箇所アリ當月中ノ水揚高ハ約一萬圓内外ナラント云フ

○四月中漁業出願處分數

漁業出願ニ對シ四月中許可シタルモノハ二十七件ニシテ内鮮人二十件鮮人團體七件ナリ
尚許可シタルモノハ内地人七件ナリ

貿易及經濟

○明治四十四年中釜山港穀物集散ノ狀況

第一 來集狀況

四十四年中釜山港ニ於ケル穀物來集ノ狀況ハ其ノ總額五十一萬千七百二十三石ニシテ前年ノ六十六萬六千七百二十七石ニ比較スレハ實ニ十五萬五千四石ヲ減少セリ卽チ米ニ於テハ四萬二千餘石、大豆ハ八萬千餘石、小豆ハ五千餘石、大麥及小麥ハ二萬四千餘石、粟ハ六千餘石ヲ減少シ而シテ其ノ增加セルハ僅ニ荏胡麻子ノ百六十八石、雜穀ノ三千四百五十六石ニ過キス是ヲ以テ本年ノ當港穀物市場ハ甚タ不振ヲ示シ延テ當港輸移出貿易ニ影響シタルコト尠カラス今品種別來集額ヲ示セハ左ノ如シ

明治四十四年中釜山港穀物來集額 (單位石)

品種	鐵道便ニヨレルモノ	船舶便ニヨレルモノ	内地ヨリ移入セルモノ	外國ヨリ輸入セルモノ	合計
米	一五五、二九五	一六〇、九〇九	一、六八〇	一、六二三	三一九、五〇七
大豆	七一、九六一	六八、二一三	—	—	一四〇、一七四
小豆	二、七一三	一、五〇〇	—	—	四、二一三
其他ノ豆	二九	—	九二八	六三七	一、五九四
大麥	七、一一二	一、六七七	—	—	八、七八九
小麥	三、六八三	三、四九八	—	—	七、一八一
荏子	一、〇三九	二〇九	—	—	一、二四八
粟	五、三三九	二、七四二	—	一〇、五九三	一八、六九四
雜穀	五、〇四三	三、八〇二	一、三七八	—	一〇、二二三
合計	二五二、二三四	二四二、六五〇	三、九八六	一二、八五三	五一一、七二三

(備考) 右表中ニハ朝鮮固有ノ蓬船ニテ運着セシモノ及陸上人肩馬背ニヨリテ來集セルモノハ之チ含マス而シテ兩者チ合スレハ約二十萬石内外ニ達スヘキ見込ナリ

尙左ニ鐵道及船舶ニヨリテ當港ニ來集スルモノノ仕出地ヲ示シ以テ當港輸移出商ノ取引範圍ヲ窺フニ便ナラシメムトス

鐵道便廻著穀物仕出地別表

(單位石)

仕出地＼品種	米	大豆	小豆	大麥	小麥	荏胡麻子	粟	雜穀	合計
龜浦	二三、九三七	九、六四八	一一	六四二	六七八	三三	—	二二	三四、九七一
勿禁	二〇二	二四	—	二〇	一	—	—	—	二四七
三浪津	二八四	八三二	—	一	一	—	—	二〇	一、一三七
密陽	一七、九〇〇	五、八六二	—	一七	五五	六	—	—	二三、八四〇
楡川	三、三二一	一、三九四	—	一	三	—	—	—	四、七一九
清道	一二、六五八	四、三七八	二	—	一九	四	—	—	一七、〇六一
慶山	二四、八六六	一四、九五四	八九	八〇九	二四八	二四	—	—	四〇、九九〇
大邱	五、一四六	一、三八〇	五〇	七六四	四	三四一	—	三〇	七、七一五
新洞	六二四	五八一	一	—	四	—	—	—	一、二一〇
倭館	二一、五三六	六、六七一	二〇	一、二四一	六八〇	一〇	—	二四	三〇、〇八二
若木	一、八一四	九一〇	二	一、七二七	九一	四	—	—	四、五四八
金烏山	九〇一	一七六	—	—	六四	七	—	—	一、一四八
金泉	七、七八七	一、六二一	一五	二三	八五	一七一	—	五	九、六九七
秋風嶺	八三五	二九七	二六	—	三七	五二	—	一三〇	一、三七七
永同	四二一	九九七	二	七	二一	一六四	—	二	一、六一四
深川	三五	六七六	八	四一	七三	四九	七	九	八九八
沃川	二八二	一一四	—	—	九六	四五	—	—	五三七
大田	二、〇八五	三三一	一八六	—	二三四	三八	—	一五	二、八八九
鳥致院	三、八七六	五四五	一二	—	一二六	三六	—	九	四、六〇四
天安	一一三	三六	—	—	—	—	—	—	一四九
平澤	一九八	四八五	三	—	—	—	—	—	六八六

仕出地＼品種	米	大豆	小豆	大麥	小麥	荏胡麻子	粟	雜穀	合計
黑橋	一八	一三	一〇〇	—	—	—	三〇四	—	四三五
平壤	一六二	—	—	五〇	—	—	四一	二二二	四七五
洛東江	一四、六二九	一二、〇四四	一	八七二	二八一	一七	一二一	—	二七、九六五
進永	七、八九七	二、九六八	八	一四六	二一三	七	—	—	一一、二三九
昌原	四〇九	二三三	—	—	—	—	—	—	六四二
水原	一三〇	二九五	五	—	—	—	—	—	四三〇
黃澗	二七三	五七	—	—	—	—	—	—	三三〇
伊院	二	—	一	一五	四四	—	—	—	八一
新義州	一	—	—	二四一	—	—	—	二、一五三	二、三九五
烏山	三〇	二	—	—	—	二	—	—	三四
論山	六三五	—	—	—	—	—	—	—	六三五
江景	二〇六	—	—	—	—	—	—	—	二〇六
南大門	—	一	一	—	一〇九	—	—	—	一一一
岑城	—	一、三五九	七	—	—	—	一八	二二	一、四〇六
汗浦	—	八八〇	五	—	—	—	六	六五	九五六
瑞興	—	二二九	五九	—	—	—	八八〇	—	一、一六八
興水	—	九六	八三〇	—	三三	—	八七一	三五	一、八六五
馬洞	—	三〇	四六	—	一三八	—	一九八	一三二	五四四
中和	—	二九	七三	—	—	—	四六六	—	五六八
車輦館	—	五六八	—	九八	—	二	—	一九三	八六一
宣川	—	二	二二	一一五	一三	—	—	一四一	五一二

西井里	一六三	二〇〇	ー	ー	ー	二七	ー	ー	三九〇
南川	一二	四〇七	二七	ー	ー	ー	二六七	六四	九六七
新寧	一	六八	三〇三	ー	ー	ー	八二七	ー	一,一九九
沙里院	一,二三四	一二五	一一九	ー	ー	ー	一八三	四五〇	二,一一一
黄州	四八	六六	二四二	七三	一六四	ー	一,一七〇	四九九	二,二六二
枇峴	ー	二三三	ー	ー	ー	ー	ー	二六五	四九八
南市	ー	五二	四五	二二	ー	ー	ー	五六四	六八三
其他	六〇五	八四	二	二八七	一六七	ー	ー	一	一,一四六
合計	一五五,二九五	七一,九六一	三,七一三	七,一一三	三,六八二	一,〇三九	五,三五九	五,〇七二	二五三,二三三

船便廻著穀物仕出地別

(單位石)

品種 / 仕出地	米	大豆	小豆	大麥	小麥	荏胡麻子	粟	雜穀	合計
舊馬山	二九,九三八	八,〇五二	四〇	九〇	五〇六	三八	二	一	三八,六六七
河東	七,二〇二	一二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	七,二一四
晋州	八,八八五	九三四	一〇	ー	ー	ー	ー	ー	九,八二九
辰橋	一四,二七二	一二	ー	ー	ー	九	ー	ー	一四,二九三
統營	一,七一三	五六七	一三	一五	二	四八	ー	一	二,三五九
鎭海	六九五	一〇	ー	ー	ー	ー	四五	ー	七五〇
固城	八七七	四〇三	一	二一	四	ー	ー	ー	一,三〇六
三千浦	三,四三四	一五八	ー	ー	ー	ー	ー	ー	三,五九二
濟州島	四六〇	四四六	一三	一〇一	五六	ー	二,六〇八	二,一七〇	五,八五四
浦項	三,三二七	一七,六〇一	一三	八	九六	一一七	一〇	九	二一,〇八一
蔚山	六,二一七	六,七二一	二	ー	ー	四四	ー	六	一二,九九〇
新塲基	八二一	一,一二五	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一,九四六
筏橋	二,〇一四	六一	九	ー	ー	ー	ー	ー	二,〇八四
順天	一,七二七	二六	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一,七五三
麗水	九一	三四〇	ー	ー	ー	二四	ー	一	四五六
金海	一,四四一	三三	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一,四七四
長生浦	五三一	一,〇三七	ー	三	二	三	ー	二	一,五七八
木浦	一九,〇一五	二一三	ー	二九七	ー	二	一	六七	一九,五九五
牟浦	一四〇	一,〇〇八	ー	ー	ー	五	ー	四	一,一五七
鷺梁津	四八〇	一〇三	ー	ー	ー	一	ー	ー	五八四
群山	三五,〇四七	ー	ー	ー	八七	ー	ー	ー	三五,一三四
西湖	四四三	九〇	五〇	ー	ー	ー	ー	一〇〇	六八三
仁川	二七五	二	一〇〇	ー	四二六	二	ー	三五六	一,一六一
下端	一三,七八一	二四,一五八	三七	九三	一,〇四六	七	ー	七	三九,一二九
鎭南浦	二,八〇八	ー	一,〇一七	一,〇一三	一,二五七	ー	ー	一,〇七六	七,一七一
元山	一三一	三八五	二〇	ー	六	ー	二	ー	五四四
竹邊	四	四〇四	一	ー	ー	ー	ー	ー	四〇九
杵城	二一六	四三	ー	六	ー	ー	ー	ー	二六五
注文津	三〇四	一四	ー	ー	ー	二	四	ー	三二四
城津	七〇	二,〇六二	ー	ー	ー	ー	ー	二	二,一三四
其他	四,六七〇	二,一八三	一七五	三〇	一〇	七	五一	ー	七,一二六
合計	一六〇,九〇九	六八,二一三	一,五〇〇	一,六七七	三,四九八	三〇九	二,七四三	三,八〇三	二四三,六五〇

內地及諸外國ヨリノ穀物輸移入表（單位石）

國別／品種	米	豆類	粟	其他ノ穀物	合計
內地	一、六八〇	九二八	—	一、三七八	三、九八六
英領印度	七三八	—	—	—	七三八
暹羅	五六〇	—	—	—	五六〇
清國	三二五	六三七	一〇、五九三	—	一一、五五五
合計	三、三〇三	一、五六五	一〇、五九三	一、三七八	一六、八三九

右諸表ニ依リ當港ニ於ケル穀物來集ノ狀況ヲ見ルニ鐵道便ニ依ルモノ二十五萬二千二百三十三石、船便ニ依ルモノ二十四萬二千六百五十石、內地及諸外國ヨリ輸移入セルモノ一萬六千八百三十九石、合計五十一萬一千七百二十二石ニシテ此ノ外蓬船ニヨリ或ハ陸上人肩馬背ニヨリ當港ニ來集セルモノヲ合セハ其ノ數實ニ七十萬石內外ニ達スヘシ而シテ之ヲ前年ノ來集高ニ比スレハ各品共尙著シク廻著高ヲ減少シタリ今コレカ事由ヲ各品ニ就キ詳說スレハ左ノ如シ

米

一、阪神其ノ他內地相場ニ比シ當港相場ハ常ニ割高ニテ內地移出ノ不引合ナリシコト

二、洛東江流域ヲ始メ當港商圈內ニ於ケル南鮮地方一帶水害ノタメ不作ニ終リタルコト

三、納稅法ノ改正ニヨリ小作人ハ從來ノ如ク賣急クノ必要ナキニ至リシコト

四、本年米價ハ夏秋ニ於テ未曾有ノ高値ヲ示シタルニ依リ農民ハ今後又同樣ノ騰貴アルヘシト豫想シ一般ニ賣リ澁リ勝チナリシコト

五、內地人移住民ノ增加及鮮人生活狀態ノ向上ニ伴ヒ朝鮮內部ニ於テ本品ノ消費量ヲ增加シタルコト

六、金融機關ノ普及授產事業ノ進捗恩賜金等種種ノ原因ニヨリ地方農民ノ經濟狀態ヲ良好ナラシメタル結果一般ニ米穀ヲ濫賣セサルニ至リシコト

大豆

大豆ハ其ノ成熟期ニ際シ降雨多量ニシテ洛東江筋ハ大部分水害ヲ蒙リ殊ニ夏大豆ノ如キ殆ト收穫皆無ノ地方モアリ爲ニ當港出廻高ヲ減少セリ

小豆

本品ハ一般不作ナリシノミナラス在住內地人增加ノタメ菓子製造原料トシテノ需要增加シタルニ依ル

大麥及小麥

大麥ハ概シテ不作ナリシニ加ヘ地方民ノ食料及馬糧トシテ消費シタルモノ多ク又小麥ハ酒、醬油及製粉原料トシテ需要ヲ增加セシニ由ル

右ノ如キ原因ニヨリ各生產地ヨリノ出廻ハ何レモ一二割ノ減少ヲ來シタリ只稀ニ道路ノ改修鐵道ノ敷設等交通運輸機關ノ發達ニヨリ當港廻著高ヲ增加シタル地方ナキニアラス卽チ湖南線ノ開通及沿岸航路ノ發達等ハ其ノ地方穀物ノ當港出廻高

ヲ増加シタルコト少カラス而シテ下端、舊馬山、群山、浦項、木浦、辰橋、蔚山等ノ沿岸諸港及慶山、龜浦、倭館、洛東江、密陽、清道、進永等ノ鐵道沿線地方ヨリハ毎年何レモ一萬石以上ノ穀物ヲ廻送シ來リ從來當港穀物界ハ專ラ是等各地ヨリノ出廻増減ニヨリテ左右セラレタルモノニシテ本年當港穀物界ノ不振ヲ來セルハ是等諸地方ヨリノ出廻減少シタルニ起因スルモノナリトス

次ニ内地及諸外國ヨリノ輸移入狀況ヲ見ルニ内地ヨリ移入セシモノハ殆ト全部糯米ニシテ外國(英領印度及暹羅)ヨリ輸入セシモノハ碎米ナリ又粟ハ全部清國ヨリ輸入シタルモノナリトス更ニ鐵道直通便ニテ當港ヲ通過シ直接内地ニ移出シタルモノハ總額七萬五千二百四十六石ニシテ内米九百九十五石、大豆七萬千百三十六石、小豆四百六十一石、荏胡麻子二千五百六十五石、麥六十四石、雜穀二十五石ナリ之ヲ前年ニ比較スルニ四萬五百九石ノ減少ニシテ就中大豆ハ二萬六千六百餘石ヲ減シ其ノ他米、麥等何レモ多少ノ減退ヲ來セリ而シテ之カ仕出地ノ主ナルモノハ慶山(一二、三八九石)金郊(八、三三九石)汗浦(八、三〇一石)倭館(六、七一六石)金泉(五、三一〇石)鳥致院(五、一八六石)大田(四、八一一石)大邱(二、八一八石)南川(二、一六二石)深川(二、一三六石)等ニシテ仕向地ノ主ナルモノハ阪神地方ヲ第一トシ下關、尾ノ道、鹿兒島、糸崎、廣島等之ニ次ク而シテ近來直通輸送ニヨル取引額ハ漸次増加ノ傾向アリ

第二　散布狀況

本年當港ニ於ケル穀物散布ノ狀況ヲ見ルニ散布總額六十一萬五千四十七石ニシテ之ヲ前年ニ比スルニ朝鮮沿岸ヘノ回漕額ハ二萬五千九百三十七石、千地移出ハ十六萬八千九百二十二石、清國輸出ハ一萬五千七百四十九石、浦鹽輸出ハ一萬八千百六十五石、合計二十二萬八千七百七十三石卽チ二割七分ヲ減少セリ之レ畢竟來集額減少ノ結果ニシテ更ニ之ヲ品種別ニ見ルニ米十一萬一千二百四十五石、大豆六萬八千三百二十八石、粟一萬八千三百三十五石ヲ減少シ其ノ他何レモ多少ノ減退ヲ示シタリ斯ノ如クシテ本年當港ノ輸移出貿易ハ甚シキ不振ヲ見ルニ至リタリ今各品種別散布額ヲ揭クレハ左ノ如シ

四十四年中釜山港穀物散布額　(單位石)

品種	朝鮮沿岸回漕	内地移出	清國輸出	浦鹽輸出	合計
玄米	四、五八九	五〇、一二五	一一六	—	五四、八三〇
精米	一〇〇、二七三	一二、六五九	二〇五	五、六五六	一一八、七九三
糯及粉米	二、五六一	三、二五二	—	一一二、七〇二	一一八、五一五
大麥	一、三二七	六三	二六二	—	一、六五二
小麥	一三、四一〇	三三	—	—	一三、四四三
大豆	一八五	二六〇、九六九	—	—	二六一、一五四
小豆	二、九五九	二、三一二	—	—	五、二七一
粟	二八、六二八	—	—	—	二八、六二八
荏胡麻子	—	七、八九九	—	—	七、八九九
雜穀	四、七三二	一三〇	—	—	四、八六二
合計	一五八、六六四	三三七、四四二	五八三	一一八、三五八	六一五、〇四七

(備考)　内地移出中ニハ鐵道直通輸送ニヨリタルモノヲ含ム

右表ニ見ルニ米及大豆ハ當港散布穀物中ノ九割ヲ占メ實ニ當港輸移出品中ノ大宗ニシテ本年輸移出貿易ノ不振ハ全ク米及大豆ノ輸移出減少ニ基クモノトス

又當港穀物ノ仕向地ヲ示セハ左ノ如シ

四十四年中朝鮮沿岸回漕穀物仕向地別表　（單位石）

仕向地＼品種	玄米	精米	粉米	大豆	粟	大麥	小麥	小豆	黍	雜穀	計
元山	二三	二九,九四五	一四五	六	二,六六一	一五八	九,一四五	一,九四〇	二,一九七	—	五六,四一〇
獨津	一	九,七七四	二五九	二九	二,二四九	—	五五	一〇〇	九五	一	一二,五六三
三渉	二	一,二二五	九二	—	二九〇	一	九	一五	—	—	一,六二四
縣洞	七〇	三,五六九	六九	五	三一	七三	六一	七五	—	一	三,九五四
三千浦	一二〇	五〇二	—	—	—	四二	一六	一四	—	二	七〇五
淸津	二六	一五,五〇二	五三	一	一,三八九	一六	一	一五	九七	—	一七,一〇〇
舊馬山	一,五四一	二,一六八	—	二	三一	三一六	八一	一九四	—	—	四,三三三
統營	一六六	四,四二三	七四	六	二	七七	八六一	五	—	一	五,六一四
艾津	五	五	—	—	五〇	—	—	—	—	—	六〇
木浦	一五〇	一九四	二五	二三	四〇	—	九六	八三	—	—	六一一
新昌	五九	一,六一八	三六五	—	二,〇五三	—	七六	一	二〇六	一七	四,三九五
筏橋	一	六八	—	一四	—	二	三〇	二三	—	—	一三八
仁川	二,二三五	三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	二,五三五
順天	—	二	—	四	—	七	五	八	—	—	三六
河東	—	一一	—	—	—	五	三	三	—	—	二二
竹邊	—	八三四	三八	—	九	二一	三〇	一	—	—	九三三
杆城	—	一,〇〇七	八六	—	五一	四	四二	一	八	—	一,一九九
江陵	—	三,一九八	一九	—	三七五	四	—	二〇	五七四	—	四,一九〇
襄陽	—	一,三七五	二七七	—	一〇一	五	一三	一	八	—	一,七八〇
城津	—	二,八九五	一六七	七	二,九二一	二二	四七一	—	七七	三	七,二六三

三湖	—	三四七	—	—	二二四	八	一三三	—	一三九	一	八五二
靜由	—	三四七	—	二五	八一五	三六〇	—	二三	—	—	一、五七〇
馬山	—	一、〇六四	三	二〇	一五	一二	六〇	一九四	—	三二	一、五一七
端川	—	二八六	三一	—	八〇三	一	二三九	—	五	一	一、三六七
廣橋	—	八四	三〇	—	—	一五	—	二	—	—	一三一
麗水	—	一、六七二	—	三	一	一八	五一	一〇	四	一五	一、七七四
巨濟島	—	三、九一七	—	二四	三	五	二	六六	—	—	四、〇二七
晉州	—	四四	三	—	—	二〇	—	三	—	—	七〇
鏡城	—	三〇	三〇	—	一六二	—	—	—	一五	—	二三七
新浦	—	一、一六一	一〇	—	七八九	—	二三	—	一四九	—	二、一三三
遠湖	—	九〇一	一〇六	—	九八七	—	一三	—	一一四	六	二、一二七
注文津	—	八五五	四〇	四	四三	—	—	五	二	—	九六八
前津	—	一、三八四	五八	—	七三二	—	一、六七二	—	三三	—	三、八七九
厚湖	—	一〇八	四〇	一四四	—	—	—	一〇	—	—	三〇二
群仙	—	四二	二	—	一四九	—	—	—	二五	—	二一八
長箭	—	五五〇	四九	—	五五	—	七五	—	一八	—	七四八
雄基	—	一、六二七	六〇	—	四五〇	—	—	—	三	—	二、二四〇
浦項	—	三四〇	二〇	一	二〇二	—	—	三	二〇	—	五八六
利原江津	—	三	—	—	五〇	—	—	—	九	—	六二
陽化	—	六	—	—	一四一	—	—	—	一一〇	—	二五七
鹽盆	—	二四	—	—	四九	—	—	—	三	—	七六
西湖	—	一、二〇六	一六	—	一五二	—	一〇	—	—	—	一、三八四
鷺梁津	—	一二六	三	—	—	—	—	六	—	—	一三五
金海	—	八三	六	—	—	—	一〇	—	—	二	一〇一
加德	—	一三五	一	—	—	—	—	一	—	—	一三七

長生浦	—	四六八	二	一	一	—	二一	四	—	—	四九二
陸臺	—	二〇	二五	—	一二八	—	七	—	—	—	一八〇
方魚津	—	一,六六四	—	—	—	—	三九	三	—	—	一,七二二
機張	—	二三	—	三	—	—	一五	—	—	—	四一
蔚山	—	一四〇	—	一	三四	—	二五	—	—	一	二〇一
德山	—	一一八	—	一	—	—	—	三	—	—	一二二
濟州島	—	一〇八	—	二	一	—	—	一	—	一	一一三
羅老島	—	五二七	—	—	二〇	—	—	六	—	—	五五三
大邊	—	一〇一	—	—	四	—	—	一	—	—	一〇六
其他	—	二,〇五三	三三七	三	三二一	二六	一〇	一二〇	—	—	二,七七〇
合計	四,五八九	一〇〇,二七二	二,五六一	一八五	二八,六二八	一,三三七	一三,四一〇	二,九五九	四,六四〇	九二	一五八,六六四

四十四年中輸移出穀物仕向地別表（單位石）

仕向地／品種	玄米	精米	籾	粉米	大豆	小豆	大麥	小麥	荏胡麻子	雑穀	計
大連	一一六	一五〇	—	—	—	—	二六二	—	—	—	五二八
芝罘	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一	一
天津	—	五四	—	—	—	—	—	—	—	—	五四
浦鹽	—	五,六五六	一二,七〇三	—	—	—	—	—	—	—	一八,三五八
大阪	二七,六〇四	五,〇三七	一	一,九七四	五一,二三八	二二七	三七	—	九九三	—	八七,一九五
神戸	二〇,八三六	四九	—	—	五四,二四三	六九一	二	—	三六〇	—	七六,一八一
下關	一,〇五五	八四四	一〇	二五二	七六,九一九	七二三	一七	二	五,二三九	二六	八五,一一六
吳[illegible]	三九八	一	—	—	三,八五五	—	—	—	—	—	四,二五四
尾ノ道	三九	—	—	—	一三,五七一	二一	—	—	三二	—	一三,五四三
己斐	八七	四	—	—	四,二四一	—	—	—	三〇三	三〇二	四,九三五
博多	一	九三	—	九五三	一一,七一五	六六	—	—	二〇〇	四六	一三,一一二
佐須奈	九	一,[illegible]	—	一	六〇四	一二	—	—	—	—	一,七八七

島田	三	—	—	—	二三五	二	七	一〇	—	二	二五九
境	六七	五二	—	—	六、五〇四	三九	—	二	二八	—	六、六九二
嚴原	—	二、〇二八	—	五六	六七〇	二四七	—	—	—	二	三、〇〇三
鹿見	—	一、〇一九	—	六	一三〇	二九		—	一	—	一、一八五
糸崎	—	七五	—	—	六、三三六	一四	—	—	—	—	六、四二五
門司		二、二一五	—	一七四	一、八六四	—	—	—	—	—	四、二五三
小倉	—	二六	—	—	一	一	—	—	—	—	二八
濱田	—	九	—	—	一、七三八	六六	—	—	—	—	一、八一三
唐津	—	—	—	一三一	四六九	—	—	—	—	—	六〇〇
長崎	—	—	—	三五	三、六二四	一五	—	—	—	五二	三、七二六
鹿兒島	—	—	—	—	七、四九三	—	—	—	—	—	七、四九三
廣島	—	—	—	—	三、二四八	—	—	—	三二九	—	三、五七七
佐賀	—	—	—	—	四一六	三	—	—	一四二	一	五六二
其他	二六	五〇	—	一九	一二、六三七	五六	—	—	二八三	一	一三、〇七二
合計	五〇、二四一	一八、五二〇	一二、七一三	三、二四一	二六〇、九六九	二、三一二	三一五	三三	七、八九九	一三〇	四五六、三八三

右表ニヨリ當港穀物散布ノ狀況ヲ見ルニ朝鮮沿岸貿易ニ在リテハ精米及粟ノ移出最盛ンニシテ精米ハ全移出額ノ六割三分、粟ハ一割七分ヲ占メ其ノ他ハ小麥、玄米、粉米、黍等ナリトス而シテ是等ハ全部日鮮人ノ食料ニ供セラルルモノニシテ沿岸地方ハ未タ精米業ノ發達遲遲タルヲ以テ多クハ當港ヨリ精米ノ供給ヲ仰キツツアリ又北鮮地方ハ米穀ノ產出少ク粟、粉米、黍等ヲ常食トスルヲ以テ粉米、粟、黍等ノ同地方ニ輸送セラルルモノ亦少カラス而シテ是等穀物ノ主ナル仕向地ハ咸鏡南北道及江原道ナルモ近來當港附近ニ於ケル漁村ノ發達ニ伴ヒ是等ノ沿岸各地及諸島ニ仕向ケラルルモノモ漸次增加スルニ至リタリ

內地及諸外國ニ對スル輸移出ノ狀況ヲ見ルニ浦鹽港ニハ籾十一萬二千七百餘石、精米五千六百餘石ヲ輸出セリ同港ハ明治四十二年四月自由港閉鎖ト共ニ籾米ノ輸入ハ無稅トナリタルニ反シ精米ハ一プード〇・四五ルーブルノ關稅ヲ課スルニ至リシヲ以テ同年以降當港ヨリノ輸出精米ハ次第ニ減少シ籾米ハ益增加シタリ又大連及天津ハ重要ナル米穀需要地ナルモ同地ハ木浦、群山、仁川、鎭南浦等ヨリ輸入スル方運賃其ノ他ニ於

テ便益多キヲ以テ是等諸港ヨリ輸入スルモノ多ク當港ハ到底是等諸港ト競爭スル能ハス隨テ同地方輸出ハ次第ニ減少シツツアリ

内地仕向地中最多キハ阪神地方ニシテ關門、對馬各港、尾ノ道、鹿兒島、鐵、糸崎、己斐等順次之ニ次キ米及大豆ノ移出頗ル多シ殊ニ大豆ハ鐵道直通輸送ニ依リ中國九州各地ニ移出スルモノ漸ク増加スルニ至レリ

第三　出穀及輸移出ノ時期

四十四年中當港ニ於ケル穀物ノ出廻及輸移出ノ月別數量ヲ示セハ左ノ如シ

四十四年中當港穀物出廻月別表　（單位石）

月別＼品種	米	大豆	小豆	大麥	小麥	荏胡麻子	粟	雜穀	計
一月	四五、九三七	一三、九〇八	二〇七	二三七	二四七	三六六	一、九一八	三五七	六三、一七七
二月	三〇、一七五	九、二三四	二五四	二七二	二四九	七八	一、六四三	五七五	四二、四八〇
三月	四一、四五七	八、一三五	一、〇四二	八五五	三三〇	七八	一、二〇五	一、七三五	五四、八三七
四月	三三、一八〇	四、八五九	三四三	一三九	一、一七一	一五	五三四	二、八五五	四三、〇九六
五月	三一、六七五	四、〇七一	一三九	一八八	四七九	一〇	二、〇一五	一、九三一	四〇、五〇八
六月	九、四四三	一、九八一	七三	七〇	—	二	七〇八	三八七	一二、六六四
七月	一六、九〇九	二、〇一〇	三三三	一四二	一二	二	二四	一〇	一九、四四二
八月	二〇、一五六	一、〇三八	五五〇	二、七三三	一、三七八	—	二	四七六	二六、三三三
九月	一五、五五七	八、一八三	二一五	二、四〇一	一、〇三三	—	一〇	六三	二七、四六二
十月	八、八六二	二五、一四一	六二	八九三	一、五四二	三四	—	三六	三六、五七〇
十一月	二四、八〇五	三五、四七一	二三一	四〇二	二六八	一八四	一八	一八	五九、四一八
十二月	三八、〇六八	二八、一四三	七八三	四一七	四六二	五六九	三四	四〇一	六八、八七七
合計	三一六、三〇四	一四〇、一七四	四、二一三	八、六七九	七、一八一	一、三四八	八、一〇一	八、八四五	四九四、八四五

四十四年中内地及諸外國輸移出穀物月別表　（單位石）

月別＼品種	玄米	精米	糯米	粉米	大豆	小豆	大麥及小麥	荏子	雜穀	計
一月	一七、四一三	八〇八	七、九四三	六三五	四四、〇九八	一七九	四〇	三、四二一	—	七四、五三七
二月	四、三五五	一、六一六	八、八八〇	六三六	二二、三三一	八〇一	二	五五九	一	三九、一八一
三月	二、六六六	一、三一一	二〇、一四九	九〇	一八、四二四	二六九	二三三	一八〇	二	四三、三二四
四月	一、五四一	八四八	七、〇〇〇	一七六	一六、七三六	五一	—	五九	四〇	二六、四五一
五月	三、八三〇	一、七二七	五、四二七	四六二	一〇、一〇七	一五	一五	二五二	五五	二一、八九〇
六月	三、九六四	二、五〇〇	一五、八九六	二六一	七、八二六	四一	二二	—	五	三〇、四七四
七月	二、九六四	一、一五一	三、二七四	二三〇	二、八八四	四〇	一	一四	二五	一〇、五八三
八月	七、七四一	二、五六九	一一、二四六	八一	三、一九七	七	四九	—	一	二四、八九一
九月	五、一五四	三、六六六	一〇、一九二	四一七	八、六八一	八二	一〇八	—	—	二八、三〇〇
十月	一一七	一、一七六	二、四〇八	二〇三	三四、五九九	八三	—	二九三	—	三八、八八〇
十一月	二一	九四〇	七、四一〇	三六	五一、六〇八	一四八	—	一、五一五	一	六一、六七九
十二月	四五四	二七四	二、八一三	八一	四〇、四九八	二八	—	一、五九六	—	四五、七四四
合計	五〇、二四一	一八、五三〇	一一二、七一三	三、二四一	二六〇、九六九	一、三三二	三五八	七、八九九	一三〇	四五六、三八三

元來當港ノ穀物出廻季節ハ概シテ收穫後五六箇月ノ間ニシテ普通十月ヨリ翌年三月ニ至ル六箇月間ト見ルヲ得ヘシ然レトモ年ニヨリ作柄ノ豐凶、收穫期ノ遲速、相場ノ關係其ノ他ノ事情ニ依リ其ノ間多少ノ遲速アルハ固ヨリ免レサル所ナリトス」

今右ノ表ニ見ルニ本年ハ一月ヨリ五月迄ハ米、大豆共ニ盛ニ出廻アリタルモ六月以降ハ次第ニ産地品薄ヲ告ケ出廻減少シ十月下旬ニ至リテハ新大豆、十一月ニ入リテハ新米ノ出廻アリテ再ヒ穀物界ノ活氣ヲ呈シタリ然レトモ本年ハ七月大洪水ノ爲メ夏大豆ノ收穫著シク減少シタル爲十月中新大豆ノ出廻ハ

例年ニ比シ頗ル減少シ米ノ如キモ收穫期ノ後レタルト相場ノ關係トニヨリ其ノ出廻期ハ約一箇月間後ルルニ至リタリ

次ニ輸移出ノ時期ハ概シテ出廻季節ト一致スレトモ是亦相場ノ關係等ニ依リ時ニ著シク變動アルヲ免レス

○朝鮮貿易概況（四月分）

本年四月中ノ朝鮮貿易品價格ハ輸移出百五十六萬三千七百四十五圓、輸移入六百七萬七千四百四十四圓、合計七百六十四萬一千百八十九圓ニシテ差引四百五十一萬三千六百九十九圓ノ入超ヲ呈シ一月以降累計輸移出五百十五萬六千四百九十圓、輸移入一千九百八萬七千百六十六圓、合計二千四百二十四萬三千六百五十六圓ニシテ差引一千三百九十三萬六百七十六圓ノ入超ヲ示セリ而シテ此累計額ヲ前年同期ニ比較スルニ輸移出ニ於テ二百二萬九千八百六十四圓ヲ減少シ輸移入ニ於テ三百六十八萬九百七十六圓ヲ増加セリ

次ニ貿易品ノ趨勢ヲ見ルニ輸移出累計ニ於テ前年同期ニ比シ増加セルハ雜穀、乾魚及鹹魚、金鑛、鐵鑛、黑鉛、肥料等ニシテ減退セルハ米ノ六十四萬圓ヲ主トシ麥類、豆類、生牛、鮮魚、木材及板、牛皮等ニシテ輸移入ニ於テハ罐詰類、蠟燭、綿繻子及綿「イタリヤンス」、靴及履物ノ各品ニ減少ヲ示セル外總テ増加ヲ呈シ其ノ主ナルモノハ金巾及「シーチング」ノ六十一萬四千圓、石油ノ三十一萬六千圓、麻布ノ十七萬九千圓、鹹魚及綿織絲ノ各十五萬四圓千、毛織物ノ十二萬九千圓、小麥粉ノ十一萬圓等ナリ今本月分貿易ノ概要ヲ表示スレハ左ノ如シ

一 貿易價額港別（四月分）

（四）

（△印ハ減）

區別	仁川	釜山	元山	鎭南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行巖灣	清津	城津	新義州及龍巖浦	平壤	合計	四十四年同期	增減
輸出	九二、四五〇	一四九、四六四	一、一六八	五二一、一九五	二、五四八	三八、九七一	三八、〇〇五	三〇九	—	七五四	九五五	一五一、五〇九	六一、八二一	五八〇、一四九	四〇四、三一〇	一七五、八三九
移出	一四六、五一四	二五八、八四三	三三三、四八二	一六三、六一一	五、九六九	一九四、〇四二	一〇九、三三三	八、五二一	一一、一八八	三、〇〇一	三四、四一〇	四、五〇三	一一、二八九	九八三、五九六	八九四、五三九	八九、〇五七
計	二三八、九六四	四〇八、三〇七	三三四、六五〇	六八四、八〇六	八、五一七	二三三、〇一三	一四七、三三八	八、八三〇	一一、一八八	三、七五五	三五、三六五	一五六、〇一二	七三、一一〇	一、五六三、七四五	一、二九八、八四九	二六四、八九六
輸入	一、二二五、三〇六	四一八、〇七五	一二九、八二三	二四八、〇六三	三五〇、四九五	五七、五五四	二九、二四九	九、八六三	四、四八〇	二三、五九〇	一〇、〇九九	一〇四、三五九	五一、四五五	二、五六〇、三二〇	一、六五八、三七七	九〇一、九四三
移入	六七三、七七九	八八九、七三八	二四五、七七四	一七一、六六五	五九一、五七一	一八九、七〇五	一一一、七〇二	九〇、二〇八	八六、四六六	六六、二〇八	四一、一四七	四五、〇三八	二一四、一二三	三、五一七、一二四	二、六八八、五七七	八二八、五四七
計	一、八九七、〇八五	一、三〇七、八一三	三七五、六〇六	四一九、七二八	九四二、〇六六	二四七、二五九	一四〇、九五一	一〇〇、〇七一	九〇、九四六	八九、七九八	五一、二四六	一四九、二九七	二六五、五七八	六、〇七七、四四四	四、三四六、九五四	一、七三〇、四九〇
出入合計	二、一三六、〇四九	一、七一六、一二〇	四一〇、二五六	一、一〇四、五三四	九五〇、五八三	四八〇、二七二	二八八、一七九	一〇八、九〇一	一〇二、一三四	九三、五五三	八六、六一一	三〇五、三〇九	三三八、六八八	七、六四一、一八九	五、六四五、八〇三	一、九九五、三八六
輸移入超過	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四、五一三、六九九	三、〇四八、一〇五	一、四六五、五九四

區別	仁川	釜山	元山	鎭南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行巖灣	清津	城津	新義州及龍巖浦	平壤	合計	四十四年同期	增減
（一月以降累計）輸出	二四四,八二二	三八六,二〇七	一三二,四六六	九〇,六九九	一六,八〇七	一一二,五七一	八七,七九七	一,〇五六	—	三,五九七	一五,六一五	三六四,二〇二	七一,五八九	一,四〇七,四二八	二,〇五四,四四〇	△六四七,〇一二
移出	五五七,六七三	一,四四六,四一四	二三六,三六一	二七九,一八一	四〇,九四四	四八五,一四〇	二六九,九二一	二七,六九八	三九,六六八	一五,六二〇	三二二,二一九	五,五七一	二二,六八二	三,七四九,〇六二	五,一三一,九一四	△一,三八二,八五二
計	八〇二,四九五	一,八三二,六二一	三六八,八二七	三六九,八八〇	五七,七五一	五九七,七一一	三五七,七一八	二八,七五四	三九,六六八	一九,二一七	三三七,八三四	三六九,七七三	九四,二七一	五,一五六,四九〇	七,一八六,三五四	△二,〇二九,八六四
輸入	三,〇六〇,九三九	一,八四九,五五五	三八九,七二一	四〇四,〇七七	九一七,二〇三	一五九,七一八	一〇八,〇八〇	三九,七六八	九一,八七八	五二,一二一	三〇,一〇二	二五二,四四四	一六二,八五〇	七,五一八,四五五	五,八〇二,一二九	一,七一六,三二六
移入	二,一五三,〇七七	三,〇九二,八三五	七九〇,五七四	二四五,三一三	二,三三〇,九一一	六三九,九八四	四三八,五九七	三五八,九七四	二八九,〇〇八	二八一,三五九	一六九,四二二	一〇四,二二三	六七三,四三四	一一,五六八,七一一	九,六〇四,〇六一	一,九六四,六五〇
計	五,二一四,〇一六	四,九四二,三九〇	一,一八〇,二九五	六四九,三九〇	三,二四八,一一四	七九九,七〇二	五四六,六七七	三九八,七四二	三八〇,八八六	三三三,四八〇	一九九,五二四	三五六,六六七	八三六,二八四	一九,〇八七,一六六	一五,四〇六,一九〇	三,六八〇,九七六
出入合計	六,〇一六,五一一	六,七七五,〇一一	一,五四九,一二二	一,〇一九,二七〇	三,三〇五,八六五	一,三九七,四一三	九〇四,三九五	四二七,四九六	四二〇,五五四	三五二,六九七	五三七,三五八	七二六,四四〇	九三〇,五五五	二四,二四三,六五六	二二,五九二,五四四	一,六五一,一一二
輸移入超過	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一三,九三〇,六七六	八,二一九,八三六	五,七一〇,八四〇

二　貿易價額國別（圓）

國別	四月 輸出	四月 輸入	四月 合計	一月以降累計 輸出	一月以降累計 輸入	一月以降累計 合計
清國	三五九,五七四	八八五,一三八	一,二四四,七一二	九二〇,七五九	一,七八四,二七九	二,七〇五,〇三八
香港	—	三五,二七六	三五,二七六	五六六	六〇,九〇四	六一,四七〇
英領印度	九三	一二,七二九	一二,八二二	九三	三〇,八二〇	三〇,九一三
英領海峽殖民地	—	四,九二三	四,九二三	四	八,二〇二	八,二〇六
蘭領印度	—	二五,九一四	二五,九一四	—	一〇四,一六五	一〇四,一六五
佛領印度支那	—	二,三一四	二,三一四	—	二,五三一	二,五三一
露領亞細亞	一四五,六九八	二四,七二七	一七〇,四二五	三八三,九〇六	三四,七二六	四一八,六三二
比律賓諸島	一六	二六〇	二七六	二七	一,六七九	一,七〇六
暹羅	三一	—	三一	三一	四,三〇九	四,三四〇
英吉利	四四,八一二	七五二,六六四	七九七,四七六	四七,八八七	二,四七九,〇九一	二,五二六,九七八
佛蘭西	三八	五,二五五	五,二九三	二〇六	一六,四三七	一六,六四三
獨逸	九	一二六,一三七	一二六,一四六	二,五四一	六五〇,六五四	六五三,一九五
白耳義	—	一四,五八二	一四,五八二	五	四五,三三四	四五,三三九
伊太利	二三	八三五	八五八	五九	七,八七五	七,九三四
瑞西	五	四,〇〇三	四,〇〇八	一一	八,一四六	八,一五七
墺太利匈牙利	—	一五六	一五六	—	二,四八一	二,四八一
和蘭	—	四三六	四三六	一三	六二〇	六三三
瑞典	—	三,六四〇	三,六四〇	—	三,七三六	三,七三六
露西亞	八	二,二一五	二,二二三	三〇	五,二二四	五,二五四
丁抹	—	—	—	—	七五五	七五五
土耳其	—	三,一四一	三,一四一	—	一一,一一六	一一,一一六
北米合衆國	二九,七七七	六一七,四六八	六四七,二四五	五二,〇五三	二,一八五,六三八	二,二三七,六九一
英領亞米利加	二	三三,二六一	三三,二六三	八一	四八,六八七	四八,七六八
濠太剌利	—	二,六四六	二,六四六	一	九,二七六	九,二七七
布哇	三〇	六三	九三	一一九	七九	一九八
埃及	—	二二四	二二四	—	一,八七九	一,八七九
其他諸國	二三	三,三三三	三,三五六	二六	一九,八三二	一九,八五八
總計	五八〇,一四九	二,五六〇,三二〇	三,一四〇,四六九	一,四〇七,四二八	七,五一八,四五五	八,九二五,八八三

三 輸出及移出重要品價額港別（圓）（四月分）

（△印ハ減）

品名	仁川	釜山	元山	鎭南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行廟灣	淸津	城津	新義州及龍岩浦	平壤	合計	一月以降累計 四十五年	四十四年	增減
米	一〇五、二二九	一九七、〇四一	ー	六六、〇五五	ー	二〇五、八五〇	三六、一四〇	ー	八〇五	ー	ー	三七、九三三	七八	六四九、一三一	一、四八〇、四一八	二、二二四、五一二	△七四四、〇九四
大麥及小麥	二七四	三四一	ー	一、一二四	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一四	ー	一、七五三	三、七九六	七、〇七六	△三、二八〇
豆類	八三、七四六	六八、三八四	一九、七〇八	八三、六〇七	ー	三、五〇三	ー	一、四九四	二、一九〇	一、二三四	三四、一九三	三、〇三四	一、四一六	三〇二、四六九	一、六四三、四八八	一、六五四、八六三	△一一、三七五
雜穀	ー	七	ー	二、一五五	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	三五、〇八一	五〇〇	三七、七四三	六〇、九七三	三〇、九三三	三〇、〇四〇
鮮魚	ー	五、七七一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	一	ー	二、七〇七	ー	八、四七九	五三、六一九	七〇、八四六	△一七、二二七
乾魚及鹹魚	ー	一、七九六	三	ー		ー	四四	ー	ー	三三〇	ー	三三四	ー	二、五〇七	一四、六〇〇	六、〇五〇	八、五五〇
人蔘	ー	二七	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二七	一七三	二四二	△六九
棉花	ー	六、二八八	ー	ー	ー	ー	五五、四二二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	六一、七一〇	一五三、六九四	一五四、二六二	△五六八
金鑛	一一、三一六	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	六〇、八一〇	七二、一二六	九二〇、六三一	五二二、二七一	三九八、三六〇
銀鑛	ー	ー	ー	二五、二四九	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二五、二四九	二五二、二四九	二五二、二〇〇	四九
黑鉛	ー	一、六五五	八、一〇〇	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	九、七五五	二一、三五六	一三、八九二	七、四六四
石炭	三九六	ー	ー	二三、六五七	ー	四	ー	ー	ー	ー	ー	三六〇	ー	二四、四一七	五七、八四一	六四、六六六	△六、八二五
牛皮	四、六一一	二一、二三〇	三九〇	九、〇一六	五、二九一	八、七八三	九、六四二	六、二四〇	六〇〇	ー	一〇〇	三六、六三七	五、八九二	一〇八、四三三	三八〇、二一九	三八二、八二三	△二、六〇四
生牛	ー	二、八六三	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二三〇	ー	三、〇八三	四三、六〇一	一二八、二九四	△八四、六九三
木材及板	一八八	一五	ー	ー	ー	ー	ー	ー	五三	ー	ー	二、二八二	ー	二、五三八	九、四四四	一九、五八四	△一〇、一四〇
肥料	七、〇〇〇	三、七五九	一六九	二、〇四三	ー	五五〇	七〇一	ー	九四	一八五	ー	八二六	一五〇	一五、四七七	六七、八九五	五三、〇八〇	一四、八一五
其ノ他諸品	二六、二一五	九九、一三八	六、二八〇	二、八六〇	三、二三六	一四、三一三	一五、二七九	一、一三六	七、四四六	二、〇一五	一、〇七一	一六、六〇五	四、二五四	一九九、八四九	一、〇五二、〇六二	二、三九七、七五七	△一、三四五、六九五
總計	二三八、九六四	四〇八、三〇七	三四、六五〇	二一四、八〇六	八、五一七	二三三、〇一三	一二七、二二八	八、八三〇	一一、一八八	三、七九五	三九、三六五	一五六、〇一三	七三、一一〇	一、五六三、七四五	五、一五六、四九〇	七、一八六、三五四	△二、〇二九、八六四

四 輸入及移入重要品價額港別（圓）（四月分）

（△印ハ減）

品名	仁川	釜山	元山	鎭南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行廟灣	淸津	城津	新義州及龍岩浦	平壤	合計	一月以降累計 四十五年	四十四年	增減
小麥粉	一一、六二一	二四、九九四	三、九八〇	五、四五八	一六、九三〇	八、六三一	七、三四六	四、四二六	一、九四〇	九〇六	二〇〇	三、九四四	六、四九〇	九六、八五七	二六四、七五七	一五三、〇八五	一一一、六七二
食鹽	二四、三二七	五、五〇八	七、九二二	九、九八九	ー	八、一五八	ー	ー	ー	九六〇	一、六三一	一一、九三四	ー	七〇、四三〇	一三六、七六九	九五、八一八	四〇、九五一
果實及核子	三、〇九八	八、〇二四	九七〇	七四二	七、四七九	一、六三一	一、九九〇	九八二	八九六	九二六	一一八	七一六	二、七一三	二九、八五六	一二九、八四四	一二〇、七三〇	九、一一四
鹹魚	二八、九七五	一九、五三六	二、五八六	三九、一一五	[illegible]	二、〇二三	六三	七六	一八	九五四	一〇八	二、二〇三	二〇、四六八	一一五、五五五	三二五、六八二	一七一、一一八	一五四、五六四

品名	仁川	釜山	元山	鎮南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行巖灣	清津	城津	新義州及龍岩浦	平壤	合計	一月以降累計 四十五年	四十四年	增減
罐詰及壜詰食物	三一、一五五	六、六八三	八三〇	一、六〇六	一、九七八	九六八	一、〇三三	七三五	一五一	四一七	一六一	六〇三	一、〇一六	一八、三三五	五四、八八〇	五七、五六六	△二、六八六
砂糖及精糖	三二、八九六	五三、九九四	八、三四九	一、五三〇	一四、一七三	三三、七五四	七、六〇六	三、三七六	一、五九一	一、九一六	二四一	二、三八九	五、五〇八	一四五、六一三	四三一、五九九	三三六、三五七	九五、二四二
清酒	七、八〇一	九、八五一	四、七一〇	一、九一〇	一三、四七四	三二、一一〇	二、六七九	一、二七〇	一、〇五六	二、二〇六	—	一、一六〇	四、七八二	五四、〇三〇	二〇九、三三三	一六〇、四九四	四八、八三九
麥酒及黑麥酒	七、七八八	七、八六五	一、八二〇	一、四一〇	一五、七二三	三、〇三〇	三、三〇三	一、九一八	九一六	一、六一〇	三一五	一、三三三	四、三三九	四九、三四九	九二、一〇一	七三、八二七	一八、二七四
其ノ他ノ酒類	七、三四八	二、八七八	二〇三	四三一	二、七一〇	一八九	六五	八	一六	一五六	—	八、六六五	三九九	三三、八九四	五六、一九七	三四、八〇八	二一、三八九
石油	四六、七七九	九九、三九八	三二、四三〇	一〇八、一二五	—	二、六九八	一、八〇〇	—	—	一、五四三	—	五五三	—	二六四、三三六	六三四、一八三	三一八、三三三	三一五、八七一
蝋燭	八三三	九三一	一〇三	一、七八〇	二五一	二八	五〇	五	五	五七	—	四八一	一八	三、七〇三	三三、五八三	四五、三四七	△一一、七六四
綿及打綿	一、〇〇三	二、三二三	一、四三三	一〇〇	二、三四四	三九一	二〇四	四六九	三八五	三、八四三	一、二五一	二八九	四〇五	一三、三三九	一〇七、八〇八	七五、四九一	三二、三一七
綿織絲	三八、九七四	七九、六一九	八、六三三	一四、八六六	三二、四四七	八、二三五	七、五四三	一三、一六九	四八八	三九八	二、一〇六	二八三	四六、〇五七	二四一、二八七	八六六、四〇八	七一一、〇九五	一五四、三一三
生金巾及生シーチング	二一〇、七五三	七三、三六四	二五、四四四	一一、七九〇	一三三、〇六一	四六、八四〇	六、〇三〇	一、八四一	—	五、七五一	二、二三〇	九六六	一八、一八九	四四六、一七九	一、九一九、三八一	一、三七四、一七八	五四五、二〇三
晒金巾及晒シーチング	一一九、六九六	四六、八五七	一五、八八三	九、一二八	一九、一一三	三六	—	三四二	三二四	三五五	五一〇	四七六	一二八	二二六、〇三九	六七七、三〇八	六〇七、八八七	六九、四二一
天竺布	三〇六	五九、九七九	一六、三五一	三〇八	六五九	一一一	三三七	九九	三八八	九三	七、八〇八	五三	六、八三四	三九、〇一一	一七一、七三五	一三三、八八八	三七、八四七
綿繻子及綿イタリアンス	二、二一八	四一八	一五、五三四	五	七四	八三	七三	一八	九八	—	一、〇四〇	八一	四五	一九、五八六	一三五、四三一	一四五、七七四	△一〇、三四三
日本木綿	七、七三三	五六、七二六	七一、一四三	三一、五五六	一九五、九九三	五、九六二	七、三三一	三三、九六九	一、六二七	六五三	六、六〇〇	二三、二七六	一八、〇五七	二〇三、九九五	六一一、三八九	五一四、七七一	九六、六一八
麻布	二七五、五六九	二三、三五八	一三、三五六	一、一七九	二三九、八八八	—	—	二三九	四四	—	—	一、九七六	六七三	三五五、〇七三	四九〇、五二七	三一〇、五六一	一七九、九六六
毛織物	三二、一六四	三三、三五一	三、九二七	九七五	二二、三四三	二、八三八	一、五三九	二、八七一	一、一七〇	一九三	五	九九四	五、二四五	八五、一〇五	二四三、五八六	二一三、八七三	二九、七一三
絹布	五一、五九九	一〇二、四六六	一八、四〇三	九四	一五、〇七〇	一、六六一	六〇〇	六四三	—	—	一、三四〇	九二七	六五四	一〇一、二三七	三〇八、四四一	二三三、六一九	七四、八二二
交織布	一、一一九	四、六七八	一七七	二九三	一、六八三	二、九六〇	五五〇	二四四	一三八	九	—	四五三	一、六六〇	一三、九六三	八八、八八七	七一、三三三	一七、五五四
靴及履物	三、七七七	六、九八五	一、四四三	八九四	七、三〇五	一、六七六	八五五	六四二	六六八	一、一六六	九三	八六五	一、三六二	二七、七三一	七九、六九九	八六、八七九	△七、一八〇
紙	三〇、五〇六	二〇、一〇二	六、一〇九	一、八九四	二七、一九〇	四、〇八五	四、八四〇	四、六九二	九六八	二、〇〇七	五六七	二、三三三	三、六八四	一〇八、八八七	三八二、一八三	二七六、三八三	一〇五、八〇〇
諸文具	七、三八三	四、九八七	二、一四〇	二、二〇四	五、〇二八	一、一六四	七八六	一、三九二	四九四	七〇三	一八九	六四八	二、二七三	二九、三五〇	九一、一〇五	八六、五七三	四、五三二
書籍及雜誌	二、七六八	三、五九四	四〇八	一一五	一一、四九三	三八九	二五〇	四三八	二七六	一〇五	—	六九	八三四	二〇、六九八	六六、五六四	五八、七一〇	七、八五四
熟鐵	五五、〇七五	三四、二四五	四、九四八	五、六二三	二六一	一八、九六七	八、九八六	四九二	三三〇	一、四三四	四二九	一、〇四〇	六、七五九	一三八、五八九	三一三、三三九	三一一、〇三三	二、三〇六
軌條及同附屬品	一五九、五六一	八四四	三〇	六、〇五四	九一	一、六〇六	—	—	—	一一	四七五	五一四	二六六	一六九、四三三	四四九、一五〇	四四四、九四一	四、二〇九
鐵(筒及管)	一三、五四九	一七、三〇〇	二	一、五〇八	三二、四二一	四〇	—	—	一一八	—	—	一〇	一一	三五、七八〇	一四八、五一八	五一、五〇五	九七、〇一三
鐵釘	二、七一三	一、八六七	九〇六	六	一七	七八〇	三三〇	五	六三一	三〇一	—	五〇五	六九〇	八、七三三	四五、九二四	三九、五一七	六、四〇七
鐵鍋及釜	九、三四七	九、三四四	四、八五九	五五	一、二八六	五六四	一、二五七	六二六	六四	二七三	一四五	二、八八一	八〇三	五一、三三九	一一三、三九四	五九、二三〇	五四、一六四

鐵道機關車及同部分品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四六〇、七六九	二九八、三九六	一六二、三七三
諸機械類	二七、〇七〇	二三、六五九	四二〇	八、六九七	二三、六一九	一、七七〇	一、七一〇	九六二	六四一	二、九四八	—	三五一	一、八一五	九二、六九二	四五一、二〇八	三五七、二八六	九三、九二二
煙草	六〇、九五九	三六、八三五	八、四九四	—	二三、五五七	七、三七五	二、六四七	三三六	—	一、五七八	—	四六六	一、一九四	一四三、六三一	三五五、〇六三	二七九、六〇四	七五、四五九
石炭	八四、三四〇	四三、五二七	四、〇〇八	七、七三八	—	二、一四八	三、一八〇	—	三五、六〇四	一三九	一六	一九、四七九	—	一六四、一八九	三六三、六三〇	四〇三、三八五	△三九、七五五
陶器及磁器	一〇、六九七	一五、三六〇	三、五〇〇	二、三五三	二、四八五	三、八一七	二、一〇五	一、七二二	七一八	一、一二九	六八六	九五三	一、七九一	四七、五九六	一四三、三五四	九八、二四三	四五、〇一一
木材及板	七四、四五四	五〇、三六〇	一、四九七	三八、一八〇	六、九五五	四、四〇八	四、〇六二	一一五	一四、六〇五	四、八四六	二五二	二〇、一〇三	四一二	二一〇、二四七	四七九、四四一	二八一、二一五	一九八、二二六
叺縄及莚	六、三五九	一〇、九九一	一、一二四	六、三四五	六三〇	二、六三〇	一三〇	—	二七七	一、〇六九	二〇〇	六六二	六二九	三一、一七二	一六九、〇六三	一八三、二二〇	△一四、一五七
セメント及石灰	二四、七二九	二八、七七六	四〇二	二四、八七一	一、一五〇	一、三四六	六四四	—	三、八四五	四、三七九	三〇	九九	五、〇二三	六九、三九三	一八九、一九九	一一九、四八三	六九、七一六
家具	七九六	三、五一八	二、〇五五	一三八	四、七五二	一、一一九	一、五九五	九七七	一、二五一	一九〇	四一	四一五	四九三	一六、九四〇	四七、一〇三	四五、三四九	一、七五四
マッチ	一三、三四〇	一〇、三六三	二、五七六	二、八〇二	二、三六五	三、一五五	二、三四〇	—	—	七〇五	一、〇五〇	三八五	二、九八八	四〇、八八九	二三三、七七六	二三七、二四四	△三、四六八
木製品	四、六二八	六、二二五	八五九	五六一	二、三〇六	一、〇九一	五四八	四七二	四六七	三一九	一三	五二一	八六三	一八、七九一	五三、〇七六	四五、三四三	七、七三三
爆發物	六、六八七	六七〇	—	二、〇二五	—	一八八	—	—	—	—	—	—	—	九、五七〇	一二七、二七九	七〇、九三八	五六、三四一
洋傘	一七、一〇七	一〇、〇五二	四、〇七三	一、七一〇	四、一五八	八、一〇〇	四、一一八	二、九七五	八六七	三五	—	二三七	二、四九一	六五、八八一	一八〇、五五八	一五七、〇四三	二三、五一五
小包郵便物	二三、〇八三	三七、〇三八	一四、三八四	三三、二六四	一六六、二八八	六三、三三八	八、〇六九	六、三五四	七、五九四	九、八八七	一、二五五	六、二六六	九、四二七	二九九、一三七	一、三九六、八五四	一、三三三、九一〇	六二、九四四
其ノ他諸品	四五八、八九八	三九〇、七九九	八六、二二二	一〇四、三三三	二九八、八一五	六三、六四七	四三、八五九	四一、九六七	四一、九一七	三四、八一一	一〇、七四〇	四七、六七一	六八、二三九	一、六九一、五〇八	四、八八九、六八三	四、四二七、二八二	四六二、四〇一
總計	一、八九七、〇八五	一、三〇七、八一三	三七五、六〇六	四一九、七二八	九四二、〇六六	二四七、三五九	一四〇、九五一	一〇〇、〇七一	九〇、九四六	八九、七九八	五一、二四六	一四九、二九七	二六五、五七八	六、〇七七、四四四	一九、〇八七、一六六	一五、四〇六、一九〇	三、六八〇、九七六

五 正貨及地金（圓）（△印ハ減）

		四十五年四月	四十五年一月以降累計	四十四年一月以降累計	增減
移出	金貨及金地金	七六二、三四二	二、六九八、三二三	四、五〇七、一〇一	△一、八〇八、七七八
	銀貨及銀地金	一七八、八五三	四八五、六九七	八六一、四三五	△三七五、七三八
	計	九四一、一九五	三、一八四、〇二〇	五、三六八、五三六	△二、一八四、五一六
移入	金貨及金地金	—	八一五	一、九〇〇、一八七	△一、八九九、三七二
	銀貨及銀地金	一四、八七五	一四八、七一〇	二、三六五、一八七	△二、二一六、四七七
	計	一四、八七五	一四九、五二五	四、二六五、三七四	△四、一一五、八四九
總計		九五六、〇七〇	三、三三三、五四五	九、六三三、九一〇	△六、三〇〇、三六五

六 船舶（噸）（△印ハ減）

	船種別	四十五年四月	四十五年一月以降累計	四十四年一月以降累計	增減
入港	汽船	二七六、三一八	一、一九二、七四三	九九二、六一三	二〇〇、一三〇
	帆船	五、〇五七	一八、一二七	一六、五四一	一、五八六
	ジャンク	一〇、五四六	一七、一四二	一〇、七三五	六、四〇七
	計	二九一、九二一	一、二二八、〇一二	一、〇一九、八八九	二〇八、一二三
出港	汽船	二七〇、一八四	一、一六二、八三九	九八三、九七一	一七八、八六八
	帆船	四、九〇八	一五、九一一	一五、九一九	△八
	ジャンク	七、五一四	一三、八二七	八、八一二	五、〇一五
	計	二八二、六〇六	一、一九二、五七七	一、〇〇八、七〇二	一八三、八七五

七 收稅表（續）

稅別	四月 四十五年	四月 四十四年	一月以降累計 四十五年	一月以降累計 四十四年
輸移出稅	二三、六九〇	五一、二四一	一七一、八八九	三一〇、八〇一
輸移入稅	四〇九、〇〇七	二三五、二〇八	一、二七四、三六四	八二四、九五七
噸稅	九、五四四	八、七四九	三四、一六三	二九、〇七九
諸收入	八、七四三	七、三八四	二八、四四〇	三三、七一八
總計	四五〇、九八四	二九二、五八二	一、五〇八、八五六	一、一九八、五五五

○經濟概況（三月分）

第一款 通貨

一 各種貨幣流通高表（△印ハ減）

年月	朝鮮通貨 硬貨	朝鮮通貨 朝鮮銀行券	朝鮮通貨 葉錢	內地各通貨	計
三月末	円 四、五三七、六二三	円 二一、八九六、九一三	円 三五九、三八二	円 三、三五六、五九二	円 三〇、一五〇、五〇九
對前月增減	△一一九、〇二一	三〇〇、四四六	△六四、三六三	一四六、一七八	二六三、二三〇
對前年同月增減	△一、〇三六、七七六	三、九三三、六二五	△六一九、三五二	二、九六四、一六六	五、二四一、六六三

二 舊韓國硬貨流通高表（△印ハ減）

種類	二月末流通高	三月中引上高	差引流通高
金貨	円 五、五〇〇・〇〇〇	円 —	円 五、五〇〇・〇〇〇
銀貨	三、七八三、〇一〇・四〇〇	一〇七、四七五・八〇〇	三、六七五、五三四・六〇〇
白銅貨	四四六、五四三・五五〇	一〇、六五〇・五〇〇	四三五、八九三・〇五〇
青銅貨	四二一、五八八・八一〇	八九四・六二〇	四二〇、六九四・一九〇
計	四、六五六、六四二・七六〇	一一九、〇二〇・九二〇	四、五三七、六二一・八四〇
引上高累計		五、八七七、三七八・一六〇	

三 朝鮮銀行券流通高表（△印ハ減）

年月	發行高 正貨準備	發行高 保證準備	發行高 計	金庫在高	銀行手許在高	市場流通高
三月末	円 九、六七九、五〇〇	円 一八、八六五、二二〇	円 二八、五四四、七二〇	円 六、一一〇、三四九	円 五三七、四六八	円 二一、八九六、九一三
對前月增減	一、二三〇、〇〇〇	二、四六〇、六二〇	三、六九〇、六二〇	三、三七五、九四三	一四、二三一	三〇〇、四四六
對前年同月增減	二、三七三、三〇〇	四、四六三、五三〇	六、八三六、八三〇	二、八九五、七九一	七、四一四	三、九三三、六二五

四 內地各通貨流通見込高表（△印ハ減）

年月	現在高 金貨	現在高 補助貨	現在高 兌換券	現在高 計	朝鮮銀行正貨準備高 金貨	朝鮮銀行正貨準備高 兌換券	朝鮮銀行正貨準備高 計	金庫在高	朝鮮銀行手許在高	市場流通高
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
三月末	一、九八一、六二〇	三、七七〇、〇三一	六、五六三、〇〇九	一二、三一四、六六〇	一、九七九、五〇〇	五、七〇〇、〇〇〇	七、六七九、五〇〇	一、〇二二、五六二	二六六、〇〇六	三、三五六、五九二
對前月増減	△五、五三五	△二三、七六〇	一、四六九、七七五	一、四四〇、四六〇	—	一、二三〇、〇〇〇	一、二三〇、〇〇〇	一一三、八一五	△四九、五三三	一四六、一七八
對前年同月増減	△六、二三〇	一、二二九、四一七	七四六、三六二	一、八六九、五四九	△一、七〇〇	三七五、〇〇〇	二七三、三〇〇	△一、六三一、〇二五	一六三、一〇八	二、九六四、一六六

五 葉錢輸出回收高表

年月	回收高	輸出高	計
	円	円	円
三月中	六四、三八二・九三八	—	六四、三八二・九三八
引上著手後累計	四、九六四、二八五・五二一	一、六一七、九八一・〇〇〇	六、五八二、二六六・五二一
差引市場流通高	—	—	三五九、三八一・九五四

第二款 金融

第一項 概況

一 三月中各種銀行預金貸出金及遊金表 （△印ハ減）

銀行別	預金	貸出金	遊金 現金	遊金 預ケ金
	円	円	円	円
朝鮮銀行	九、三七〇、六九八	九、〇七四、五八九	五、七六一、三九〇	五六〇、五一九
農工銀行	四、九二四、七九一	九、〇二九、三五五	五二五、二五二	三一一、四〇〇
普通銀行	一〇、三七三、四九八	一五、一六七、四五七	六〇六、三五三	三九五、三四九
東洋拓殖株式會社	—	二、一六六、七七〇	—	—
合計	二四、六六八、九八七	三五、四三八、一七二	六、八九二、九九五	一、二六七、二六八
對前月増減	三、六〇一、九六九	一、九七三、〇〇七	△三六六、六九五	△二一六、五八四
對前年同月増減	七、一六一、四五六	一一、八七二、一四一	一、二八五、九九一	五四五、一五二

二 三月中各種銀行預金金利表 （△印ハ減）

銀行別	定期預金 一ヶ年以上	定期預金 六ヶ月以上	定期預金 三ヶ月以上	當座預金 最高	當座預金 最低	當座預金 普通	小口預金 最高	小口預金 最低	小口預金 普通	諸預金 最高	諸預金 最低	諸預金 普通
	分厘	分厘	分厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘
朝鮮銀行	五五	五五	四五	八	七	八	一二	一二	一二	一四	九	一三
農工銀行	六〇	五五	五〇	九	九	九	一五	一五	一五	一六	一四	一四
普通銀行	六〇	五八	五一	九	八	九	一三	一三	一三	一三	八	一一
平均	五八	五六	四九	九	八	九	一三	一三	一三	一四	一〇	一二
對前月増減	二	五	二	一	—	一	—	一	一	—	—	—
對前年同月増減	△一	一	二	—	—	—	一	二	一	—	—	△一

三 三月中各種銀行貸出金金利表 （△印ハ減）

銀行別	不動産 高	不動産 低	不動産 普	證券 高	證券 低	證券 普	商品 高	商品 低	商品 普	信用 高	信用 低	信用 普	當座貸越 高	當座貸越 低	當座貸越 普	手形割引 高	手形割引 低	手形割引 普
	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘
朝鮮銀行	三二	二九	三〇	二九	二六	二八	二九	二八	二八	三二	二八	三一	三二	二九	三一	三一	二六	二九
農工銀行	四八	三九	四四	三八	三四	三六	三九	三三	三六	四二	三六	四〇	四三	三四	四二	三九	三二	三六
普通銀行	四〇	三三	三六	三三	二七	三〇	三三	二八	三一	三八	三二	三五	三九	三二	三六	三七	二七	三二
東洋拓殖株式會社	三三	二七	三三	—	—	—	—	—	—	四九	一九	三四	—	—	一七	—	—	—
平均	三八	三二	三六	三二	二九	三一	三四	三二	三二	四一	二六	三五	三六	三二	三二	三六	二八	三二
對前月増減	—	—	—	一	—	—	△一	一	—	—	△三	△一	△一	一	一	—	—	—
對前年同月増減	△八	△二	△四	△三	△三	△三	△四	二	△三	—	△六	△六	△三	△四	△八	△四	△二	△三

四 三月中各種銀行爲替受拂表

（△印ハ減）

銀行別	朝鮮內 受入高	朝鮮內 仕拂高	朝鮮及內地間 受入高	朝鮮及內地間 仕拂高	朝鮮及清國其他間 受入高	朝鮮及清國其他間 仕拂高	計 受入高	計 仕拂高
	円	円	円	円	円	円	円	円
朝鮮銀行	五、二二四、一九五	四、三八二、二二八	二、三九七、二〇三	七一四、五八二	六一、九四五	二五六、五二五	七、五八三、三四三	五、三五三、三三五
農工銀行	一、八八六、八二一	一、七八七、八〇六	一三九、〇〇六	九六、二五五	四、八六四	三、九一九	二、〇三〇、六八一	一、八八七、九八〇
普通銀行	二、〇三六、六五五	二、〇七一、七二三	二、七三三、八五四	一、〇一二、七三二	七六、五一〇	一七一、五三七	四、八四七、〇一九	三、二五五、九九二
合計	九、〇四七、六六一	八、二四一、七五七	五、二七〇、〇六三	一、八二三、五六九	一四三、三一九	四三一、九八一	一四、四六一、〇四三	一〇、四九七、三〇七
對前月增減	一二〇、七四四	七四七、五四三	七一七、八三〇	△一、〇四五、六九九	五六、九六六	△三五、二三七	八九五、五四〇	△一、八二八、四七九
對前年同月增減	三、六六八、三七七	二、七二四、三七九	一、七七一、〇二〇	△二、三三〇、〇二八	四二、三〇八	△二一八、八六九	五、四八一、七〇五	一七五、四八二

第二項 各地狀況

一 京城仁川方面

大豆ハ不味ニテ移出振ハス米價ハ移出稅撤廢其他ノ思惑ニテ益高調ヲ持續シタレトモ尙依然トシテ手放サス爲メニ此方面ニ對スル資金ノ需要ヲ喚ハサリシモ逐日暖氣ニツレテ京元線其他諸工事界ノ漸次ニ色メキ來レルト且市區改正見越等ノ爲メ土地思惑熱アリ其他季節物仕入資金等ノ需要アリ金融小繁ヲ呈シタリ金利ハ內地引上ニ伴ヒ朝鮮銀行ハ本月十一日一厘方利上ヲ實行シタリ尙銀行券發行高二千八百五十餘萬圓ニ上リタルハ國庫ノ關係ニ基クモノトス

二 平壤鎭南浦方面

穀類ノ集散極メテ尠ク商況マタ閑散ナリシカ只解氷季ニ入リ土木工事ノ盛ナルニ因リ幾分資金ノ需要ヲ喚ヒタルノミ

三 群山方面

穀類徐徐トシテ廻著シ大口農場籾ノ受渡アリシモ移出値段不引合ナルト且之カ移出廢稅ヲ氣構ヘ在米增加シ殊ニ地方營農資金ノ需要等彼是相嵩ミ金融小繁ナリキ

四 木浦方面

明太魚石油類不況ニシテ金巾砂糖麥粉等輸入品賣行良好ナレトモ重要輸出品タル米穀牛皮其他ノ回著引續キ不振ニシテ殊ニ米穀ハ多ク庫入ト爲リ荷動無ク商況沈靜ナリキ

五 釜山大邱方面

思惑今尙盛ニシテ廻米尠ク又米價騰貴ノ爲メ細民ノ生活ニ影響シ移入品ノ賣行幾分澁滯ヲ來シタレトモ尙浦潮輸出米夏物仕入等ニ對スル資金ノ移動尠カラサリキ

六 元山方面

粟相場稀有ノ騰貴最高石十四圓三十錢ヲ示シ專ラ間嶋ヨリノ輸入頻繁ニシテ資金ノ需要ヲ喚起シタレトモ大豆明太魚資金

ノ回收勝ナリシト移輸入品ニ對スル放資寥寥ナリシトニヨリ金融ハ緩漫ナリキ

七 清津方面

近來間嶋地方ヨリ粟ノ搬出盛ニシテ車輛ノ不足ヲ告ケ爲メニ其儘買出地ニ堆積セラルル有樣ナリ殊ニ昨今奥向キ輸送貨物最モ少キ折柄トテ車馬多ク片荷ト爲リ運搬上不利多シ加フルニ豆滿江流氷危險ノ爲メ徒渉中止ノ季節ナレハ旁々出廻粟ノ停滯スルモノ多シト云フ

一 三月中地方別各種銀行預金種類別表

（△印ハ減）

地方別	公金預金	定期預金	當座預金	小口預金	諸預金	計
	円	円	円	円	円	円
京城、仁川方面	一、一七九、一四八	三、一三六、〇〇四	四、九〇一、〇〇一	二、三三〇、七三〇	四、五九一、四六二	一六、一三八、三三五
平壤、鎭南浦方面	二三三、七八七	三九四、三〇一	五七七、八二七	四二六、二七三	一〇五、〇七五	一、七三六、一六三
釜山、大邱方面	三七一、六九七	八六一、三八六	一、一〇七、一八六	一、〇二一、九九三	一二八、七〇四	三、四九〇、九六六
群山方面	一一七、四七〇	一五八、一三四	六六三、九六〇	一八九、五九八	五九、三二五	一、一八八、四八七
木浦方面	一一七、一五三	一七〇、二八三	四五九、四五九	一九七、一一〇	三三、二八四	九七七、二八九
元山方面	九〇、七六四	一〇四、六四七	三七四、七一五	一五六、六八七	六九、一七二	七九五、九八五
清津方面	六四、四五八	四三、四六九	九三、七六〇	一二八、〇五二	一二、〇二四	三四一、七六三
合計	二、一七三、四七七	四、八六八、一二四	八、一七七、九〇八	四、四五〇、四三三	四、九九九、〇四六	二四、六六八、九八八
對前月增減	三六〇、一三七	八、七二二	八二三、三五〇	四九、八二六	三、一〇〇、九三四	三、六〇一、九六九
對前年同月增減	△二四六、九三三	七八四、四九六	一、七一三、〇三三	七八七、五五二	三、〇八〇、〇九五	六、六二一、一〇八

二 三月中地方別各種銀行貸出金種類別表

（△印ハ減）

地方別	政府貸上金	年賦貸付金	普通貸付金	當座貸越金	手形割引	計
	円	円	円	円	円	円
京城、仁川方面	二、〇九四、六七七	八、五二六、一四五	五、九一九、一九六	一、二五九、九〇四	九、一六九、二三八	三六、九六九、一六〇

地方別	政府貸上金	年賦貸付金	普通貸付金	當座貸越	手形割引	計
平壤、鎮南浦方面	—	一八四、七三八	一、五三三、三五八	二七八、二五七	二、六二二、五五二	四、六〇八、五〇五
釜山、大邱方面	—	二四五、一三〇	一、七三八、二六四	七三〇、三七二	二、八四四、四九九	五、五五八、二六五
群山方面	—	三六三、七三三	六三二、一八五	二八九、一六七	一、一四三、九九七	二、四二八、〇七二
木浦方面	—	一六八、八六六	六六七、六二四	一〇八、五九二	六三七、二二四	一、五八二、三〇六
元山方面	—	一二八、九三二	三〇四、七一九	九五、七六八	五九三、四八九	一、一二二、九〇七
清津方面	—	一一、〇〇〇	六四、〇七二	九、四六三	二一〇、五一三	二九五、〇四八
合計	二一、〇九四、六七七	九、六二八、五三三	一〇、八五八、三一八	二、七七一、五二三	一七、二一一、二一二	五一、五六四、二六三
對前月増減	四、五〇〇、〇〇〇	六六九、〇五一	△九、二三〇	三六九、四〇五	△七三八、六三六	六、二六七、八七二
對前年同月増減	二一、〇九四、六七七	八、三五四、六二四	三、〇一九、八〇二	一、二五三、二六六	八、四一二、七六二	三三、三五一、一三一

備考　京城方面ヘハ政府貸上金及第一銀行ニ對スル別途貸付ヲ含ム

三　三月中地方別各種銀行金銀出納及遊金表

（△印ハ減）

地方別	繰越高 現金	繰越高 預ヶ金	入金高 現金	入金高 預ヶ金	出金高 現金	出金高 預ヶ金	現在高 現金	現在高 預ヶ金
	円	円	円	円	円	円	円	円
京城、仁川方面	四、六〇三、〇九九	一、〇七五、一二一	六八、九五七、七二五	四、一八一、四一三	六九、一一一、三九五	四、三七八、九五六	四、四四九、四二九	八七七、三〇八
平壤、鎮南浦方面	六四一、七七四	九一、一八五	一一、〇四七、五五九	七一三、六五九	一一、〇四五、九四二	七五七、五五七	六四三、三九一	四七一、二八七
釜山、大邱方面	一九七、七五二	一三四、四九八	六、八七四、六四八	九〇七、三三三	六、九〇五、九六九	九七四、七〇九	一六六、四三一	六七、一二二
群山方面	三〇一、五八八	三〇、〇四二	三、七三七、六五九	三三三、一九六	三、八三七、〇七二	二六四、六九五	二〇二、一七五	九八、五四三
木浦方面	八四一、四五〇	二〇、一二二	二四、六六二、六九九	一三〇、一七六	二四、七三六、二〇五	一〇六、五六六	七六七、九四四	四三、七三二
元山方面	二七九、〇三九	一三二、〇一四	四、八四三、六〇四	四三八、三八二	四、八九六、二三二	四四一、四一七	二二六、四一一	一二八、九七九
清津方面	四〇〇、九八七	八七一	二、〇五七、三九四	一六、七七一	二、〇二二、一六七	一三、〇〇一	四三七、二一四	四、六四一
合計	七、二六五、六八九	一、四八三、八五二	一二一、一八一、二八八	六、七二〇、六五〇	一二一、五五三、九八二	六、九三六、九〇一	六、八九二、九九五	一、二六七、六〇一

備考　金銀在高中ニハ外國貨及外國手形ヲ含ム

四 三月中各地方金利表

（△印ハ減）

地方別	銀行 預金 定期預金 一箇年以上 分厘	銀行 預金 定期預金 六箇月以上 分厘	銀行 預金 定期預金 三箇月以上 分厘	銀行 預金 當座預金 高 錢厘	銀行 預金 當座預金 低 錢厘	銀行 預金 當座預金 普 錢厘	銀行 預金 小口預金 高 錢厘	銀行 預金 小口預金 低 錢厘	銀行 預金 小口預金 普 錢厘	銀行 預金 諸預金 高 錢厘	銀行 預金 諸預金 低 錢厘	銀行 預金 諸預金 普 錢厘	銀行 貸付金 普通貸付 高 錢厘	銀行 貸付金 普通貸付 低 錢厘	銀行 貸付金 普通貸付 普 錢厘	銀行 貸付金 當座貸越 高 錢厘	銀行 貸付金 當座貸越 低 錢厘	銀行 貸付金 當座貸越 普 錢厘	銀行 貸付金 手形割引 高 錢厘	銀行 貸付金 手形割引 低 錢厘	銀行 貸付金 手形割引 普 錢厘	個人 朝鮮人 高 錢厘	個人 朝鮮人 低 錢厘	個人 朝鮮人 普 錢厘	個人 内地人 高 錢厘	個人 内地人 低 錢厘	個人 内地人 普 錢厘
京城、仁川方面	六五	六〇	五三	一一	五	九	二〇	一二	一三	一五	五	一〇	六五	二三	三七	五五	二四	三五	五〇	二四	三三	三〇〇	二六	一六七	三〇〇	二五	一八〇
平壌、鎮南浦方面	六〇	五五	五〇	一〇	三	九	一八	一一	一三	二〇	一〇	一三	五〇	二四	三八	四二	二九	三六	四五	二四	三三	三〇〇	二〇	七四	四〇〇	二八	一一四
釜山、大邱方面	六〇	五五	五〇	一〇	四	八	一七	一〇	一三	二〇	八	一五	六〇	一九	三二	四五	二四	三二	四〇	二三	三一	四〇〇	五〇	一三六	四〇〇	三三	一二七
群山方面	六五	五五	五〇	一〇	四	九	一六	一一	一四	二〇	一〇	一五	五〇	二八	三九	五〇	二八	三九	四五	三〇	三五	四〇〇	七〇	一五九	三三〇	五〇	一〇三
木浦方面	六〇	五五	五〇	一〇	七	九	一七	一〇	一三	八	五	八	五五	二六	四二	五〇	二五	三七	六〇	二五	四〇	一七〇	三〇	九六	一三三	三〇	七七
元山方面	六〇	五五	五〇	一〇	五	八	一四	一〇	一二	|	|	|	五〇	二三	三七	四五	一七	三八	三八	二九	三三	二〇〇	五〇	一一七	一七〇	五〇	九四
清津方面	六〇	五五	五〇	八	七	八	一四	一〇	一三	一五	一〇	一三	五〇	二八	四一	四八	三〇	三九	四五	二八	四〇	一七〇	八〇	一三〇	一七〇	七〇	一〇〇
平均	六〇	五五	五〇	一〇	五	九	一五	一〇	一三	一六	八	一二	五四	二四	三八	四八	二五	三六	四六	二六	三五	二七七	八〇	一二六	二七二	四一	一一四
對前月増減	三	三	一	|	△一	|	一	△一	|	四	|	二	八	△三	二	三	△三	△二	四	△一	一	四六	三二	二八	七二	△五	二五
對前年同月増減	四	四	四	一	△三	|	三	△一	二	二	△三	|	一三	△四	三	八	△八	|	一〇	△二	三	△三〇	△一	五四	△一三	△一四	二六

第三款 物價

一 三月中各地重要物價表（卸賣相場）

品目	單位	京城 円	仁川 円	平壌 円	鎮南浦 円	群山 円	釜山 円	大邱 円	馬山 円	木浦 円	元山 円	城津 円	新義州 円	清津 円	平均 円
棉花上	百斤	三〇・〇〇〇	三五・〇〇〇	四三・五〇〇	—	—	二四・〇〇〇	三三・〇〇〇	—	—	—	—	—	—	三〇・九〇〇
石炭上	一噸	一〇・五〇〇	八・七五〇	一〇・〇〇〇	九・〇〇〇	九・五〇〇	八・五〇〇	一四・〇〇〇	一〇・〇〇〇	九・〇〇〇	一〇・五〇〇	—	—	一一・五〇〇	一〇・一一四
牛皮中皮十斤迴シ	百斤	三九・六七〇	三八・五〇〇	三四・〇〇〇	三二・〇〇〇	三四・五〇〇	三三・五〇〇	三八・二五〇	三一・〇〇〇	三三・〇〇〇	三三・五〇〇	三六・〇〇〇	—	—	三五・〇八四
牛骨上	百斤	一・九〇〇	一・七〇〇	一・一〇〇	一・三〇〇	一・四〇〇	一・五〇〇	一・二五〇	一・六〇〇	一・〇〇〇	一・五五〇	—	—	—	一・四三〇
牛蠟上	百斤	一六・三〇〇	一六・五〇〇	一七・〇〇〇	一三・八〇〇	一四・〇〇〇	九・五〇〇	一五・九〇〇	一三・〇〇〇	一一・〇〇〇	一二・二〇〇	—	—	—	一三・九一〇
セメント上	一樽	五・二五〇	四・八〇〇	四・八五〇	五・五〇〇	五・〇〇〇	四・四〇〇	六・〇〇〇	五・四〇〇	四・八〇〇	五・二〇〇	—	—	五・六〇〇	五・一七三

品目	單位	京城	仁川	平壤	鎭南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	新義州	清津	平均
		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
石材御影石	一才	•五五〇	—	•五〇〇	•五〇〇	•六〇〇	•四〇〇	•七八〇	一•五〇〇	—	—	—	—	—	•五六一
松角材二間物	尺立方角	八•五〇〇	六•五〇〇	五•二〇〇	一〇•〇〇〇	四•三一〇	六•一〇〇	一一•〇〇〇	—	六•二〇〇	—	—	三•〇〇〇	五•二〇〇	六•五九二
杉角材間	同	一三•五〇〇	七•五〇〇	五•八〇〇	一三•五〇〇	四•四〇〇	七•〇〇〇	一三•〇〇〇	—	七•五〇〇	—	—	—	一二•三〇〇	九•一四四
玄米 上	一石	一四•三〇〇	一五•〇〇〇	一四•〇〇〇	一四•三〇〇	一四•三〇〇	一五•八五〇	一四•三〇〇	一四•五〇〇	一四•九〇〇	—	—	—	—	一四•六〇五
玄米 中	同	一三•七七〇	一四•七〇〇	一三•五〇〇	一三•六〇〇	一三•八五〇	一四•八八〇	一三•九〇〇	一四•〇〇〇	一四•八〇〇	一六•五〇〇	—	—	—	一四•三五〇
玄米 下	同	一三•〇七〇	一三•七五〇	一三•〇〇〇	一二•八〇〇	一三•四五〇	一三•九三〇	一三•六五〇	一三•六〇〇	一四•五〇〇	—	—	—	—	一三•五二八
白米 上	一石	一九•〇〇〇	一九•三〇〇	一八•五〇〇	一八•八〇〇	一五•九五〇	一七•九五〇	一九•一〇〇	一八•四〇〇	一八•九〇〇	二〇•六〇〇	二〇•〇〇〇	一九•一〇〇	二一•五〇〇	一九•〇〇八
白米 中	同	一八•五〇〇	一七•九〇〇	一七•五〇〇	一七•七〇〇	一五•四〇〇	一七•〇五〇	一八•七〇〇	一七•三〇〇	一七•七〇〇	一九•六〇〇	一九•〇〇〇	一八•六〇〇	二〇•三〇〇	一八•〇九六
白米 下	同	一六•八七〇	一六•〇〇〇	一六•五〇〇	一六•七〇〇	一五•〇五〇	一六•一五〇	一六•〇〇〇	一六•四〇〇	一五•三〇〇	一六•五〇〇	一七•〇〇〇	一八•一〇〇	一七•八〇〇	一六•四九〇
大麥 上	一石	五•九〇〇	五•八五〇	四•九〇〇	五•〇〇〇	—	六•五三〇	五•九〇〇	六•三〇〇	—	—	—	—	—	五•七六九
大麥 下	同	—	五•四〇〇	四•四〇〇	—	—	六•一八〇	五•六〇〇	五•九〇〇	—	—	—	—	—	五•四九六
小麥 上	一石	八•五三〇	八•二〇〇	八•六〇〇	八•三〇〇	—	九•一五〇	八•一〇〇	七•八〇〇	—	九•七〇〇	—	—	—	八•五三五
小麥 下	同	—	七•九五〇	八•〇〇〇	七•九〇〇	—	八•六六〇	七•七〇〇	七•五〇〇	—	九•三〇〇	—	—	—	八•一四四
大豆 上	一石	八•〇〇〇	八•四七〇	七•二〇〇	八•三〇〇	七•五〇〇	八•〇三〇	七•〇五〇	七•七〇〇	八•八〇〇	九•五〇〇	—	七•〇〇〇	六•四〇〇	七•八二一
大豆 下	同	—	七•七五〇	六•三〇〇	七•四五〇	七•四〇〇	六•八八〇	六•九五〇	七•四〇〇	八•三〇〇	七•四〇〇	—	六•〇〇〇	—	七•一八三
小豆 上	一石	一一•八三〇	—	一〇•〇〇〇	一一•〇〇〇	—	一三•四五〇	九•九〇〇	一一•〇〇〇	一三•〇〇〇	一一•七〇〇	—	八•八〇〇	八•五〇〇	一〇•八一八
小豆 下	同	一〇•三〇〇	—	九•四〇〇	一〇•五〇〇	—	一一•三五〇	九•二〇〇	九•五〇〇	一二•二〇〇	一一•〇〇〇	—	七•八〇〇	—	一〇•一三九
麥粉 上	五十封度入一袋	二•五五〇	二•九三〇	二•五〇〇	二•六〇〇	二•四〇〇	二•四〇〇	二•四五〇	二•四〇〇	二•五〇〇	二•四八〇	二•五〇〇	二•六三〇	二•五〇〇	二•四八五
食鹽 上	八斗入一俵	二•一〇〇	一•九二〇	四•七〇〇	二•五〇〇	二•八〇〇	二•五〇〇	一•〇二〇	一•六〇〇	一•六〇〇	一•一七五	一•二〇〇	二•六〇〇	一•四五〇	二•〇九〇
味噌 上	十貫入一樽	二•九四四	三•八〇〇	四•五〇〇	三•三〇〇	四•五〇〇	四•〇〇〇	四•一五〇	四•三〇〇	四•五〇〇	四•五〇〇	五•〇〇〇	三•七五〇	七•五〇〇	四•三三七
醬油 上	一斗入一挺	四•五〇〇	四•〇五〇	四•七〇〇	三•五〇〇	三•九〇〇	三•五〇〇	三•九〇〇	三•〇〇〇	四•〇〇〇	四•五〇〇	四•〇〇〇	三•〇〇〇	四•六五〇	三•九三三
砂糖 四温	百斤	一一•五〇〇	一一•〇〇〇	一一•三〇〇	一三•〇〇〇	一〇•六〇〇	一一•〇〇〇	一一•〇〇〇	一〇•〇〇〇	一一•〇〇〇	一一•〇〇〇	一一•三〇〇	一〇•九〇〇	一一•五〇〇	一一•〇八五
鷄卵	百個	一•四〇〇	一•六〇〇	一•六〇〇	一•七〇〇	一•二〇〇	一•八〇〇	一•二〇〇	一•五〇〇	一•三〇〇	一•二〇〇	•八〇〇	一•七〇〇	一•三〇〇	一•三〇〇
明太魚 上	四十貫入一駄	三四•五〇〇	二五•七五〇	三三•〇〇〇	二六•〇〇〇	三三•七〇〇	二五•〇〇〇	二四•五〇〇	一五•〇〇〇	二三•〇〇〇	一九•二〇〇	一七•五〇〇	—	一五•〇〇〇	二一•八四六

二 三月中各地重要物價表（小賣相場）

品目	單位	京城	仁川	平壤	鎭南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	新義州	淸津	平均
（上）	一斗	円 二・一〇〇	円 二・一〇〇	円 一・九〇〇	円 二・〇〇〇	円 一・九〇〇	円 二・一五〇	円 二・〇〇〇	円 二・〇〇〇	円 二・〇〇〇	円 二・一〇〇	円 二・三〇〇	円 二・〇〇〇	円 二・二〇〇	円 二・〇五八
薪 上	十貫目	・四四〇	・三七〇	・五五〇	・三八〇	・四〇〇	・三五〇	・四五〇	・三五〇	・二八〇	・四〇〇	・六五〇	・三〇〇	・三五〇	[illegible]
木炭 上	十貫目	一・〇三〇	・八三〇	・七〇〇	一・一〇〇	一・四五〇	一・〇〇〇	・八六〇	・八〇〇	一・〇〇〇	・七〇〇	一・二〇〇	一・一五〇	一・〇〇〇	・九七六
石油 上松叢	一函	三・四一〇	三・三五〇	三・一五〇	三・三一〇	三・六六〇	三・〇三〇	三・五〇〇	三・五六〇	三・四〇〇	三・五〇〇	三・六三〇	—	三・四〇〇	三・三七四
マッチ 人抜印・犬抜印	二百打函入	四・三〇〇	三・九〇〇	四・〇〇〇	三・九〇〇	四・六〇〇	三・三五〇	四・〇〇〇	三・八八〇	四・〇〇〇	三・五〇〇	四・〇〇〇	—	四・二〇〇	三・九四四
洋金巾 上	五十反釜入	三六五・〇〇〇	三九〇・〇〇〇	三七八・〇〇〇	三三五・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	四〇二・〇〇〇	三一三・〇〇〇	三五〇・〇〇〇	四〇〇・〇〇〇	三九五・〇〇〇	三八〇・〇〇〇	—	四〇二・五〇〇	三六九・九九二
和金巾 上	二十反釜入	一三七・三〇〇	一三七・〇〇〇	一三七・〇〇〇	一三七・〇〇〇	一四〇・〇〇〇	一三〇・〇〇〇	一三八・〇〇〇	一三〇・〇〇〇	一三九・〇〇〇	一三一・〇〇〇	一四〇・〇〇〇	—	一三五・〇〇〇	一三五・一〇八
紡績絲 鐘紡	二十玉俵入	七三・五〇〇	七三・五〇〇	七五・五〇〇	—	七四・五〇〇	—	六八・五〇〇	六七・〇〇〇	—	—	—	—	—	七二・〇八三
紡績絲 攝紡	同	—	七三・五〇〇	七五・五〇〇	七五・〇〇〇	七四・五〇〇	六八・五〇〇	—	—	七〇・〇〇〇	七一・〇〇〇	七〇・〇〇〇	—	—	七二・二五〇
紡績絲 三重紡	同	—	七三・〇〇〇	七五・〇〇〇	七四・〇〇〇	七四・五〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	七四・一二五
打綿 上	一斤	・五〇〇	・五〇〇	・四五〇	・五〇〇	・六〇〇	・三〇〇	・四二五	・五〇〇	・四五〇	・四二五	・三〇〇	—	—	・四五〇
生漉半紙 上	一締	四・〇〇〇	五・〇〇〇	六・七〇〇	三・五〇〇	四・七〇〇	二・四〇〇	三・五〇〇	三・八〇〇	三・五〇〇	三・五〇〇	三・五〇〇	六・〇〇〇	三・一〇〇	四・〇九二
朝鮮白紙 上	一百卷塊入	—	二〇・〇〇〇	三一・〇〇〇	二六・〇〇〇	一八・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二六・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二四・〇〇〇	—	一〇・五〇〇	—	一一・五〇〇	一九・七〇〇
日本酒 正宗	一挺	二三・五〇〇	二二・七五〇	二一・五〇〇	二三・〇〇〇	二一・〇〇〇	二六・五〇〇	二三・〇〇〇	二三・〇〇〇	二二・〇〇〇	—	—	二三・〇〇〇	二一・五〇〇	二二・三四一
日本酒 白鶴	同	二二・五〇〇	二〇・五〇〇	二一・〇〇〇	二一・〇〇〇	二一・〇〇〇	二六・〇〇〇	二三・〇〇〇	二一・〇〇〇	二一・五〇〇	二三・〇〇〇	二一・五〇〇	一九・二〇〇	二一・〇〇〇	二一・二四六
日本酒 澤龜	同	二〇・五〇〇	一九・五〇〇	一九・五〇〇	一九・〇〇〇	二一・〇〇〇	二一・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・五〇〇	—	二〇・五〇〇	—	一七・五〇〇	一九・五〇〇	一九・八六四
日本酒 光武	同	—	一六・二五〇	—	—	—	一七・〇〇〇	—	二一・〇〇〇	—	—	—	—	—	一八・〇八三
日本酒 東洋一	同	—	—	二〇・〇〇〇	—	—	一六・五〇〇	—	二一・五〇〇	二〇・〇〇〇	—	—	—	—	一九・五〇〇
麥酒 札幌	一四打函入	九・六〇〇	九・五〇〇	九・五〇〇	九・二〇〇	九・五〇〇	九・三〇〇	九・六〇〇	九・四〇〇	九・四〇〇	一〇・二〇〇	九・八〇〇	—	九・八〇〇	九・五六七
麥酒 エビス	同	—	九・五〇〇	—	—	九・五〇〇	九・三〇〇	九・六〇〇	九・四〇〇	九・四〇〇	一〇・二〇〇	—	—	九・八〇〇	九・五八八
麥酒 朝日	同	九・六〇〇	九・五〇〇	九・五〇〇	九・二〇〇	九・五〇〇	九・三〇〇	九・六〇〇	九・四〇〇	九・四〇〇	一〇・二〇〇	—	—	—	九・五三〇
朝鮮刻煙草 上	百斤	二八・〇〇〇	二七・一五〇	二四・〇〇〇	三二・〇〇〇	四五・〇〇〇	三二・〇〇〇	—	四八・〇〇〇	三五・〇〇〇	二五・〇〇〇	—	—	—	二九・六一五

品目		單位	京城	仁川	平壤	鎭南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	新義州	淸津	平均
白米	中	一斗	円 二・〇五〇	円 二・〇五〇	円 一・八〇〇	円 一・九〇〇	円 一・八五〇	円 二・〇〇〇	円 一・九〇〇	円 一・九〇〇	円 一・八〇〇	円 二・〇〇〇	円 二・〇〇〇	円 一・九五〇	円 二・一五〇	円 一・九五〇
	下	同	二・〇〇〇	二・〇〇〇	一・七五〇	一・八〇〇	一・七五〇	一・九五〇	一・八〇〇	一・八〇〇	一・六〇〇	一・六七〇	一・七五〇	—	一・九五〇	一・八一八
大豆	上	一斗	・九五〇	・九〇〇	・七三〇	・九〇〇	・八五〇	一・〇五〇	・九〇〇	・九〇〇	一・〇〇〇	一・二〇〇	—	・七七〇	・七〇〇	・九〇四
	下	同	—	・九〇〇	・七〇〇	・八三〇	・八五〇	・九五〇	・八〇〇	・八〇〇	・九〇〇	一・〇〇〇	—	・六七〇	—	・八四〇
小豆	上	一斗	一・二〇〇	一・一五〇	一・一五〇	一・二〇〇	—	一・四〇〇	一・一五〇	一・三〇〇	一・四〇〇	一・二五〇	—	一・二五〇	・九五〇	一・二一八
	下	同	一・一〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・一五〇	—	一・三〇〇	・九五〇	一・〇〇〇	一・二〇〇	一・一八〇	—	一・〇〇〇	—	一・〇八八
麥粉	上	五十封度入一袋	二・五五〇	二・四七〇	二・五五〇	二・六五〇	二・五〇〇	二・四二〇	二・六〇〇	二・四五〇	二・五五〇	二・五〇〇	二・六五〇	二・七〇〇	二・四五〇	二・五四二
食鹽	上	一升	・〇六〇	・〇三五	・〇七〇	・〇五五	・〇六〇	・〇七〇	・〇八〇	・〇八〇	・〇五〇	・〇六〇	・一〇〇	・〇五〇	・一一〇	・〇六八
味噌	上	一貫	・四〇〇	・四〇〇	・五三〇	・五〇〇	・八五〇	・五〇〇	・五〇〇	・四五〇	・六〇〇	・五〇〇	・六〇〇	・五〇〇	・六〇〇	・五三三
醤油	上	一升	・五〇〇	・五〇〇	・五七〇	・四〇〇	・四〇〇	・三七〇	・五五〇	・四〇〇	・五〇〇	・五〇〇	・四〇〇	・四〇〇	・四〇〇	・四五三
砂糖	四温	一斤	・一二〇	・一二五	・一五〇	・一三五	・一四〇	・一二〇	・一三〇	・一二〇	・一四〇	・一五〇	・一三〇	・一四〇	・一三〇	・一三〇
鷄卵		十箇	・一五〇	・一七〇	・一八〇	・一九〇	・一三〇	・二〇〇	・一三〇	・一六〇	・一五〇	・一五〇	・〇九〇	・二〇〇	・一七〇	・一五九
明太魚	上	一二十疋綴	・二五〇	・二九〇	・三五〇	・二七〇	・二五〇	・三〇〇	・二五〇	・二〇〇	・二七〇	・二五〇	・二四〇	—	・三三〇	・二七〇
薪	上	十貫目	・五〇〇	・四〇〇	・八〇〇	・三三〇	・三〇〇	・二八〇	・五〇〇	・三〇〇	・三〇〇	・四五〇	・五〇〇	・二五〇	・三五〇	・四〇四
木炭	上	十貫目	一・二〇〇	・九〇〇	一・二〇〇	一・二〇〇	一・五〇〇	一・三〇〇	・六二〇	・八〇〇	一・一〇〇	・八五〇	一・〇〇〇	一・二三〇	一・〇五〇	一・〇七三
石油	上	一罐	一・七五〇	一・七〇〇	一・七五〇	一・八五〇	一・六五〇	一・五五〇	一・六五〇	一・七〇〇	一・七五〇	一・八〇〇	一・七〇〇	一・六五〇	一・七五〇	一・七一五
マッチ	人號印	一袋	・二五	・二五	・二五	・二五	・三〇	・三五	・三〇	—	・二〇	・四〇	—	—	—	・二八
	大號印	同	・二五	・二五	・二五	—	・三〇	・三〇	—	・三〇	・二〇	・四〇	—	—	—	・二八
洋金巾	上	一反	七・三〇〇	七・八〇〇	七・二〇〇	六・六〇〇	七・〇〇〇	八・二五〇	六・二八〇	六・三〇〇	八・二〇〇	七・九五〇	七・六〇〇	八・〇〇〇	八・一五〇	七・四三三
和金巾	上	一反	六・八六五	六・九五〇	六・九〇〇	七・〇〇〇	七・〇〇〇	六・六〇〇	六・三五〇	—	七・〇〇〇	六・六〇〇	七・三〇〇	—	六・七五〇	六・八四七
寒冷紗	上	一反	—	一・三五〇	一・七〇〇	—	—	一・六五〇	—	一・五五〇	一・六〇〇	一・八〇〇	一・八〇〇	一・五〇〇	—	一・六一九
紡績絲	鐘紡	一玉	三三・六七五	三三・八五〇	三三・七〇〇	—	三三・四五〇	—	三三・三六〇	—	三三・五〇〇	—	—	—	—	三三・六七三
	攝紡	同	—	三三・八五〇	三三・七〇〇	三三・九〇〇	三三・四五〇	三三・四五〇	三三・三六〇	三三・四〇〇	三三・五〇〇	三三・六〇〇	三・五〇〇	—	—	三三・六二一
	三重紡	同	—	三三・八五〇	三三・七〇〇	三三・八三〇	三三・九五〇	—	三三・三六〇	—	三三・五〇〇	—	—	—	—	三三・六九八
打綿	上	一斤	・五〇〇	・五五〇	・四八〇	・六〇〇	・六三〇	・四二〇	・四七〇	・五五〇	・四八〇	・五五〇	・四〇〇	・八〇〇	・七三〇	・五四九

生漉半紙	上	一帖	五〇	五五	六五	四五	五〇	六〇	四〇	五〇	五〇	四〇	四〇	七〇	三五	五〇
朝鮮白紙	上	一巻	.三〇〇	.二八〇	.一三〇	.二九〇	.三〇〇	.八〇〇	.四〇〇	.一三〇	.三〇〇	—	.一三〇	—	.一三〇	.三七七
石炭	上	一噸	一〇・五〇〇	九・七五〇	一一・〇〇〇	一一・〇〇〇	九・五〇〇	九・五〇〇	一四・三〇〇	一〇・五〇〇	九・五〇〇	一一・〇〇〇	—	—	一三・五〇〇	一〇・九二四
松材		尺〆一才	.〇九〇	.〇九〇	.〇九〇	.一三〇	.〇七〇	—	.一二〇	.〇五〇	.〇七〇	—	.〇五〇	.〇六〇	.〇七五	.〇八一
杉材		同	.一三〇	.一〇〇	.一二〇	.一五〇	.一二〇	—	.一五〇	.〇七〇	.〇九〇	—	.一〇〇	—	.一六〇	.一一八
日本酒	正宗	一升	.八〇〇	.七五〇	.七五〇	.七〇〇	.七〇〇	.七五〇	.七〇〇	.七〇〇	.七〇〇	.七〇〇	—	.五〇〇	.七〇〇	.七〇四
	白鶴	同	.七〇〇	.六五〇	.六八〇	.六五〇	.七〇〇	.七〇〇	.六〇〇	.六〇〇	.六〇〇	.六五〇	.六五〇	.五〇〇	.六〇〇	.六三七
	金露	同	.六〇〇	.六〇〇	.六〇〇	.六〇〇	.六五〇	.六五〇	.六〇〇	.六〇〇	.六〇〇	.六〇〇	—	.五〇〇	.五五〇	.五九六
	春駒	同	—	.五五〇	.五八〇	.六〇〇	.六五〇	.五五〇	—	.六〇〇	.五五〇	.六〇〇	—	—	.五五〇	.五八一
	東洋一	同	—	—	.六〇〇	—	—	.五〇〇	—	—	.五五〇	.六〇〇	—	—	—	.五六三
麦酒	札幌	一打	二・五〇〇	二・五〇〇	二・六〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇	二・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・八〇〇	二・六〇〇	—	二・六五〇	二・五三一
	エビス	同	—	二・五〇〇	—	—	二・四〇〇	二・四〇〇	二・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・七五〇	—	—	二・六五〇	二・五一三
	朝日	同	—	二・五〇〇	二・六〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇	二・六〇〇	二・三〇〇	二・五〇〇	二・八〇〇	—	—	—	二・五〇〇
朝鮮刻煙草	上	一斤	.二八〇	.三五〇	.二七〇	.三七〇	.五〇〇	.四〇〇	一・二八〇	.五〇〇	.四〇〇	.三三〇	.五〇〇	—	—	.四七〇

第四款 勞銀

三月中各地勞働賃銀表

職業	京城	仁川	平壤	鎮南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	平均
大工	円 一・五〇〇	円 一・三〇〇	円 一・八〇〇	円 一・五〇〇	円 一・五〇〇	円 一・一五〇	円 一・四〇〇	円 一・二〇〇	円 一・三〇〇	円 一・五〇〇	円 一・六〇〇	円 一・四三三
同朝鮮人	一・〇〇〇	.九七〇	.六〇〇	.七〇〇	.八〇〇	.七〇〇	.六〇〇	—	一・二〇〇	.五〇〇	一・〇〇〇	.八〇七
左官	一・五〇〇	一・三〇〇	一・八〇〇	—	一・五〇〇	一・二二五	一・三五〇	一・三〇〇	一・三〇〇	一・五〇〇	一・八〇〇	一・四五八
石工	二・〇〇〇	二・〇〇〇	二・二五〇	一・八〇〇	一・六〇〇	一・八〇〇	一・六五〇	一・六五〇	一・五〇〇	一・八〇〇	二・〇〇〇	一・八二三
同朝鮮人	一・五〇〇	一・一〇〇	一・二〇〇	—	.八〇〇	—	.五〇〇	—	一・二〇〇	.六五〇	一・二〇〇	一・〇一九
木挽	一・八〇〇	一・三〇〇	一・七〇〇	—	一・五〇〇	一・一五〇	一・三〇〇	一・五〇〇	—	一・八〇〇	一・六〇〇	一・五三三
同朝鮮人	一・〇〇〇	一・〇〇〇	.八〇〇	—	一・二〇〇	.八七五	.六五〇	—	—	一・二〇〇	.八〇〇	.九四一

職業	京城	仁川	平壤	鎭南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	平均
	円	ヨ	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
瓦葺	二•二〇〇	一•五〇〇	一•八〇〇	一•五〇〇	一•五〇〇	一•八〇〇	一•三五〇	一•三〇〇	一•八〇〇	一•五〇〇	一•六〇〇	一•六二三
煉瓦職	二•〇〇〇	一•五〇〇	二•〇〇〇	一•五〇〇	一•五〇〇	一•三七五	一•六五〇	一•八〇〇	二•〇〇〇	一•五〇〇	二•〇〇〇	一•七一二
同朝鮮人	一•五〇〇	•九〇〇	一•二〇〇	—	—	一•一〇〇	—	—	—	•五〇〇	一•〇〇〇	一•〇三三
ペンキ職	一•五〇〇	一•五〇〇	一•七五〇	一•五〇〇	一•五〇〇	一•一五〇	一•四五〇	一•六〇〇	一•五〇〇	一•五〇〇	二•〇〇〇	一•五四一
錻力職	一•五〇〇	一•四〇〇	一•六〇〇	一•五〇〇	一•二〇〇	一•三五〇	一•四〇〇	一•四〇〇	一•五〇〇	一•八〇〇	二•〇〇〇	一•五一四
鍛冶職	一•五〇〇	一•五〇〇	二•二〇〇	二•〇〇〇	一•二〇〇	一•三五〇	一•六〇〇	—	一•〇〇〇	一•八〇〇	二•〇〇〇	一•六一五
疊職	一•四〇〇	一•五〇〇	一•三〇〇	一•六五〇	一•五〇〇	一•一〇〇	一•三〇〇	一•二〇〇	一•三〇〇	一•五〇〇	二•〇〇〇	一•四三三
井戸掘	一•二〇〇	一•九〇〇	一•八〇〇	—	•六〇〇	一•六五〇	一•四〇〇	—	二•〇〇〇	一•五〇〇	一•五〇〇	一•五〇六
表具師	一•二〇〇	一•七〇〇	一•三〇〇	一•五〇〇	一•二〇〇	一•一〇〇	一•三〇〇	一•四〇〇	一•五〇〇	一•五〇〇	一•六〇〇	一•三九一
同朝鮮人	•八〇〇	•九〇〇	•七〇〇	一•〇〇〇	•八〇〇	—	•四五〇	—	一•三〇〇	•四五〇	—	•八〇〇
靴製造職	—	一•五〇〇	二•三〇〇	—	一•三〇〇	一•二五〇	一•二〇〇	一•二五〇	—	一•八〇〇	二•〇〇〇	一•五七五
洋服職工	—	一•五〇〇	二•五〇〇	—	一•五〇〇	一•二五〇	一•三〇〇	一•二五〇	二•〇〇〇	一•五〇〇	一•八〇〇	一•六二三
車夫	一•四五〇	一•二五〇	一•九〇〇	一•五〇〇	一•九〇〇	一•五〇〇	一•三〇〇	一•三〇〇	—	一•〇〇〇	—	一•四五六
同朝鮮人	一•一〇〇	一•一五〇	一•七〇〇	一•五〇〇	一•八〇〇	一•五〇〇	•九五〇	一•一〇〇	一•〇〇〇	•四五〇	—	一•一二五
人夫	•八〇〇	一•〇〇〇	•九〇〇	•七〇〇	•八〇〇	•六二五	•九〇〇	•七四〇	•五〇〇	•八〇〇	一•〇〇〇	•七九七
同朝鮮人	•四〇〇	•五五〇	•四〇〇	•四五〇	•四〇〇	•四五〇	•四五〇	•四〇〇	—	•四五〇	•五〇〇	•四四五

第五款　參考資料

第一　各手形組合保證及仕拂額表

組合名	前月末現在額	保證額	仕拂額	現在額
	円	円	円	円
漢城	三四一、六九〇•〇〇〇	一六七、四〇〇•〇〇〇	一六三、七二〇•〇〇〇	三四六、三七〇•〇〇〇
水原	四五、五〇〇•〇〇〇	一五、五〇〇•〇〇〇	一七、九〇〇•〇〇〇	四三、一五〇•〇〇〇
平壤	一五一、四二五•〇〇〇	六三、七二〇•〇〇〇	八二、四八〇•〇〇〇	一三二、六六五•〇〇〇
鎭南浦	九二、八三〇•〇〇〇	四六、八〇〇•〇〇〇	三七、七〇〇•〇〇〇	一〇一、九三〇•〇〇〇

大邱	一六二,〇二〇・〇〇〇	六四,二五〇・〇〇〇	七二,三五〇・〇〇〇	一五二,九二〇・〇〇〇
全州	六〇,八五〇・〇〇〇	一八,一四〇・〇〇〇	二〇,八五〇・〇〇〇	五八,一四〇・〇〇〇
晋州	一一九,四三五・〇〇〇	四四,一六〇・〇〇〇	三八,八二〇・〇〇〇	一二四,七七五・〇〇〇
光州	八八,六五〇・〇〇〇	二七,〇四〇・〇〇〇	三二,九八〇・〇〇〇	八二,七一〇・〇〇〇
總計	一,〇六二,四〇〇・〇〇〇	四四七,〇六〇・〇〇〇	四六六,八〇〇・〇〇〇	一,〇四二,六六〇・〇〇〇

第二 手形交換

一 京城、釜山、仁川手形交換所交換高表

仕拂手形

銀行別	京城 交換金額 (円)	京城 交換差額 (円)	釜山 交換金額 (円)	釜山 交換差額 (円)	仁川 交換金額 (円)	仁川 交換差額 (円)	計 交換金額 (円)	計 交換差額 (円)
朝鮮銀行	一,〇九五,九〇八	三五三,六七一	二六八,四七七	四九,九八六	一四〇,三五二	九,五四八	一,五〇四,七三七	四一三,二〇五
第一銀行支店	九八三,九四二	四〇〇,四七一	四六二,二七七	一〇三,五七八	—	—	一,四四四,一〇九	五〇三,〇四九
百三十銀行支店	六一一,五八一	一四七,三一〇	一九一,二八五	一一,〇三四	一五九,四四四	七一,四三一	九六二,三一〇	二二九,七七五
十八銀行支店	三八七,三七〇	三〇,四九三	二六六,九九四	四五,二四二	三四八,五二三	一九一,七八七	一,〇〇二,八八七	二六七,五二二
漢湖農工銀行	四〇三,二三八	二一〇,四七一	—	—	—	—	四〇三,二三八	二一〇,四七一
朝鮮商業銀行	四八一,一四九	一三六,三三四	—	—	—	—	四八一,一四九	一三六,三三四
韓一銀行	九九,五七八	六六,四九一	—	—	—	—	九九,五七八	六六,四九一
漢城銀行	二一八,七九二	一四〇,〇三八	—	—	—	—	二一八,七九二	一四〇,〇三八
慶尙農工銀行	—	—	一九一,九一五	一一九,九八二	—	—	一九一,九一五	一一九,九八二
周防銀行支店	—	—	一五三,二〇九	四五,四二七	—	—	一五三,二〇九	四五,四二七
京城郵便局	二八一,六三三	—	—	—	—	—	二八一,六三三	—
合計	四,五六三,一七一	一,四八四,三八一	一,五三一,九五七	三七四,二四九	六四四,三一九	二七二,七八六	六,七三八,四四七	二,一三一,三一六

持出手形

銀行別	京城 交換金額 (円)	京城 交換差額 (円)	釜山 交換金額 (円)	釜山 交換差額 (円)	仁川 交換金額 (円)	仁川 交換差額 (円)	計 交換金額 (円)	計 交換差額 (円)
朝鮮銀行	一,〇六三,七三一	三三〇,四八四	三四九,一三七	一三〇,六四六	三七四,五〇四	二四四,七〇〇	一,七八七,三七二	六九四,八三〇
第一銀行支店	七五九,四四七	一四六,九八六	四二七,一五九	六八,五六〇	—	—	一,一八六,六〇六	二一五,五四六
百三十銀行支店	五八三,四九四	一一九,三四四	二四二,〇四九	六一,八九八	一〇五,一九四	三一,一〇一	九三〇,七三七	二〇二,三四三
十八銀行支店	八八二,六〇二	三三九,七三五	三〇五,四八六	八三,七二三	一六四,六二一	七,八八五	一,三五二,七〇九	六一七,五四三
漢湖農工銀行	四二六,〇七一	二五五,三〇五	—	—	—	—	四二六,〇七一	二五五,三〇五
朝鮮商業銀行	四三〇,八四一	八六,〇二六	—	—	—	—	四三〇,八四一	八六,〇二六
韓一銀行	五七二,二六一	二四,一七四	—	—	—	—	五七二,二六一	二四,一七四
漢城銀行	一〇七,二一一	二八,三五七	—	—	—	—	一〇七,二一一	二八,三五七
慶尙農工銀行	—	—	七七,三二六	五三,三八四	—	—	七七,三二六	五三,三八四
周防銀行支店	—	—	一三〇,九一〇	二四,一二七	—	—	一三〇,九一〇	二四,一二七
京城郵便局	二八一,六三三	—	—	—	—	—	二八一,六三三	—
合計	四,五六三,一七一	一,四八四,三八一	一,五三一,九五七	三七四,二四九	六四四,三一九	二七二,七八六	六,七三八,四四七	二,一三一,三一六

二 交換手形種別表

證書種別	京城 枚數	京城 金額 (円)	釜山 枚數	釜山 金額 (円)	仁川 枚數	仁川 金額 (円)	計 枚數	計 金額 (円)
小切手	一〇,四〇八	三,二三四,三九三	五,一九八	一,二六三,八三四	—	—	一五,六〇六	四,四九八,二二七

證書種別	京城 枚數	京城 金額	釜山 枚數	釜山 金額	仁川 枚數	仁川 金額	計 枚數	計 金額
		円		円		円		円
爲替手形	三八四	三四七・四六三	八八七	一四一、一八二	—	—	一、二七一	四八八、六四五
約束手形	三六	一五、二五七	三七	一一、二九六	—	—	七三	二六、五五三
仕拂命令	一、七〇二	五二八、〇五一	一三八	七、七三五	—	—	一、八四〇	五三五、七八六
郵便爲替證書	二、一八五	二八一、六二三	—	—	—	—	二、一八五	二八一、六二三
公債債券同利札	一、一六三	六、一六六	—	—	—	—	一、一六三	六、一六六
雜證書	一九九	一四九、二一八	八九	一〇七、九一〇	—	—	二八八	二五七、一二八
合計	一六、〇七七	四、五六二、一七一	六、三四九	一、五三二、九五七	一、六五三	六四四、三一九	二四、〇七九	六、七三八、四四七

第三　三月中大阪及仁川定期米相場表

（△印ハ減）

年月	大阪 當限 最高	大阪 當限 最低	大阪 當限 平均	大阪 中限 最高	大阪 中限 最低	大阪 中限 平均	大阪 先限 最高	大阪 先限 最低	大阪 先限 平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
三月中	二〇・一八〇	一九・〇四〇	一九・六八〇	一九・五四〇	一八・九二〇	一九・三九〇	一九・五二〇	一八・九五〇	一九・三九一
對前月增減	・五六〇	・四五〇	・六二四	・三六〇	・七四〇	・七四七	・三九〇	・八五〇	・八六一
對前年同月增減	五・〇七〇	四・一二〇	四・六三二	—	—	—	四・〇一〇	三・七三〇	四・〇六二

年月	仁川 當限 最高	仁川 當限 最低	仁川 當限 平均	仁川 中限 最高	仁川 中限 最低	仁川 中限 平均	仁川 先限 最高	仁川 先限 最低	仁川 先限 平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
三月中	一四・〇五〇	一三・八五〇	一三・九二七	一四・一五〇	一三・八六〇	一四・〇〇六	一四・二〇〇	一三・九四〇	一四・一一九
對前月增減	・〇二〇	△・一八〇	△・一〇三	・一七〇	・四〇〇	・三七一	△・一一〇	・八九〇	・三五四
對前年同月增減	—	—	—	—	—	—	三・九四〇	三・五六〇	三・三三五

第四　三月中朝鮮產大豆大阪相場表

（△印ハ減）

年月	釜山 高	釜山 低	釜山 普	仁川 高	仁川 低	仁川 普	鎭南浦 高	鎭南浦 低	鎭南浦 普	元山 高	元山 低	元山 普
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
三月中	一〇・五〇〇	一〇・五〇〇	一〇・五〇〇	一〇・三〇〇	一〇・三〇〇	一〇・三〇〇	一一・〇〇〇	一〇・九〇〇	一〇・九八二	一二・二〇〇	一二・二〇〇	一二・二〇〇
對前月增減	△・一〇〇	・一〇〇	△・〇〇六	△・三〇〇	—	△・〇八八	△・二〇〇	—	△・〇〇六	△・二〇〇	—	△・〇四一
對前年同月增減	一・一五〇	一・三〇〇	一・三〇〇	一・〇〇〇	一・三五〇	一・一六六	一・二五〇	一・四〇〇	一・三二九	一・四〇〇	一・八〇〇	一・五〇三

運輸及交通

○鐵道建設工事ノ概況

（四十五年四月末調）

一　京元線建設工事

〔龍山方面〕

土工橋梁及隧道工事

漣川鐵原間（十四哩九分）　土工工事約九分四厘通、橋梁工事約八分五厘通、全體ヲ通シテ約九分通成工セリ

鐵原平康間（十三哩九分）　土工工事約四分通、橋梁工事約二分通全體ヲ通シテ約二分五厘通成工セリ

漢灘江橋梁鋼桁架設（徑間二百呎二連徑間六十呎四連）工事　成工セリ

軌道敷設並建築列車運轉　龍山起點四十五哩七十四鎖（漣川停車場）ニ達ス

建物工事　漣川、高灘、東豆川及德亭停車場本家其ノ他新設工事約二分通、鐵原及大光里停車場本家其ノ他新設工事約一分通、平康及月井里停車場構內合宿所新設工事約四分通成工セリ

〔元山方面〕

土工橋梁及隧道工事

元山元山里間（三哩一分）　土工工事二分三厘通、橋梁工事三分二厘通、全體ヲ通シテ二分三厘通成工セリ

元山里南山間（十哩五分）　土工工事七分五厘通、橋梁工事一分八厘通、全體ヲ通シテ四分通成工セリ

南山龍池院間（十哩九分）及龍池院高山間（四哩三分）　著手後日尚淺ク步通ヲ計上スルニ至ラス

二　湖南線建設工事

〔大田方面〕

土工橋梁及隧道工事

大田連山間（二十四哩六分）　補修工事ハ大略之ヲ終レリ

裡里金堤間（十一哩五分）　土工工事九分五厘通、橋梁工事八分通、全體ヲ通シテ九分通成工セリ

金堤井邑間（十五哩七分）　土工工事八分通、橋梁工事一分通、全體ヲ通シテ七分通成工セリ

井邑四街里間（十一哩一分）　土工工事二分通、橋梁工事ハ未タ步通ヲ計上スルニ至ラス

第一蘆嶺隧道工事（延長千五十六呎）　導坑掘鑿七百四十六呎丸形切擴五百七十四呎中脊切擴三百五十二呎大脊切擴百三十呎

ナリ

第二蘆嶺隧道工事（延長三千百二呎）　導坑掘鑿六百三呎丸形切擴二百七十一呎ナリ

軌道敷設並建築列車運轉　裡里起點約一哩ニ達シ建築列車ハ五月一日ヨリ運轉ノ筈ナリ

建物工事　軍令里工事掛員溜所其ノ他新築工事五分通成工セリ

〔木浦方面〕

用地　群山支線（十四哩八分）八分五厘通買收セリ

土工橋梁及隧道工事

木浦夢灘間（十二哩）　土工工事五分六厘通、橋梁工事三分三厘通、全體ヲ通シテ五分三厘通成工セリ

夢灘鶴橋間（十哩三分）　土工工事五分一厘通、橋梁工事二分三厘通、全體ヲ通シテ四分四厘通成工セリ

鶴橋羅州間（十三哩一分）　著手後日尚淺ク歩通ヲ計上スルニ至ラス

電線　木浦四街里間（六十七哩八分）ノ通信ヲ開始シ之ニテ大田木浦間通信ノ聯絡ヲ取ルニ至レリ尚木浦九津浦間（三十一哩）ノ通話ヲ開始セリ

用地　木浦鶴橋間（二十二哩三分）八分四厘通、鶴橋榮山浦間（十一哩二分）九分九厘通、榮山浦四街里間（三十四哩八分）一分一厘通買收ヲ了シ木浦四街里間（六十七哩八分）ノ丈量ヲ了セリ

三　京義線改築工事

清川江避溢橋新設其ノ他工事　土工工事四分通、橋梁工事五分通、全體ヲ通シテ約四分五厘通成工セリ

元平壤保線事務所ヲ龍山停車場構内本局廳舍ニ移轉改增築工事　基礎工事九分通、軸及屋根工事四分通、造作其ノ他工事二分通、全體ヲ通シテ約四分通成工セリ

龍山停車場構内旋盤及組立工場其ノ他新設工事　基礎工事九分五厘通、軸及屋根工事六分五厘通、造作其ノ他工事三分五厘通、全體ニテ約六分通成工セリ

四　平南線改築工事

橋梁工事　東軍江橋梁約八分五厘通、院洞江橋梁約六分通、西江橋梁約七分通、木浦江及大寶江橋梁約一分五厘通、日荷池川橋梁約一分通成工セリ

五　京釜線改築工事

漢江橋梁新設工事　基礎工事九分通、軀體工及前後築堤工事七分通、架桁四分通、全體ヲ通シテ約七分通成工セリ

○軌道及輕便鐵道ニ關スル事項

（四十五年四月分）

一　許可若ハ認可シタルモノ左ノ如シ

(一)京城古市町現在電氣軌道線路ヨリ分岐シ福喜洋行敷地ニ至ル假線敷設工事竣工ニ付車輛運轉ノ件（日韓瓦斯電氣株式會社）

(二)釜山鎭東萊間輕便鐵道改築線路中釜山鎭南門間車輛假運轉ノ件（韓國瓦斯電氣株式會社）

二　敷設許可申請ヲ却下シタルモノ左ノ如シ

平壤壽町内田錄雄外二名出願ニ係ル平壤寺洞間人車鐵道敷設ノ件

三　踏切道擴築ヲ命シタルモノ左ノ如シ

京城南大門通ヨリ本町一丁目（京城居留民團役所前）ニ至ル道路擴築ニ付同所ニ於ケル電氣軌道踏切敷石ノ幅員ヲ十五間ニ擴築ノ件（日韓瓦斯電氣株式會社）

四　重ナル事故左ノ如シ

四月二十一日以降豪雨ノ爲韓國瓦斯電氣株式會社所屬釜山鎭東萊間輕便鐵道線路浸水破損ニ付左記列車ノ運轉ヲ休止シタリ

二十一日		
	溫泉場　南門間	第八列車
	同　釜山鎭間	第十、十二列車
	釜山鎭溫泉場間	第九、十一列車
二十二日		
	南門　溫泉場間	第一、五列車
	溫泉場　南門間	第二、六列車
二十五日		
	南門　溫泉場間	第七、列車ヨリ第十二列車迄
三十日		
	南門　溫泉場間	第一列車ヨリ第六列車迄

○通信事業施設概況

（四十五年三月分）

第一　通信機關及收扱業務ノ開廢

本期間内ニ開廢施設シタル通信現業機關ヲ擧クレハ左ノ如シ

郵便所設置	一四
電信取扱所設置	六
郵遞所廢止	三（本廢止ノ結果朝鮮ニ於ケル郵遞所ハ全部郵便所ニ改定セラレタリ）
郵便受渡所廢止	一

又本期間内ニ於ケル取扱業務增加數ヲ擧クレハ左ノ如シ

通常郵便ノ取扱開始	一〇

小包郵便ノ取扱開始 一三
爲替貯金ノ取扱開始 一四
歲出入金等ノ受拂事務開始 一二
電報ノ取扱開始 和文 三一
歐文 二五
諺文 二五
電話通話事務ノ開始 二五
特許電話交換業務ノ開始 二

如上施設ノ結果三月末日現在ノ通信現業機關左ノ如シ

種別	局所數	業務取扱別 通常郵便	小包郵便	爲替貯金	電報 和文	歐文	諺文	電話 交換及通話	通話	歲出入金等受拂
郵便局	一八九 外分室五	一八九 外分室三	一八九 外分室四	一八九 外分室二	一八四 外分室一	一八四 外分室一	一八四	三四	一三三	一六一 外分室二
郵便所	二七二	二七二	二七二	二七二	一一八	一一八	一一八	九	一〇二	二三三
電信取扱所	六七	—	—	—	六七	—	—	—	—	—
郵便取扱所	一	一	一	—	—	—	—	—	—	—
計	五二九 外分室五	四六二 外分室三	四六二 外分室四	四六一 外分室二	三六九 外分室一	三〇二 外分室一	三〇二 外分室一	四三	二三五	三九四 外分室二

第二 郵便

一 郵便遞送ニ關スル施設事項

(イ)陸路郵便線路 陸路郵便線路ニ關シ改良施設シタル主要ノ事項ハ一、湖南線鐵道江景ヨリ群山迄延長ニ伴ヒ之カ關係線路ヲ改定シ光州方面著ノ郵便物ハ裡里驛ヨリ金堤、古阜ヲ經テ遞送セシムルコトトシ關係各地トモ一般ニ郵便發著上半日乃至一日ノ速達ヲ來セルコト二、郵便所ノ新設ニ伴ヒ新ニ郵便線路ヲ開キ之カ關係線路ヲ變更シタルコト三、一般ノ改良ニ依リ永同、茂朱間ニ新線路ヲ開キ又新幕新溪間ノ線路ヲ廢シ南川新溪間線路ヲ開キタルカ爲新溪、伊川、谷山方面ト京城方面トノ發著郵便物ハ一日ノ速達ヲ來セルコト等ニシテ其ノ施設事項及計數左ノ如シ

一 線路開始(鐵道便受渡線路ヲ除ク) 二六(內 每日便 一九 隔日便 七)
一 鐵道便受渡線路ノ開始 一〇
一 線路廢止 二七(內 每日便 二二 隔日便 五)
一 人夫遞送ヲ人車遞送ニ改メタル線路 二
一 發著時刻其ノ他遞送方法ヲ改メタル線路 二〇

(ロ)鐵道郵便線路 鐵道郵便線路ニ關スル施設トシテハ一、湖南線鐵道江景ヨリ群山迄延長ニ伴ヒ郵便夫護送ノ閉囊便ナリシ同線ニハ吏員ヲ乘務セシメ車中ニ於テ郵便物ノ區分ヲ取扱フ方法タル係員取扱便ニ改メ新ニ全州、群山、外七局所ヲシテ其ノ發著郵便物ヲ受渡セシメタルコト二、釜京線沿道深川郵便所ノ新設ニ伴ヒ同所ヲ釜京間鐵道郵便線路ノ受渡局ニ加ヘ又三馬線受渡局進永、昌原兩所ノ郵便受渡回數ヲ增加シタルコト等トス

(ハ)水路郵便線路 水路郵便線路ニ關スル施設トシテハ一、湖南線鐵道郵便線路群山迄延長ニ伴ヒ錦江水路ニ依ル江景群山間水路遞送ヲ廢止シ又松眞馬山間海軍防備隊汽艇ニ託送セル

遞送ヲ廢シ兩地間ニ毎日互地發ノ和船航送便ヲ開ケル外新設ノ欲知島、新昌里兩郵便所ニモ水路ニ依ル遞送連絡ヲ開始セリ

二 三月末日ニ於ケル郵便物送達所要日數表別表ノ如シ

三 郵便集配ニ關スル施設事項

郵便集配ニ關スル改良施設トシテハ一、郵便所新設ニ伴ヒ郵便區及集配區ヲ分割規定シタルコト二、湖南線鐵道群山迄延長ニ伴ヒ群山、全州其ノ他該鐵道沿道各地ニ於ケル局所ノ集配回數ヲ增加スルト共ニ遞送便ノ改良ニ基ク集配時刻ヲ改正シタルコト等ニシテ其ノ他郵便集配上改善施設ヲ爲シタル事項及計數左ノ如シ

一 郵遞所ヲ郵便所ニ改定ノ爲集配區劃ヲ細分規定セシ所數	三
一 新ニ郵便所開設ノ爲郵便區ヲ分割設定セシ所數	九
一 郵便區又ハ集配區ノ組替ヲ爲セシ局所數	二二
一 集配區劃又ハ集配回數ヲ增加セシ局所數	四六
一 郵便區市內ニ新ニ郵便函設置ノ爲取集便ヲ開始セシ局所數	四
一 郵便局所ヨリ遠隔セル地ニ遞送途中集配ヲ開始セシ箇所數	四〇
一 前各項ノ外集配方法ヲ改正セシ局所數	四二

第三 郵便爲替

一 電信爲替證書留置ノ制開始

電信爲替證書ヲ拂渡局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待ツテ交付スルノ制度ヲ設ケ旅行等ノ爲其ノ居所ヲ一定シ能ハサル受取人ニ對シ爲替送金上ノ利便ヲ期圖セリ

二 郵便無集配局所ニ於ケル電信爲替證書發行ノ特例

從來郵便無集配局所ニ於テハ總テ電信爲替證書ノ發行ヲ爲ササリシモ今回電報配達事務ヲ取扱フ郵便無集配局所ニ於テハ爲替電報ノ取扱及電信爲替證書ノ發行並之カ送達ヲモ取扱フコトトシ電信爲替受領者ノ利便ヲ期圖セリ

三 電信爲替證書配達方法ノ改正

從來電信爲替證書ハ受取人ニ到達スヘキ時刻ノ如何ニ依リ直配達ニ依ル場合ト書留郵便ニ依ル場合トノ區別アリタルモ之ヲ改正シテ電報直配達區域內ハ直ニ受信電報ノ例ニ依リ配達スルコトトシ又拂渡局所カ電報配達事務ヲ取扱ハサル郵便集配局所ニシテ而カモ電信局所ノ直配達區域內ニ在リ且受取人ノ居所モ亦其ノ直配達區域內ナルトキハ當該拂渡局所ハ別配達郵便ニ依リ證書ヲ配達スルコトトセリ

四 小爲替證書確認拂開始

他局所ヲ拂渡局所ニ指定シアル小爲替證書ト雖正當受取人タルコトヲ確認シタル場合ニハ一般確認拂ノ手續ニ依リ拂渡ヲ執行スルコトトシ小爲替金受領者ノ利便ヲ圖レリ

第四　電信

電信事務開始

土地ノ發展ニ伴ヒ電信事務開始ノ必要ヲ認メ創設工事中ナリシ平山外二十四箇所ハ準備總テ整頓セシニ付本期間内其ノ取扱ヲ開始シタリ

京元及湖南線開通後各其ノ主要驛ニ於テ公衆電報取扱開始ノ必要ヲ認メ三月十一日ヨリ議政府外五箇所ニ本事務ヲ開始シタリ

第五　電話

一　電話通話事務開始

土地ノ發展ニ伴ヒ電話通話事務開始ノ必要ヲ認メ諸準備中ナリシ平山外二十四箇所ヘ本期間内其ノ取扱ヲ開始シタルト同時ニ朔寧、開城間外二百七十六區間ニ市外通話ヲ爲シ得ルコトトセリ

二　特設電話交換開始

慶尙北道浦項及慶州ハ近時地況非常ニ發展シ茲ニ特設電話交換業務開始ノ必要ヲ認メ諸準備中ノ所總テ整頓シタルニ依リ浦項ハ三月一日ヨリ慶州ハ三月二十一日ヨリ各其ノ取扱ヲ開始シタリ

第六　電信電話回線

一　内地朝鮮間海底線ノ増設

内地朝鮮間發著電報通信ハ近來益増加セルヲ以テ更ニ釜山下關間ニ一海底線ヲ増設シ三月三十一日ヨリ通信ニ使用セルヲ以テ今後内地朝鮮間電報通信ノ疏通上一層ノ敏活ヲ期シ得ヘク特ニ内地間他ノ海底線ニ障碍ヲ生セシ場合ト雖モ電報通信ノ遲滯ヲ來スヲ免レ得ルニ至ルヘシ

二　朝鮮内電信電話回線等ノ改良施設

朝鮮内電信電話回線等ニ關スル改良施設トシテハ電信及電話通話事務取扱開始又ハ電信電話通信ノ増加等ニ伴ヒ左記回線ヲ變更又ハ新設シ又電信事務ノ開始ニ伴ヒ電信區劃ヲ分割改定セシモノ六十四局所アリ

回線名	
金化朔寧間（電信電話兼用）	金化漣川線ヲ朔寧ニ延長シ接續局ニ朔寧ヲ加フ
平山瑞興間（同上）	新幕瑞興線ヲ平山ニ延長シ接續局ニ瑞興ヲ加フ
靈光茂長間（同上）	靈光法聖浦線ヲ茂長ニ延長シ接續局ニ茂長ヲ加フ
安岳松禾間（同上）	接續局ニ長連ヲ加フ
開城漣川間（同上）	同　高浪浦、積城、麻田ヲ加フ
溫泉里洪州間（同上）	同　新昌ヲ加フ
乗山浦海南間（同上）	同　康津ヲ加フ
光州南原間（同上）	同　昌平ヲ加フ
蔚珍盈德間（同上）	同　平海、寧海ヲ加フ
慶州盈德間（同上）	同　淸河ヲ加フ
居昌咸陽間（同上）	同　安義ヲ加フ
沙里院安岳間一番線（同上）	黄州安岳線ノ沙里院安岳間線ニ電話二重法ヲ施行シ同時ニ沙里院ニテ兩斷シ上記各兩線ヲ構成ス
同　二番線（同上）	
沙里院黄州間（同上）	
釜山馬山元町間（同上）	釜山馬山線ニ馬山元町蘇洞線ノ馬山元町間線ヲ接續ス
釜山蘇洞間（同上）	釜山馬山間二番電話線ニ馬山元町蘇洞線ノ馬山蘇洞間線ヲ接續ス
群山江景間二番線（電話專用）	増設

（明治四十五年三月三十一日調）

浦	一日
梁	二日
和	一日
岡	一日
西	一日
原	一日
東	一日
川	一日
德	三日
山	二日
川	二日
安	一日
柔	一日
州	一日
安州	一日
川	一日
川	二日

嘉	二日
郭山	二日
龜城	二日
宣川	二日
車輦館	二日
鐵山	二日
白馬	二日
新義州	一日
龍岩浦	二日
北下洞	一日
朔州	二日
昌城	二日
碧潼	四日
楚山	五日
渭原	六日
高山鎮	七日
滿浦鎮	七日

定	一日
長津	四日乃至五日
洪原	二日
北青	約二日乃至三日
甲山	約六日乃至八日
惠山鎮	約七日乃至九日
三水	約七日乃至九日
新乫坡鎮	約九日乃至十一日
利原	三日乃至五日
銅店	約五日乃至九日
新浦	約二日乃至五日
新昌里	約二日乃至五日
端川	三日乃至六日

咸鏡北道管内之部

差立地 鏡城

ト朝鮮内各局所所在地、内地各府縣廳所在地、滿洲、北清各主要地間及各道
其管内各局所間發著郵便物ノ送達所要日數（郵便局所ニ到達スル迄ノ日數）
モノトス
スルモノハ總テ午前京城發列車ニ依ルモノトシテ調査セルモノトス

第七　電信電話工事

一左記郵便所ニ於ケル電信事務開始工事ハ孰レモ三月中竣成シ十一日及二十八日ノ二回ニ事務ノ取扱ヲ開始セリ之ニテ本年度計畫ノモノハ全部結了セリ

清河、寧海、安義、康津、德山、金溝、興德、青陽、咸悅、臨陂、平海、竹邊、議政府、通津

一慶州特設電話開始工事ハ三月中竣成加入者十名ヲ收容シ二十一日ヨリ交換業務ヲ開始セリ

一元山江陵間ノ内元山、安邊及杆城、江陵間並京城、金化間ノ各警備用電話線複線式ニ變更工事ハ孰レモ三月中竣成セリ

一江景群山間市外電話線及電信線増設工事ハ三月七日竣成セリ

一遞信省ニ於テ布設ノ下關、釜山間海底電線ハ三月十一日竣成シ之ニ接續スヘキ釜山局、岩南間陸上連絡線新設工事ハ三月十日竣成本區間電信一回線ヲ構成シ三月三十一日ヨリ通信ヲ實施セリ

○航路標識施設概況

（四十五年三月分）

一　掛燈立標燈質變更

四十五年三月二十九日以降仁川港口北長子嶼掛燈立標ハ其ノ燈質ヲ無等アガ式白色閃光燈（毎三秒時ニ一閃光ヲ發ス）ニ改メタリ

二　掛燈立標ノ建設

四十五年二月二十六日ヨリ起工中ノ晋州附近三千浦ノ掛燈立標竣工シ四十五年三月三十一日ヨリ毎夜點火ス

三　燈臺ノ建設

四十四年五月二十九日ヨリ起工中ノ於青島及四十四年十月二十六日木浦港燈臺竣工シ四十五年三月三十一日以降毎夜點火セリ

四　霧警號新設

前記於青島燈臺ニ霧警號ヲ新設シ濃霧ノ際霧笛ヲ吹鳴セシム

五　燈臺點燈回復

左記燈臺ハ大同江結氷ノ爲點燈休止中ナリシモ解氷ニ伴ヒ下記期日以降從來ノ通點火ス

漣島燈臺	三月七日
蕈島燈臺	同　十日
五里浦燈臺	同　十一日
沸滑島燈臺	同　十一日

六　霧笛ニ事故アル場合打鐘警戒

左記燈臺附近ハ濃霧ノ襲來頻頻ニシテ且島嶼暗礁多キヲ以テ一朝霧警號ニ事故アランカ通航船舶ハ忽チ不慮ノ危難ニ遭遇スルノ虞アリ依テ下記期日以降該燈臺設置ノ霧警號ニ事故アル場合該燈臺ニ於テ船舶ノ汽笛ヲ聞キタルトキハ一

分間約十回必要ト認ムルトキハ尚引續キ打鐘警告スルコトトセリ

下島島燈臺	三月十四日
竹島燈臺	三月三十日
魚龍島燈臺	同
港門島燈臺	同
所里島燈臺	同

理財及金融

○咸鏡南道財務狀況（咸鏡南道報告）

一 財政概要

一昨年十月總督政治開始以來諸般ノ政務漸ク其ノ緒ニ就キ財務行政ノ如キ亦諸法規ノ制定ニ納稅觀念ノ普及ニ大體ノ整備ヲ見ルニ至レリ今本道ニ於ケル租稅徵收額ヲ示セハ

國稅（四十五年二月末日現在）

地稅	一七五、四五三円
戶稅	四〇、二一九
家屋稅	六、四〇二
酒稅	九、六一二
煙草稅	二三、二七一
雜稅其他	二〇、八六三
計	三四四、二一三

地方費賦課金

地稅附加稅	一五、四九二
市場稅	八、三四〇
屠場稅	七、四二五円
計	三一、二五七

面費

面費	八五、一一七

ニシテ一戶當平均額ヲ見ルニ國稅ニ於テ約一圓六十餘錢地方費賦課金十二錢餘面費五十錢ナリ而シテ納稅義務ノ皷吹ニ努メタル結果其ノ成績優良ニシテ現時ノ狀勢ヲ以テ推移セハ遠カラスシテ悉ク納期日內ノ完納ヲ見ルニ至ラン尙又產業ノ獎勵及地方經濟ノ發達ニ伴ヒ一般租稅ノ負擔力ヲ增進シツヽアリ

以上ノ外本道所在國有地六千八百五十一町餘ノ小作料卽チ驛屯賭收入六萬千四百四十五圓ニシテ小作人員二萬千百〇五人ナリ

二 金融ノ現狀

本道ニ於ケル金融ノ概況ヲ述ヘムニ過去數年間ハ不作打續キ市場一般ニ沈衰ノ姿ナリシカ昨年ハ一昨年日韓併合ノ結果諸種ノ恩賜金竝恩賜事業費トシテ投セラレタルモノ十數萬圓又各種勸業上ノ施設費京元鐵道ノ敷設東洋拓殖會社ノ土地購入費其ノ他事業ノ勃興ニ伴ヒ散布セラレタル資金約六十萬圓ニ及ヒ殊ニ同年ハ稀有ノ豐作ニシテ金融ハ爲ニ一般ニ潤澤ナルニ至レリ今本道金融機關業務ノ現況及金利ヲ示セハ左表ノ如シ

金融機關概況

（明治四十四年十二月末現在）

名稱	現在數	資本總額	拂込濟資本金	拂込濟資本金區別 政府拂込分	拂込濟資本金區別 公衆拂込分	積立金	政府貸下金	債券發行額	四十四年下半期當期純益金
農工銀行	二	二〇〇,〇〇〇・〇〇〇	七九,八三五・〇〇〇	三九,七八〇・〇〇〇	四〇,〇五五・〇〇〇	—	一六〇,三二〇・〇〇〇	一五〇,〇〇〇・〇〇〇	一〇,一三一・九四一
普通銀行	二	一三,〇〇〇,〇〇〇・〇〇〇	七,一二五,〇〇〇・〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇・〇〇〇	五,六二五,〇〇〇・〇〇〇	五五六,一五〇・〇〇〇	一,二一〇,〇〇〇・〇〇〇	二,五〇六,五四〇・〇〇〇	二六一,八四二・六一七
金融組合	一一	一一〇,〇〇〇・〇〇〇	一一〇,〇〇〇・〇〇〇	一一〇,〇〇〇・〇〇〇	—	八,四二〇・〇三九	二二六,〇〇〇・〇〇〇	—	七,一五八・八三七
計	一五	一三,三一〇,〇〇〇・〇〇〇	七,三一四,八三五・〇〇〇	一,六四九,七八〇・〇〇〇	五,六六五,〇五五・〇〇〇	五六四,五七〇・〇三九	一,五九六,三二〇・〇〇〇	二,六五六,五四〇・〇〇〇	二七九,一三三・三九五

（備考）

一 資本金ハ本支店ヲ通シタルモノヲ掲載セリ
二 農工銀行トハ咸鏡農工銀行及同行咸興支店ナリ、本店ハ元山ニシテ咸興、淸津、會寧ニ支店ヲ置キ鏡城ニ出張所アリ
三 普通銀行トハ朝鮮銀行元山支店及十八銀行元山支店ナリ
四 普通銀行資本總額一三、〇〇〇、〇〇〇円ハ朝鮮銀行一〇、〇〇〇、〇〇〇円十八銀行三、〇〇〇、〇〇〇円ニシテ拂込濟欄ニ於テハ朝鮮銀行五、〇〇〇、〇〇〇円十八銀行二、一二五、〇〇〇円ナリ
五 普通銀行拂込資本金區別欄政府拂込一、五〇〇、〇〇〇円ハ朝鮮銀行ノ分ナリ又債券發行額欄二、五〇六、五四〇円ハ朝鮮銀行ノ銀行券發行額ヲ記載ス
六 普通銀行當期純益欄二六一、八四二、六一七円ハ朝鮮銀行一三五、一七〇、九七〇円十八銀行一二六、六七一、六四七円ナリ
七 金融組合政府貸下金欄ニ二六、〇〇〇円ハ補助貨普及基金トシテ總督府ヨリ朝鮮銀行代理店ニ預ケ入レアル分ナリ
八 普通銀行積立金欄五五六、一五〇円ハ朝鮮銀行一六、一五〇円十八銀行五四〇、〇〇〇円ナリ
九 農工銀行、普通銀行、純益金ハ本支店ヲ通シタル利益ヲ示シタルモノ
十 金融組合利益欄ノ金額ハ四十四年中ノモノナリ
十一 普通銀行政府貸下金欄一、二一〇、〇〇〇円ハ朝鮮銀行ノ分ナリ

預リ金

（明治四十四年中）

行別　期別	四十四年上半期 前期越高	四十四年上半期 當期預金	四十四年上半期 同拂戻高	四十四年上半期 期末現在高	同下半期 當期預高	同下半期 同拂戻高	同下半期 期末現在高
（農工銀行）成鏡農工銀行	六八、九二〇•二二〇	六六八、八三二•〇六八	六七三、五〇四•五一〇	六四、二四七•七七六	九〇三、五七六•八二九	九〇七、五〇五•三九五	六〇、三一九•二一〇
（工行）同行成興支店	六四、二三八•九八〇	六一一、七八二•〇〇〇	五五四、一〇〇•一六〇	三一、九二〇•八二〇	七七八、三七六•一七二	八〇三、五五二•〇八〇	九六、七四四•九一二
（普銀）朝鮮銀行元山支店	二一四、二六〇•五三〇	三、五二一、五一七•四六〇	三、五〇二、三四九•七九〇	二三三、四二八•二〇〇	三、六九二、七五八•八九〇	三、六八二、八五七•一一〇	二四三、三二九•九八〇
（通行）十八銀行元山支店	一三九、二五九•八一二	一、九一九、九四八•三一〇	一、八七八、八三八•八三三	一八〇、三六九•二九〇	二、二三七、八〇五•九四二	二、一六〇、一四八•五八七	一五八、〇二六•六四五
計	四八六、六七九•五四二	六、七二二、〇七九•八三六	六、六〇八、七九三•二九二	五九九、九六六•〇八六	七、五一二、五一七•八三三	七、五五四、〇六三•一七二	五五八、四二〇•七四七

貸付金

貸付別　期別	四十四年上半期 前期越高	四十四年上半期 當期貸高	四十四年上半期 同回收高	四十四年上半期 期末現在高	同下半期 當期貸高	同下半期 同回收高	同下半期 期末現在高
（成鏡農工銀行）							
年賦貸付	二六、〇〇〇•〇〇〇	—	三、〇〇〇•〇〇〇	二三、〇〇〇•〇〇〇	一四、〇〇〇•〇〇〇	六、八六四•三四〇	三〇、一三五•六六〇
普通貸付	六八、三三〇•八五〇	四三、三四一•二一〇	三二、二五七•〇六〇	七九、四〇四•九〇〇	九八、一五三•二〇〇	六五、五四二•六六〇	一一二、〇一五•四四〇
當座貸越	二、〇三六•二九〇	三四、〇五五•八一〇	三四、四八六•〇二〇	一、六〇六•〇八〇	四三、六二五•八六〇	四〇、九一三•二一〇	四、三一八•七三〇
割引手形	一七九、二八九•六二〇	六〇四、二九九•四五〇	六一八、四二四•三六〇	一六五、一六四•七一〇	六六一、八五六•九四〇	六七五、四三九•三一〇	一五一、五八二•三四〇
計	二七五、六四六•七六〇	六八一、六九六•三七〇	六八八、一六七•四四〇	二六九、一七五•六九〇	八一七、六三六•〇〇〇	七八八、七五九•五二〇	二九八、〇五二•一七〇
（同行成興支店）							
年賦貸付	—	—	—	—	三、〇〇〇•〇〇〇	—	三、〇〇〇•〇〇〇
普通貸付	四六、九六八•四九〇	七〇、六三二•九〇〇	七二、九七二•八九〇	四四、六二八•五〇〇	一二三、一三三•〇〇〇	一〇七、六二八•九〇〇	六〇、一三二•六〇〇
當座貸越	二九、六五九•三二〇	三三六、六五〇•二〇〇	三三七、五六〇•八五〇	二八、七四八•六七〇	四二一、九一四•二六〇	四二五、〇一四•五一〇	二五、六四八•四二〇
割引手形	五八、二〇〇•六七〇	一七五、三三九•八五〇	一六〇、四七九•一五〇	七三、〇六一•三七〇	三四六、七四八•七七〇	三三三、四五五•一六〇	八六、三五四•九八〇
計	一三四、八二八•四八〇	五八二、六二二•九五〇	五七一、〇一二•八九〇	一四六、四三八•五四〇	八九四、七九六•〇三〇	八六六、〇九八•五七〇	一七五、一三六•〇〇〇
（朝鮮銀行元山支店）							
年賦貸付	四九、〇〇〇•〇〇〇	—	四、〇〇〇•〇〇〇	四五、〇〇〇•〇〇〇	—	二、四〇〇•〇〇〇	四二、六〇〇•〇〇〇
普通貸付	二四、〇九八•五〇〇	一五八、一七八•九九〇	一五三、〇五一•一四〇	二九、二二六•三五〇	一五六、四〇五•一九〇	一三三、五九一•一四〇	五二、〇四〇•四〇〇
當座貸越	一二、九四四•九九〇	一、一六二、〇二〇•四三〇	一、一五六、八五四•九七〇	一八、一一〇•四五〇	一、二九九、三三六•四二〇	一、二八四、〇八二•七三〇	三三、三六四•一四〇
割引手形	一二一、二五七•九六〇	一、〇一八、〇七二•五二〇	九六〇、一三八•〇二〇	一六九、一九二•四六〇	九六二、八一三•二八〇	九五二、二三五•五八〇	一七九、七七〇•一六〇
計	一九七、三〇一•四五〇	二、三三八、二七一•九四〇	二、二七四、〇四四•一三〇	二六一、五二九•二六〇	二、四一八、五五四•八九〇	二、三七二、三〇九•四五〇	三〇七、七七四•七〇〇

（十八銀行元山支店）

年賦貸付	—	—	—	—	—	—	—
普通貸付	一二五、八八二・七九〇	三〇〇、〇〇九・四五〇	二八四、一五七・九五〇	一四一、七三四・二九〇	二八九、七四〇・六九〇	二七七、五六一・〇五〇	一五三、九一三・九三〇
當座貸越	二五、七〇六・九八〇	七三一、二三二・七三〇	七二三、〇四九・六九〇	三三、八九〇・〇二〇	七五五、九九五・四二〇	七六六、九七六・九八〇	二二、九〇八・四六〇
割引手形	七四、四七七・七三〇	六〇三、二一五・〇九〇	五三九、〇五九・九九〇	一三八、六三三・二三〇	六七四、八四八・一三〇	六六二、二七五・四三〇	一五一、二〇五・九三〇
計	二二六、〇六七・五〇〇	一、六三四、四五七・二七〇	一、五四六、二六七・二三〇	三一四、二五七・五四〇	一、七二〇、五八四・二四〇	一、七〇六、八一三・四六〇	三二八、〇二八・三三〇

諸手形（明治四十四年中）

科目	種別／行名	咸鏡農工銀行	同行咸興支店	朝鮮銀行元山支店	十八銀行元山支店
割引手形	當所	一、〇三九、一三〇・一七〇	三三四、七〇一・八〇〇	六九一、一五七・三二〇	七四九、〇五一・五九〇
	他所	一八八、六〇二・九五〇	一二〇、〇四六・九七〇	一、二八九、九二八・四八〇	五二九、〇一一・六三〇
荷爲替手形	仕向	一一三、五五〇・二三〇	三一、六六二・八三〇	一四、四二九・八六〇	二二七、六三九・二六〇
	被仕向	五〇、四二〇・八四〇	一二四、七八一・二二〇	三七七、二七六・一六〇	二〇五、二九二・三七〇
代金取立手形	仕向	一八七、一五二・九七〇	一八、八三六・八九〇	九一、一七一・〇一〇	二三、七〇九・二六〇
	被仕向	一二九、四五八・〇八〇	二二、五七九・九二〇	一、二〇六、七三七・五五〇	一、二一八、五二七・一七〇
送金爲替手形	仕向	六七、八六〇・九七〇	一八七、三五八・七九〇	二、四〇八、四四九・七九〇	八二六、二九七・三九〇
	被仕向	二七七、九一二・四八〇	三一九、五一八・九三〇	二、一〇六、三三七・六二〇	二二六、九四九・一八〇

諸利息割合（四十四年中平均）

行名	貸付金利息 諸貸付 最高	普通	最低	割引手形 最高	普通	最低	預リ金利息 定期預金 最高	普通	最低	當座預金 最高	普通	最低
咸鏡農工銀行	四錢五厘	三錢五厘	二錢五厘	四錢	三錢八厘	三錢二厘	年六分	五分五厘	五分	八厘	八厘	七厘
同行咸興支店	四錢八厘	三錢七厘	二錢三厘	四錢	三錢八厘	三錢五厘	六分	五分五厘	五分	八厘	八厘	八厘
朝鮮銀行元山支店	三錢	二錢八厘	二錢八厘	二錢九厘	二錢八厘	二錢八厘	五分	五分	五分	七厘	七厘	七厘
十八銀行元山支店	四錢	三錢二厘	二錢二厘	四錢	三錢二厘	二錢八厘	六分	五分	五分	八厘	八厘	五厘

損益及配當率

行名	四十四年上半期 利益	四十四年上半期 損失	四十四年上半期 配當率	同下半期 利益	同下半期 損失	同下半期 配當率
咸鏡農工銀行	—	三、五九七・五二八	年一割	—	三、五六一・八九〇	年一割
同行咸興支店	四、〇三五・三三八	—		四、六四三・二一五	—	
朝鮮銀行元山支店	五、五四〇・七〇〇	—	年六分	九、一二八・六五〇	—	年六分
十八銀行元山支店	七、五三二・四三〇	—	年八分	八、二五一・一〇〇	—	年八分

（備考）
利益金及損失金ハ本支店各別ノ分ニシテ配當率ハ本支店ヲ通シタル分ヲ掲載セリ

地方金融組合貸付金

（明治四十四年十二月末）

組合名	前期繰越高	當期貸付高	同回收高	期末現在高
安邊地方金融組合	七、一七三・九〇〇	一四、二九六・〇〇〇	一一、〇五〇・二〇〇	一〇、四一九・七〇〇
元山地方金融組合	六、三九二・〇〇〇	七、〇八三・三五〇	七、六一三・九五〇	五、八六一・四〇〇
文川地方金融組合	四、三三九・四〇〇	八、七八一・〇〇〇	七、六六六・四〇〇	五、四四四・〇〇〇
永興地方金融組合	四、六〇五・五〇〇	五、三六四・〇〇〇	四、六九九・八六〇	五、二六九・六四〇
咸興地方金融組合	四、七八一・〇〇〇	五、七一五・〇〇〇	四、四一六・〇〇〇	六、〇八〇・〇〇〇
長津地方金融組合	—	六、七六二・〇〇〇	四、二一三・〇〇〇	二、五四九・〇〇〇
洪原地方金融組合	七、八九七・〇〇〇	一二、八七三・〇〇〇	九、八二五・〇〇〇	一〇、九四五・〇〇〇
北青地方金融組合	八、六九一・〇〇〇	七、九二九・〇〇〇	八、七八三・〇〇〇	七、八三七・〇〇〇
利原地方金融組合	六、三二一・〇〇〇	一六、八二六・〇〇〇	一〇、八一五・〇〇〇	一二、三三二・〇〇〇
端川地方金融組合	三、三三四・〇〇〇	一〇、九三六・九一〇	七、〇八九・七〇〇	七、一八一・二一〇
甲山地方金融組合	七、三三六・〇〇〇	八、二六六・〇〇〇	八、九三一・〇〇〇	六、六七一・〇〇〇
計（十一箇所）	六〇、八六〇・八〇〇	一〇四、八三一・二六〇	八五、一〇三・一一〇	八〇、五八九・九五〇

○慶尚南道管內財務概況

（稅務視察復命書摘錄）

一．郡廳員執務ノ狀況

郡廳員ハ相提撕シテ克ク執務シ居レリ一例ヲ擧クレハ昌寧郡ノ如キ（一）郡守自ラ官報、道報中ノ例規類ヲ一一筆記シテ例規書類ヲ整備シ以テ廳員ノ探索ニ便ナラシメ（二）重要ナル事項ハ財務庶務係員互ニ合議ノ上決行シ（三）財務係書記ハ庶務事務ヲ兼ネテ出張シ庶務係書記亦出張ノ際財務事務ヲ處辨スル等一致協力シテ之カ擧績ニ努メ其ノ間庶務財務ノ差別アルヲ見ス殊ニ同郡ニ於テハ郡守主唱ノ下ニ郡廳員、面長、公錢領收員其ノ他民間有志者ヲ會員トシテ昌寧郡貯金規約ナルモノヲ設ケテ貯金ヲ勸誘シ今ヤ設立二閱月ニ過キサルニ會員八十ヲ數ヘ貯金額亦二百圓ヲ超ヘ漸次會員增加ノ傾向アルハ悅フヘキコトナリ

二　地主納税ノ實施

從來ノ小作人納税ハ四十四年分、地税ニ於テ約五、六割方、地主納税ニ改マレリ、而シテ、地主納税ハ官民トモニ利便トスル所ナルヲ以テ豫想外ニ歡迎セラレ、地主納税取扱ノ爲小作契約ニ及ホシタル影響トシテ强テ之ヲ擧クレハ、地主又ハ納税管理人カ、地税金ヲ小作人ヨリ集メテ公錢領收員ニ納入セルニ止マリ何等變動ナクシテ圓滿ニ進行シタルナリ、即チ昌寧郡邑内面松峴里居住ノ河在鳩ナル者ハ毎年小作料籾七、八千石ヲ收得スル大地主ニシテ是等大地主ハ動モスレハ變革ニ乘シテ苛酷ノ手段ニ出ツルヲ通例ト爲スニ同人ハ小作契約ヲ改メ若ハ地税相當額以上ヲ取立テタルカ如キコト絶テナク依然從來ノ契約ニ依ル小作料ヲ收納シ且地税金ノ幾部ヲ立替ヘ納入シタルノ實例アルニ徴シ其ノ一班ヲ察知シ得ム歟

三　面事務處理ノ狀況

從來面ニハ面事務所ナルモノナク多クハ面長又ハ公錢領收員ノ私宅ニテ公務ヲ執リ帳簿ノ如キモ一種難解ノ字體ヲ用ヰ記帳シ來リシナリ然ルニ面事務所ハ劃然設置サレ面長、領收員及書記ハ此處ニ於テ執務シ其ノ帳簿書類ハ一通リ整備セラレ羅馬數字ヲ以テ記入スル等秩序稍整然タルニ至レリ試ニ事務所備付ノ簿冊ヲ擧クレハ日誌、出勤簿、土地家屋證明簿、現金出納簿、收納簿、納税告知書原符、結數連名簿等ニシテ小ナル面ト雖冊數尠クトモ二十ヲ超ヘ其ノ大部分ハ税務ニ關係スルモノナルヲ知ルト同時ニ面事務ノ進歩ノ顯著ナルニ想到セサルヲ得サルナリ靈山郡ノ如キ面ニ通達ヲ要スル事項ハ之ヲ印刷シテ各里洞ニ配付シ其ノ重要ナルモノニ在リテハ面長協議會ニ於テ懇示シ面長ハ更ニ里洞協議會ヲ開キテ部内一般ニ周知ノ方法ヲ講シ尙廳員ハ面ニ出張ノ際注意スヘキ事項ヲ「注意簿」ニ登記シテ戒飭スル等法令ノ周知及實行ニ努メツツアルヲ見ル

四　納税ノ美風

地税ハ秋收後ニ於テ一時ニ納入ヲ了スルハ數百年來ノ慣例ニシテ今尙此ノ舊慣ノ存續スルハ徴税上閑却スヘカラサルコトニ屬ス、今納税上ノ美風トシテ特筆セサルヘカラサルハ靈山郡南部面橋下里ニ於ケル自然的納税組合ナリトス同里ニ於テハ二名ノ戸首ナル者ヲ置キ公錢領收員指導ノ下ニ陰曆八、九月頃納税者ヨリ米ヲ集メテ數回ニ販賣シ其ノ代金ヲ以テ納税者各自ノ納税ニ充テ舊正月里民會合ノ席上ニ於テ決算ヲ爲シ剩餘金アルトキハ本人ニ還付シ不足アレハ追徴スルノ慣習アリ斯クシテ、地税ハ陽曆十二月中ニ完納セラレ古來一人ノ滯納者ヲ出シタルコトナシト洵ニ悅フヘキ美風ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルヘシ

五　金融組合事業ノ進展

金海地方金融組合　ニ於テハ地方特産物タル蘆草ヲ共同購入ニ依リ低價ニ分配シ其ノ製品ヲ組合ニ引取リ委託販賣ヲ爲シ

建坪二十五坪ノ政府倉庫ハ製品タル蘆箔ヲ以テ充實スルノ盛況ヲ呈セリ而シテ該蘆箔ハ委託販賣品タル蘆蓆ニ加工シタルモノニシテ組合ノ新案ニ係リ價格低廉ナルト重量輕ク耐久力ニ富ムトヲ以テ好評ヲ博シ各方面ヨリノ注文多ク今後著シキ發達ヲ爲サムトスルモノノ如ク目下注文ヲ受ケ居レルハ慶尙北道廳ノ二萬九千枚及朝鮮勸農株式會社ノ五千枚ヲ其ノ主ナルモノトス

密陽地方金融組合　ニ於テハ籾ヲ購入シ組合製作場ニ於テ組合員ヲシテ加工セシメテ玄米ニ調製シ副業奬勵ノ一端トシテ製作セル朝鮮叺ニ包裝シ販賣スルコトト爲セリ故ニ地方商人ノ壟斷スル利益以外ニ加工及包裝ニ關スル勞力ノ對價ヲ得組合員ヲ裨益スルコト多ク最近ニ於テハ委託販賣ナルモノノ性質ヲ會得スルニ至リシト申込者ノ増加ニ伴ヒ組合倉庫ハ狹隘ヲ感スルニ至レリ而シテ大麥ハ常組合監督ノ下ニ耕作セシメタル大麥「ゴールデンメロン」ハ直接大阪吹田麥酒株式會社ニ輸出販賣シ好評アリ現ニ該社技師出張ノ途次實地調査ヲ爲シ將來改良スヘキ諸點ヲ指示セルカ如キ狀況ナリ尙當組合ノ昨年中ノ取扱高ヲ示セハ左ノ如シ

品目	受託高	販賣高	殘高
籾	六七一、三九八石	一五三、二九八石	五一八、一〇〇石
玄米	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	—
大麥	二三〇、七〇〇	一二四、七〇〇	一〇六、〇〇〇
牛皮	六五一斤	六五一斤	—

教　育

○淸州ノ農業教育 (明治四十四年)

(忠淸北道淸州公立農業學校校長報告抄錄)

一　一般ノ情況

一　實業教育ニ對スル地方民心ノ傾向　地方民心ノ實業教育ニ對スル狀況及ヒ傾向ハ未タ親シク地方視察ノ機會ヲ得スシテ之ヲ詳知スル能ハサレトモ近時地方教育機關ノ刷新及教育ノ普及ニ伴ヒ產業ノ奬勵開發諸般ノ施設ニヨリ漸次地方農民ノ新政ヲ周知スルニ至レルト共ニ自ラ產業改良ニ對スル自覺ヲ促シ自然實業教育ニ對スル良好ナル傾向ヲ有スヘキハ想像スルニ難カラス本校入學志望者ノ數約百三十名ニ達シ而シテ其ノ合格入學シタル者ノ中入學當時ニ於テ學資困難ノ爲數名

ノ不參者又ハ退學者ヲ見タクシモ現在生徒四十五名ハ十月以來異動ナク生徒父兄共ニ意思ノ確固ナルモノアルカ如ク認メラルルハ蓋シ一般ノ民心實業教育ニ對シ良傾向ヲ有スルノ一證トナスヲ得ヘキカ

清州公立農業學校ハ四十四年六月ノ設立ニ係リ未タ直接地方實業ノ開發ニ資スルノ施設ヲ爲スニ至ラスト雖其ノ通學生徒又ハ冬期休業中歸省セシ者ノ如キハ其ノ學習日尙淺キニモ拘ラス自ラ學ヒ得タル所ヲ父兄又ハ地方ノ農民ニ說キ以テ施設改良ヲ奬勵スル等其ノ活用ニ力ムル所少カラス以下記載ノ日記拔萃中ノモノハ其ノ一例ヲ揭ケタルニ過キスシテ其ノ他ノ生徒ニ於テモ此ノ類少ナカラス而シテ此等生徒ハ其ノ地方ニ於テ多少地位アル農家ノ子弟ニ屬スレハ其ノ地方農民ノ指導誘掖上力アルヘシト信ス

學校ト家庭トノ連絡ニ關シテハ生徒ノ訓練監督ニ對スル通信ニ止マリ未タ施設奬勵上ノ交渉ヲ試ミタルコトナシト雖父兄ノ來校參觀セシ者其ノ他一般ノ來觀者十數名ニ達シ而シテ是等父兄ニ對シテハ充分學校ノ目的方針ヲ說示シ與フルヲ以テ彼等ハ著シキ感動ヲ惹ケルモノアルカ如シ

二　國語普及ノ狀況　時勢ノ進步ト新政ノ周知トハ國語ニ對シ良好ナル傾向アルヘキヲ認メラル蓋シ從來私立宗教學校ノ如キ國語ヲ課セサリシ所モ現今悉ク國語ヲ重要科目トシテ課スルニ至リシカ如キハ其ノ一證トスヘク又地方農民ノ如キ尙メテ單語ヲ解セントスル者多キハ從來既ニ認メラレシ所ニシテ今ヤ一般ニ有志ノ青年ハ實業家ニアレ公官人ニアレ漸次新政ノ周知ト共ニ國語習熟ヲ怠ルモノハ將來人後ニ落チサルヘカラス國語ノ習熟ハ時勢ノ發展ニ伴フ最大要素ナルコトヲ自覺スルニ至レルモノノ如シ本學期道內各公立普通學校開設國語夜學會ノ如キ蓋シ時世ノ要求ノ然ラシメタルモノニシテ其ノ效果又大ナルモノアルヘシ

三　實業教育ニ關スル特殊ノ集會及其ノ施設狀況　本道ニハ模範農場ニ附設シテ本年道立農事講習所ヲ置キ十箇月修了ノ豫定ヲ以テ四月二十五日開所講習生ハ道內各郡ニ亙リ一名若クハ二名宛選拔シテ入所者定員二十五名其年齡二十五歲以上三十歲迄トシ一人一箇月金三圓ツツ補助支給シテ全部寄宿舍ニ收容シ監督ヲ嚴ニシ專ラ蠶業其ノ他農事一般ニ關スル簡易ナル知識技能ヲ授ケ其ノ成績良好ナリ殊ニ同所生徒ハ本校生徒ニ對シ其ノ年齡ノ點ヨリ將又勞力ノ上ヨリシテ先輩ノ位地ニアリ且實習圃場ハ隣接呼應シ居ルヲ以テ之レカ訓練上甚タ便利ヲ得タリ

又本年八月本道內朝鮮人教員夏季講習會ニ於テハ殊ニ農業ノ一科ヲ加ヘ以テ普通學校及其他私立學校ニ農業趣味ノ涵養ヲ圖リ其ノ他道技手農事巡回教師及其ノ外技術員ノ道內各所ニ於ケル農事講話若ハ農談會其ノ他ノ開設ハ今一一之レヲ記述スルノ煩ヲ避クト雖モ本校ハ常ニ此等指導施設ノ要旨ヲ參酌

シテ交互ノ聯絡ヲ圖リ以テ相背反スルコトナキニ勗メリ

四　地方勸業機關及當業者ト學校トノ關係　前出ノ農事講習所ノ外本道模範農場主任タル道技手ハ本校兼任教諭ニシテ本校實習地ハ同農場内一部ノ使用ニ屬スレハ同場トハ常ニ最親密ナル關係聯絡ヲ保チ其ノ實習作業實驗試驗ノ聯絡成績ノ交換見習農器具役畜ノ使用等有形上並訓練上大ナル利便ヲ得ル所ナリ又本道林業苗圃地ハ本校ヲ去ル數町隨時見學ノ利便ヲ得ル所トス其ノ他本道農事巡囘教師ニハ曾テ本校ノ主義ト施設ノ周知方ヲ依囑シ又特殊ノ事情ヲ有スル生徒父兄ニ對シ其ノ注意喚起ノ勞ヲ請ヒシ等種ニ便宜ヲ得タリ當業者ニ對シテハ未タ特別ノ聯絡ヲ有スル者ナキモ十月中生徒修學旅行ニ於ケル烏致院朝鮮殖產株式會社並芙江廣澤文庫ノ如キ見學上便宜ヲ得タル所トス

二　學校ノ情況

一　實習　實習圃場ハ本道模範農場畑地夏作收穫後借入使用ノコトナレハ本校ノ栽培セル作物ハ種類少ク作業ノ種類又甚タ單純ナリシモ入學初期ニ於ケル生徒ノ實習訓練ハ最重要ナルコトナレハ本學期ハ專ラ勞務ノ貴重ナルヲ知ラシメ勞働ノ習慣、規律ノ養成等ニ重キヲ措キ兼テ身體ノ鍛錬ヲ本義トシテ課業セリ其ノ課業日數、作業ノ種類及出席步合左記ノ如シ而シテ實習ニ對スル生徒一般ノ感興ヲ案スルニ入學當初九月ノ頃ニ於テハ稍勞働ヲ苦痛トシ外見ヲ憚リ多少嫌忌スルノ風アリシモ漸次興味ノ增加ト共ニ其ノ弊ヲ脫シ後半期ニ於テハ全然當初ノ思想ヲ一新セルヲ認メ各自其習熟功程ヲ競フモノノ如ク近時蠶細工實習ノ如キ一般ニ敎師ノ指揮ヲ俟タス準備著手スルニ至レリ

敎授總日數	實習課業日數	實習出席百分比
九九	五五	九六・五

實習作業ノ種類	
蔬菜ノ除草、中耕、間引及收穫	十八日
麥畑整地播種、中耕	十日
校地及圃場ノ整理	十三日
蠶細工	十四日

但シ右日數ハ全生徒ニ對スル課業日數ニシテ作業ノ種類及農具ノ都合ニヨリ半數ツツ課業セシメタルモノハ二日ヲ以テ一日トシテ計算セシカハ實際ノ日數ハ尙十數日ヲ超ユルモノトス

二　訓練及管理　生徒ノ訓練ハ專ラ自勞自活ノ精神ヲ養成スルヲ以テ本義トシ特ニ本學期ニ於テハ生徒各自ノ責務ヲ自覺セシメ規律正シク勤勉以テ校風ヲ樹ツヘク主トシテ統一的道義ノ啓發ニ勗メ兼テ生徒各自個性ノ發達ニ留意セリ隨テ修身ノ課程ニ於テハ本學期ハ專ラ宣誓條項ニヨリ訓育セリ

三　日記及金錢出納簿　生徒ノ個性ニ留意シ其ノ啓發並抑制ヲ加フルハ訓練上必要ナルコトナリトス本校ハ此處ニ見ル所アリ入學當日ヨリ生徒各自ニ日記並金錢出納簿ヲ記載セシメ一週間或ハ十日間每ニ之レカ查閱ヲ爲シ以テ各自ノ個性及日常行爲ノ訓練監督ニ資シ兼テ生徒ヲシテ自修反省ノ美風ヲ養

ヒ且教科ノ補習ヲナシ日常ノ記錄ヲ存シテ記憶ヲ確實ナラシメ傍ラ作文ノ練習ニ資セシメタリ指示記載事項左ノ如シ（但シ樣式ヲ一定セス）而シテ之レカ效果ハ極メテ良好ニシテ訓練上便宜ヲ得ルコト少カラス漸次其ノ記事感想ノ發達ヲ認メ益奬勵ニ勉メ居レリ（日誌記事ハ其ノ主ナルモノヲ別項ニ掲ク）

日誌記載事項

一、天候　晴雨　風向　風力　溫度
二、起居　起床　就寢　食事　昇校　退校　自習　作業　其他
三、學科　科目及學習要項
四、實習　作業ノ種類方法　使用農具及器具肥料及材料功程其他
五、感想　起居　學科　實習等ニ對スル當日ノ反省竝見聞ノ所感

金錢出納簿記載事項

月日	事由	入金	出金	現在高

四　生徒談話會　國語ノ練習ヲナシ生徒相互ノ智識ノ交換及親睦ヲ圖リ師弟情義ノ敦厚、意思ノ疏通ヲ圓滑ナラシメ兼テ訓練ニ資スヘク開校以來毎月一回生徒談話會ヲ開ク毎回放課後教室ヲ以テ會場トシ茶菓ヲ分與ス本學期中開會三回ニシテ毎回本道內務部長竝學務係道書記ノ出席アリ談話ハ生徒各自ノ撰擇ニ任シ豫メ草稿ヲ查閱シテ其ノ書語文字ノ誤謬ヲ訂正ス之レカ成績ハ漸次材料ノ撰擇談話ノ狀況進步ノ見ルヘキモノアリテ其ノ效果尠カラサルヲ認ム殊ニ內務部長其ノ他ノ列席ハ生徒ノ最歡迎スル所ニシテ訓育奬勵上大ニ便宜ヲ得ルモノナリトス生徒談話ノ主要項目ヲ二三摘記スレハ左ノ如シ

一　衛生ニ就テ
一　淸州ノ昔ト今
一　語學ノ研究
一　言語練習ノ必要
一　吾等ノ現在ト將來ノ務
一　勞働シテ忍耐セル雇人ト怠惰ニシテ遊食セル主人
一　朝鮮農業ノ改良
一　治水ノ必要

五　科外課程及調査　時時科外ノ課程ヲ課シ生徒ヲシテ簡易ノ調査ヲナサシメ以テ其ノ常識ノ發達ヲ圖ルハ訓練上亦必要ナルヲ認メ本學期中ニ於テハ十月中淸州附近ニ栽培スル在來稻ノ種類ニツキ其ノ特性早晚收量竝作付ノ多少ヲ調査セシメ十一月三日天長節當日ニハ其ノ所感ヲ記述セシメ又同月八日朝鮮從來ノ風俗習慣ニツキ其ノ善惡ヲ區別列記セシメタリ又十二月冬期休業中ニハ各鄉里ニ於ケル農業ニ關スル傳說及習慣竝其ノ家庭ノ資產ニツキ調查セシメタリ其ノ調查答案ノ總括ハ淸州附近ニ栽培スル在來稻種類、朝鮮從來ノ風俗習慣ノ善惡區別、農業ニ關スル傳說及習慣竝天長節所感等ナリトス而シテ此等科外課程調查セシメタルハ生徒ヲシテ常ニ事物觀察ノ注意ヲ促カシ且教材上ニ將タ訓練上ニ便宜ヲ得タリ其ノ習俗ノ善惡ノ如キ生徒ノ自覺ニ訴ヘ推長短捨之レカ啓發ニ勉メツツアリ

六　父兄ノ資產　本校在籍生徒四十五名中其ノ父兄ノ資產ヲ調查セルモノ左ノ如シ（內一名報告ナシ）

田畑所有者	
無所有者	一〇人
二十斗落以下	五
五十斗落以下	一三
百斗以下	四
二百斗落以下	五
五百斗落以下	七
計	四四

山林所有者	
無所有者	五人
五千坪以上	一五
一萬坪以下	一
五萬坪以下	一六
五萬坪以上	七
計	四四

耕作反別	
無耕作者	七人
二十斗落以下	一八
五十斗落以下	一五
百斗落以下	四
計	四四

自作小作別	
無耕作者	七人
純自作者	九
自作兼小作者	五
純小作者	二三
計	四四

小作料收納者	
無收納者	一七人
十石以下	九
五十石以下	六
百石以下	五
二百石以下	五
二百石以上	二
計	四四

七 家庭トノ通信

學校ト家庭ノ聯絡ヲ保チ意思ノ疏通ヲ圖ルハ生徒ノ訓練監督上最緊要ナル事項トス本學期ニ於テハ九月二十六日一般ニ學資ノ豫算ヲ示シ生徒監督ニ對スル父兄ノ注意學校ノ方針ヲ通信シ猶學期ノ成績不良ナルモノニ對シテハ一月六日其ノ成績ヲ通知シ訓練監督上ノ注意ヲ促セリ

生徒日記中最近記載事項ノ主ナルモノノ拔萃

感想 十二月三十一日 金德中

今日ハ卽チ明治四十四年ノ終日テアルカ故ニ一ツノ感想起ツタリ而シテ今日ハ今年ノ末日テアリ故ニ我朝鮮人民トナリタルモノハ古キ惡慣ヲ除去シ各種不便ナル風俗ヲ除キテ更ニ文明ナル習慣及ヒ風俗ヲ迎フル日テアル又月日ノ經ツノハ最モ速キモノテ最早四十四年末日ナルカ故ニ光陰ハ矢ノ如シト感シタリ明治四十五年ノ日ヲ誇ヲ明確ニナシ又新幸福ヲ迎ヘテ我カ朝鮮ニ急ナル農學ヲ務メテ朝鮮農業ヲ自手ヨリ改良セント欲ス

同 一月一日 同人

今日朝鮮新聞(每日新聞)ヲ讀ムトキニ感シタル題アリ其題ハ「聖德ノ無量」トアリ其ヲ國語ニテ譯スレハ下ノ如シ、明治四十五年ノ季春ヲ迎ヘタリ今年ハ卽チ今上陛下ノ誕生シナサレシ子年ニ相當ス距今六十一年前壬子之年ナリ 今上陛下ハ實ニ此ノ六十一年前壬子九月二十三日陽曆十一月三日ニ誕生セラレタルナリ

今上陛下ノ御美德ノ一二ヲ漏聞奉記シテ新春ノ祝意ニ代ルニ

今上陛下ハ質素ナル事ハ一般國民ヵ奉悉スル所ナルカ其中ニ國民ノ模範トナル事カ無數アリ假令文房具類モ粗末ニ取扱ハスシテ御墨ハ明治三十年頃ニ調製シタル長サ五寸假量廣一寸假量ニシテ與年消減シテ今ニ至リテハ其ノ四分ノ一カ餘存シタルモノヲ使用シナサルト云ヒ又御用紙ハ各種ノ御用紙モ有ルカ破寂ノ料ニ用フルハ吉野ノ極メテ質素ナル物ナリ何物ニ拘ラス玉筆ヲ染ラルル時ハ一點ノ空白ヲ不餘シテ揮毫ヲナス場合ニ全黑面カナレハ他用紙ヲ用フル御習慣カアリ勿論

今上陛下ノ幼少ノ時ハ御所ノ經費モ極メテ僅少ニシテ一枚ノ御用白紙モ容易ニ使用スルニ護ミ給ヒシ時代ニ御生長ナサレタ所以ナリ今テモ前ノ如ク儉約ヲ主トシ給フ今時ニハ小學校兒童等モ習字草紙ハ大概白紙ヲ用フルモノ多キノミナラス其白紙ニ二度迄習字スルモノカ鮮少ナリ 今上陛下御幼年ノ習字ナサレタル草紙ヲ云ヘハ全黑紙ト變成シテ百度ヲ習ヒタルカ千度ヲ習ヒタルカ全紙面ニ殆ント一點白ナクテ上紙カ墨汁ニ粘著スルニ至リタル御草紙カ今伯爵大原重朝氏ノ家ニ傳來シ又 今上陛下ハ御幼時ヨリ水ヲ好マレ何處ニテモ水聲ヲ聞ケハ特ニ玉步ヲ停シナサル所ナリ故ニ御幼時水聲ヲ聞カント欲シテ先帝ニ對シテ此事ヲ奏上ス先帝ハ「所望ヲ副スルト欲スルカ今ニハ如何ニスル方途カ無キヨリ斷念スヘシ」ト云フコトカアルト云フ實ニ當時ノ御所ニハ經費ヲ辨出スル方途カナキナリ斯ノ如ク御幼時ヨリ一切質素ニナヲレタルニ我等人民モ此無量ナル聖德ヲ模範シテ銘心不忘所ト書キアリ況ナ我等青年學生ハ以上述ヘタル聖德ヲ模範トセサルヘカラス

同 十二月三十日 李聲魯

午後一時ニ隣ノ方ヘ往キシニ隣ノ人多數集マリテ或ハ索繩或ハ藁鞋ヲ作リテ居リ皆ニ對シテ今年ノ稻作收穫量ヲ聞クニ今年ハ稻ノ白穗非常ニ多クシテ今年ノ收穫量昨年ヨリ少シト云ヒ清州農業學校ニテ勉强シタルモノハ此等ノ稻ノ病氣モ豫防スルコト出來ルヤト聞カレタリ詳ク知ラサルモノナレトモ考ノ通リ答ヘタリ私ハ學校ヘ入學シテ漸ク四箇月ニナリテ詳クハ分ラサレトモ其ノ稻ノ病氣ニハ非ルモ

ノナリ其レハ螟虫ト云フ虫害ニシテ初メ其ノ螟虫ノ蛾苗代ノ時卵ヲ産付シテ其ノ孵化シ稻ニ大害ナルモノニシテ其レヲ豫防スルニハ第一苗代ヲ短册形トシ其レテ卵ヲ取リ又内地ニハ共同ニ誘蛾燈ヲ設ケ其ノ蛾ヲ誘殺シ又稻株中ニテ被害セル株ヲ取リ又ハ被害シタル藁ヲ温突ノ燃料トナシ田ノ畦畔ヲ燒ク等ナセハ豫防スルヲ得ルナリ

同　一月四日　孫在益

朝五時ニ起床シテ九時ニ朝食ヲ食ヒタ後ニ隣ニ居ル人カ來テ學校ノ有樣ヲ聞キタルニ學校ハ校長諸先生及ヒ委員方ノ御熱心テ段々盛ニ成リテ來タリト答ヘタリ然ル後又課目ハ何々テ生徒ハ皆農人テ有ルカト聞キタルニヨリ課目ハ何々テ生徒ハ現在出席ズル生徒カ四十五タト答ヘタリ而シテ私シカ稻ノ事ハ皆學ヒタルカ故ニ朝鮮在來ノ稻作リ方ノ缺點ト成ル所ト内地改良種ノ利益ナル事ト害虫豫防方法ノ事ヲ知ルタケ説明シテ聞カセルト成ル程ト云ハレタリ。

同　一月一日　趙商九

朝六時ニ起床シテ七時三十分ニ食事ヲナシ八時ニ駐在所ニ往キ色々御馳走ニナリテ直クニ米山巡査ノ所ニ往キ暫ク遊ンテ歸リテ考フルニ面白イコト無キノミナラス廉耻カアルモノニシテ彼我一國ノ人民トナリテ正月ノ祝謝ヲ一緒ニ祝テ愉快ニ遊ヘハ頁シイノミナラス國民タル義務テアルニモ拘ラス國旗タケ立テ其レテ充分ト思フハ甚タ遺憾トスル所ナリ而シテ人ノ御馳走タケナリテ面白クアラサルカ故此ヨリ正月一緒ニ迎フコトニ定メサルヘカラスト思ヒタリ而シテ家ニ歸リテモ面白クアラサルハ以上述ヘタル故ナリ。

同　一月二日　李元馥

九時半ニ山外一面酒城ト云フ所ニ親戚ノ家ニ往クツモリテ出發シタリ此所ヨリ一里位ノ所ニ往ツテ見ルト大ナル山カアルカ其山ニ木ハ一株モ無ク砂ヤ石カ流レテ人家ノ附近ヤ田畑ニ害ヲ及ホスニ至リソウシテソレヲ見ルト自然心神カ淋シクナツテ此山カ何シテ此ンナニナリシカト其村人ニ聞イタ所カ其人ノ答カ此山ノ木ハ本ハ森林カ鬱閉シテ虎モ度々來タ所カ此レカラ何年程前ヨリ森林ヲ培養スル人無ク濫伐スル人ノ多クナツテ濫伐ノ結果此ノ如キ山ニナツタケレトモ此カラ七年前丙午ノ年ノ洪水ニモ砂ヤ石カ流ルルコトカアツタケレトモ今年ノ洪水ハ丙午年ノ洪水ニ比スレハ幾分底下シタケレトモ森林ヲ濫伐スルコトカ甚シクシテ此ンナニ砂ヤ石カ流ルルニ至ツタカラ此ノ樣ニ何年位過キタラ砂ヤ石カ流レテ田畑ヲ害スル爲メニ私ノ樣ナ農家ハ生キテ居ルコトカ出來ナイト云フテ歸リタリソウシテ私ハ其人ノ話ヲ聞イテ自然淋シクナツテ此云感想カ起ツタリ今私カ農林學校ニ入學シタカラ教師ノ御説諭ヲ聞キ一層注意シテ勉強シテ卒業シタ後ニハ一般村ノ人ニ解ル通リ森林ノ必要ヲ教諭シ又植樹スルコトヲ勉メテ洪水カアツテモ此云フ砂石カ流レテ田畑ニ害ヲ及ホサナイ樣ニスル感想カ起ツタリ凡テ何事モ熱心ヲ加ヘ始メヨリ終リマテ一樣ニ誠實ニスルト終ニハ成功ニ至ルヘシ又人間モ惡行ハ行ヒ易ク善行ハ行ヒ難シト雖トモ惡行ヲ捨テテ善行ヲ行フト立派ナ人間ニナル如ク農業ヲ改良スルモ從來ノ惡イ習慣ヲ捨テ改良スルコトヲ務メハ始メハ少シ難シト雖トモ終ニハ改良カ出來ルト思フ。

同　一月六日　韓範求

今晩村人相會シ相談中自分カ學校テ習ツタ課業中作物ノ栽培法ヲ説明スルト第一肥料ヲ施ス法ト收穫調製等ノ事柄ニ付キ吃驚シテソンナ方法ヲ施行スレハ資本モ餘計入ルシ手間モ餘計掛ツテ不便ナルヲ感スル事ニ對シテ如何シタラ改良スル妙ナル法ヲ得ルカ研究シ又容易ニスル事ヲ感セリ。

同　十二月三十日　玄聖範

午前六時頃ニ起テ同七時ニ就食シテ南門外河陽洛ト云フ人ノ家ニ行クト或人ハ貴公ハ何學校ニ行ツテ居リマスカト問フカラ農業ニ入ツテ居ルト答ヘタリ其レテハ農業上ノ事ハ皆ナ知ツテ居ルテショウ學校ニ行ツテ居ル日カ僅カ四箇月タカラ能ク知ツテ居リマセンカ大概ハ知ツテ居リマスト云ツタラ其人カ其レテハ一ツノ水田ニ稻ヲ植ヘタラ良ク出來ルノモ、アルシ良ク出來ナイモノモアルノハ如何ナル故テスカ其レナラハ其ノ水田ハ土質カ如何テ水ノ冷温カ如何ト云ツタラ土質ハ中等テ水ハ一寸冷タイテス答ヘマスノテ其水田ニハ芒ノアルモノカ無イモノト云ツタラ其人ノ答ハ無芒種テ有ルト答ヘルノテ私ハ稻ニハ有芒種ト無芒種トアリマス無芒種ハ米質ハ良イケレトモ性質カ弱クテ有芒種ハ米質カ惡イケレトモ性質カ强イテアリマス有芒種ハ冷水ノ所テモ良ク生長スレトモ無芒種ハ冷水ノ所ニ植ヘルト性質カ弱イモノテスカラ直ク死ニマスト答ヘマシタ其レテ京城カラ河陽洛カ來タモノテ二時間ホト遊ンテ零時四十分ニ歸家シテ就食セリ。

其他欄記事　十二月二十九日　李雲永

本日午後九時頃ニ村ノ人カ自宅ニ來リテ曰ク我等ハ別ニ農學ヲナサズシテ昔ヨリ傳來スル手續ヲ以テ農業ニ從事シテ先祖ヨリ今迄生活スルガドウシテ農業學校ヲ

設ケテ國家ノ財産ヲ用ヒ生徒モ自分ノ親カラ働イテ得タル財産ヲ無益ニ浪費スルカト問フコトアリ其レニ對シテ自分ハ此事ヲ以テ答ヘタリ農業學校ハ農業改良發達ヲ計リテ益利益ナル研究スル所ニシテ農業中ニ大農中農小農ノ別アリ又ハ粗放ト集約トアリ粗放トハ朝鮮ノ如ク種子ノ選擇種子ノ鹽水選及ヒ水選若クハ浸種ヲ叮嚀ナラサルコト又ハ原種田ヲ設ケサルコト本田耕起ニ不充分ナルコト移植ノ時ニ植傷アルコト水ノ灌排ニ適當ナラサルコト及ヒ收穫調製スルニ不良ナルコト又ハ亂雜植方及ヒ本田除草ノ回數少ナキコト即チ之レニシテ集約トハ粗放ニ反シテ種子ノ選擇ヨリ收穫調製ニ至ル迄テノコトヲ精密ニスルコトナリ之ノ集約農業ニ從事スルト思ハヘ暇取リテ仕方カナイト曰ハレ自分ハ其レハ決シテソレニアラスシテ之等ノコトヲ嫌フナラス之レ其ノ農業家ニアラスソレカ故ニ自分ハ徒ラニ遊ンテ天然的テ利益ヲ望ムモノハ生活スルコト能ハス爲メニ天ハ自ラ助クル人ヲ助クト云フ話モアリト答ヘタリ。

在校生天長節ニ對スル感想拔萃

一　車相健

凡ソ昨年度天長節日ニハ一寸モ喜樂ノ心カ無イテ今年天長節日ニハ實ニ喜樂ノ心カ起ツテ萬歲ヲ呼ヒマシタ私カ此事ニ付テ相像カ起リマシタ何ノ故ニ昨年ト今年ト相違カアルカト云ヘハ昨年天長節ニハ八月合邦以後二三箇月位罷ル經テ後直ニ天長節日カ來到テマスカラ我　天皇陛下カ慈善ノ心及ヒ愛民ノ心カアルカモ知ランテシタ此故ニ昨年度ハ喜樂ノ心カ一寸モ無ヒテアリマシタ又今年天長節日ニハ昨年ヨリ　陛下ノ心ヲ察セハ誠ニ愛民ノ心カ充分テ誠ニ慈善ノ心カ充分テシタ此故ニ今年天長節日ニハ大分喜樂ノ心カ起ツテ萬歲ヲ呼ンテ慶祝シマシタ

二　申烈求

今上天皇陛下ノ允文允武ナサレ又仁慈ノ德カ深厚ナサルハ國民ノ恒常深キ感激スル所ナリ昨年ニ朝鮮貴族令ヲ發布シテ重要ナル人々ニ爵ヲ授ケラレ地稅ヲ減除シテ民力ヲ休養スルヨウニナサレ或ハ孝子節婦ヲ褒彰ナサレ又ハ各道ニ慈惠醫院ヲ設置シテ人民ノ疾病ヲ治療スル樣ニナサレ各郡ニ資金ヲ下賜シテ授産敎育及凶歉救濟ヲ準備スル樣ニナサレテ朝鮮人民ノ永遠ナル福利ヲ施サレタルコトハ吾等國民タルモノハ誰カ此ノ如キ至大至仁ナル恩澤ヲ感泣セサルモノアルヤ吾等ハ一層眞心ヲ以テ稽古シテ忠良ナル臣民ニナツテ無比ナル皇室ノ鴻恩大德ヲ奉答スルノ決心セサルヘカラス。

三　呉龍根

本日ハ日本帝國ノ　天皇陛下ノ御誕生日テ御座マス我々下　トシテ裕カニ暮シツツアルモ陛下ノ御恩澤テ御座イマス又ハ國家ト人民ニ對シテノ關係ハ卽チ親ト子トノ關係ナリ何千萬ノ下人民カ天災或ハ急變ニ罹ツタトキニハ多額ノ金員ヲ下サツタリ又ハ貧窮者ヲ惠ミテ下サル御恩德ハ國民トシテハ當然ノ義務ナリソレテ忠君愛國ノ情一日一時テモ忘レマシテハ下人民ノ本分テハ御座イマセンソウテアルカラシテ死ル迄忠君愛國ノ心ヲ始終忘レスニ覺ヘテ居ツタトテ陛下ノ御恩ノ萬分ノ一ヲ奉答スルコト出來マセンノテ御座イマスケレトモ此フ云フ心ヲ持ツテ居ルノガ下民ノ義務ナリ本日ハ天長節テコサイマスソレテ御恩ノ萬分ノ一ニテモ報答スルコトヲ感想ス。

四　李開東

本日感スルコトハ日韓併合後我　天皇陛下ハ東洋ノ平和ヲ確立スルコトニ御心配サレテ何ニモ内地ト同シ樣ニ安全ニセサレハナラヌト思召サレテ何十萬圓ノ恩賜金ヲ朝鮮ニ送ツテ朝鮮人民ヲ永久ニ安寧ヲ保チテ東洋ノ平和ヲ固クシ又朝鮮敎育令ヲ出シ又敎育奬勵金ヲ以テ普通學校ヲ建テ實業學校ヲ建テ專門學校ヲ建テ敎育ヲ益々進步シ將來、賢人、君子ニ成ル樣ニシタノハ總テ　天皇陛下ノ御惠ト云ハネハナラヌシカノミナラス我々毎日通學ナス農林學校モ恩賜金ヲ以テ設立シタノテアリ我々ハ此ノ學校ニ入學シタ後ハ飽ク迄モ勉強シ規律ヲ正フシ立身奉公シテ基ヲ建テ卒業シタ後ニハ全國ニ實業ヲ發達セシメテ　天皇陛下ノ御惠ヲ萬分ノ一テモ報酬スルコトヲ感シタリ。

五　李聲魯

本日ハ我　天皇陛下ノ御誕生日卽チ天長節ニシテ臣民タル義務ヲ以テ慶祝ノ誠意ヲ發表ス內地ト朝鮮ハ元ヨリ地勢近接シ人種ト文字モ亦同一ニシテ所謂脣齒ノ間柄ナリ而シテ朝鮮ハ中古政治ノ方規衰廢シ敎育ノ程度幼稚セル爲メ國勢危亂シ民情騷擾シテ人民殆ト塗炭ノ中ニ近キ故李王殿下之レヲ憂慮シテ朝鮮ヲ　天皇陛下ニ讓與ナサレ東洋平和ヲ確立シ萬國ノ窺覦ヲ防クコト東洋ニ大ナル幸福ナリ　天皇陛下ノ恩德全國ニ布滿シテ法律ハ上ニ明シ敎化ハ下ニ及フナリ東洋ノ平和モ　天皇陛下ノ恩澤臣民ノ安心モ　天皇陛下ノ恩澤學界上ノ敎育發達モ　天皇陛下ノ恩澤ナリ　天皇陛下ノ恩澤ハ滄海モ淺イ山岳モ輕カルヘシ我　天皇陛下ノ恩澤ハ今日慶祝誠心ヲ以テ萬分一トモ返上スルト思フヘシ

○平安北道勸農施設

平安北道内務部長ヨリ管内各郡守ニ對シ農事奬勵ノ爲發シタル本年三月五日附通牒左ノ如シ

平北勸發第五六四號

郡是トシテ奬勵スヘキ農業ノ件

右ニ關シテハ客年十一月庶務主任會議ニ於テ諮問シ其後夫夫回答相成候處尙本道ニ於テ審査講究ノ結果左記ノ通リ決定致候ニ付之ヲ郡是トシテ左記參照充分御奬勵相成候樣致度依命及通牒候也

左　記

茲ニ奬勵スヘキ種類ヲ擧ケタルハ將來特ニ積極的ニ努力奬勵スヘキ種類ノミニシテ該種類以外ノモノハ放任スルノ謂ニアラス在來種子ノ改良耕作方法ノ改善等所謂勸業上ノ施設ハ之ヲ怠ラサルヤ勿論ナルヲ以テ此點ニ特ニ誤解ナキ事ヲ要ス

一　水稻、之ヲ各府郡ノ奬勵科目ト爲シタルハ米産地ハ勿論未タ多額ノ産額ヲ有セサル地方ト雖モ將來農家ノ收益ヲ多カラシムル點ヨリ將生活ノ向上ノ滿足セシムル點ヨリ必要ニシテ種類ノ改良ト施肥ヲ適應ナラシムルハ勿論灌漑營造物ノ修繕水利ノ調整等實況ニ依リ適當ナル施設ヲ要ス灌漑營造物ノ修繕又ハ復舊ニ關シテハ別ニ補助ノ途アリト雖府郡ニ在リテハ賦役其ノ他ノ方法ニ依リ著著工ヲ進ムルヲ要ス

二　陸稻、之ヲ義州外五郡ニ限リタルハ現在ノ地勢及地力ニ於テ適當ト認ムル府郡ヲ選定シタルモノナリ而シテ陸稻ハ沖積土ニ適シ且稗ノ栽培セラレアル土地ニシテ水害ノ虞無キ地ニハ生育スルモノナルヲ以テ各郡ニ適スルモノナルヤ勿論ナルモ未タ栽培ヲ爲サヽル地方ニ於テハ先ツ種苗場ニ於テ充分ナル試驗ヲ遂ケ適種ヲ決定スル事ヲ要ス殊ニ沿江各郡ハ將來大ニ囑望シ奬勵ヲ爲サントスルモ此際先ツ種苗場ノ試驗ノ結果ヲ待ツコトトセリ

三　大豆、對岸滿洲ハ大豆ヲ以テ主要産物トシ其産額實ニ一億萬石ニ垂レントシ本道亦氣候地味ノ關係ニ於テ適應シ將來益其産額ヲ増加シ輸出額ノ增大ヲ期セサルヘカラサルノ

ミナラス之ヲ主作又ハ間作トシテ地力ヲ恢復スルノ長所ヲ有シ將來益之ヲ奬勵セントスルニ在リ

四　馬鈴薯、厚昌郡ニ一昨年試植シタル結果ハ良好ニシテ非常ノ迷力ヲ以テ增殖シ本種カ本道ニ適スルハ言ヲ俟タサル處ニ有之之カ栽培ヲ奬勵スルコトハ主トシテ凶歉ニ際スル準備或ハ主食物ノ補充又ハ副食物トシテ適切ナルト收穫ノ多量ナルハ自食穀物耕作ノ面積ヲ縮少シ延ヒテ陸稻大豆等賣却穀物ノ耕作ヲ擴張シ得ルヲ以テナリ

五　大麥及燕麥、之亦從來素地ヲ有シ地味ノ適應セル地方ニシテ其需給ノ關係上將來發達ノ見込アル地方ヲ選ミ奬勵科目トセリ

六　養蠶、本道ノ如キ未タ素地ノ充實セサル地ニ於テハ先ツ桑苗ノ育成ヲ前提トセサルヘカラス之ニ對シテハ曩ニ五箇年計畫通牒ノ如ク今後桑苗ノ集約的配付ニ從ヒ其管理ヲ充分ナラシメ一面桑葉ニ比例シテ逐年改良奬勵スヘキハ副業中首位トスヘキナリ

七　柞蠶、之ヲ奬勵シテ以來日尙淺キモ前年ノ產額已ニ七千餘萬箇ヲ算シ本年亦春種繭十三萬箇ヲ無代配付シテ益其產額ノ增加ヲ圖ラントス而シテ之ヲ義州府外十一箇郡トシタルハ既ニ從來柞蠶飼育ヲ爲シタル府郡ニシテ柞樹林ノ豐富ナル處ヲ選ヒタルモ柞樹ノ保護育成ニ依リ漸次全道ニ及ホスヘキモノトス

然レトモ之レカ經營ノ現況タルヤ先ツ淸國人ニ就テ技術實習ヲ爲シ其勞力ヲ輸入シ利益ヲ分配スル方法ナリト雖モ將來ニ在リテハ飼育法ノ改良ヨリ勞力ノ節約ヲ講究シ鮮人自ラ技術者トナリ主トシテ鮮人ノ勞力ニ依リ而モ多量ニ飼育スルコトヲ企畫シ進ンテ生產物處理ノ方法則製絲業ノ經營等今後奬勵ト共ニ講究ヲ要スルモノ頗ル多シ

八　養鷄、改良種ヲ本春各府郡ニ配付スルハ既定ノ如シ南方ノ一、二郡ニハ卵用種其他ハ卵肉兼用種ヲ配付スルカ故ニ之ヲ種苗場ニ育成シ卵及雛ノ配付ヲ爲シ風土ニ抵抗力强キ雜種類ノ增多ヲ圖ルヘキ也

九　養豚、西洋種ハ今ヤ義州府附近ニ於テ食用トシテ歡迎スルノ傾向ヲ生シ又山東省燈州產ハ本道ニ適スルト謂フモ尙試驗ヲ要スルモノアリ故ニ需給償ハサル現況ニ於テハ一ニ其ノ數ノ增多ヲ圖ルヲ緊要トス來年ニ於テハ之カ改良種ヲ定メ種豚ノ配付ヲ爲スヘキ豫定ナリ

養鷄養豚ハ共ニ特ニ其ノ生產ノ增多ヲ圖リ之レカ增加ニ從ヒ販路ノ講究(共同販賣等)資料ノ改良其他副產物タル肥料ノ利用ヲ圖ラサルヘカラサルヤ論ナシ

十　畜牛、前年ノ統計ニ依ルトキハ七萬頭ニシテ最近ノ統計ハ一躍八萬四千頭ヲ要シ未タ正確ナル數ヲ知ル能ハス之レカ改良方法トシテ既ニ前年ニ於テ百九十五頭ノ種牡牛ヲ選定シ本年亦百餘頭ヲ選定スル豫定ニシテ總計三百頭ニ增加

ノ計畫ナリ之等交尾ノ普及ニ關シテハ尙一層各位ノ努力ヲ希望スルト共ニ今後ハ優良ナル種類ノ數ノ增加ヲ企畫セラレタシ而シテ之ニ對シテハ牛籍臺帳ノ完成ヲ俟チ飼育頭數ノ多キモノニ對シテハ相當ノ補助ヲ爲スヘキ腹案ナリ

茲ニ最モ注意ヲ要スヘキハ牛籍臺帳ノ調製ニシテ之等ハ今後奬勵方針ヲ定ムル根本ノ數字ナレハ誤謬又ハ誤解ニ依ル隱匿等ノ無キ樣完全ニ而カモ速カニ調製セラレン事ヲ希望ス

十一　織物、明紬、麻布、白布共ニ從來ノ織機ヲ改良シ殊ニ冬期結氷期ニ於テ副業トシテ製織ヲ奬勵シ益其產額ヲ增大ナラシメサルヘカラサルハ勿論一面自家用白布ノ如キハ全然自家ニ於テ製織シタルモノヲ使用センコトノ奬勵ヲ爲ササルヘカラス

茲ニ最モ注意スヘキハ本業ノ如キ工業ノ性質ヲ有スルモノハ逐次大工場ノ製品ニ壓倒セラレ漸次其販路ヲ縮少セラルルハ經濟上免ル能ハサル數ニシテ結局大工場ノ發達ト反比例シ主トシテ自家用ヲ目的トセサルヘカラサル時機ノ到達スヘキコトナリ

十二　苹果、北海道ト緯度ノ似タル本道ニ適スルハ論無ク特ニ鐵道沿岸線ニ奬勵スヘキハ他地方ニ比シ汽車ノ便アルカ爲ニシテ露亞連絡ノ完成セル今日ニ於テ販路ハ殆ント無限ナルヲ以テ他日苹果ノ一產地タラシメンコトニ充分奬勵セラレタシ

十三　養蜂、由來沿江各郡ニ其養地ヲ有シ他ノ副業ニ比シ多クノ勞力ヲ要セサル長所ヲ有スル適切ナルモノノ一ナリ本年秋期ニ在リテハ蜂巢ヲ購入シ來春配付ヲ行フ計畫ナルヲ以テ倶ニ大ニ奬勵セラレタシ

十四　大麻、莞草、之亦從來相當產額ヲ有シ將來發達ノ見込アル地方ニ對シ奬勵科目トシテ定メタルモノニシテ尙種子ノ改良操作ノ改善等充分ノ餘地アルヲ以テ之等改良ト共ニ其產額ノ增多ヲ期セサル可カラス

要スルニ各奬勵科目ハ種苗ノ改良ト相俟テ產額ノ增大ヲ主眼トシ漸次集約的ニ誘導スルヲ緊要トス

右ハ郡是トシテ奬勵スヘキ業目ニ對スル概要ニシテ之レカ實行ハ地方ノ狀況ニ依リ緩急相考察シ確實ナル計畫ヲ樹テ有終ノ成績ヲ得ル事ニ努力セラレン事ヲ希望ス

府郡名	農業						副業									
	水稻	陸稻	大豆	馬鈴薯	大麥	燕麥	養蠶	柞蠶	養鷄	養豚	畜牛	織物	苹果	養蜂	大麻	莞草
義州	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
龍川	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
鐵山	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
宣川	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
郭山	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
定州	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○			
嘉山	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○			
博川	○	○	○	○			○		○	○	○	○			○	
寧邊	○	○	○	○			○		○	○	○	○			○	
熙川	○		○	○	○		○		○	○	○	○		○		
雲山	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○				

（備考）○印ハ奬勵科目トス

府郡名	農業						副業									
	水稻	陸稻	大豆	馬鈴薯	大麥	燕麥	養蠶	柞蠶	養鷄	養豚	畜牛	織物	苹果	養蜂	大麻	莞草
泰川	○		○	○			○		○	○	○	○				○
龜城	○		○	○			○	○	○	○	○	○				
朔州	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	
昌城	○		○	○			○	○	○	○	○	○			○	
碧潼	○		○	○			○		○	○	○	○			○	
楚山	○		○	○			○		○	○	○	○			○	
渭原	○		○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	
江界	○		○	○		○	○		○	○	○	○		○	○	
慈城	○		○	○		○	○		○	○	○	○		○	○	
厚昌	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	

司法

○在監者增減ノ狀況及現在受刑者ノ罪名刑期犯數

明治四十四年十二月三十一日調査

各監獄一般ニ在監者日ヲ逐フテ多キヲ加ヘ今ヤ九千五百七十九人ヲ算スルニ至リ試ニ之ヲ舊韓國監獄開廳當時（明治四十一年七月）ノ在監人員ニ比スレハ實ニ七倍ニ垂ムトス而シテ尙益增加セントスルノ趨勢ニ在リ在監者ノ斯ク頻リニ增加スルハ主トシテ犯罪檢擧ノ漸次周到スル結果ナリト雖又一ハ入監者ノ多キニ反シ出監者尠ク卽チ出入ノ平均ヲ保チ得ルノ時期ニ達セサルノ致ス所トス今最近四箇年ノ後十二月末日ニ於ケル現在人員ヲ比較スレハ左表ノ如クニシテ

	隆熙二年十二月三十一日現在	明治四十二年十二月三十一日現在	明治四十三年十二月三十一日現在	明治四十四年十二月三十一日現在
内地人	—	四二四	六五一	七三一
朝鮮人	二、六四二	五、六〇二	六、三一三	八、七三二
外國人	—	—	五七	一一六
計	二、六四二	六、〇二六	七、〇二一	九、五七九
前年ニ比シ増	二、四三四	三、三八四	八九五	二、五五八

（備考）

隆熙元年十二月三十一日ニ於ケル現在人員ハ二百八人ナリ舊韓國監獄開廳當時ノ現在人員ハ千三百八十四人ナリ明治四十三年ニ於ケル增加人員ノ他ノ各年ニ比シ著シク少ナキハ其年ニ於テ大赦ニ依リ一時ニ千三百十九人ノ出監者アリタルカ爲ナリ

第一年ハ一月平均二百三人、第二年ハ一月平均二百八十二人、第三年ハ一月平均百八十五人、第四年ハ一月平均二百十三人ノ割合ヲ以テ增加セルヲ見ル而シテ又前掲ノ在監人員ヲ刑事被告人ト受刑者トノ區別ニ依リテ比較スルトキハ左表ノ如クニシテ

	隆熙二年十二月三十一日現在	明治四十二年十二月三十一日現在	明治四十三年十二月三十一日現在	明治四十四年十二月三十一日現在
刑事被告人	六四三	八二九	六三一	六九一
受刑者	一、九九九	五、一九七	六、三九〇	八、八八八
計	二、六四二	六、〇二六	七、〇二一	九、五七九

主トシテ受刑者ニ於テ累增スルヲ見ルモ刑事被告人ニ在リテハ著シキ增加ヲ示サス是蓋シ常ニ裁判ノ進捗ヲ期シテ未決拘留ヲ多カラサラシムルニ努メツツアル結果ニ外ナラサルナリ

現在受刑者ノ罪名、刑期及犯數ヲ示セハ左表ノ如シ

内地人タル受刑者ノ罪名 （男）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
竊盜	二三三	三七・〇	詐欺及恐喝	一一七	一八・六
横領	七七	一二・二	殺人	五三	八・四
傷害	三三	五・一	賭博及富籤	二六	四・一
強盜	二二	三・五	文書有價證券僞造	一九	三・〇
贓物ニ關スル	七	一・一	放火	六	一・〇
印章僞造	五	〇・八	猥褻姦淫及重婚	四	〇・六
略取及誘拐	四	〇・六	通貨僞造	三	〇・五
逃走、犯人藏匿及證據湮滅	二	〇・三	毀棄及隱匿	二	〇・三
逮捕及監禁	一	〇・二	瀆職	一	〇・二
公務執行妨害	一	〇・二	其他	一〇	一・六
特別法違反	三	〇・五	計	六二八	一〇〇・〇

同上 （女）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
竊盜	三	（略）	殺人	三	（略）
詐欺及恐喝	二	同	横領	二	同
強盜	一	同	賭博及富籤	一	同
猥褻姦淫及重婚	一	同	通貨僞造	一	同
略取及誘拐	一	同	印章僞造	一	同
放火	一	同	其他	二	同
計	二八				

外國人タル受刑者ノ罪名 （男）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
賭博及富籤	二四	二二・八	強盗	二二	二〇・九
窃盗	一九	一八・一	詐欺及恐喝	五	四・八
傷害	三	二・八	通貨偽造	三	二・八
殺人	一	一・〇	猥褻姦淫	一	一・〇
住居ヲ侵ス	一	一・〇	其他（主トシテ阿片ニ關ス）	二五	二三・八
特別法違反	一	一・〇	計	一〇五	一〇〇・〇

同上（女）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
阿片ニ關スル	二	（略）	—	—	—
計	二		—	—	—

朝鮮人タル受刑者ノ罪名（男）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
強盗	三、四〇〇	四三・九	窃盗	一、四三〇	一八・八
准窃盗	四三〇	五・六	略人及誘拐	三四九	四・五
殺人	三四〇	四・四	姦淫	二三七	三・一
貨幣偽造	一九一	二・五	賭技及富籤	一八五	二・四
文書偽造	一八〇	二・三	傷人	一七四	二・二
印章偽造	一三四	一・七	鴉片煙ニ關スル	八一	一・〇
放火	七八	一・〇	誣告	四〇	・五
墳墓侵害	三五	・五	逃走	三一	・四
偽證	二七	・三	制縛拷打監禁	二〇	・三
犯贓	一四	・二	葬埋違犯	一二	・二
盗侵分贓	一一	・一	暴動	九	・一
其他	二七三	三・五	特別法	五七	・七
計	七、七三八	一〇〇・〇			

朝鮮人タル受刑者（女）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
姦淫	一五四	三九・六	殺人	七六	一九・五
窃盗	三一	八・〇	放火	二四	六・二
略人及誘拐	一八	四・六	強盗	七	一・八
准窃盗	七	一・八	誣告	四	一・〇
遺棄	四	一・〇	邪術	四	一・〇
傷人	三	・八	墳墓侵害	二	・五
鴉片煙ニ關ス	二	・五	文書偽造	一	・三
致自盡	一	・三	賭技及富籤	一	・三
其他	五〇	一二・八	計	三八九	一〇〇・〇

受刑者ノ刑期（男）

刑期	内地人 人員	内地人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例
無期	五	・八	—	—
十五年以上	五	・八	一	一・〇
十五年未満	一六	二・五	三	二・八
十年未満	六九	一一・〇	一九	一八・一
五年未満	七四	一一・八	二	一・九
三年未満	二四四	三八・八	一〇	九・五
一年未満	一〇一	一六・一	三五	三三・三
六月未満	一〇九	一七・三	三二	三〇・五
二月未満	五	・八	三	二・八
計	六二八	一〇〇・〇	一〇五	一〇〇・〇

刑期	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例
終身	三一六	四・一
十五年以下	一、一二三	一四・五
七年以下	二、〇〇六	二六・〇
三年以下	一、四六三	一八・九
二年以下	八八八	一一・五
一年以下	四八三	六・二
八月以下	六八一	八・八
五月以下	五〇五	六・五
三月以下	二七三	三・五
計	七、七三八	一〇〇・〇

受刑者ノ刑期（女）

刑期	内地人 人員	内地人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例
無期	—	—	—	—
十五年以上	—	—	—	—
十五年未滿	—	—	—	—
十年未滿	四	（略）	—	—
五年未滿	一	同	—	—
三年未滿	一〇	同	—	—
一年未滿	五	同	二	（略）
六月未滿	六	同	—	—
二月未滿	—	—	—	—
計	二六	同	二	同

刑期	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例
終身	一〇	二・六
十五年以下	二三	五・九
七年以下	一八	四・六
三年以下	五五	一四・一
二年以下	九四	二四・二
一年以下	三〇	七・七
八月以下	八四	二一・六
五月以下	六八	一七・五
三月以下	七	一・八
計	三八九	一〇〇・〇

受刑者ノ犯數（男）

犯數	内地人 人員	内地人 百分比例	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例
初犯	二九〇	四六・二	七、〇四二	九一・〇	九七	九二・〇
再犯以上	三三八	五三・八	六九六	九・〇	八	八・〇
計	六二八	一〇〇・〇	七、七三八	一〇〇・〇	一〇五	一〇〇・〇

受刑者ノ犯數（女）

犯數	内地人 人員	内地人 百分比例	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例
初犯	一八	六九・〇	三八四	九八・七	二	（略）
再犯以上	八	三一・〇	五	一・三	—	—
計	二六	一〇〇・〇	三八九	一〇〇・〇	二	同

調査資料

○南清及露領ニ於ケル果物需給狀況

本編ハ本府ヨリ外務省ヲ經テ其ノ取調方ヲ依賴シタル各當該地駐在帝國領事官ノ報告ヲ輯錄シタルモノナリ

一 上海ノ部

苹果

輸入狀況

上海ニ輸入セラルル林檎ハ支那品ハ天津、芝罘ヨリ外國品ハ日本、濠洲及米國加洲等ヨリ輸入セラルルモノニ係リ各其ノ出廻期節ヲ異ニセリ卽チ

支那品　自六月至八月三箇月間
濠洲品　自六月至九月四箇月間
米國品　十月以後翌年六月ニ至ル九箇月間
日本品　九月以後翌年六月ニ至ル十箇月間

ノ如クニシテ其ノ數量ニ於テハ精確ノ統計ヲ得ルコト困難ニシテ稅關ノ統計ノ如キモ現ニ數量ト價格ト一致セサルカ如ク强チ信スルニ足ラサルヲ以テ唯之ヲ標準トシ當業者ノ意見ヲ參酌シ之ヲ左ニ示サン

		日本品	米國及濠洲品	支那品	合計
明治四十一年	數量	一、八〇〇箱	七、〇〇〇箱	一、〇〇〇擔	
	價格	七、二〇〇元	四二、〇〇〇元	一五、〇〇〇元	六四、二〇〇元
	一箱平均	四元	一箱平均六元	一擔平均十五元	
明治四十二年	同	四、〇〇〇箱	同 七、〇〇〇箱	同 一、二〇〇擔	
	同	一六、〇〇〇元	四二、〇〇〇元	一八、〇〇〇元	七〇、〇〇〇元
	同	四元	六元	十五元	
明治四十三年	同	七、五〇〇箱	同 六、〇〇〇箱	不明	
	同	一八、二〇〇元	二四、〇〇〇元	不明	四二、二〇〇元
	同	二元四	四元		

（備考）

元ハ墨西哥弗ト略同一ニシテ我一圓ト伯仲ス

而シテ米國濠洲產ハ早クヨリ輸入セラレ居リシカ日本產ノ輸入ハ明治三十九年初メテ青森縣人皆川藤三ノ手ニ由リ輸入セラレ當初ノ事トテ支那人ノ需要殆トナク一千餘箱ハ其ノ儘日本ニ送還スルニ至レリ翌四十年ニハ千箱ノ內僅ニ二三百箱ヲ賣捌キタルカ四十一年ニハ一千八百餘箱ヲ賣リ年年增加シテ昨年ヨリ今年ニ亙リテ已ニ一萬箱ノ賣行アリ昨年ヨリ皆川商店ト支那果物卸商トノ間ニ一切他ノ外國品ヲ輸入セサルコトトセルヲ以テ今年日本品ノ輸入ハ更ニ增加スヘキ見込ナリ其ノ價格ニ於テ日本品ハ他ノ外國品ニ比シ頗ル低廉ニシテ品質亦タ伯仲ノ間ニ在ルヲ以テ日本品ノ將來甚タ有望ナリ日本品ヲ支那品ニ比較スルニ支那品ハ品質遙ニ劣レルノミナラス其ノ出廻期間短キヲ以テ日本品ト競爭スルコト又困難ナリ

種類及相場ノ建方

本品ヲ產地ニヨリ分ツトキハ支那林檎、日本林檎、亞米利加林檎及濠洲林檎ノ四種トス支那品ヲ小別スルトキハ五十餘種ト稱セラルルモ何レモ色澤不良、水分ノ乏シキ等外國品ニ劣ル所ナリ濠洲品ト亞米利加品トハ品質優劣ナキモ濠洲品ハ出廻リ時期短キ爲輸入額少シ支那產一箇ハ約二錢一厘餘トナル

日本品ハ專ラ青森產ニシテ北海道品ハ一昨四十三年十一月北海道上海間汽船ノ直航アリシ頃ハ幾分輸入セラレシカ青森產ニ比シ光澤惡ク且ツ取引ノ關係上實行捗捗敷カラス其ノ後直航汽船ノ中絕ト共ニ輸入ハ殆ト絕エタリ而シテ青森產ノ輸入セラルル種類ハ國光、倭錦、紅玉（滿玉）、柳玉等ニシテ支那人ノ嗜好ハ味ノ如何ヨリ寧ロ光澤ノ鮮明ナルヲ尙フ風アリ相場建ハ支那產ハ一擔ヲ單位トシ價格ハ種類ト季節ニ由リ差異多キモ最低五元ヨリ最高十五元ノ間ヲ往來ス外國產ハ箱詰ニシテ一箱ノ重量左ノ如シ

米國品　ハ一箱ノ容積長一呎六六、幅一呎三五、深一呎一、重量三十封度乃至四十封度ニシテ相場紐育沖渡米貨二弗內外、上海ニ於テ四元乃至八元氷詰保藏セルモノハ二十元ニ上ルコトアリ一箱ノ重量ヲ平均三十五封度此ノ改算量ヲ四貫二百匁トシ又苹果一箇ノ重量ヲ三十五匁トスレハ一箱ハ百二十箇入トナル此ノ計算ニ據レハ紐育沖渡ノ分一箇當リ我三錢三厘餘上海ニテ五錢氷詰十六錢六厘トナル

濠洲產　容積重量米國品ト同シク上海相場五元乃至九元一箇ニ付我五錢八厘餘

日本品　ニシテ神戸橫濱ヨリ積込アルモノハ三十封度乃至三十五封度ニシテ上海相場三元半乃至七元ニシテ青森產ハ四十封度ニシテ上海相場三元乃至七元トス神戸橫濱積ノ分一箇ニ付四錢七厘餘青森產一箇ニ付三錢八厘餘トナル

商慣習

上海ニ於テ林檎ノ輸入ヲ專業トセル外國人ハ皆川商店ノ一戶アルノミ他ハ皆支那人ニ依テ輸入セラレツツアルカ近來日本品ノ賣行良好ニ連レ漸次日本品取扱業者ヲ增加シツツアリ本邦品取引商ノ慣習ヲ見ルニ一切現金取引ニシテ依託賣買ヲ爲スモノナク日本ノ輸入商ヨリ引取リタル卸價格ニ更ニ七分乃至一割ノ利益ヲ加ヘタル相場ニテ問屋ヨリ小賣商ニ引渡スヲ常トス

梨及葡萄

何レモ天津、芝罘ヨリ輸入セラレ梨ハ純粹ノ支那種ト又西洋種アリ西洋種ハ天津ヨリ輸入セラレ品質良好ニシテ支那種ニ比シ高價ナリ而シテ支那種ハ多クハ芝罘ヨリ輸入セラル相場ハ擔ヲ建トシ相場三元乃至十元ノ間ニ在リ平均一斤六錢五厘トナル其ノ輸入額ヲ知ル能ハス葡萄ハ主トシテ芝罘ヨリ輸入セラレ破損及腐敗シ易キヲ以テ外國ヨリノ輸入困難ナリ

二　香港ノ部

香港ニ於ケル果物狀況

香港市場ノ果物ハ多クハ廣東省及附近ニ產出スルモノニシテ「マニラ」、佛領印度及新嘉坡等ヨリ其ノ供給ヲ仰クモノ亦少カラスト雖目下遠路輸入セラルルヲ見ルハ苹果、葡萄、檸檬等數種ニ過キス今當地ニ於ケル果物ノ狀況ヲ記セハ大要左ノ如シ　但シ價格ハ貨物ノ豐富ナル時ト乏シキ時トニヨリ非常ニ高低アルモ概ネ現今ノ市價ヲ記載セリ

一　苹果　ハ主ニ日本及米國ヨリ輸入セラル其ノ他上海、天津、芝罘等ヨリモ輸入セラルルモノアリ一箇年ノ輸入額日本品二萬五千弗、米國品二萬弗位ニ上ル現今卸賣價格日本品一函重量四十封度ノモノ約三弗、米國品一函重量五十封度ノモノ約五弗ナリ日本品一箇ノ價約四錢三厘餘、米國品同シク五錢八厘餘當地ニテ消費スルモノノ外汕頭、廈門、安南、「マニラ」、新嘉坡、暹羅、廣東等ニ再輸出セラル日本品ハ形大ニシテ外觀美ナルモノノ賣行ヨシト云フ其ノ取扱店左ノ如シ

裕　榮　　機利文街三十二號

茂　隆　　中環街市內

濟記合　　德輔道中百三十一號

青山棧　　中環街市貳樓

洪生昌　　德輔道中百十五號

二　梨　當地ニ需要セラルル梨ノ產地ハ廣東省惠州府ヲ主トス同府下ニ於ケル淡水ニ產スルモノハ品質頁好ナリ尙米國、天津等ヨリ輸入セラルルモノアリ現今卸賣價格ハ淡水品百斤上等七弗內外卽チ一斤十四錢內外、中等三弗內外卽チ一斤六錢內外、惠州品百斤上等四弗內外卽チ一斤八錢內外、中等三弗內外卽チ一斤六錢內外ナリ一箇年ノ輸入額兩者ヲ併セ約一萬五千弗ニ上ルト云フ時期ハ七八月最多ク十二月ヨリ五月マテハ至ツテ少ナシ再輸出先ハ佛領印度、新嘉坡、暹羅、「マニラ」等ナリ梨ノ取扱商店ハ左ノ如シ

順興隆　　上環街市側裏　　七號

廣興隆　　同　　八號

廣順隆　　同　　九號

廣隆　　同　　十號

安隆　　同　　十一號

新榮昌　　中環街市

新源昌　　同

廣安和　　同

廣榮昌　　同

廣利　　同

廣隆　　同

三　葡萄　ハ凡ソ八九月ヨリ十一月頃迄上海、芝罘、牛莊ヨリ輸入セラルル一箇年ノ總輸入額四千五百弗內外ニシテ需要者ハ大抵在留歐洲人ナルカ如シ目下ノ卸賣價格百斤二十弗卽チ一斤四十錢位トス海口、海防、澳門及廣東方面ヘ再輸出セラル其ノ取扱商店ハ左ノ如シ

同裕　　機利文街　　四十一號

裕利　　同　　三十五號

裕隆　　同　　十五號

裕德　　同　　三十六號

泰榮　　同　　三十二號

廣合隆　　同　　十七號

廣祥生　　同　　二十五號

四　「バナナ」　ハ大別シテ香蕉、大蕉、過山蕉ノ三種トス香蕉ハ最優等ニシテ價高ク支那人ノ嗜好ニ適ス長サ五寸前後ニシテ太サハ大蕉ト過山蕉トノ中間ニ在リ大蕉ハ下等品ニシテ實行多カラス下等支那人小兒ノ需要スル所ナリ長サ三寸位ニシテ太サハ香蕉ノ二三倍アリ、過山蕉ハ中等品ニシテ西洋人之ヲ嗜好シ形ハ最モ小ナリ長サ二寸內外ニシテ太サモ香蕉ヨリ細シ以上三種共南海縣香禺縣新會縣東莞縣香山縣其ノ他ニ產出頗ル多シ一年二回結實シ一月ヨリ三月マテハ殆ト皆無ナルモ其ノ他ノ時期ニ於テハ市場ニ絕ユルコトナシ上海、天津等ニ輸出セラル取扱商ハ梨ト同シ現今ノ卸賣價格及一箇年輸入高ハ左ノ如シ

香蕉　　百斤　　二弗八十仙內外一斤五錢六厘內外　　約一萬弗

大蕉　　同　　一弗五十仙一斤三錢內外　　同五千弗

過山蕉　　同　　二弗五十仙一斤五錢內外　　同七千弗

五　檬果（マンゴ）　ハ「マニラ」、安南及廣東省東莞縣等ヨリ輸入セラレ內一部ハ廣東、澳門、上海、天津ニ再輸出セラルト云フ其ノ卸賣價格及一箇年輸入高ハ

マニラ物　　百個　　平均三弗五十仙　　約三千弗

安南物　　同　　同　三弗　　同四千弗

東莞物　　百斤　　五弗五十仙　　同一千弗

ニシテ取扱商店ハ左ノ如シ

榮昌　　永安街　　二十八號

錦永隆　　永吉街　　三十四號

裕合　　機利文街　　四十三號

廣厚隆　　中環街市

元昌泰　　同

六　檸檬（レモン）　ハ米國、安南、暹羅及佛國ヨリ一箇年約二萬弗ノ輸入アリ其ノ中幾分ハ廣東、澳門、上海、天津等ニ再輸出セラル現今卸賣價格ハ佛國品三百個入一函五弗八十仙、米國品同六弗、安南及暹羅品百斤八弗ナリ其ノ取扱商店左ノ如シ

濟記合　　德輔道中

廣昌　　中環街市

裕　紫	權利文街	三十二號
茂　隆	中環街市	

七　蜜柑　(A)桔仔(普通蜜柑)ハ廣東省新會縣香山縣南海縣等ヨリ供給セラレ一箇年ノ輸入額約七萬弗ナリ再輸出先ハ安南、新嘉坡、「マニラ」、暹羅ニシテ目下ノ價格大ナルモノ百斤三弗内外一斤六錢内外小ナルモノ百斤二弗内外一斤四錢内外ナリ九月ヨリ二月マテヲ其ノ時期トス(B)柑(俗ニ汕頭蜜柑)ハ廣東省潮州、新會、香山、東莞、番禺等ノ諸縣ニ產ス一箇年約八萬弗ノ輸入アリト云フ其ノ期節ハ十月ヨリ十二月位迄トス相場ハ百斤六弗内外一斤十二錢内外ナリ新嘉坡、安南、上海等ニ輸出セラル(C)橙果(俗稱廣東蜜柑)ノ產地ハ前者ト略同シク廣東省ニシテ日本品モ亦輸入セラル香港需要高一箇年約十萬弗ニ上リ其中安南、新嘉坡、「マニラ」、上海、天津ニ再輸出セラルルモノアリ、其ノ目下ノ卸賣價格ハ新會物百斤十五弗番禺物十六弗、香山物五弗、潮州物五弗、日本物六弗一斤十二錢ナリ七月ヨリ三月マテヲ多キ時期トス(D)檸柚(一ニ「ジヤボン」)ハ主トシテ廣西省沙田、廣東省新會、順德、番禺、南海等ヨリ輸入セラレ其ノ中佛領印度、新嘉坡、上海、天津ニ再輸出セラルルモノアリ一箇年輸入額ハ沙田柚約六萬弗、廣東柚約一萬弗ナリ其ノ卸賣價格ハ左ノ如シ

沙田産	百個ニ付	大(重量一斤位)	七弗	一個ニ付十四錢
		中(同一斤位)	五弗	同　十錢
		小(同百匁位)	二弗五十仙	同　五錢
廣東産	百斤ニ付	大同	七弗	同　十四錢
		中同	四弗五十仙	同　九錢
		小同	三弗	六錢

以上各種蜜柑取扱店ハ前記梨取扱商ト同シ

八　佛手柑　廣東省高要縣產品一箇年約五千五百弗位ノ輸入アリ百斤六弗一斤十二錢前後ニシテ上海、天津ニモ輸送セラル取扱商ハ前項ト同シ

九　其他　以上ノ外當市場ニ出ツル果物トシテ龍眼、楊桃、桃、「パイナツプル」柿、西瓜、茘枝ノ類少カラス多クハ廣東省ニ產出スルモノトス又枇杷、香瓜、黄皮、「アルモンド」海棠等モ販賣セラル

三　「ニコラエウスク」ノ部

萃　果

露國人ハ食役及喫茶ノ際果實及「ジヤム」ヲ賞用スルヨリ當地ニ於ケル果物ノ需要ハ土產皆無ナルカ故ニ僅少ナル人口ニ比シ割合大ナリ就中萃果ハ其ノ最タルモノタリ本品ノ仕出地ハ函館、小樽及浦潮ニシテ本邦ヨリノ直輸入額ハ精査シ得レトモ浦潮ヨリノ分ハ本邦及清國產孰レモ合記シテ稅關ニ屆出ル爲之レカ數量ヲ確知スル能ハス然レトモ果物取引業者ノ談ニ據レハ毎年本邦產約五百箱清國產約三四千籠ナラムト抑モ浦潮ヨリ當市ニ移入スルハ「ハバロフスク」ヨリ當市ニ往復スル河路ノ汽船ハ海路ヨリ約半月秋ハ遲クマテ航シ春ハ早ク航路開クルニ由ル左ニ數年間ノ本邦輸入數量及價格ヲ掲ケム

明治四十一年	一、二八二布度	三、八三八留
明治四十二年	三、二八九	八、五六八
明治四十三年	八、一二四	一六、二六二
明治四十四年	一二、五六二	二一、八一六

備　考

留ハ我一圓三錢餘布度ハ我百十匁弱

當地ノ需要ハ前述ノ如クナルカ茲ニ需給ニ甚太ノ影響ヲ與フルモノハ當地ノ交通及氣候ノ關係ナリ此ノ事ハ其ノ果實ナルト其ノ他ノ商品ナルヲ問ハス當地ニ輸入ヲ企テムト欲スル者ノ豫メ知リ置クヘキ要件ナリ卽チ黒龍江解氷シ黒龍海灣ニ於ケル航路標識ノ設置終リテ下流ヨリノ航行安全ト爲ルハ六月初ニシテ其レヨリ六七、八、九ノ四箇月ト十月ノ半マテハ河海ノ航行自由ニシテ十月下旬ニ至テハ上流已ニ結氷ヲ始ムルヲ以テ商品ハ僅々四箇月半ニ輸入セサルヘカラス隨テ苹果ハ成熟不完全ナル早物カ若ハ前年ノ圃物ノミ輸入セラレ季節ニ應シタル適當ナル圃キ向キノ品ヲ輸入スルコト能ハス殊ニ終航前圃物トシテ輸入セラルルモノノ如キハ季節ヲ俟ツ能ハスシテ拗リ取リタルモノ故ニ品質不良ニシテ冬期七箇月ニ亘ル貯藏ニ堪ヘ難キモノアリ斯クテ早物ハ津輕產ノ六號、大中、玉勘次ニ北海道ノ三十三號、二十八號等多ク輸入セラレ十四號十九號ハ價格ノ點ニテ歡迎セラレス圃物トシテハ津輕產ノ滿紅、柳王等賞用セラレ北海道產四十八號四十九號等ノ圃ニ適スル逸品ハ終ニ輸入スル能ハスサレト春期浦潮ヨリ來ル日本產ハ前年來ノ殘品ニシテ津輕產ノ圃ヒ下等ノ上等品ナリ價格ハ當市市場狹小ナレハ輸入數量ノ大小ニヨリ高低常ナケレトモ平均スレハ四十斤入箱ニシテ夏期三留五十哥冬期五留見當ナリ(哥ハ我一錢餘一個ノ價平均二錢三厘餘トナル)以上ハ本邦產ニ關シテ述ヘタルカ清國產ハ上海又ハ芝罘仕出ニ係リ浦潮ヨリ移入セラレ孰レモ小粒物ニシテ專

「ウヤム」及食事ニ供スル酢漬ニ製造セラル價格ハ約二十斤ノ籠入ニテ八十哥ヨリ一留五十哥ノ間ヲ上下ス小粒ナルカユヘ一箇ノ重量ヲ假ニ二十匁トスレハ一箇ノ價七厘餘トナル然レトモ昨年ハ浦潮ニ於テ六十哥内外ナリシニ當地ニ於テハ供給過剩ノ爲三十五哥ニ下落セリ斯カル例ハ一再ニ止マラス一昨年亦輸入多量ノ爲市價暴落シ荷受人ハ品物ヲ引受クルヲ欲セス汽船會社ハ止ムナク之ヲ放棄セリト云フ

梨

本品亦本邦産ト浦潮經リノ清國産アリ其ノ數量ハ浦潮移入ノ苹果ト同シク之ヲ知ルコト能ハス去レト本品ハ貯藏困難ナルカ爲メ苹果ニ比シ輸入額甚タ少量ナリ本邦産ハ北陸及東京附近ノ産ニシテ初夏前年ノ圃物來リ終航前早物輸入セラル價ハ供給及品質ニ支配セラレ一定セス一箱五十哥ヨリ二留五十哥ノ間ニ在リ二三年來本邦産西洋梨ノ輸入始マリタルカ質柔軟ニシテ口當リ好ク大ニ歡迎セラレ一箇十五哥ヨリ二十哥ニ賣買セラレタレトモ極メテ腐敗シ易ク輸入多量ニシテ品捌不良ノ時ハ腐敗ノ爲ニ損失ヲ招クコトアリト云フ販賣者ノ言ニ依レハ總シテ梨ハ苹果ヨリモ長ク保存ニ堪フルモノナルニ當地ニ於テ然ラサル所以ハ成熟不良ト前年ノ圃物タルコトニ在ランモ苹果ニ比シ荷造極メテ粗略ナルカ爲運送ノ途中梨ノ外皮ニ傷ヲ受ケ腐敗ヲ早カラシムルコト亦重因ナル由ナレハ輸出業者ハ荷造ニ留意スルコト最モ肝要ナリ清國産ハ其質軟キヲ以テ尙ハル其ノ輸入期ハ終航前ニシテ冬季ハ本邦産ヨリモ多ク賣買セラル其數量ハ本邦産ト伯仲ノ間ニ在ランカト云フ荷造ハ苹果ト同シク籠入ナリ

葡萄

本品ハ前記兩品ニ比シ兎角値キ水物ノコトトテ賣レ足宜シカラサルカ輸入額極メテ少量ニシテ其ノ額亦不明ナリ左レト決シテ望ナキモノニアラス本邦産ハ交通及彫節ノ關係上絕無ニシテ淸國産ノミナリ價ハ一斤（我約百九匁）三、四十哥ナリ

雜　錄

○本府刊行物

本年三月以降主ナル刊行物左ノ如シ

朝鮮總督府月報　（每月）
經濟概報　（每月）
貿易月表　（每月）
英文貿易概表　（每月）
朝鮮總督府施政年報　（明治四十三年）
紀念植樹
敎科用圖書一覽
學事狀況報告要錄
面區一覽
度量衡法ノ施行ニ關スル注意要項
度量衡概況
朝鮮農務彙報
度量衡器價格表
朝鮮民事刑事令要旨
敎育法規私立學校願屆書式例示
學校一覽表
關稅價格表
同定率令及參考表

○四月中本府購入圖書左ノ如シ

著者	書名	發行年	部數
朝鮮古書刊行會	東國通鑑	明治四十五年	四
高橋久四郎	園藝通論	同　四十三年	一
同	園藝各論	同　四十五年	一
松村任三	植物講話	同　三十九年	一
中尾節藏	實用農產製造學	同　四十四年	一
藤井信吉	獨和兵語辭典	同　年	一
木田吉太郎 武田元吉	皆川淇園用字訣全集	同　年	一
本多靜六	林學教科書造林學本論	同　年	二〇
同	林學教科書林學通論	同　四十五年	二〇
同	林學教科書森林保護學	同　四十三年	二〇
官撰	五禮儀		一
同	欒大司馬實記		一
花山龍球寺	恩重經		一
	南漢志(寫本)		一
	宮園儀		一
官撰	華城儀軌		一
	萬年書春夏秋冬註		一
同文館	農業大辭書　第一卷	同　四十四年	一
堀切善兵衞	最近經濟問題叢書第七卷　殖民と經濟	同　年	一

○四月中本府ニ於テ寄贈ヲ受ケタル圖書、雜誌左ノ如シ

寄贈者名	書名	部數
外務省	通商彙纂　自第二十八號至第三十六號	九
同	露國月報　第四卷第十一號	三
同	モロッコ問題	一
同	支那時報　第一號	二
同	外國新聞摘要　第六十八號第六十九號	六
大藏省	外國貿易月表	一
同	內地及樺太朝鮮間貿易月表	一
同	調查月報　第二卷第三號	一
同	歐米ニ於ケル社會政策ノ研究	一
同	國債統計年報　明治四十三年度	三
農商務省	明治四十四年生絲檢查成績報告	一
同	山林公報　第六號第七號	四
同	重要物產同業組合一覽	一
同	農商務省商品陳列館報告　第四十九號	一
同	世界之蠶絲業竝人造絹絲業　第二次	二
同	蠶絲業ニ關スル參考資料　第二項	二
同	農務彙纂第二十三　茶業ニ關スル調查	九
同	農務彙纂第二十七　農作病虫害豫防事務概要	五
同	農務彙纂第二十八　日本本園藝業概覽	九
特許局	特許發明明細書　自第十五號至第十九號	五
同	特許公報　自第一五一九號至第一五二二號	四
同	實用新案公報　自第四八六號至第四九二號	七
同	商標公報　自第八五六號至第八六四號	九
遞信省	明治四十五年船名錄	一
京都帝國大學	京都帝國大學一覽　自明治四四年至明治四五年	一
廣島高等師範學校	廣島高等師範學校概覽　自明治四四年至明治四五年	一
名古屋高等工業學校	名古屋高等工業學校一覽　明治四十五年	一
秋田大林區署	秋田大林區署統計書　四十三年度	一

高知大林區署	高知大林區署統計書 第一編 第二編	二
熊本大林區署	林産物賣拂豫告	一
札幌鑛山監督署	空知郡煤田地質調査報文 附屬地圖	一
東京稅務監督局	局報 自第三四號 至第四一號	八
大阪稅務監督局	稅務統計書 明治四十三年	一
名古屋稅務監督局	局報 第四二一號 第四二二號	二
廣島稅務監督局	局報 自第二二七三號 至第二二八二號	八
仙臺稅務監督局	局報 自第七號 至第十號 號外	六
熊本稅務監督局	徵收事務規程	一
同	局報 第一〇七號	一
長野稅務監督局	局報 第一〇號 第一一號	二
佐賀縣	佐賀縣統計書 明治四十三年 第三編勸業	一
三重縣	三重縣統計書 學事ノ部	一
同	獸疫豫防事務成績	一
千葉縣	千葉縣統計書 明治四十三年	一
廣島縣	廣島縣學事年報 明治四十三年	一
滋賀縣	滋賀縣統計全書 明治四十三年	一
富山縣	富山縣統計書 第一、二、三編 政治、勸業、學事	三
同	富山縣統計摘要	一
德島縣	德島縣治一班	一
愛知縣	愛知林業報告 第九號	一
島根縣	島根縣治一班 第十九回	一
長野縣	長野縣林務統計 明治四十三年	一
群馬縣	群馬縣統計書 明治四十三年 勸業ノ部	一
青森縣	青森縣統計書 明治四十三年	一
栃木縣	獸疫豫防事務成績	一

北海道廳	北海道移住手引草	五
東京市役所	東京市市勢調査比例篇	一
横濱商業會議所	月報	一
同	第八回横濱商業會議所年報	一
大阪商業會議所	貿易通報 三月號	一
第十三回九州沖繩八縣聯合共進會事務所	第十三回九州沖繩八縣聯合共進會事務報告書 第十一回九州沖繩八縣聯合馬匹共進會事務報告書	一
大日本農會	大日本農會報 第三七〇號	一
養德社	養德 第十一卷第三號	一
長崎水產組合聯合會	長崎水產時報 第十九號	一
教育新潮社	教育新潮 臨時號	一
東京每日新聞社	新家庭 第四號	三
東京藥種貿易商報社	東京藥種貿易商報	一
海陸運社	海陸運	一
漆器新報社	漆器新報	一
小麥粉新報社	小麥粉新報 第二〇六號	一
吉川製油所	吉川製油所報 第七〇號	一
大日本通俗教育會	幸福 第四號	一
大阪朝鮮貿易商報社	大阪朝鮮貿易商報 第九十四號	一
臺灣總督府	臺灣果物調査 第一卷	一
同	護謨樹之栽培法	一
同	臺灣茶業一班	一
同	螟蟲編	一
同	支那食料植物	一
同	害蟲調査成績 第一報	一
同	棉吹介殼蟲調査報告	一
同	臺灣人口動態統計記述報文 四十三年	一

第二卷　第五號

臺灣總督府	臺灣總督府第十四統計書	三
樺太廳	殖民地財政論	九
關東都督府	關東都督府第五統計書	二
南滿洲鐵道株式會社	南滿洲經濟調査資料　第四	一
同	資料彙存(營口ノ過爐銀)　第三號	一
大連海友會	海友　第二四號	一
朝鮮駐箚憲兵隊司令部	朝鮮社會考	五
工業傳習所	朝鮮總督府工業傳習所一覽	一
鐵道局	乘車賃金表　四十五年四月一日改正	五
勸業模範場	勸業模範場報告　第六號	一
江原道	江原道道勢一斑　四十四年十月	一五
朝鮮海水產組合	朝鮮海	
朝鮮鐵道運輸聯合會	朝鮮之運輸　第三十九號	一
慶尚南道	慶尚南道種苗場報告　第一號	二
朝鮮ノ運輸社	朝鮮ノ運輸　第四十號	一

○本府各部ニ於テ購入スル邦文雜誌及歐文新聞雜誌左ノ如シ

太陽	祕書課、內務部
中央公論	祕書課
外交時報	同
國際法雜誌	同
國家學會雜誌	同
法學協會雜誌	同
實業之日本	同
海外之日本	同
日本及日本人	同
國民雜誌	祕書課
新日本	祕書課、內務部
朝鮮及滿洲(朝鮮改題)	總務局、內務部、司法部
教育學術界	內務部
學術界	同
教育時論	總務局、內務部
教育實驗界	內務部
教育界	同
小學校	同
教育研究	同
初等教育	同
帝國教育	同
日本ノ小學校	同
教材研究	同
普通教育	同
殖民公報	同
新中島	同
旅行案內	內務部、農商工部、度支部
工業化學雜誌	度支部
紙業雜誌	同
東洋皮革新誌	同
東京銀行通信錄	同
大阪銀行通信錄	同
統計集誌	總務局、度支部
朝鮮農會報	度支部
工業	總務局

工業界 …… 同
電氣ノ友 …… 同
印刷世界 …… 同
臺灣統計協會雜誌 …… 同
自治機關 …… 同
統計學雜誌 …… 同
政事學雜誌 …… 同
兵事雜誌 …… 武官室

American Journal of International Law …… 外事局
Colonial Official Journal. …… 內務部
Educational Review. …… 同
Engineering and Mining Journal. …… 鑛務課
Journal of Education. …… 內務部
Shanghai Mercury. …… 外事局
The American Review of Reviews …… 外事局 農務課 關稅課
The Board of Trade Journal …… 關稅課
The Chemical News. …… 稅務課
The Contemporary Review. …… 外事局
The Daily Consular Trade Report. …… 同
The Economist. …… 理財課
The Engineering. …… 關稅課
The Engineering News. …… 工務課
The Fortnightly Review. …… 外事局

The Graphic. …… 關稅課
The Hongkong Weekly Press and China Overland Trade Report. …… 外事局
The Japan Weekly Mail. …… 同
The Japan Chronicle. …… 外事局 關稅課
The Japan Times. …… 總務局 內務部 司法部 農商工部
The Japan Daily Mail. …… 外事局
The Japan Daily Herald. …… 外事局 關稅課
The Japan Gazette. …… 外事局
The Japan Advertiser. …… 同
The Journal Society of Chemical Industry. …… 鑛務課
The London and China Express. …… 外事局
The Mail. …… 同
The National Review. …… 同
The North American Review. …… 同
The North China Daily News. …… 同
The North China Herald. …… 關稅課
The New York Times. …… 總務課
The Nineteenth Century and After. …… 外事局
The Outlook. …… 同
The Parliamentary Papers. …… 同
The Political Science Quarterly. …… 總務課
The Review of Reviews, Illustrated. …… 外事局
The Seoul Press. …… 總務課 秘書課 關稅課

The School Review.	内務部
The Times.	總務課
The Times Weekly.	關税課
The Tobacco, London.	税務課
The Tobacco, New York.	同
The Tobacco Leaf.	同
The Tobacco Trade Review.	同
Das Echo.	外事局
Der Ostasiatische Lloyd.	同
Deutsche Japan-Post.	同
Kölnische Zeitung.	同
Zeitschrift für Colonialpolitik, etc.	同
Diplomatiques et Coloniales.	同
L'Echo de Chine.	同
L'Education.	内務部
Le Temps.	外事局
Figaro.	同



○民事刑事判決

○山地所有權確認請求事件ニ關スル件

明治四十五年二月二十六日

判決要旨

當事者ヲ表示スルニ唯何洞住民ト表示スルノミニテハ假令住民中ノ家長全體ヲ指シタルモノナリトスルモ其何人ナルヤヲ認識スル能ハサルヲ以テ不適法ナリ

從來裁判上ノ慣例トシテ認許セヲレタル事項ト雖現行法規ニ抵觸スルモノハ自然ニ消滅ニ歸シタルモノトス

第一審盈德區裁判所

控訴人　光川洞住民代表者同洞里長白樂職外九箇洞住民

被控訴人　金在鉉外二百二名

右當事者間ノ山地所有權確認請求事件ニ付明治四十四年十月二十五日盈德區裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對スル控訴審理判決スル左ノ如シ

主　文

原判決（申孝相ニ關スル分ハ之ヲ除ク）ヲ取消ス

被控訴人等ノ訴ヲ却下ス

訴訟費用ハ第一、二審共被控訴人等ノ負擔トス

事　實

控訴人等ハ原判決ヲ取消シ被控訴人等ノ請求ヲ棄却セラレタシト申立テ其事實トシテ本訴山地ハ淸河郡北面寶鏡寺後ニ所在シ其山頂ヲ姑母神祠嶝ト稱シ其神祠嶝ノ北邊最下路下ニ一絶壁アリテ之ヨリ北ハ盈德郡ニ屬シ被控訴人等ノ所有地ナルモ其南ハ淸河郡ニ屬シ控訴人十洞民ト外四洞民トカ古來共同シテ所在神祠ヲ崇奉シ其山地ヲ守護シ來レルモノニシテ十四箇洞民ノ共同所有地ナリ然ルニ被控訴人ハ不當ニモ之ヲ自己ノ所有地ナリト稱シ本訴ヲ提起シタルノミナラス本訴ニ於テ控訴人等九名ヲ光川洞外九箇洞住民ノ各代表者ナリト指定シタルモ元來洞里ハ法人ニ非ス又其住民モ法人ニ非サルヲ以テ其代表者ナルモノノ存在スル理由ナシ故ニ被控訴人等カ控訴人等里長ヲ各洞住民ノ代表者ナリト指定シ本訴ヲ提起シタルハ不適法ナリト供述シ

被控訴人等ハ本件控訴ヲ棄却セラレタシト申立其事實トシテ本訴係爭ノ大谷山ハ盈德郡外南面上峙洞洞後ニ所在シ其山頂ヲ姑母嶝ト稱シ其分水嶺ヲ以テ古來盈德淸河兩郡ノ境界ト爲シ係爭山地ハ分水嶺ノ以北ニ位シ盈德郡ニ屬シ被控訴人等ノ共有山地ナリト稱シ被控訴人等ノ權利行使ヲ禁止セントスルヲ以テ本訴ヲ提起シタルモノニシテ相手取リタル本人ハ光川洞外九洞ノ住民ナルモ古來里長ハ其洞里ノ住民ヲ代表スル習慣存在スルヲ以テ各里長ヲ其代表者ニ指定シタリ又其住民トハ洞内ニ一戸ヲ構ヘ居住スル所ノ家長全員ヲ指シタルモノナルモ其數ハ豫メ之ヲ確定スル能ハス起訴當時其洞内ニ居住スル家長ハ勿論起訴後ト雖新ニ其洞内ニ來住スル者ハ又本訴ノ當事者中ニ算入スヘク反之起訴後其洞内ヨリ他洞ニ移住スルモノハ當事者ヨリ除去セラルヘキモノナリト供述セリ

理　由

凡ソ民事訴訟ニハ之ニ因リテ私權ノ保護ヲ求ムル者卽チ原告ノ何人タルヤヲ確實ニ表示セサル可カラサルト共ニ又其相手方卽チ被告ノ何人タルヤヲモ確實ニ表示セサル可カラス民刑訴訟規則第七十一條ニ於テ訴狀ニハ當事者ノ表示ヲ爲スヘキコトヲ規定シ又同則第十九條ニ於テ判決原本ニハ判決ヲ受クヘキモノノ表示ヲ爲スヘキコトヲ規定セル等此趣旨ニ外ナラス然ルニ本訴ハ第一審以來被控訴人ノ陳明スル如ク被控訴人カ相手方ト爲シタル當事者本人ハ光川洞外九箇洞内ニ居住スル家長全員ナリト謂フニ在ルヲ以テ其何人ナルヤヲ認識スルコト能ハス殊ニ起訴後新ニ其洞内ニ來住スル者ハ當事者中ニ算入シ反之其洞内ヨリ他洞ニ移住スル者ハ隨時當事者ヨリ除去セラルルヲ以テ其人員モ不定ナリト謂フニ至リテハ概括的ニモ亦當事者ヲ確定スル能ハス所謂當時者ノ表示ヲ缺キタルモノニシテ民刑訴訟規則上不適法ノ訴タルヲ免カレス

古來朝鮮ニ於テハ洞長カ洞民全體ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ有效ニ爲シ得ヘキ慣例アリテ代表者ノ氏名ノミヲ表示シ被代表者卽チ當事者本人ノ氏名ノ表示ヲ省略シタル訴訟ノ往往行ハレタルコト被控訴人所論ノ如クナリト雖モ法ハ時勢ノ推移ト共ニ變遷シ曩ヨリ綱ニ入リ簡ヨリ繁ニ入ルモノニシテ朝鮮ニ於テモ法制ノ漸次改新スルニ從ヒ開國五百四年四月法部令第三號ヲ以テ民刑訴訟ニ關スル規則ヲ發布シ

府郡名	農業 水稻	陸稻	大豆	馬鈴薯	大麥	燕麥	副業 養蠶	柞蠶	養鷄	養豚	畜牛	織物	苹果	養蜂	大麻	莞草
義州	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
龍川	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
鐵山	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
宣川	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
郭山	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
定州	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○			
嘉山	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○			
博川	○	○	○	○			○		○	○	○	○			○	
寧邊	○	○	○	○			○		○	○	○	○			○	
熙川	○		○	○	○		○		○	○	○	○		○		
雲山	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○				

（備考）○印ハ奬勵科目トス

府郡名	農業 水稻	陸稻	大豆	馬鈴薯	大麥	燕麥	副業 養蠶	柞蠶	養鷄	養豚	畜牛	織物	苹果	養蜂	大麻	莞草
泰川	○		○	○			○		○	○	○	○				○
龜城	○		○	○			○	○	○	○	○	○				
朔州	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	
昌城	○		○	○			○	○	○	○	○	○			○	
碧潼	○		○	○			○		○	○	○	○			○	
楚山	○		○	○			○		○	○	○	○			○	
渭原	○		○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	
江界	○		○	○		○	○		○	○	○	○		○	○	
慈城	○		○	○		○	○		○	○	○	○		○	○	
厚昌	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	

司法

○在監者增減ノ狀況及現在受刑者ノ罪名刑期犯數

明治四十四年十二月三十一日調査

各監獄一般ニ在監者日ヲ逐フテ多キヲ加ヘ今ヤ九千五百七十九人ヲ算スルニ至リ試ニ之ヲ舊韓國監獄開廳當時（明治四十一年七月）ノ在監人員ニ比スレハ實ニ七倍ニ垂ムトス而シテ倘益增加セントスルノ趨勢ニ在リ在監者ノ斯ク頻リニ增加スルハ主トシテ犯罪檢擧ノ漸次周到スル結果ナリト雖又一ハ入監者ノ多キニ反シ出監者尠ク卽チ出入ノ平均ヲ保チ得ルノ時期ニ達セサルノ致ス所トス今最近四箇年ノ後十二月末日ニ於ケル現在人員ヲ比較スレハ左表ノ如クニシテ

	隆熙二年十二月三十一日現在	明治四十二年十二月三十一日現在	明治四十三年十二月三十一日現在	明治四十四年十二月三十一日現在
內地人	—	四二四	六五一	七三一
朝鮮人	二、六四二	五、六〇二	六、三一三	八、七三二
外國人	—	—	五七	一一六
計	二、六四二	六、〇二六	七、〇二一	九、五七九
前年ニ比シ增	二、四三四	三、三八四	八九五	二、五五八

(備考)

隆熙元年十二月三十一日ニ於ケル現在人員ハ二百八人ナリ舊韓國監獄開廳當時ノ現在人員ハ千三百八十四人ナリ明治四十三年ニ於ケル增加人員ノ他ノ各年ニ比シ著シク少ナキハ其年ニ於テ大赦ニ依リ一時ニ千三百十九人ノ出監者アリタルカ爲ナリ

第一年ハ一月平均二百三人、第二年ハ一月平均二百八十二人、第三年ハ一月平均百八十五人、第四年ハ一月平均二百十三人ノ割合ヲ以テ增加セルヲ見ル而シテ又前揭ノ在監人員ヲ刑事被告人ト受刑者トノ區別ニ依リテ比較スルトキハ左表ノ如クニシテ

	隆熙二年十二月三十一日現在	明治四十二年十二月三十一日現在	明治四十三年十二月三十一日現在	明治四十四年十二月三十一日現在
刑事被告人	六四三	八二九	六三一	六九一
受刑者	一、九九九	五、一九七	六、三九〇	八、八八八
計	二、六四二	六、〇二六	七、〇二一	九、五七九

主トシテ受刑者ニ於テ累增スルヲ見ルモ刑事被告人ニ在リテハ著シキ增加ヲ示サス是蓋シ常ニ裁判ノ進捗ヲ期シテ未決拘留ヲ多カラサラシムルニ努メツツアル結果ニ外ナラサルナリ

現在受刑者ノ罪名、刑期及犯數ヲ示セハ左表ノ如シ

內地人タル受刑者ノ罪名（男）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
竊盜	二三三	三七・〇	詐欺及恐喝	一一七	一八・六
橫領	七七	一二・二	殺人	五三	八・四
傷害	三二	五・一	賭博及富籤	二六	四・一
強盜	二二	三・五	文書有價證券僞造	一九	三・〇
贓物ニ關スル	七	一・一	放火	六	一・〇
印章僞造	五	〇・八	猥褻姦淫及重婚	四	〇・六
略取及誘拐	四	〇・六	通貨僞造	三	〇・五
逃走、犯人藏匿及證據湮滅	二	〇・三	毀棄及隱匿	二	〇・三
逮捕及監禁	一	〇・二	瀆職	一	〇・二
公務執行妨害	一	〇・二	其他	一〇	一・六
特別法違反	三	〇・五	計	六二八	一〇〇・〇

同上（女）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
竊盜	三	（略）	殺人	三	（略）
詐欺及恐喝	二	同	橫領	二	同
強盜	一	同	賭博及富籤	一	同
猥褻姦淫及重婚	一	同	通貨僞造	一	同
略取及誘拐	一	同	印章僞造	一	同
放火	一	同	其他	二	同
計	一八				

外國人タル受刑者ノ罪名（男）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
賭博及富籤	二四	二二・八	強盜	二二	二〇・九
窃盜	一九	一八・一	詐欺及恐喝	五	四・八
傷害	三	二・八	通貨偽造	三	二・八
殺人	一	一・〇	猥褻姦淫	一	一・〇
住居ヲ侵ス	一	一・〇	其他（主トシテ阿片ニ關ス）	二五	二三・八
特別法違反	一	一・〇	計	一〇五	一〇〇・〇

同上（女）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
阿片ニ關スル	二	（略）		—	—
計	二			—	—

朝鮮人タル受刑者ノ罪名（男）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
強盜	三、四〇〇	四三・九	窃盜	一、四三〇	一八・八
准窃盜	四三〇	五・六	略人及誘拐	三四九	四・五
殺人	三四〇	四・四	姦淫	二三七	三・一
貨幣偽造	一九一	二・五	賭技及富籤	一八五	二・四
文書偽造	一八〇	二・三	傷人	一七四	二・二
印章偽造	一三四	一・七	鴉片煙ニ關スル	八一	一・〇
放火	七八	一・〇	誣告	四〇	・五
墳墓侵害	三五	・五	逃走	三一	・四
偽證	二七	・三	制縛拷打監禁	二〇	・三
犯贓	一四	・二	葬埋違犯	一二	・二
盜徒分贓	一一	・一	暴動	九	・一
其他	二七三	三・五	特別法	五七	・七
計	七、七三八	一〇〇・〇			

朝鮮人タル受刑者（女）

罪名	人員	百分比例	罪名	人員	百分比例
姦淫	一五四	三九・六	殺人	七六	一九・五
窃盜	三一	八・〇	放火	二四	六・二
略人及誘拐	一八	四・六	強盜	七	一・八
准窃盜	七	一・八	誣告	四	一・〇
遺棄	四	一・〇	邪術	四	一・〇
傷人	三	・八	墳墓侵害	二	・五
鴉片煙ニ關ス	二	・五	文書偽造	一	・三
致自盡	一	・三	賭技及富籤	一	・三
其他	五〇	一二・八	計	三八九	一〇〇・〇

受刑者ノ刑期（男）

刑期	內地人 人員	內地人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例
無期	五	・八	—	—
十五年以上	五	・八	一	一・〇
十五年未滿	一六	二・五	三	二・八
十年未滿	六九	一一・〇	一九	一八・一
五年未滿	七四	一一・八	二	一・九
三年未滿	二四四	三八・八	一〇	九・五
一年未滿	一〇一	一六・一	三五	三三・三
六月未滿	一〇九	一七・三	三二	三〇・五
二月未滿	五	・八	三	二・八
計	六二八	一〇〇・〇	一〇五	一〇〇・〇

刑期	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例
終身	三一六	四・一
十五年以下	一、一一三	一四・五
七年以下	二、〇〇六	二六・〇
三年以下	一、四六三	一八・九
二年以下	八八八	一一・五
一年以下	四八三	六・二
八月以下	六八一	八・八
五月以下	五〇五	六・五
三月以下	二七三	三・五
計	七、七三八	一〇〇・〇

受刑者ノ刑期（女）

刑期	內地人 人員	內地人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例	刑期	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例
無期	—	—	—	—	終身	一〇	二・六
十五年以上	—	—	—	—	十五年以下	二三	五・九
十五年未滿	—	—	—	—	七年以下	一八	四・六
十年未滿	四	（略）	—	—	三年以下	五五	一四・一
五年未滿	一	同	—	—	二年以下	九四	二四・二
三年未滿	一〇	同	—	—	一年以下	三〇	七・七
一年未滿	五	同	二	（略）	八月以下	八四	二一・六
六月未滿	六	同	—	—	五月以下	六八	一七・五
二月未滿	—	—	—	—	三月以下	七	一・八
計	二六	同	二	同	計	三八九	一〇〇・〇

受刑者ノ犯數（男）

犯數	內地人 人員	內地人 百分比例	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例
初犯	二九〇	四六・二	七、〇四二	九一・〇	九七	九二・〇
再犯以上	三三八	五三・八	六九六	九・〇	八	八・〇
計	六二八	一〇〇・〇	七、七三八	一〇〇・〇	一〇五	一〇〇・〇

受刑者ノ犯數（女）

犯數	內地人 人員	內地人 百分比例	朝鮮人 人員	朝鮮人 百分比例	外國人 人員	外國人 百分比例
初犯	一八	六九・〇	三八四	九八・七	二	（略）
再犯以上	八	三一・〇	五	一・三	—	—
計	二六	一〇〇・〇	三八九	一〇〇・〇	二	同

調査資料

○南淸及露領ニ於ケル果物需給狀況

本編ハ本府ヨリ外務省ヲ經テ其ノ取調方ヲ依賴シタル各當該地駐在帝國領事官ノ報告ヲ輯錄シタルモノナリ

一 上海ノ部

苹果

輸入狀況

上海ニ輸入セラルル林檎ハ支那品ハ天津、芝罘ヨリ外國品ハ日本、濠洲及米國加洲等ヨリ輸入セラルルモノニ係リ各其ノ出廻期節ヲ異ニセリ卽チ

支那品　自六月至八月三箇月間
濠洲品　自六月至九月四箇月間
米國品　十月以後翌年六月ニ至ル九箇月間
日本品　九月以後翌年六月ニ至ル十箇月間

ノ如クニシテ其ノ數量ニ於テハ精確ノ統計ヲ得ルコト困難ニシテ稅關ノ統計ノ如キモ現ニ數量ト價格ト一致セサルカ如ク強チ信スルニ足ラサルヲ以テ唯之ヲ標準トシ當業者ノ意見ヲ參酌シ之ヲ左ニ示サン

		日本品	米國及濠洲品	支那品	合計
明治四十一年	數量	一、八〇〇箱	七、〇〇〇箱	一、〇〇〇擔	—
	價格	七、二〇〇元	四二、〇〇〇元	一五、〇〇〇元	六四、二〇〇元
	一箱平均	四元	一箱平均六元	一擔平均十五元	—
明治四十二年	同	四、〇〇〇箱	同　七、〇〇〇箱	同　一、二〇〇擔	—
	同	一六、〇〇〇元	四二、〇〇〇元	一八、〇〇〇元	七〇、〇〇〇元
	同	四元	六元	十五元	—
明治四十三年	同	七、五〇〇箱	同　六、〇〇〇箱	不明	—
	同	一八、二〇〇元	二四、〇〇〇元	不明	四二、二〇〇元
	同	二元四	四元		—

（備　考）

元ハ墨西哥弗ト略同一ニシテ我一圓ト伯仲ス

而シテ米國濠洲產ハ早クヨリ輸入セラレ居リシカ日本產ノ輸入ハ明治三十九年初メテ青森縣人皆川藤三ノ手ニ由リ輸入セラレ當初ノ事トテ支那人ノ需要殆トナク一千餘箱ハ其ノ僅日本ニ送還スルニ至レリ翌四十年ニハ千箱ノ内僅ニ二三百箱ヲ賣捌キタルカ四十一年ニハ一千八百餘箱ヲ賣リ年年増加シテ昨年ヨリ今年ニ亘リテ已ニ一萬箱ノ賣行アリ昨年ヨリ皆川商店ト支那果物卸商トノ間ニ一切他ノ外國品ヲ輸入セサルコトトセルヲ以テ今年日本品ノ輸入ハ更ニ増加スヘキ見込ナリ其ノ價格ニ於テ日本品ハ他ノ外國品ニ比シ頗ル低廉ニシテ品質亦タ伯仲ノ間ニ在ルヲ以テ日本品ノ將來甚タ有望ナリ日本品ヲ支那品ニ比較スルニ支那品ハ品質遙ニ劣レルノミナラス其ノ出廻期間短キヲ以テ日本品ト競爭スルコト又困難ナリ

種類及相場ノ建方

本品ヲ產地ニヨリ分ツトキハ支那林檎、日本林檎、亞米利加林檎及濠洲林檎ノ四種トス支那品ヲ小別スルトキハ五十餘種ト稱セラルルモ何レモ色澤不良、水分ノ乏シキ等外國品ニ劣ル所ナリ濠洲品ト亞米利加品トハ品質優劣ナキモ濠洲品ハ出廻リ時期短キ爲輸入額少シ支那產一箇ハ約二錢一厘餘トナル

日本品ハ專ラ青森產ニシテ北海道品ハ一昨四十三年十一月北海道上海間汽船ノ直航アリシ頃ハ幾分輸入セラレシカ青森產ニ比シ光澤悪ク且ツ取引ノ關係上實行捗捗敷カラス其ノ後直航汽船ノ中絶ト共ニ輸入ハ殆ト絶エタリ而シテ青森產ノ輸入セラルル種類ハ國光、倭錦、紅玉（滿玉）、柳玉等ニシテ支那人ノ嗜好ハ味ノ如何ヨリ寧ロ光澤ノ鮮明ナルヲ尙フ風アリ相場建ハ支那產ハ一擔ヲ單位トシ價格ハ種類ト季節ニ由リ差異多キモ最低五元ヨリ最高十五元ノ間ヲ往來ス外國產ハ箱詰ニシテ一箱ノ重量左ノ如シ

米國品　ハ一箱ノ容積長一呎六六、幅一呎三五、深一呎一、重量三十封度乃至四十封度ニシテ相場紐育沖渡米貨二弗内外、上海ニ於テ四元乃至八元氷詰保藏セルモノハ二十元ニ上ルコトアリ一箱ノ重量ヲ平均三十五封度此ノ改算量ヲ四貫二百匁トシ又苹果一箇ノ重量ヲ三十五匁トスレハ一箱ハ百二十箇入トナル此ノ計算ニ據レハ紐育沖渡ノ分一箇當リ我三錢三厘餘上海ニテ五錢氷詰十六錢六厘トナル

濠洲產　容積重量米國品ト同シク上海相場五元乃至九元一箇ニ付我五錢八厘餘

日本品　ニシテ神戸横濱ヨリ積込アルモノハ三十封度乃至三十五封度ニシテ上海相場三元半乃至七元ニシテ青森產ハ四十封度ニシテ上海相場三元乃至七元トス神戸横濱積ノ分一箇ニ付四錢七厘餘青森產一箇ニ付三錢八厘餘トナル

商慣習

上海ニ於テ林檎ノ輸入ヲ專業トセル外國人ハ皆川商店ノ一戶アルノミ他ハ皆支那人ニ依テ輸入セラレツツアルカ近來日本品ノ賣行良好ニ連レ漸次日本品取扱業者ヲ増加シツツアリ本邦品取引商ノ慣習ヲ見ルニ一切現金取引ニシテ依託賣買ヲ爲スモノナク日本ノ輸入商ヨリ引取リタル卸價格ニ更ニ七分乃至一割ノ利益ヲ加ヘタル相場ニテ問屋ヨリ小賣商ニ引渡スヲ常トス

梨及葡萄

何レモ天津、芝罘ヨリ輸入セラレ梨ハ純粹ノ支那種ト又西洋種アリ西洋種ハ天津ヨリ輸入セラレ品質良好ニシテ支那種ニ比シ高價ナリ而シテ支那種ハ多クハ芝罘ヨリ輸入セラルル相場ハ擔ヲ建トシ相場三元乃至十元ノ間ニ在リ平均一斤六錢五厘トナル其ノ輸入額ヲ知ル能ハス葡萄ハ主トシテ芝罘ヨリ輸入セラレ破損及腐敗シ易キヲ以テ外國ヨリノ輸入困難ナリ

二　香港ノ部

香港ニ於ケル果物狀況

香港市場ノ果物ハ多クハ廣東省及附近ニ產出スルモノニシテ「マニラ」、佛領印度及新嘉坡等ヨリ其ノ供給ヲ仰クモノ亦少カラスト雖目下遠路輸入セラルルヲ見ルハ苹果、葡萄、檸檬等數種ニ過キス今當地ニ於ケル果物ノ狀況ヲ記セハ大要左ノ如シ　但シ價格ハ貨物ノ豐富ナル時ト乏シキ時トニヨリ非常ニ高低アルモ概ネ現今ノ市價ヲ記載セリ

一　苹果　ハ主ニ日本及米國ヨリ輸入セラル其ノ他上海、天津、芝罘等ヨリモ輸入セラルルモノアリ一箇年ノ輸入額日本品二萬五千弗、米國品二萬弗位ニ上ル現今卸賣價格日本品一函重量四十封度ノモノ約三弗、米國品一函重量五十封度ノモノ約五弗ナリ日本品一箇ノ價約四錢三厘餘、米國品同シク五錢八厘餘當地ニテ消費スルモノノ外汕頭、厦門、安南、「マニラ」、新嘉坡、暹羅、廣東等ニ再輸出セラル日本品ハ形大ニシテ外觀美ナルモノノ賣行ヨシト云フ其ノ取扱店左ノ如シ

裕　發　　横利文街三十二號

茂隆	中環街市內	
濟記合	德輔道中百三十一號	
青山棧	中環街市貳樓	
洪生昌	德輔道中百十五號	

二　梨　當地ニ需要セラルル梨ノ產地ハ廣東省惠州府ヲ主トス同府下ニ於ケル淡水ニ產スルモノハ品質良好ナリ尙米國、天津等ヨリ輸入セラルルモノアリ現今卸賣價格ハ淡水品百斤上等七弗內外卽チ一斤十四錢內外、中等三弗內外卽チ一斤六錢內外、惠州品百斤上等四弗內外卽チ一斤八錢內外、中等三弗內外卽チ一斤六錢內外ナリ一箇年ノ輸入額兩者ヲ併セ約一萬五千弗ニ上ルト云フ時期ハ七八月最多ク十二月ヨリ五月マテハ至ツテ少ナシ再輸出先ハ佛領印度、新嘉坡、暹羅、「マニラ」等ナリ梨ノ取扱商店ハ左ノ如シ

順興隆	上環街市側裏	七號
廣興隆	同	八號
廣順隆	同	九號
應隆	同	十號
安隆	同	十一號
新榮昌	中環街市	
新源昌	同	
廣安和	同	
廣榮昌	同	
廣利	同	
廣隆	同	

三　葡萄　ハ凡ソ八九月ヨリ十一月頃迄上海、芝罘、牛莊ヨリ輸入セラル一箇年ノ總輸入額四千五百弗內外ニシテ需要者ハ大抵在留歐洲人ナルカ如シ目下ノ卸賣價格百斤二十弗卽チ一斤四十錢位トス海口、海防、澳門及廣東方面ヘ再輸出セラル其ノ取扱商店ハ左ノ如シ

同裕	機利文街	四十一號
裕利	同	三十五號
裕隆	同	十五號
裕德	同	三十六號
裕榮	同	三十二號
廣合隆	同	十七號
廣祥生	同	二十五號

四　「バナナ」　ハ大別シテ香蕉、大蕉、過山蕉ノ三種トス香蕉ハ最優等ニシテ價高ク支那人ノ嗜好ニ適ス長サ五寸前後ニシテ太サハ大蕉ト過山蕉トノ中間ニ在リ大蕉ハ下等品ニシテ賣行多カラス下等支那人小兒ノ需要スル所ナリ長サ三寸位ニシテ太サハ香蕉ノ二三倍アリ、過山蕉ハ中等品ニシテ西洋人之ヲ嗜好シ形ハ最モ小ナリ長サ二寸內外ニシテ太サモ香蕉ヨリ細シ以上三種共南海縣番禺縣新會縣東莞縣香山縣其ノ他ニ產出頗ル多シ一年二囘結實シ一月ヨリ三月マテハ殆ト皆無ナルモ其ノ他ノ時期ニ於テハ市場ニ絕ユルコトナシ上海、天津等ニ輸出セラル取扱商ハ梨ト同シ現今ノ卸賣價格及一箇年輸入高ハ左ノ如シ

香蕉	百斤	二弗八十仙內外一斤五錢六厘內外	約一萬弗
大蕉	同	一弗五十仙一斤三錢內外	同五千弗
過山蕉	同	二弗五十仙一斤五錢內外	同七千弗

五　檬果（マンゴ）　ハ「マニラ」、安南及廣東省東莞縣等ヨリ輸入セラレ內一部ハ廣東、澳門、上海、天津ニ再輸出セラルト云フ其ノ卸賣價格及一箇年輸入高ハ

マニラ物	百個	平均三弗五十仙	約三千弗
安南物	同	同　三弗	同四千弗
東莞物	百斤	五弗五十仙	同一千弗

ニシテ取扱商店ハ左ノ如シ

榮昌	永安街	二十八號
錦永隆	永吉街	三十四號
裕合	機利文街	四十三號
廣厚隆	中環街市	
元昌泰	同	

六　檸檬（レモン）　ハ米國、安南、暹羅及佛國ヨリ一箇年約二萬弗ノ輸入アリ其ノ中幾分ハ廣東、澳門、上海、天津等ニ再輸出セラル現今卸賣價格ハ佛國品三百個入一函五弗八十仙、米國品同六弗、安南及暹羅品百斤八弗ナリ其ノ取扱商店左ノ如シ

濟記合	德輔道中
廣昌	中環街市

裕榮	權利文街	三十二號
茂隆	中環街市	

七　蜜柑　(A)桔仔(普通蜜柑)ハ廣東省新會縣香山縣南海縣等ヨリ供給セラレ一箇年ノ輸入額約七萬弗ナリ再輸出先ハ安南、新嘉坡、「マニラ」、暹羅ニシテ目下ノ價格大ナルモノ百斤三弗內外一斤六錢內外小ナルモノ百斤二弗內外一斤四錢內外ナリ九月ヨリ二月マテヲ其ノ時期トス(B)柑(俗ニ汕頭蜜柑)ハ廣東省潮州、新會、香山、東莞、番禺等ノ諸縣ニ產ス一箇年約八萬弗ノ輸入アリト云フ其ノ期節ハ十月ヨリ十二月位迄トス相場ハ百斤六弗內外一斤十二錢內外ナリ新嘉坡、安南、上海等ニ輸出セラル(C)橙果(俗稱廣東蜜柑)ノ產地ハ前者ト略同シク廣東省ニシテ日本品モ亦輸入セラル香港需要高一箇年約十萬弗ニ上リ其中安南、新嘉坡、「マニラ」、上海、天津ニ再輸出セラルルモノアリ、其ノ目下ノ卸賣價格ハ新會物百斤十五弗番禺物十六弗、香山物五弗、潮州物五弗、日本物六弗一斤十二錢ナリ七月ヨリ三月マテヲ多キ時期トス(D)橡柚(一ニ「ジャボン」)ハ主トシテ廣西省沙田、廣東省新會、順德、番禺、南海等ヨリ輸入セラレ其ノ中佛領印度、新嘉坡、上海、天津ニ再輸出セラルルモノアリ一箇年輸入額ハ沙田柚約六萬弗、廣東柚約一萬弗ナリ其ノ卸賣價格ハ左ノ如シ

沙田產	百個ニ付	大(重量一斤半位)	七弗	一個ニ付十四錢
		中(同一斤位)	五弗	同十錢
		小(同百匁位)	二弗五十仙	同五錢
廣東產	百斤ニ付	大同	七弗	同十四錢
		中同	四弗五十仙	同九錢
		小同	三弗	同六錢

以上各種蜜柑取扱店ハ前記梨取扱商ト同シ

八　佛手柑　廣東省高要縣產品一箇年約五千五百弗位ノ輸入アリ百斤六弗一斤十二錢前後ニシテ上海、天津ニモ輸送セラル取扱商ハ前項ト同シ

九　其他　以上ノ外當市場ニ出ツル果物トシテ龍眼、楊桃、桃、「パトナツプル」柿、西瓜、茘枝ノ類少カラス多クハ廣東省ニ產出スルモノトス又枇杷、香瓜、黃皮、「アルモンド」海棠等モ販賣セラル

三　「ニコラエウスク」ノ部

苹　果

露國人ハ食後及喫茶ノ際果實及「ジャム」ヲ賞用スルヨリ當地ニ於ケル果物ノ需要

ハ土產皆無ナルカ故ニ僅少ナル人口ニ比シ割合大ナリ就中苹果ハ其ノ最タルモノタリ本品ノ仕出地ハ函館、小樽及浦潮ニシテ本邦ヨリノ直輸入額ハ精査シ得レトモ浦潮ヨリノ分ハ本邦及清國產孰レモ合記シテ稅關ニ屆出ル爲之レカ數量ヲ確知スル能ハス然レトモ果物取引業者ノ談ニ據レハ每年本邦產約五百箱清國產約三四千籠ナラムト抑モ浦潮ヨリ當市ニ移入スルハ「ハバロフスク」ヨリ當市ニ往復スル河路ノ汽船ハ海路ヨリ約半月秋ハ遲クマテ航シ春ハ早ク航路開クルニ由ル左ニ數年間ノ本邦輸入數量及價格ヲ揭ケム

明治四十一年	一、二八二布度	三、八三八留
明治四十二年	三、二八九	八、五六八
明治四十三年	八、一二四	一六、二六二
明治四十四年	一二、五六二	二一、八一六

備　考

留ハ我一圓三錢餘布度ハ我百十匁弱

當地ノ需要ハ前述ノ如クナルカ茲ニ需給ニ甚大ノ影響ヲ與フルモノハ當地ノ交通及氣候ノ關係ナリ此ノ事ハ其ノ果實ナルト其ノ他ノ商品ナルトヲ問ハス當地ニ輸入ヲ企テムト欲スル者ノ豫メ知リ置クヘキ要件ナリ即チ黑龍江解氷シ黑龍海灣ニ於ケル航路標識ノ設置終リテ下流ヨリノ航行安全ト爲ルハ六月初ニシテ其レヨリ六七、八、九ノ四箇月ト十月ノ半マテハ河海ノ航行自由ニシテ十月下旬ニ至テハ上流已ニ結氷ヲ始ムルヲ以テ商品ハ僅々四箇月半ニ輸入セサルヘカラス隨テ苹果ハ成熟不完全ナル早物カ若ハ前年ノ圍物ノミ輸入セラレ季節ニ應シタル適當ナル圍キ向キノ品ヲ輸入スルコト能ハス殊ニ終航前圍物トシテ輸入セラルモノノ如キハ季節ヲ俟ツ能ハスシテ捥リ取リタルモノ故ニ品質不良ニシテ冬期七箇月ニ亙ル貯藏ニ堪ヘ難キモノアリ斯クテ早物ハ津輕產ノ六號、大中、玉勘次ニ北海道ノ三十三號、二十八號等多ク輸入セラレ十四號十九號ハ價格ノ點ニテ歡迎セラレス圍物トシテハ津輕產ノ滿紅、柳王等賞用セラレ北海道產四十八號四十九號等ノ圍ニ適スル逸品ハ終ニ輸入スル能ハスサレト春期浦潮ヨリ來ル日本產ハ前年來ノ殘品ニシテ津輕產ノ圍ヒ下等ノ上等品ナリ價格ハ當市市場狹小ナレハ輸入數量ノ大小ニヨリ高低常ナケレトモ平均スレハ四十斤入箱ニシテ夏期三留五十哥冬期五留見當ナリ(哥ハ我一錢餘一個ノ價平均二錢三厘餘トナル)以上ハ本邦產ニ關シテ述ヘタルカ清國產ハ上海又ハ芝罘仕出ニ係リ浦潮ヨリ移入セラレ孰レモ小粒物ニシテ專

「ウヤム」及食卓ニ供スル酢漬ニ製造セラル價格ハ約二十斤ノ籠入ニテ八十哥ヨリ一留五十哥ノ間チ上下ス小粒ナルカユヘ一箇ノ重量チ假ニ二十匁トスレハ一箇ノ價七厘餘トナル然レトモ昨年ハ浦潮ニ於テ六十哥內外ナリシニ當地ニ於テハ供給過剩ノ爲三十五哥ニ下落セリ斯カル例ハ一再ニ止マラス一昨年亦輸入多量ノ爲市價暴落シ荷受人ハ品物チ引受クルチ欲セス汽船會社ハ止ムナク之チ放棄セリト云フ

梨

本品亦本邦產ト浦潮廻リノ清國產アリ其ノ數量ハ浦潮移入ノ苹果ト同シク之チ知ルコト能ハス去レト本品ハ貯藏困難ナルカ爲メ苹果ニ比シ輸入額甚タ少量ナリ本邦產ハ北陸及東京附近ノ產ニシテ初夏前年ノ園物來リ終航前早物輸入セラル價ハ供給及品質ニ支配セラレ一定セス一箱五十哥ヨリ二留五十哥ノ間ニ在リ二三年來本邦產西洋梨ノ輸入始マリタルカ質柔軟ニシテ口當リ好ク大ニ歡迎セラレ一箇十五哥ヨリ二十哥ニ賣買セラレタレトモ極メテ腐敗シ易ク輸入多量ニシテ品捌不冝ノ時ハ腐敗ノ爲ニニ損失チ招クコトアリト云フ販賣者ノ言ニ依レハ總シテ梨ハ苹果ヨリモ長ク保存ニ堪フルモノナルニ當地ニ於テ然ラサル所以ハ成熟不冝ト前年ノ園物タルコトニ在ランモ苹果ニ比シ荷造極メテ粗略ナルカ爲運送ノ途中梨ノ外皮ニ傷チ受ケ腐敗チ早カラシムルコト亦重因ナル由ナレハ輸出業者ハ荷造ニ留意スルコト最モ肝要ナリ清國產ハ其質軟キチ以テ尙ハル其ノ輸入期ハ終航前ニシテ冬季ハ本邦產ヨリモ多ク賣買セラル其數量ハ本邦產ト伯仲ノ間ニ在ランカト云フ荷造ハ苹果ト同シク籠入ナリ

葡萄

本品ハ前記兩品ニ比シ兎角傷キ水物ノコトトテ賣レ足宜シカラサルカ輸入額極メテ少量ニシテ其ノ額亦不明ナリ左レト決シテ望ナキモノニアラス本邦產ハ交通及時節ノ關係上絕無ニシテ淸國產ノミナリ價ハ一斤(我約百九匁)三、四十哥ナリ

雜錄

○本府刊行物

本年三月以降主ナル刊行物左ノ如シ

朝鮮總督府月報 (每月)
經濟概報 (每月)
貿易月表 (每月)
英文貿易概表 (每月)
朝鮮總督府施政年報 (明治四十三年)
紀念植樹
教科用圖書一覽
學事狀況報告ヶ錄
礦區一覽
度量衡法ノ施行ニ關スル注意要項
度量衡概況
朝鮮農務彙報
度量衡器價格表
朝鮮民事刑事令要旨
教育法規私立學校願屆書式例示
學校一覽表
關稅價格表
同定率令及參考表

○四月中本府購入圖書左ノ如シ

著者	書名	發行年	部數
朝鮮古書刊行會	東國通鑑	明治四十五年	四
高橋久四郎	園藝通論	同 四十三年	一
同	園藝各論	同 四十五年	一
松村任三	植物講話	同 三十九年	一
中尾節藏	實用農產製造學	同 四十四年	一
藤井信吉	獨和兵語辭典	同 年	一
木田吉太郎 武田元吉	皆川淇園用字訣全集	同 年	一
本多靜六	林學教科書造林學本論	同 年	二〇
同	林學教科書林學通論	同 四十五年	二〇
同	林學教科書森林保護學	同 四十三年	二〇
官撰	五禮儀		一
同	欒大司馬實記		一
花山龍球寺	恩重經		一
	南漢志（寫本）		一
	宮闕儀		一
官撰	華城儀軌		一
	萬年書春夏秋冬註		一
同文館	農業大辭書 第一卷	同 四十四年	一
堀切善兵衛	最近經濟問題叢書第七卷 殖民と經濟	同 年	一

○四月中本府ニ於テ寄贈ヲ受ケタル圖書、雜誌左ノ如シ

寄贈者名	書名	部數
外務省	通商彙纂 自第二十八號 至第三十六號	九
同	露國月報 第四卷第十一號	三
同	モロッコ問題	一
同	支那時報 第一號	二
同	外國新聞摘要 第六十八號 第六十九號	六
大藏省	外國貿易月表	一
同	內地及樺太朝鮮間貿易月表	一
同	調査月報 第二卷第三號	一
同	歐米ニ於ケル社會政策ノ研究	一
同	國債統計年報 明治四十三年度	三
農商務省	明治四十四年生絲檢査成績報告	一
同	山林公報 第六號 第七號	四
同	重要物產同業組合一覽	一
同	農商務省商品陳列館報告 第四十九號	一
同	世界之蠶絲業竝人造絹絲業 第二次	二
同	蠶絲業ニ關スル參考資料 第二項	二
同	農務彙纂第二十三 茶業ニ關スル調査	九
同	農務彙纂第二十七 農作病虫害豫防事務概要	五
同	農務彙纂第二十八 日本木園藝業概覽	九
特許局	特許發明明細書 自第十五號 至第十九號	五
同	特許公報 自第一五一九號 至第一五二二號	四
同	實用新案公報 自第四八六號 至第四九二號	七
同	商標公報 自第八五六號 至第八六四號	九
遞信省	明治四十五年船名錄	一
京都帝國大學	京都帝國大學一覽 自明治四四年 至明治四五年	一
廣島高等師範學校	廣島高等師範學校概覽 自明治四四年 至明治四五年	一
名古屋高等工業學校	名古屋高等工業學校一覽 明治四十五年	一
秋田大林區署	秋田大林區署統計書 四十三年度	一

高知大林區署	高知大林區署統計書 第一編 第二編	二
熊本大林區署	林產物賣拂豫告	一
札幌鑛山監督署	空知郡煤田地質調査報文 附屬地圖	一
東京稅務監督局	局報 自第三四號至第四一號	八
大阪稅務監督局	稅務統計書 明治四十三年	一
名古屋稅務監督局	局報 第四二一號 第四二二號	二
廣島稅務監督局	局報 自第二二七號至第二八二號	八
函館稅務監督局	局報 自第七號至第十號號外	六
熊本稅務監督局	徵收事務規程	一
同	局報 第一〇七號	一
長野稅務監督局	局報 第一〇號 第一一號	二
佐賀縣	佐賀縣統計書 明治四十三年 第三編勸業	一
三重縣	三重縣統計書 學事ノ部	一
同	傳染病豫防事務成績	一
千葉縣	千葉縣統計書 明治四十三年	一
廣島縣	廣島縣學事年報 明治四十三年	一
滋賀縣	滋賀縣統計全書 明治四十三年	一
富山縣	富山縣統計書 第一、二、三編 政治、勸業、學事	三
同	富山縣統計摘要	一
德島縣	德島縣治一班	一
愛知縣	愛知林業報告 第九號	一
島根縣	島根縣治一班 第十九回	一
長野縣	長野縣林務統計 明治四十三年	一
群馬縣	群馬縣統計書 明治四十三年 勸業ノ部	一
青森縣	青森縣統計書 明治四十三年	一
栃木縣	傳染病豫防事務成績	一

北海道廳	北海道移住手引草	五
東京市役所	東京市市勢調査比例篇	一
橫濱商業會議所	月報	一
同	第八回橫濱商業會議所年報	一
大阪商業會議所	貿易通報 三月號	一
第十三回九州沖繩八縣聯合共進會事務所	第十三回九州沖繩八縣聯合共進會事務報告書 第一回九州沖繩八縣聯合馬匹共進會事務報告書	一
大日本農會	大日本農會報 第三七〇號	一
養德社	養德 第十一卷第三號	一
長崎水產組合聯合會	長崎水產時報 第十九號	一
教育新潮社	教育新潮 臨時號	三
東京每日新聞社	新家庭 第四號	一
東京藥種貿易商報社	東京藥種貿易商報	一
海陸運社	海陸運	一
漆器新報社	漆器新報	一
小麥粉新報社	小麥粉新報 第二〇六號	一
吉川製油所	吉川製油所報 第七〇號	一
大日本通俗教育會	幸福 第四號	一
大阪朝鮮貿易商報社	大阪朝鮮貿易商報 第九十四號	一
臺灣總督府	臺灣果物調査 第一卷	一
同	護謨樹之栽培法	一
同	臺灣茶業一班	一
同	蝗蟲編	一
同	支那食料植物	一
同	害蟲調査成績 第一報	一
同	綿吹介殼蟲調査報告	一
同	臺灣人口動態統計記述報文 四十三年	一

	第二卷　第五號	
臺灣總督府	臺灣總督府第十四統計書	三
樺太廳	殖民地財政論	九
關東都督府	關東都督府第五統計書	二
南滿洲鐵道株式會社	南滿洲經濟調查資料　第四	一
同	資料彙存（營口ノ過爐銀）　第三號	一
大連海友會	海友　第二四號	一
朝鮮駐箚憲兵隊司令部	朝鮮社會考	五
工業傳習所	朝鮮總督府工業傳習所一覽	一
鐵道局	乘車賃金表　四十五年四月一日改正	五
勸業模範場	勸業模範場報告　第六號	一
江原道	江原道道勢一班　四十四年十月	一五
朝鮮海水產組合	朝鮮海	
朝鮮鐵道運輸聯合會	朝鮮之運輸　第三十九號	一
慶尚南道	慶尚南道種苗場報告　第一號	二
朝鮮ノ運輸社	朝鮮ノ運輸　第四十號	一

○本府各部ニ於テ購入スル邦文雜誌及歐文新聞雜誌左ノ如シ

太陽	祕書課、內務部
中央公論	祕書課
外交時報	同
國際法雜誌	同
國家學會雜誌	同
法學協會雜誌	同
實業之日本	同
海外之日本	同
日本及日本人	同
國民雜誌	祕書課
新日本	祕書課、內務部
朝鮮及滿洲（朝鮮改題）	司法部、內務部、鐵道局
學術界	內務部
教育學術界	同
教育時論	總務局、內務部
教育實驗界	內務部
教育界	同
小學校	同
教育研究	同
初等教育	同
帝國教育	同
日本ノ小學校	同
教材研究	同
普通教育	同
殖民公報	同
新半島	同
旅行案內	內務部、農商工部、度支部
工業化學雜誌	度支部
紙業雜誌	同
東洋皮革新誌	同
東京銀行通信錄	同
大阪銀行通信錄	同
統計集誌	總務局、度支部
朝鮮農會報	度支部
工業	總務局

工業界 ……… 同

電氣ノ友 ……… 同

印刷世界 ……… 同

臺灣統計協會雜誌 ……… 同

自治機關 ……… 同

統計學雜誌 ……… 同

政事學雜誌 ……… 同

兵事雜誌 ……… 武官室

American Journal of International Law ……… 外事局

Colonial Official Journal. ……… 內務部

Educational Review. ……… 同

Engineering and Mining Journal. ……… 鑛務課

Journal of Education. ……… 內務部

Shanghai Mercury. ……… 外事局

The American Review of Reviews ……… 外事局 / 農務課 / 關稅課

The Board of Trade Journal ……… 關稅課

The Chemical News. ……… 稅務課

The Contemporary Review. ……… 外事局

The Daily Consular Trade Report. ……… 同

The Economist. ……… 理財課

The Engineering ……… 關稅課

The Engineering News ……… 工務課

The Fortnightly Review. ……… 外事局

The Graphic. ……… 關稅課

The Hongkong Weekly Press and China Overland Trade Report. ……… 外事局

The Japan Weekly Mail. ……… 同

The Japan Chronicle ……… 外事局 / 關稅課

The Japan Times. ……… 總務局 / 內務部 / 司法部 / 農商工部

The Japan Daily Mail ……… 外事局

The Japan Daily Herald ……… 外事局 / 關稅課

The Japan Gazette ……… 外事局

The Japan Advertiser. ……… 同

The Journal Society of Chemical Industry. ……… 鑛務課

The London and China Express. ……… 外事局

The Mail. ……… 同

The National Review. ……… 同

The North American Review ……… 同

The North China Daily News. ……… 同

The North China Herald. ……… 關稅課

The New York Times. ……… 總務課

The Nineteenth Century and After. ……… 外事局

The Outlook. ……… 同

The Parliamentary Papers. ……… 同

The Political Science Quarterly ……… 總務課

The Review of Reviews, Illustrated ……… 外事局

The Seoul Press. ……… 總務課 / 祕書課 / 關稅課

The School Review.	内務部
The Times.	總務課
The Times Weekly.	關稅課
The Tobacco, London.	稅務課
The Tobacco, New York.	同
The Tobacco Leaf.	同
The Tobacco Trade Review.	同
Das Echo.	外事局
Der Ostasiatische Lloyd.	同
Deutsche Japan-Post.	同
Kölnische Zeitung.	同
Zeitschrift für Colonialpolitik, etc.	同
Diplomatiques et Coloniales.	同
L'Echo de Chine.	同
L'Education.	内務部
Le Temps.	外事局
Figaro.	同

○民事刑事判決

○山地所有權確認請求事件ニ關スル件

明治四十五年二月二十六日

判決要旨

當事者ヲ表示スルニ唯何洞住民ト表示スルノミニテハ假令住民中ノ家長全體ヲ指シタルモノナリトスルモ其何人ナルヤヲ認識スル能ハサルヲ以テ不適法ナリ

從來裁判上ノ慣例トシテ認許セラレタル事項ト雖現行法規ニ牴觸スルモノハ自然ニ消滅ニ歸シタルモノトス

第一審盈德區裁判所

控訴人　光川洞住民代表者同洞里長白樂餞外九箇洞住民

被控訴人　金在鉉外二百二名

右當事者間ノ山地所有權確認請求事件ニ付明治四十四年十月二十五日盈德區裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對スル控訴審理判決スル左ノ如シ

主　文

原判決(申孝相ニ關スル分ハ之ヲ除ク)ヲ取消ス

被控訴人等ノ訴ヲ却下ス

訴訟費用ハ第一、二審共被控訴人等ノ負擔トス

事　實

控訴人等ハ原判決ヲ取消シ被控訴人等ノ請求ヲ棄却セラレタシト申立テ其事實トシテ本訴山地ハ淸河郡北面寶鏡寺後ニ所在シ其山頂ヲ姑母神祠嶝ト稱シ其神祠嶝ノ北邊最下路下ニ一絕壁アリテ之ヨリ北ハ盈德郡ニ屬シ被控訴人等ノ所有地ナルモ其南ハ淸河郡ニ屬シ控訴人十洞民ト外四洞民トカ古來共同シテ所在神祠ヲ崇奉シ其山地ヲ守護シ來レルモノニシテ十四箇洞民ノ共同所有地ナリ然ルニ被控訴人ハ不當ニモ之ヲ自己ノ所有地ナリト稱シ本訴ヲ提起シタルノミナラス本訴ニ於テ控訴人等九名ヲ光川洞外九箇洞住民ノ各代表者ナリト指定シタルモ元來洞里ハ法人ニ非ス又其住民モ法人ニ非サルヲ以テ其代表者ナルモノノ存在スル理由ナシ故ニ被控訴人等カ控訴人等里長ヲ各洞住民ノ代表者ナリト指定シ本訴ヲ提起シタルハ不適法ナリト供述シ

被控訴人等ハ本件控訴ヲ棄却セラレタシト申立其事實トシテ本訴係爭ノ大谷山ハ盈德郡外南面上峠洞洞後ニ所在シ其山頂ヲ姑母嶝ト稱シ其分水嶺ヲ以テ古來盈德淸河兩郡ノ境界ト爲シ係爭山地ハ分水嶺ノ以北ニ位シ盈德郡ニ屬シ被控訴人等ノ共有山地ナリ然ルニ控訴人各洞民ハ之ヲ其共同所有ナリト稱シ被控訴人等ノ權利行使ヲ禁止セントスルヲ以テ本訴ヲ提起シタルモノニシテ相手取リタル本人ハ光川洞外九洞ノ住民ナルモ古來里長ハ其洞里ノ住民ヲ代表スル習慣存在スルヲ以テ各里長ヲ其代表者ニ指定シタリ又其住民トハ洞內ニ一戶ヲ構ヘ居住スル所ノ家長全員ヲ指シタルモノナルモ其數ハ豫メ之ヲ確定スル能ハス起訴當時其洞內ニ居住スル家長ハ勿論起訴後ト雖新ニ其洞內ニ來住スル者ハ又本訴ノ當事者中ニ算入スヘク反之起訴後其洞內ヨリ他洞ニ移住スルモノハ當事者ヨリ除去セラルヘキモノナリト供述セリ

理　由

凡ソ民事訴訟ニハ之ニ因リテ私權ノ保護ヲ求ムル者卽チ原告ノ何人タルヤヲモ確實ニ表示セサル可カラサルト共ニ又其相手方卽チ被告ノ何人タルヤヲモ確實ニ表示セサル可カラス民刑訴訟規則第七十一條ニ於テ訴狀ニハ當事者ノ表示ヲ爲スヘキコトヲ規定シ又同則第十九條ニ於テ判決原本ニハ判決ヲ受クヘキモノノ表示ヲ爲スヘキコトヲ規定セル等此趣旨ニ外ナラス然ルニ本訴ハ第一審以來被控訴人ノ釋明スル如ク被控訴人カ相手方ト爲シタル當事者本人ハ光川洞外九箇洞內ニ居住スル家長全員ナリト謂フニ在ルヲ以テ其何人ナルヤヲ認識スルコト能ハス殊ニ起訴後新ニ其洞內ニ來住スル者ハ隨時本訴當事者中ニ算入シ反之其洞內ヨリ他洞ニ移住スル者ハ隨時當事者ヨリ除去セラルルヲ以テ其人員モ不定ナリト謂フニ至リテハ概括的ニモ亦當事者ヲ確定スル能ハス所謂當時者ノ表示ヲ缺キタルモノニシテ民刑訴訟規則上不適法ノ訴タルヲ免カレス

古來朝鮮ニ於テハ洞長カ洞民全體ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ有效ニ爲シ得ヘキ慣例アリテ代表者ノ氏名ノミヲ表示シ被代表者卽チ當事者本人ノ氏名ノ表示ヲ省略シタル訴訟ノ往往行ハレタルコト被控訴人所論ノ如クナリト雖モ法ハ時勢ノ推移ト共ニ變遷シ麤ヨリ細ニ入リ簡ヨリ繁ニ入ルモノニシテ朝鮮ニ於テモ法制ノ漸次改新スルニ從ヒ開國五百四年四月法部令第三號ヲ以テ民刑訴訟ニ關スル規則ヲ發布シ

更ニ隆熙二年現行民刑訴訟規則ヲ發布シ人民カ訴訟上準據スヘキ手續ヲ改定セラレタルヲ以テ從來裁判上ノ慣例トシテ認許セラレタル事項ト雖モ荀モ現行法規ニ牴觸スルモノハ自然ニ消滅ニ歸シタルモノト言ハサルヘカラス故ニ前示ノ慣例ヲ援用シテ現行法規ノ下ニ立論セントスルハ其當ヲ得サルモノトス

則チ原判決カ本訴ヲ適法ナリト認メタルハ失當ニシテ本控訴ハ其理由アリ仍テ主文ノ如ク判決ス

大邱地方裁判所民事第一部

○損害賠償請求事件ニ關スル件

明治四十二年民第三號

原告藤村英亮外四名　訴訟代理人岩田仙宗　大崎熊之丞

被告閔宗植外十三名　十一名訴訟代理人尹邦鉉

姜錫鎬訴訟代理人太明軾

右當事者間損害賠償請求事件ニ付審理判決スルコト左ノ如シ

主　文

被告閔宗植李容珪黄英秀李代柳澤根申鉉斗南敬天ハ連帶シテ

第一原告英亮ニ慰藉料金貳千五百圓及ヒ明治三十九年五月三十日ヨリ英亮カ滿二十歳ニ達スル（明治五十六年一月十三日ニ至ル）ヲ限度トシ英亮カ死亡ニ至ル迄毎月末日ニ月金五圓宛ノ扶養料竝ニ損害金六十八圓ヲ支拂フヘシ

第二原告義助ニ慰藉料金貳千五百圓及ヒ明治三十九年五月三十日ヨリ義助カ滿二十歳ニ達スル（明治五十八年四月十二日ニ至ル）ヲ限度トシ義助カ死亡ニ至ル迄毎月末日ニ月金五圓宛ノ扶養料ヲ支拂フヘシ

第三原告久七ニ慰藉料金貳千五百圓及ヒ明治三十九年九月三日ヨリ久七カ滿二十歳ニ達スル（明治六十年九月二日ニ至ル）ヲ限度トシ久七カ死亡ニ至ル迄毎月末日ニ月金五圓宛ノ扶養料ヲ支拂フヘシ

第四原告クマニ慰藉料金貳千五百圓及ヒ明治三十九年五月三十日ヨリ明治六十年五月二十九日ニ至ルヲ限度トシクマカ死亡スルマテ毎月末日ニ月金五圓宛ノ扶養料ヲ支拂フヘシ

其餘ノ原告等ノ請求ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ被告李相斗、崔重一、文奭煥、申輔均、安恒植、姜錫鎬ニ關シ生シタル部分ハ原告等ノ負擔トシ其餘ハ被告閔宗植、李容珪、黄英秀、李代、柳澤根、申鉉斗、南敬天及ヒ原告等ノ各自負擔トス

事　實

原告訴訟代理人ハ一定ノ申立トシテ被告等ハ連帶シテ原告英亮ニ金貳萬六千三百九十七圓ヲ原告義助ニ金貳萬八百圓ヲ原告久七ニ金貳萬壹千五百貳拾圓ヲ原告クマニ金壹萬四千八百圓ヲ原告ステニ金壹萬壹千圓ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告等ノ連帶負擔トストノ判決ヲ求メ其請求ノ原因タル事實トシテ

第一明治三十九年四月被告閔宗植ハ其首魁トナリ他ノ被告等ハ之ニ附隨シ又ハ之ニ資ヲ供シ忠君愛國ヲ標榜シ多數ノ暴徒ヲ糾合シテ忠清南道ニ蜂起シ官憲ニ抗シ附近ノ日韓良民ヲ苦メタリ原告等ノ家長藤村豐藏ハ曾テ家ヲ擧テ韓國ニ來リ忠清南道林川郡七山ニ地ヲトシ農業ニ從事シ明治三十九年五月七日所用ノ爲メ李承兼外一人ヲ伴ヒ七山ノ居ヲ發シ庇仁郡深洞ニ金成玉ヲ訪ネ數日間滯在ノ後歸家ノ途中被告等暴徒ノ集團ノ爲メ襲撃スル所トナリ捕ヘラレテ藍浦保寧ヲ經テ洪州ニ至リ同月二十九日被告等暴徒ノ爲メ慘殺セラレタリ而シテ原告英亮ハ豐藏ノ長男ニシテ原告義助ハ其次男ナリ原告久七ハ當時母トメノ胎内ニ在リテ父豐藏ノ慘害セラレタルヲ知ルニ由ナク同年九月三日出生シタルモノナリ原告クマハ豐藏ノ母ニシテ原告ステハ其末妹ニシテ何レモ豐藏ニ養育サレタルモノナリ被告等ノ集團ハ原告等ノ家長ヲ慘害ス原告等ノ悲慘之ニ加フルモノナシ萬斛ノ涙ハ何ニ因リテ慰セン千古ノ悲憤行ルニ途ナシ止ムナク被告等ニ慰藉ノ資料ヲ求メ慰安ノ途ヲ講スル爲メ原告等ハ各金壹萬圓ノ慰藉料ヲ請求ス

第二豐藏ハ原告等一家ノ戸生ニシテ原告等ハ同人ニ扶養セラルル者ナリ然ルニ同人ハ被告等ノ爲メ慘害サレタル爲メ原告等ハ其扶養者ヲ失ヒ生活ノ道ヲ失フニ至レリ豐藏ニシテ生存スルナラハ原告タル三子ハ獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ滿三十年ニ達スル迄扶養ヲ受ケ生計ヲ講スヘキニ被告等ノ爲メ全ク扶養者ヲ失フ故ニ被告等ニ對シ扶養料一箇月金貳拾圓トシ豐藏カ殺害サレタル翌日ヨリ原告英亮ハ二十五年分金六千圓原告義助ハ二十七箇年分金六千四百八十圓原告久七ハ出生ノ日ヨリ滿三十箇年分金七千貳百圓ヲ請求ス而シテ原告クマハ猶ホ餘生二十年ヲ保チ得ルモノナルニヨリ豐藏殺害サレタル翌日ヨリ二十箇年分金四千八百圓ヲ請求ス

第三豐藏ハ明治三十七年七月中實弟藤村忠助ニ依頼シテ忠清南道林川郡七山ニ畓

一町步陳畓十二町步柴場一町步ヲ代金貳千叁百圓ニテ購入シ翌三十八年四月中該地所ヲ經營スル爲メ家族及農夫ヲ伴ヒ行キ直チニ住宅ヲ建築シ之レニ金五百圓ヲ費シ其宅地周圍ニ畑地壹町貳反分餘ヲ代金叁百貳拾圓ニテ耕牛二頭ヲ代金八拾圓ニテ農具ヲ代金六拾圓ニテ買入タルノミナラス買入土地ハ大部分開墾ヲ要セシヲ以テ毎月金五拾六圓餘ノ經費ヲ要シタルニヨリ金壹千叁百四拾餘圓ヲ準備シ豐藏ハ鄕里ニハ當時價格八百圓ノ宅地家屋ヲ有スル外黃海道龍威島ノ約八分ト韓人家屋六百ヲ代金壹千壹百五拾圓ニ購入シ所有シ居リタリ此ノ如キ資力アリテ實弟忠助ハ豐藏ノ事業上ニ要スル資金融通ヲ援助シタルノミナラス子弟ノ敎育ヲ重大視シ豐藏ハ子弟ヲシテ高等敎育ヲ受ケシムル爲メ事業ヲ勉勵シタルニ被告等ニ殺害サレタルニ因リ原告英亮、義助、久七ハ高等敎育ヲ受クル能ハサルニ至レリ故ニ英亮、義助、久七カ中學校、高等學校、大學ニ至ル敎育費用各金四千叁百貳拾圓ヲ請求ス

第四原告ステハ既ニ婚期ニ達ス實兄豐藏生存セハ相當ノ婚資ヲ得テ嫁娶ノ事アルヘキニ被告等ノ爲メ婚資ヲ得ル途ヲ失ヒタルニヨリ原告ステハ婚資金壹千圓ヲ請求ス

第五豐藏ノ殺害サレタル爲メ在韓ノ遺族カ鄕里ニ引揚ケル爲メ要シタル費用金貳百圓豐藏殺害サレタル爲メ費消シタル必要金五百圓豐藏ノ葬儀費金五百圓農事廢絕ノ爲メ失ヒシ損害金貳千圓向フ拾箇年農事經營上得ヘキ利益ヲ失ヒタル損害金貳千八百圓及ヒ豐藏被害ノ當時被告等ヨリ掠奪サレタル金七拾七圓合計金六千七拾七圓ヲ豐藏ノ相續人タル原告英亮ヨリ被告等ニ對シ賠償ヲ求ムト演述シ其立證トシテ甲第一二號證ヲ提出シ記錄ノ取寄セヲ求メ之ヲ甲第三號證ノ一乃至六トシテ提出シ證人茂刈三郎、金子秀藏、近藤恒助、井上正太郎、細井親愛、古賀要三郎、瀧元次郎、藤村忠助、ノ喚問ヲ求メ被告姜錫鎬訴訟代理人ハ原告等ノ請求棄却ノ判決ヲ求メ原告代理人主張事實ヲ否認シ

被告閔宗植外十名訴訟代理人ハ原告等ノ請求棄却ノ判決ヲ求メ被告閔宗植ノ答辯トシテ被告ハ韓國ノ國權ヲ回復スルノ目的ヲ以テ同志ヲ糾合シ之カ首魁トナリ其目的ヲ達スルニ必要ナル行動ヲ爲シツツアル伏部下ノ者カ日本人ヲ殺害シタルハ相違ナキモ其殺害者誰ナリシヤ被害者ハ藤村豐藏ナリシヤ否ヤ知ラス而シテ其殺害シタルハ被告ノ指揮ニ出テタルニアラス又タ良民ヲ苦メ掠奪ヲ爲シタル事ナキ故ニ本訴請求ニ應スルヲ得ス被告李佚外九名ノ答辯トシテ被告閔宗植ト同一ノ目的ヲ以テ多數ノ集團ニ加入シ被告閔宗植ノ部下ニシテ其指揮ニ從ヒ行動セシ際集團ノ者カ日本人ヲ殺害シタルコトアルモ被告等カ良民ヲ苦メ掠奪ヲ爲シタル事ナキニヨリ本訴請求ニ應シ難シト述ヘ

被告南敬天ハ原告等ノ請求棄却ノ判決ヲ求メ其答辯トシテ被告カ被告閔宗植ノ集團ニ加入セシハ光武十年閏四月七日ニシテ藤村豐藏被害以後ナルニヨリ原告代理人主張ノ如キ事實アリシヲ知ラス從テ本訴請求ニ應スル義務ナシト陳述シタリ

理　由

依テ案スルニ

(一)成立ニ爭ナキ死體檢證調書(甲第二號證)閔宗植外六名ニ對スル平理院ノ判決文(甲第三號證ノ一)閔宗植、李容珪、朴潤植ニ對スル各訊問調書(甲第三號證ノ三、四、五)證人藤村忠助ノ供述ヲ綜合スレハ被告閔宗植、李容珪、黃英秀、李佚、柳潛根、申鉉斗、南敬天ハ明治三十八年十一月締結サレタル日韓協約ハ韓國ヲ滅亡ニ歸セシムルモノナリト信シ當時ノ韓國ノ大臣ヲ殲厥シ在韓ノ日本人ヲ殺戮シ以テ右協約ノ實行ヲ妨ケンコトヲ相謀リテ明治三十九年五月中忠淸南道鴻山郡ニ於テ數十名ノ同志ヲ糾合シタルニヨリ先ツ洪州城ニ據リ八道ヨリ同志ヲ募ラント欲シ同城ニ赴ク途中其同志ノ者等ハ忠淸南道林川郡七山ト庇仁郡深洞ノ間ニ於テ何等ノ抵抗ヲ爲ササリシ日本人藤村豐藏ヲ捕ヘ洪州城北門外ニ連行シ同年五月二十九日同所ニ於テ慘殺シタルモノト認ムルニ十分ナリ然ラハ卽チ被告等集團ノ目的ノ一ハ日本人ヲ殺害スルニアリシニヨリ其目的ニ從ヒ集團ノ一人カ日本人タル藤村豐藏ヲ殺害シタル以上ハ集團ニ加入シタル被告等モ亦共同不法行爲ノ原則ニ從ヒ連帶シテ其責任ヲ負ハサルヲ得ス而シテ原告英亮、義助久七ハ右藤村豐藏ノ子ニシテ原告クマハ其母ナルコトハ成立ニ爭ナキ甲第一號證ノ戶籍謄本ニヨリ明カナルヲ以テ原告英亮、義助、久七、クマハ被告閔宗植、李容珪、黃英秀、李佚、柳潛根、申鉉斗、南敬天ニ對シ慰藉料ヲ請求スル權利アリトス

因テ當裁判所ハ右事實及原告等ノ身分被害者ノ原告家ニ於ケル地位年齡等ヲ參酌シ各金貳千五百圓ノ慰藉料ヲ得ルヲ以テ相當ナリト認ム民法第七百十一條ハ財產權以外ノ損害ヲ要償シ得ヘキ者ハ被害者ノ父母配偶者及ヒ子ニ限ラレ兄弟姉妹ニ及ハサルニヨリ原告ステハ慰藉料ヲ請求スル權利ナシ

(二)被害者豐藏ハ原告英亮、義助、久七、クマニ對スル扶養義務者ニシテ被害ノ

當時ニ至ル迄原告等ヲ扶養シツツアリテ原告等ハ獨立ノ生活ヲ爲ス能ハサル情況ニ在ル事ハ成立ニ爭ナキ甲第一號證及ヒ證人藤村忠助ノ供述ニヨリ認メ得ルニヨリ其加害者ナル被告閔宗植、李容稙、黄英秀、李伓、柳讚根、申鉉斗、南啓天ハ其扶養料ヲ支拂フヘキ義務アリトス因テ當裁判所ハ原告等ノ身分生活ノ程度ヲ參酌シ毎月各金五圓宛ノ扶養料ヲ得ルヲ相當ト認ム原告英亮、義助、久七ハ何レモ滿三十歲ニ達スル迄原告クマハ二十年間ノ扶養料ヲ一時ニ支拂ヲ求ムルモ原告等中途ニ死亡シタル時ハ不條理ノ結果ヲ見ルニ至ルヘキニヨリ原告等ノ生存ヲ條件トシ尙ホ男子ハ普通滿二十歲ニ達スレハ獨立ノ生活ヲ爲スヲ得ルモノト認メ原告英亮、義助、久七ハ何レモ滿二十歲ニ達スル迄原告クマハ二十年間ヲ限度トシ毎月扶養料ヲ受ケシムルヲ相當トス

(三)敎育費ノ請求ノ當否ニ付テ案スルニ證人茂刈三郞、藤村忠助ノ供述ニ依レハ被害者豐藏ハ日本ニ於テ事業ニ失敗シタル爲メ多部分ノ財產ヲ賣却シテ渡韓シ最初黃海道龍威島ニ於テ或事業ヲ營ミシモ是亦失敗ニ歸シ損失ヲ被リタルヲ以テ實弟藤村忠助ノ補助ヲ得テ忠淸南道林川郡七山ニ於テ開墾事業ニ從事スルニ至リタルモノニシテ被害ノ當時ハ著手ノ日ヨリ僅カノ年月ヲ經過シタルニ過キス果シテ豐藏カ家運ヲ回復シ得ヘキヤ不明ナリシノミナラス當時ノ生活ノ程度資產ノ情況ニ依リテハ豐藏カ原告英亮、義助、久七ヲシテ中學以上ノ敎育ヲ受ケシムルニ足ル資力ヲ得ヘキモノト認メ難ク尙同人カ原告等ヲ高等敎育ヲ受ケシムル意思アリシモノト認メ得ヘキ證據十分ナラサルニヨリ本件敎育費ノ請求ハ不當トシテ排斥スヘキモノトス

(四)原告ステハ被害者豐藏ノ妹ナルニヨリ同人ノ被害ノ爲メ權利ヲ害セラレタル場合ニアラサレハ被害者ニ對シテ要償ヲ求ムル權利ナシ然ルニ原告ステハ豐藏ノ被害ニヨリ將來婚資ヲ得ル途ヲ失ヒタルニヨリ其賠償ヲ求ムト云フニアレトモ是レ一種ノ希望ニ過キスシテ權利ニアラサル故ニ其要償ヲ求ムル權利ナシ

(五)證人藤村忠助ノ供述ニ依レハ豐藏カ殺害サレタル爲メ在韓ノ遺族カ日本ニ引揚ケルニ際シ要シタル費用金中六十八圓ハ豐藏ノ耕牛及ヒ風呂ヲ賣却シ支辨シタル事明ナルニヨリ原告英亮ハ其賠ヲ求ムル權利アリトス其他ノ遺族引揚ケ費用葬儀費用等ハ豐藏ノ實弟藤村忠助カ立替ヘ同人ハ相續人ニ對シ返還ヲ求メスト供述スルニヨリ原告英亮ハ何等ノ損害ヲ蒙ラサルヲ以テ此部分ニ關スル請求ハ不當ナリ

尙ホ豐藏カ農事經營上得ヘキ利益ヲ失ヒタル損害豐藏被害當時掠奪サレタリト云フ金員ニ關スル證人藤村忠助、井上正太郞ノ供述ハ信ヲ措キ難ク其他亦以テ原告代理人ノ主張ヲ認メ得ヘキ證憑ナキニヨリ此點ニ關スル原告英亮ノ請求ハ不當トシテ排斥ス被告李相斗、崔重一、文興煥、申輔均、安恒植、姜錫鎬ニ對スル原告代理人主張事實ハ何等認メ得ヘキ證憑ナキニ因リ同人等ニ對スル本訴請求ハ不當トシテ棄却スヘキモノトス

因テ訴訟費用ハ民事訴訟法第七十二條第一項第七十三條第一項ニ從ヒ其負擔ヲ定メ主文ノ如ク判決ス

京城地方裁判所民事第二部

○土地所有權確認請求事件ニ關スル件

隆熙三年民控第四一號
明治四十二年十二月二十三日宣告

判決要旨

土地家屋證明規則ニ依ル證明ハ完全ナル證據力ヲ有セシムル爲メ若クハ執行ニ便宜ナラシムル爲メ申請スルモノニシテ證明ノ有無ハ契約ノ成立又ハ第三者ニ對抗スルノ效果ニ關シテハ何等ノ影響ナシ

控訴人 白潤植
被控訴人 黄梅齋 訴訟代理人 金滋洽

右當事者間隆熙三年民控第四一號土地所有權確認請求事件ノ控訴ニ付判決スル左ノ如シ

主文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス
控訴費用ハ控訴人ノ負擔トス

事實

控訴人ハ一定ノ申立ハ原判決ヲ取消シ被控訴人ノ請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ第一、二審共被控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求ムル旨控訴人ハ主文記載ノ如キ判決

受度旨申立タリ
請求ノ原因タル事實トシテ被控訴人供述ノ要旨ハ隆熙二年四月十日（陰曆三月十日）被控訴人ハ訴外鮮于璘ヨリ代金二百四十圓ヲ以テ平安南道平壤郡斧山面六里中橵洞所在栗田二日畊ヲ買ヒ受ケ爾來之ヲ所有シ居タル處控訴人ハ本件田土ハ曾テ鮮于璘ニ對スル債務ノ擔保トシテ典執シタルニ同人カ債務不履行ノ結果協議ノ上控訴人ニ之カ所有權ヲ移轉シタルカ故ニ隆熙三年度秋收ハ控訴人ニ於テ收得スヘキモノナリト主張シテ被控訴人ノ所有權ヲ侵害セントスルニ因リ本訴ニ於テ控訴人ハ前示田土ノ所有權カ被控訴人ニ在ルコトヲ確認スヘキ旨請求スト云フニアリテ立證トシテ甲第一乃至第四號證ヲ提出シ乙第一號證ノ一、三ハ不知ノ陳述ヲ爲シ乙第二號證中ノ郡守ノ證明以外ノ部分ヲ否認シ原審ノ證人鄭時華、韓鳳雲（奉云）ノ證言ヲ採用シ證人黃濬心ノ喚問ヲ求メタリ控訴人ノ抗辯ハ控訴人ハ隆熙貳年陰曆四月二十六日訴外鮮于璘ニ對シ金五百五十圓ヲ貸與シ返濟期日ヲ同年陰曆七月二十六日ト定メ本件田土ヲ擔保トシテ典執シタリ然ルニ同人ハ期限ヲ經過スルモ辨濟セサルニヨリ同三年陰曆五月更ニ期限ヲ同年陰曆七月一日ト定メ若シ右期限ニ至リ返金セサルトキハ直ニ本件田土ノ所有權ヲ控訴人ニ於テ取得スヘキ旨契約シタルニ鮮于璘ハ遂ニ右期日ニ債務ヲ履行セサリシ故右約旨ニ從ヒ本件田土ハ控訴人ノ所有ニ歸シタルモノデアリ被控訴人ハ隆熙二年四月十日（陰曆三月十日）本件田土ヲ鮮于璘ニヨリ買受ケタリト主張スレトモ控訴人カ典執當時同人ヨリ受領セル乙第二號證ニ依レハ鮮于璘カ前所有者金錫胤ヨリ本件田土ヲ讓受ケタルハ同年四月十八日ナルカ故ニ其以前タル四月十日ニ於テ之ヲ被控訴人ニ賣渡スヘキ理由ナシ此點ニ徵スルモ被控訴人カ眞實其所有權ヲ得タリトノ主張ハ之ヲ認ムルニ由ナシ依テ本訴請求ニ應スル能ハスト云フニ在リテ立證トシテ乙第一號證ノ一、三及乙第二號證ヲ提出シ甲第一號證ヲ否認シ甲第二乃至第四號證ハ成立ヲ認メテ立證ノ趣旨ヲ否認シ證人金錫胤同鮮于椀ノ喚問ヲ申請シタリ

理由

本件係爭ノ田土ヲ隆熙元年陰曆九月十七日ハ金錫胤ノ父金運奎ヨリ訴外鮮于璘ニ讓渡スヘキ旨契約シ同日右賣買ノ文券ヲ交付シタル事實ハ成立ニ爭ナキ甲第四號證竝ニ證人金錫胤ノ右ニ符合スル趣旨ノ證言ニ依リ之ヲ認メ得可ク又隆熙二年四月十日（陰曆三月十日）右田土ヲ鮮于璘ヨリ代金二百四十圓ヲ以テ被控訴人ニ賣渡シタル事實ハ甲第一號證ノ記載竝ニ證人黃濬心ノ當時自分ハ右賣買ノ證人トナリ文券ヲ執筆シタリトノ措信スヘキ供述ニ依リ之ヲ認メ得ヘク又同年四月十八日本訴田土ニ關シ金錫胤及鮮于璘間ニ於テ土地賣買契約書ヲ作成シ洞長統首ノ認證ヲ經タル上土地家屋證明規則ニ遵據シ同月二十一日平壤郡守ノ證明ヲ受ケタルコトハ乙第二號證竝ニ措信スヘキ證人金錫胤ノ右契約書ニ四月十五日頃自分ハ捺印シタリトノ供述ト同鮮于椀ノ金錫胤ト鮮于璘トノ本件田土ノ賣買ニ付郡守ノ證明ヲ申請スルニ當リ鮮于璘ノ依賴ニヨリ保證人トシテ契約書ニ捺印シタルコトアル旨ノ供述ニ徵シテ之ヲ認定スルヲ得可ク乙第二號證ヲ以テ訴外鮮于璘ノ僞造ナリトスル被控訴人ノ主張及ヒ此點ニ關スル證人鄭時華、同韓鳳雲（奉云）ノ證言ハ共ニ採用スルニ足ラス如上認定ノ事實ニ基キ更ニ本件爭點ヲ審査スルニ被控訴人カ訴外鮮于璘ヨリ係爭ノ田土ヲ買受ケタルハ隆熙二年四月十日ニシテ鮮于璘カ前所有者タル金錫胤ト右田土ニ關スル賣買契約書ヲ作成シタルハ同年四月十八日ニテ郡守ノ證明ヲ得タルハ同月二十一日ナレハ則チ被控訴人カ鮮于璘ヨリ係爭田土ヲ買受ケタル當時ハ鮮于璘ト前所有者トノ間ニ於テ未タ郡守ノ證明ヲ經サリシ以前ナレハ當時鮮于璘ハ果シテ正當ノ所有權者ナリシヤ否ヤ又右控訴人ト鮮于璘トノ賣買行爲ヲ以テ郡守ノ證明以後鮮于璘ヨリ讓渡ヲ受ケタル控訴人ニ對抗シ得ヘキヤ否ヤハ是レ本訴ニ於テ決スヘキ重大ナル爭點ナリトス○控訴人ハ此點ニ關シ官廳ノ證明書ハ土地賣買ノ事實ヲ證スル公文書ニシテ卽チ正當ナル文券ナレハ官廳ノ證明以前ニ於テ私劵ヲ以テ賣買スルモ其效ナク證明書ノ日附ハ則チ賣買契納ノ日ナリト抗辯スレトモ○光武十年發布韓國勅令第六十五號土地家屋證明規則中一モ控訴人主張ノ如キ趣旨ノ認ムヘキモノナク却テ同規則第一條ニハ土地又ハ建物ヲ賣買贈與交換シ又ハ典當トナシタルトキハ其契約書ニ統首又ハ洞長ノ認證ヲ經タル後郡守又ハ府尹ノ證明ヲ受クルコトヲ得ト規定シ同第二條ニ前條ノ證明ヲ受ケタル契約書ハ完全ノ證據トナリ且其正本ニ依リ當該官廳ニ於テ直ニ執行スルノ力ヲ有ストアルニ徵セハ當事者ニ於テ郡守又ハ府尹ノ證明ヲ受クルト否トハ其任意ニ屬シ完然ナル證據力ヲ有セシムル爲メ若クハ執行ニ便宜ナラシムル爲メニ之カ證明ヲ申請スルニ止マリ證明ノ有無ハ以テ契約ノ成立又ハ第三者ニ對抗スルノ效果ニ關シテハ何等ノ影響ナキモノト謂ハサル可カラス抑モ不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ニ關シテハ當事者ノ意思表示ヲ以テ直ニ效力ヲ生セシムルアリ或ハ意思表示以外一定ノ形式ヲ要スルアリ各國ノ法制區區ニシテ其第三者ニ對スル效果如何ニ就テモ其揆固ヨリ一ナラスト雖モ韓國ニ於テハ未タ此等ニ關スル法規ノ

以テ遵據ス可キモノナキカ故ニ之ヲ條理ニ照シ之ヲ慣習ニ鑑ミ以テ其歸決ヲ得サルヘカラス而シテ韓國ニ於ケル土地ノ賣買ニ付テハ文券ヲ作成シテ之ヲ授受シタル時ヲ以テ當事者其效果ヲ生スルコトハ是レ古來顯著ナル慣習トシテ蓋シ疑ヲ容ルヘキニ非ス且夫レ土地家屋證明規則ノ規定ハ第三者ニ對スル效果ヲ定メタルモノニ非サルコトハ前述スル如クナルヲ以テ縱令善意ノ第三者ニ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルノ虞ナキニ非スト雖モ法制未タ完備セサル韓國現時ノ狀態ニ於テハ當事者間其效果ノ發生シタルト同時ニ第三者ニ對抗力モ亦發生シタルモノト論定セサルヲ得ス本件ニ於テ鮮于樑カ金錫胤ノ父金運奎ヨリ係爭田土ヲ讓受クルノ契約ヲ結ヒ文券ノ交付ヲ受ケタルハ隆熙元年陰曆九月十七日ナレハ右期日ニ於テ其所有權ハ既ニ鮮于樑ニ移轉シタルモノト謂フ可ク隆熙二年四月十日同人ヨリ之ヲ被控訴人ニ賣渡シタルハ正當ニシテ被控訴人ハ之ニ依リテ係爭田土ノ所有權ヲ取得シタルモノトス然ラハ右期日以後ニ於テ金錫胤ト鮮于樑トノ契約ニ付郡守ノ證明ヲ受ケタルノ事實アルモ右行爲ハ其以前ニ於テ眞正ニ成立シタル賣買ノ效力ニ影響ナキコト上來說明ノ如クナルヲ以テ其以後隆熙三年陰曆七月ニ至リ控訴人カ鮮于樑ヨリ係爭田土ヲ讓受ケタリトスルモ右行爲ハ無效ナルヲ以テ本訴田土ハ依然被控訴人ノ所有ニ屬スルモノトス〇次ニ〇控訴人ハ土地ノ賣買ニ付テハ新舊文券ヲ併セテ交付スヘク新文券ノミヲ以テ賣買シタル鮮于樑被控訴人間ノ賣買ハ慣習ニ違反シテ不當ナリト抗辯スレトモ初メ鮮于樑カ係爭田土ヲ金運奎ヨリ買受クルニ當リテハ獨リ本件係爭ノ田ノミナラス他ノ田及畓等ヲ合セテ讓受ケタルコトハ甲第四號證ノ記載ニ依リ認メ得ヘク而シテ本件係爭地ノミヲ鮮于樑ヨリ被控訴人ニ讓渡スニ方リ右舊文記ヲ添付スルコト能ハサルヲ以テ其事由ヲ新文券中ニ記入シ之ヲ被控訴人ニ交付シタルコトハ甲第一號證ノ文詞ニ徵シ洵ニ明瞭ニシテ斯ル場合ニ如此方法ヲ採リ舊文券ヲ添付スルヲ要セサルハ是亦一般ニ行ハルル顯著ナル慣習ナリト認ムルカ故ニ此點ニ對スル控訴人ノ抗辯モ亦失當ナリ

敍上ノ理由ニ依リ被控訴人ノ請求ハ正當ニシテ本件控訴ハ其理由ナキヲ以テ韓國民刑訴訟規則第三十三條前段ニ則リ主文ノ如ク判決ス

平壤控訴院民事部

學校用オルガン、ピアノ
西洋樂器類一式
物理、化學器械
動、植、鑛物標本
生理模型標本
地理歴史教授用標本竝模型
庶物標本、教授用掛圖
教育用繪畫、地球儀
大算盤、計數器
體操用具類
運動器具一式

京城本町二丁目

電話二百二十七番
電話百四十五番
振替百十五番

日韓書房

教育品部

●洋薬品各種類
○最新新薬各種
●鑛山分析用機械類
○細菌學用器械薬品
●繃帶材料
○醫療用器械
●理化學用器械藥品
○教育用器械標本
●薬局用器械材料
○消毒用器械藥品
●工業用藥品
○有名賣藥卸賣

總督府各官衙御用達
官公私立各病院御用達

京城本町一丁目（電話三七二番）

山岸天佑堂薬房

京城本町一丁目（京城府廳前）

山岸天佑堂醫療器械部

調劑の御依頼に應す

朝鮮總督府月報　第二卷　第五號　明治四十五年五月二十日發行
明治四十四年六月二十日第三種郵便物認可（每月一回二十日發行）